

授業科目名	教育原理				
担当教員名	榎原 志保・馬場 住子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目的指示：「不可」

授業概要

人生最初期の「教育」に携わる専門職に求められる教育の基礎理論として、教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想、社会的、制度的事項、学校と地域との連携ならびに学校安全への対応に関する基礎的事項を学びます。今日におけるわが国の教育を成り立たせている教育の思想や歴史、制度、また、その土台にある理念・目的を理解し、それを踏まえて自己の「教育」理解を問い合わせし、視野を広げ、深めるとともに、現代社会における教育課題や保育者としての役割や使命、責任についての認識と考えを深めます。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

教育に関する理念、思想及び歴史の理解

目標：

教育の基本的概念や理念が、教育の歴史や思想においてどのように現れてきたか、また、これまでの教育及び学校の運営がどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解できる。

- 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

教育制度、学校と地域との連携、学校安全への対応に関する理解

現代の学校教育に関する社会的、制度的事項ならびに学校と地域との連携や学校安全への対応に関する基礎的知識を身につけるとともに、その課題を理解できる。

汎用的な力

- 1. DP8. 意思疎通

教育に関する他者の意見や主張を丁寧に聴き、正確に把握することができ、また、自分の意見や主張を、文章や口頭発表を通して、分かりやすく正確に伝えることができる。

- 2. DP4. 課題発見

現代社会における教育をめぐる諸課題について、自分なりの問題意識をもつことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

シャトルシート等授業内課題 (5点×11回)

: 授業外学修課題 (2点) をもとに、授業での学びを的確にまとめることができているかどうかを評価します (3点)。

55 %

授業内小テスト (10点×3回)

: 学期中に3回行い、基本的内容の知識・理解を確認します。

30 %

定期試験 (レポート)

: 学修成果のまとめとしてのレポートについて、独自のループリックに基づいて評価します。

15 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
石橋 哲成 編	・ 教育原理（コンパクト版保育者養成シリーズ）	・ 一芸社	・ 2016 年

参考文献等

- 木村元 小玉重夫 船橋一男 『教育学をつかむ』 有斐閣
 佐藤康三 編 『教育本44』 平凡社
 新井郁男・牧昌見 編著 『教育学基礎資料 第6版』 樹村房
 田中智志 今井康雄 編 『キーワード 現代の教育学』 東京大学出版会
 原聰介 監修 田中智志 編 『教育学の基礎』 一芸社

その他、各回授業のなかで適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けての準備をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 各教員から指示
 場所： 各教員から指示
 備考・注意事項： オフィスアワー：授業の中で伝えます。
 質問等連絡をとりたい場合は、Eメールで（アドレスは、授業の中で伝えます）。
 Eメールの件名には、必ず学籍番号と氏名を入れてください。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション ー「教育」とは?ー	これまで自分がどのような場所でどのような「教育」を受けてきたのかを振り返ってまとめてください。	4時間
第2回 「教育」の意味と場所	ヨルチャックならびに「児童の権利に関する条約」に関する資料を読んで、考えたことを300字から400字程度で書いてください。	4時間
第3回 現代の子ども観と教育観	教員から提示されたキーワードについて調べてまとめてください。	4時間
第4回 家族と社会による教育の歴史（1）西洋の教育思想と歴史	教員から提示されたキーワードについて調べてまとめてください。	4時間
第5回 家族と社会による教育の歴史（2）日本の教育思想と歴史	エラスムス、ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバート、デューイ、モンテッソーリについて調べ、まとめてください。	4時間
第6回 近代教育制度の成立と展開（1）西洋の教育思想と歴史	教員から提示されたキーワードについて調べてまとめてください。	4時間
第7回 近代教育制度の成立と展開（2）日本の教育思想と歴史	教育勅語、日本国憲法、教育基本法、学校教育法について調べてまとめてください。	4時間
第8回 現代日本における公教育制度の原理及び理念	学校教育法第1条に規定されている各学校の目的を調べ、気づいたことをまとめてください。	4時間

第9回	現代日本における公教育制度の仕組みと諸課題	P I S Aの問題に取り組み、現代社会において求められている力について考えたことをまとめてください。	4時間
授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、現代日本の公教育制度の仕組みと諸課題について考え、学びます。			
第10回	現代社会における教育課題（1）世界における教育課題と教育政策の動向	日本における教育課題に関する新聞記事を読み、分かったことと考えたことをまとめてください。	4時間
授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、現代社会における教育課題について考えます。現代社会において世界的な教育課題とされていることについて学び、教育政策の動向についても理解します。			
第11回	現代社会における教育課題（2）日本における教育課題と教育政策の動向	コミュニティ・スクール、学校運営協議会について調べ、まとめておいてください。	4時間
授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、現代日本における教育課題について考えます。現代日本において教育課題とされていることについて学び、教育政策の動向についても理解します。			
第12回	現代日本における学校教育の課題（1）地域との連携	学校保健安全法、学校安全について調べ、まとめてください。	4時間
授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、学校教育の課題としての地域連携の問題がどのような課題や背景のもとにクローズアップされてきたのかについて考えます。現代日本が直面している社会的課題について学び、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方を、取り組み事例を踏まえて理解します。			
第13回	現代日本における学校教育の課題（2）学校安全への対応	「教育原理」の授業を通しての学びを振り返り、とくに関心や理解が深まったテーマとその内容をまとめてください。	4時間
授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、学校安全の問題がどのような課題や背景のもとにクローズアップされてきたのかについて考えます。学校の管理下で起こり得る事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解します。			
第14回	まとめ 「教育原理」を通しての学びを振り返るー	「教育原理」を通しての学びを総括するレポートをまとめてください。	4時間
授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、「教育原理」授業をとおしての学びの成果を共有します。第1回～第13回の「教育原理」授業をとおしての一連の学びを振り返り、修得すべき力がどれくらい身についたのかを自己評価して学びを総括します。			

授業科目名	教育心理学				
担当教員名	沼田 恵太郎・田中 哲平・岡島 泰三				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	沼田：教育機関で教員として勤務（全14回） 岡島：教育・福祉機関で相談員として勤務（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

幼児期を中心とした子どもの諸領域における発達および学習の様相を知り、人との相互のかかわりの重要性を理解して、教育実践に応用する力を身につけることを目的とする。授業の中では、人間の生涯にわたる発達のメカニズムと変化のプロセスについて知る。また、その基盤となる乳幼児期の重要性を理解する。身体、知覚、感情、思考、社会性などの諸領域の発達とその連関について学び、子どもたちの発達を支える保育・教育実践について考察を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

- 保育・教育に必要な心理学の専門的知識／子どもの心身の発達および学習の過程の理解。
子どもも理解をもとにした保育者としての実践力を身につける。

目標：

- 幼児期を中心とした子どもの発達および学習の過程について説明することができる。
人との相互の関わりの重要性を理解し、保育・教育の実践に応用することができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

観点を定めて子どもの発達の現状を客観的に把握することができる／課題を分析し、問題解決の方向性について考察できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験 : 「諸領域の発達」「学習」「社会性（人との相互のかかわり）」の3点について、「1. 基本的事項が理解できている」「2. 関連する心理学的理論の理解」「3. 保育教育実践への応用」の到達度で評価する。

50 %

小テスト

: 知識の定着を図るために、毎回小テストを実施する。

50 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤崎亞由子・羽野ゆづ子・渋谷郁子 ・網谷綾香	・あなたと生きる発達心理学 ・子どもの世界を発見する 保育のおもしろさを求めて	・ナカニシヤ出版	・2019 年

参考文献等

- ・参考文献は授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、日常生活の中で心理学の応用について考えたり、実習等での子どもとの関わりにおいて心理学の知識、理論を活用することも意識的に行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 沼田・田中（初回授業に開示します）、岡島（授業前後）
場所： 沼田（中央館4F第5研究室）、田中（西館5F個人研究室）
備考・注意事項： 岡島（非常勤）は、授業の前後に質問を受けける。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	発達の規定因 遺伝と環境が発達に及ぼす影響を理解する。 キーワード：家系図研究、双生児研究、輻輳説、ワトソン、ゲゼル	テキストの関連ページを読む。自分の成長・発達過程に、遺伝と環境がどのような影響を与えたかを考察する。	4時間
第2回	身体的機能と運動機能の発達 新生児期～幼児期における発達のメカニズム（法則性・順序性）や、身体の成長・粗大・微細運動の発達過程を学ぶ。 キーワード：原始反射、発達曲線、発達の法則性・順序性、粗大・微細運動	テキストの関連ページを読む。自分の成長・発達過程を振り返り、特徴的なエピソードなどを家族から聞き取る。	4時間
第3回	知覚・認知の発達 乳幼児期の感覚・知覚機能の発達および感覚・知覚機能と認知過程の関連を理解する。 キーワード：五感、知覚、認知、感覚運動期（ピアジェ）	テキストの関連ページを読む。人間の思考の原点となる感覚・知覚機能について考えを整理する。	4時間
第4回	思考の発達 ピアジェとヴィゴツキーの発達理論について学び、発達とともに思考が深まる過程を理解する。 キーワード：同化・調節・表象（イメージ）、ピアジェ、外言・内言、ヴィゴツキー、発達の最近接領域、足場作り	テキストの関連ページを読む。同化と調節について具体例を考える。保育における足場作りの具体例を考える。	4時間
第5回	言葉の発達 人間の言葉の機能や特徴を理解し、言葉の発達過程を概観する。 キーワード：喃語、一語文・二語文、話し言葉、書き言葉	テキストの関連ページを読む。自分の言葉の発達はどうだったか、家族から聞き取る。	4時間
第6回	社会情動的な発達 社会情動的発達を理解し、情動を制御する力について感情の発達と合わせて学ぶ。 キーワード：基本的感情、社会的感情、笑い、情動伝染	テキストの関連ページを読む。自分の情動を制御する力はいつ頃から育ってきたか、自分の成長を振り返る。	4時間
第7回	仲間関係の発達 仲間関係の変化を、遊びの形態の変化と共に理解する。 キーワード：ピア、いざこざ、葛藤、パートン、遊びの形態の変化	テキストの関連ページを読む。仲間関係を支える保育者の役割について考える。	4時間
第8回	他者理解と自己理解 仲間関係の中で他者理解や自己理解が深まっていく過程を理解する。 キーワード：仲間関係、葛藤、いざこざ、自己主張、自己抑制	テキストの関連ページを読む。自分の友達との付き合い方を振り返る。	4時間
第9回	道徳性の発達 善悪の理解や道徳的判断の発達を学ぶ。 キーワード：コールバーグ、道徳的判断、向社会的行動、思いやり	テキストの関連ページを読む。思いやりのある子どもを育てるにはどうすればよいか、保育者の関わり方を考える。	4時間
第10回	社会性の発達 生涯にわたる人間の心理・社会的発達を概観する。 キーワード：心理・社会的発達、心理・社会的危機、発達課題、エリクソン	配布資料を熟読する。自分の家族について年表を作成する。	4時間
第11回	脳の機能と発達 子どもの脳機能の発達と行動の変化を結びつけて理解する。 キーワード：ニューロン、シナプス、前頭葉、早期教育	テキストの関連ページを読む。脳育など近年の脳ブームの是非について考える。	4時間
第12回	学習と発達 条件づけや観察学習など、「学び」の基本的な原理を理解する。 キーワード：レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習、洞察	配布資料を熟読する。さまざまな学習の具体例を考える。	4時間

第13回	動機づけと主体的な学び	テキストの関連ページを読む。各段階の発達課題を理解し、自身のこれまでと現在、これからの発達について考察する。	4時間
第14回	子どもの学びと評価	テキストの関連ページを読む。14回の授業を振り返り、自分の学びを評価する。	4時間

授業科目名	保育者論				
担当教員名	細畠 昌大・中野 澄				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立小・中学校教諭として勤務、また教育委員会にて教育行政に従事後、校長として勤務校地域の幼稚園、保育園と学校園行事や就学前教育の取組など、幼保小の連携事業を推進してきた。（全14回）				

開放科目的指示「不可」

授業概要

保育者（幼稚園教諭や保育士）の使命、職務並びに業務そして必要な基礎的な資質、専門性について学ぶ。
保育者が自覚と責任そして自信をもって保育実践に取り組むための「保育の本質」について、我が国の幼児教育の変遷、幼児教育思想・保育観、幼稚園・保育所の法的制度、幼児教育に関する免許・資格、保育者の人間性、保育者としての専門性及び職務遂行能力などについて学習していく。幼児教育に関する今日的な課題について取り上げ、具体的な事例をとおして授業を進める。授業は講義以外にグループワークなどを取り入れる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

保育者としての実践的内容に関する基礎知識

目標：

保育者論のテキストをもとに、保育実践に必要な基本的な知識を身につけることができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

保育現場の実情に関する資料から課題を見出し検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合のみ、評価の対象とします。規定回数以上の出席がなければ棄権とみなし不合格とします。レポートなどの提出について指示された期日を厳守してください。期日を過ぎた場合は受け付けないこともあります。

成績評価の方法・評価の割合

授業中5回の小レポート

評価の基準

： 内容の妥当性と論理構成などの観点から、独自のループリックに基づいて評価します。小レポートを5回実施し、総合的に最終評価をします。

50 %

定期試験レポート

： 保育者としての基礎知識及び基本的な資質について、独自のループリックに基づいて評価します。知識・理解と表現力の観点から評価します。

30 %

受講状況

： 授業中の参加意欲、授業態度（受講マナーや私語、携帯電話の使用など授業に関係のない行為をした場合は減点対象とします。）をチェックリストを活用し独自のループリックに基づいて総合的に評価します。

20 %

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

汐見稔幸・大豆生田啓友

・新しい保育講座2 保育者

・ミネルヴァ書房

・2019 年

参考文献等

書名：子どもの心によりそう保育者論
 著者名：鈴木昌世 編
 出版社名：福村出版
 書名：新しい保育・幼児教育方法
 著者名：広岡義之
 出版社名：ミネルヴァ書房
 書名：保育者のための法学・憲法入門
 著者名：高秉正臣
 出版社名：成文堂

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 細畠（月曜2限）中野（月曜3限）

場所： 細畠・中野（各研究室）

備考・注意事項： オフィスアワーは月曜日、2限ですが、そのほか研究室在室中はいつでも質問等可能です。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育者になるということ 保育の意義、子どものいのちを守る存在としての保育者、また保育者の役割、倫理、職務内容等の理解、保育に必要な母性的視点について具体的に学ぶ。	4時間
第2回	幼稚園教諭と保育士の免許・資格 国家資格としての幼稚園教諭の免許と保育士の定義を学び、資格を取得するのに必要な科目について教育職員免許法施行規則および児童福祉法施行規則とともに知る。またカリキュラムにおける必須科目を理解するとともに、失格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等の関係法規を学ぶ。	4時間
第3回	保育者の1日ー午前の仕事・午後の仕事 保育者の1日について、登園、午前の保育、遊びの支援、給食などの仕事や、午後からの午睡、おやつ、夕方の保育、終わりの業務があることを知り、一人ひとりの幼児を責任をもって保護・育成することを理解する。また、職員会議の必要性についても知る。	4時間
第4回	子どもをわかるということ 家庭生活や園における活動などから子どもに関する様々な情報を知的・感覚的に理解し、家庭との連携と保護者に対する支援も含め、子育てに必要な情報を多面的に捉えることが大切であることを知る。	4時間
第5回	子どもと共に活動するー幼稚園の場合 幼稚園における遊びや行事の活動などをとおして、子どもの心と体の成長を図る保育者の在り方と留意事項について具体的に知る。	4時間
第6回	子どもと共に活動するー保育所の場合 保育園における遊びや行事の活動などをとおして、子どもの心と体の成長を図る保育者の在り方と留意事項について具体的に知る。	4時間
第7回	豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 一絵本と保育 身の回りの事象や自然などとの間接的な出会いができる絵本の存在について知り、絵本が子どもの暮らしや、豊かな心を育むことができるなど、絵本の特性を理解する。	4時間
第8回	文化や自然との出会いと保育ー生物の世話ー 人生のもっとも初期に出会う教師としての保育者のあり方や、幼児にふさわしい文化経験や自然体験を通して子どもが身に付けることがらなど、子どもの期待に応えることができる保育について理解する。	4時間
第9回	保護者や家庭と共に歩む仕事 子どもの帰る場としての家庭との連携、親と子の絆を強める保育者の役割、子育て家庭のおかれている現状などについて学ぶ。	4時間
第10回	保護者と保護者との連携・協働 ー専門機関との協同・連携ー 家庭と園との子育てに関する情報を共有し保育者と保護者が連携すること。保育者、保護者が教育センター、保健センターなどの専門職間及び専門機関への相談・連携・協働すること。また地域における連携・協働の意義や、保育者、保護者が相互に育ち合う関係の重要性について理解する。	4時間
第11回	保護者間の連携の意義 保護者間の良好な関係性を保つための手立てを調べ、まとめる。	4時間

	保護者の子育てに関する願いや要望を保育者が受け止め、保護者間で改善のための情報共有を図りながら保護者の人間関係を強くしていくことの重要性について理解する。		
第12回	園としての学び合いの文化—保育者の成長と同僚関係— 保育者としての資質向上に向け、保育技術の向上、命を預かる保育者の使命の保持、多様な出会いによる経験の累積など保育者として実力を身につけることが子どもの成長・発達に欠かせないことであることを理解する。保護者からの信頼を高め他者理解に努めるとともに、組織とリーダーシップを意識しながら、計画に基づく実践と省察・評価が重要なことを理解する。	仕事を通して、学び覚えることの事例を調べ、留意事項をまとめる。	4時間
第13回	保育者の専門性と自己向上心 資質向上に関する組織的取組や保育者の専門性を高めるためには、諸問題と向き合い、子どもを直視しながら課題解決に取り組むことが重要である。その際、保育者の専門性の発達とキャリア形成の向上に向け、同僚とともに考え学び合うことが重要であることを理解する。	保育者としての専門性をまとめ、実践できるようにするための自身の課題をまとめる。	4時間
第14回	子どもと共に成長する保育者 感性豊かであること、創造性が大切であること、子どもに希望を与えることなどは、子どもの成長・発達を促す保育者にとって重要な事柄であることを理解する。	保育者として子どもを育てる決意を具体的に述べられるようにする。	4時間

授業科目名	教育実習事前事後指導				
担当教員名	園田 育代・須河内 優子				
学年・コース等	1・2	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼稚園で幼稚園教諭として勤務（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

幼稚園における教育の意義、幼稚園教諭の役割、幼児の発達過程、園生活の流れなど実践を通して理解し、関心を深めることをねらいとして授業を行う。幼稚園で行われている保育についての具体的なイメージを持って実習に臨むようするために、教育実習に関する基礎的な知識を習得し、教育実習の意義・目的や実習の内容を理解して自らの課題を明確にする。また、子どもの人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務等についても理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- | | | |
|---------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 | 幼稚園教育の意義や職業理解 | 目標： |
| 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 | 生活と遊びを通した子どもの学びの過程を理解して保育実践につなげる力を身につける。 | 幼稚園教諭の役割を知り、幼稚園実習に対して、明確な目的意識をもつことができる。
子ども理解をもとにして、発達支援や保育実践の方法について具体的に考えることができる。 |

汎用的な力

- | | |
|----------------|-----------------------------------------------------------|
| 1. DP4. 課題発見 | 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習熟することが必要な知識や技能を理解する。 |
| 2. DP5. 計画・立案力 | 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導計画を立案することができる。 |
| 3. DP10. 忠恕の心 | 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。 |

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とする。
積極的な受講態度であること、提出物の期限を守ること、学習を理解していることの観点から評価する。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内レポート : ワークシートや課題への取組みを、独自のループリックを基に評価する。

60 %

実習振り返りシート : 振り返りシートを独自のループリックを基に評価する。

10 %

授業への取り組み状況 : 授業内の積極性及び取り組み状況について、独自のループリックに基づいて評価する。

30 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊短期大学 実習指導担当教員	・ 実習指導ハンドブック	・	・ 2018 年
文部科学省・厚生労働省、内閣府	・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携認定こども園教育・保育要領	・ フレーベル館	・ 2017 年
名須川知子他	・ 保育者になる人のための実習ガイドブックAtoZ	・ 萌文書林	・ 2020 年

参考文献等

随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
 場所： 第3研究室
 備考・注意事項： 上記の時間外でも、研究室在室であればいつでも相談してください。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	実習指導ハンドブックの通読 (P1~P21)	1時間
	教育実習 I ガイダンス～教育実習の概要と事前事後指導の流れ～ 教育実習 I のガイダンスを行う。事前事後指導の授業の流れを知る。	
第2回	実習指導ハンドブックの通読 (P11、12)	1時間
	実習先事前訪問（オリエンテーション）について オリエンテーションの意味を知り、必要な事柄を具体的に学ぶ。	
第3回	実習指導ハンドブックの通読 (P7、8)、実習ガイドブックAtoZの通読 (P139~P146)	1時間
	実習生としてのマナーと心構え 実習生としてのマナーと心構えを考える。	
第4回	実習指導ハンドブックの通読 (P22~P24)	1時間
	教育実習 I における課題の明確化 課題を明確にして教育実習 I に取り組むために必要なことを学ぶ。	
第5回	実習ガイドブックAtoZの通読 (P70~P111)	1時間
	幼稚園・認定こども園とは 幼稚園・認定こども園とはどのような就学前教育施設なのか、目的や概要について学ぶ。	
第6回	実習ガイドブックAtoZの通読 (P114~P123)	1時間
	実習を記録することの意味を知り、実習記録の内容を学ぶ。	
第7回	実習ガイドブックAtoZの通読 (P114~P123)	1時間
	実習記録について②記入の方法（クラスのねらい、主な活動内容、実習生の目標） 実習記録を書くことを通して、日常を整理してとらえる力と自分の保育者としての在り方を省察していく力を身につけるために必要なことを学ぶ。	
第8回	教育実習 I 振り返りシート作成	1時間
	実習記録について③記入の方法（子どもの活動、環境構成、保育者の援助・配慮） 実習記録を書くことを通して、日常を整理してとらえる力と自分の保育者としての在り方を省察していく力を身につけるために必要なことを学ぶ。	
第9回	講話についてのレポート	1時間
	幼稚園園長による講話（特別授業） 子どもの発達や遊びの様子、保育の仕事などについて講話を聴き、実習に向けての心構えを学ぶ。	
第10回	実習指導ハンドブックの通読 (P. 1~P. 21)	1時間
	教育実習 I の振り返りと教育実習 II に向けた自己課題の明確化 教育実習 I を振り返り、教育実習 II に向けた自己課題を明確にする。	
第11回	実習指導ハンドブックの通読 (P27)	1時間
	教育実習 II ガイダンス 教育実習 II のガイダンスを行う。また、事前事後指導の授業の流れを知る。	
第12回	実習ガイドブックAtoZの通読 (P114~P123)	1時間
	教育実習 II の課題と心構え 教育実習 I の振り返りをもとに自己課題を明確にし、実習に必要な心構えを再確認する。	
第13回	実習ガイドブックAtoZの通読 (P124~P138)	1時間
	指導計画について 指導計画の作成の考え方、手順について学ぶ。	
第14回	教育実習 II 振り返りシート作成	1時間
	教育実習 II を振り返り、保育者としての自らの課題を明確にする。	

授業科目名	教育課程論				
担当教員名	園田 育代・須河内 優子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	それぞれ幼稚園にて幼稚園教諭として勤務(全14回)				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

幼稚園における教育課程の意義や目的、変遷や社会的背景、役割を理解し、年齢における発達の状況や保育の連続性を踏まえた教育課程の編成及び指導計画の作成の基本と作成方法を学ぶ。その上で実際に指導計画を作成し、発表やグループワークにおける他者との学びあいを通して、より学びを深めていく。また、教育課程の編成から、評価、保育の質の向上へと繋がるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、幼稚園教育要領における評価の基本を知る。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

教育課程・全体的な計画の意義・編成の方法

目標：

教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解し、基本原理に即した教育課程・全体的な計画の編成の方法を理解することができる。

- 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解することができる。

汎用的な力

- 1. DP5. 計画・立案力

- 2. DP4. 課題発見

子どもの理解を踏まえた指導計画の編成の方法を理解し、自ら作成することができる。

指導計画の理解・作成を通して、自己の課題を省察・評価・改善することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内課題	:	課題に対して、授業内での学びをわかりやすく丁寧にまとめられているか、また学びを踏まえて自身の意見や考えを具体的に述べられているかについて独自のループリックをもとに評価する。
指導計画の作成	:	授業内容を踏まえた指導計画の作成及びカリキュラム・マネジメントを考慮した振り返りについて総合的に評価する。
授業への積極的参加	:	演習、グループワークへの積極的参加や質問に対する積極的発言を総合的に評価する。
定期試験（レポート）	:	課題の条件を満たし十分に情報収集をおこなった上で、独自の見解を述べられているかどうかを20点満点で評価する。
	:	

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

岩崎淳子 他	・ 教育課程・保育の計画と評価 一書いて学べる指導計画	・ 萌文書林	・ 2018 年
	・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領	・ 文部科学省・厚生労働省・内閣府	・ 2017 年

参考文献等

参考文献 千葉武夫 他 「教育・保育カリキュラム論」中央法規必要に応じて適宜資料を配布。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 第3研究室

授業計画

第1回	教育課程とは	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」を踏まえた教育課程の目的や必要性を理解する。全体的な計画の意義についても理解を深め、乳幼児教育の共通性を学ぶ。	・ 「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」を通読する。	4時間
第2回	教育課程の変遷	・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園の改訂のポイントをまとめる。	4時間
第3回	教育課程の社会的役割	・ 社会的役割についてテキストを通読する。	4時間
第4回	教育課程編成上の基本原理	・ 幼稚園教育要領第1章第3「教育課程の役割と編成」を読み理解する。	4時間
第5回	教育課程編成上の基本的事項	・ 保育所保育指針第1章第2「教育及び保育の内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画等」を読み、理解する。	4時間
第6回	幼児理解と教育課程の編成	・ 子どもの理解について、他の授業で学んだことを復習する。	4時間
第7回	幼稚園の生活と教育課程の編成	・ 幼稚園教育要領第1章第3「教育課程の編成上の留意事項」を通読する。	4時間
第8回	指導計画の考え方	・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「指導計画の考え方」「指導計画の作成」部分を通読する。	4時間
第9回	幼児の特徴と指導計画	・ 指導計画作成にむけて、これまでの授業内容を復習する。	4時間
第10回	指導計画の作成	・ 指導計画で取り上げる活動について教材研究を行う。	4時間
第11回	指導計画の発表	・ 指導計画を作成し、他者からの学びを振り返る。	4時間
第12回	指導計画の評価	・ グループ討議における他者からの評価をまとめた。	4時間

第13回	幼児理解に基づいた評価の実施	・評価の基準について授業内容をまとめ、再確認する。	4時間
第14回	カリキュラム・マネジメントの重要性	・授業全体を振り返り、まとめる。	4時間

授業科目名	教育実習 I				
担当教員名	園田 育代・須河内 優子				
学年・コース等	1	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	それぞれ幼稚園での実務経験を有する。				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

下記の4点をねらいとする。①幼稚園の教育内容・機能・園生活の流れなどについて実践を通して理解する。②遊びや生活を通して幼児とかかわる中で一人ひとりを理解するとともに、幼児の発達や幼稚園教育の実態に触れながら、援助・指導のあり方を体験的に学ぶ。③幼稚園教諭の専門性に触れながら、職務内容及び役割などに関して体験を通して把握し、幼児教育への関心を深める。④幼稚園教諭及び幼児と生活を共にする中で、実習生自身が様々な働きかけを行うことにより、保育技術を習得しながら保育者としての自覚を高める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的な内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	観察・参加実習	幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	観察・参加実習	学級担任の補助的な役割を担うことができる。
汎用的な力		
1. DP6. 行動・実践		指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。
2. DP9. 役割理解・連携行動		教育実習園の教育方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

実習は10日以上、80時間以上の実習時間が必要です。必要な実習時間を満たさなければ評価できません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実習園による評価	:	実習中の健康管理や提出物などの実習状況や言動及び協調性等の実習態度、子どもとその関わり、保育の知識・理解・技術など、実習園からの評価を換算する。
実習記録	:	実習記録を書く力、提出状況などを評価する。
巡回報告書	:	実習園別指導教員による事前事後指導の取り組み、実習中の訪問状況を評価する。
教育実習報告書	:	適切に教育実習の振り返りができるかを、独自のループリックを基に評価する。
	20 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊短期大学幼児教育学科実習担当教員	・実習指導ハンドブック	・	・2017 年

参考文献等

文部科学省 「幼稚園教育要領」 フレーベル館 2017
 厚生労働省 「保育所保育指針」 フレーベル館 2017
 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 フレーベル館 2017

履修上の注意・備考・メッセージ

体調管理に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を完了させるためには、日々の実習終了後における実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすることが必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項 : 随時受け付けます（実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については教育実習事前事後指導の授業で案内します）。

授業計画

第1回	観察・参加実習	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達、保育者の援助・配慮、保育の流れについて理解する。 ・幼児に接し、共に活動することにより、幼児理解を深める。 ・幼稚園の現場を具体的に観察し、捉える。 	実習記録を書くとともに、次の日の実習課題、目標等を明確にする。	20時間

授業科目名	保育内容総論				
担当教員名	向井 秀幸				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員が実務経験を有する。保育所において保育士の職に就いていた。（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本科目では、幼稚園・保育所・認定こども園における保育内容の全体構造を理解し、保育の基本と保育内容を学ぶことを目的とします。乳幼児が身近な環境に主体的に関わる体験を通して試行錯誤しながら育っていく乳幼児期の教育・保育について学びます。また、保育は、子どもの育ちを支える尊い営みであることを理解し、子どもの発達過程の理解を踏まえた遊びの展開、保育内容の構築について学びます。さらに、幼稚園・保育所・認定こども園の役割を理解し、初等教育との接続や子育て支援、多文化共生の保育についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

幼稚園・保育所および認定こども園における保育内容の知識の習得

目標：

教育・保育の基本を理解する。乳幼児の発達過程・個人差に応じた保育内容の展開を理解することができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

保育実践を通しての養護と教育の一体性や乳幼児の発達過程の理解力

乳幼児の活動を総合的にとらえ、環境を通して育つことを理解し、保育内容を構築する知識を身につけることができる。

汎用的な力

- 1. DP8. 意思疎通

他者の考え方や発表を傾聴し、保育に対する視野を広げる。また、発表を通して自己の保育観を形成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題シート

： 幼稚園・保育所・認定こども園の教育・保育の基本となる知識が習得できているかを課題の理解度から評価する。

20 %

試験（レポート）

： 保育学の基礎知識や幼稚園・保育所・認定こども園の保育の基本内容について出題し、理解力、問題解決力を独自のループリックで評価する。

30 %

授業への取り組み状況

： 各回授業において発表などの積極的参加や授業態度（受講マナー・私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に15点満点で評価する。

15 %

授業内提出物

： 授業内容の理解や考察などが反映されているか、提出物の期限を守っているかなどを総合的に35点満点で評価する。

35 %

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

豊田和子編者	・ 実践を創造する 演習 保育内容総論（第2版）	・ 株式会社みらい	・ 2018 年
文部科学省・厚生労働省・内閣府	・ 平成29年告示幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領	・ フレーベル館	・ 2017 年

参考文献等

必要に応じて適宜配布を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
やむを得ず欠席した場合は、必ず欠席届を提出し、欠席した授業内容を早急に補うことが必要。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 中央館4階第2研究室、授業の教室

授業計画

授業回	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	子どもを取り巻く環境の変化とこれからの保育内容	「育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についてまとめる。	1時間
第2回	保育所・幼稚園・認定こども園の役割	幼稚園・保育所・認定こども園それぞれの保育の特徴や役割についてまとめる。	1時間
第3回	保育所・幼稚園・認定こども園の保育内容	発達過程別に見た遊びについてまとめる。	1時間
第4回	保育内容を展開するプロセス	保育所・幼稚園・認定こども園それぞれの「全体的な計画」についてまとめる。P D C Aサイクルについてまとめる。	1時間
第5回	乳児（1歳未満）の保育内容	乳児（1歳未満）の発達の特徴と保育内容についてまとめる。	1時間
第6回	1、2歳児の保育内容	1、2歳児の発達の特徴と保育内容についてまとめる。	1時間
第7回	3、4、5歳児の保育内容	3、4、5歳児の発達の特徴と保育内容についてまとめる。	1時間
第8回	就学前教育と初等教育を接続する保育内容	保幼小連携の事例を調べ、幼児期の学びと児童期の学びの段差を滑らかにする指導・援助について考察する。	1時間
第9回	異年齢児の保育内容	異年齢保育の事例を調べ、異年齢保育の指導・援助についてまとめる。	1時間
第10回	子育て支援を創造する保育内容	子育て支援の実践事例を調べ、子育て支援の意義についてまとめる。	1時間
第11回	地域に開かれた保育所・幼稚園等を創造する保育内容	地域の自然環境や人的環境を生かした保育内容の事例を調べ、地域と連携して保育を行なう際の留意点と課題についてまとめる。	1時間

第12回	<p>わが国における保育内容の変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達と地域社会とのかかわりについて学ぶ。 ・地域の自然環境を生かす保育内容について学ぶ。 	保育内容の変遷の中で影響を及ぼした人物について調べる。	1時間
第13回	<p>これから保育内容の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わが国の保育内容の歴史を学ぶ。 ・保育内容がどのように考えられ、どのように変化したのかを理解する。 	保育現場においてどのような保育ニーズがあるのか、また、災害時の対応や食育への取り組みの事例について調べる。	1時間
第14回	<p>保育内容の今日的課題と保育者の専門性：まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の専門性について学ぶ。 ・保育内容の今日的課題について理解する。 ・前期1~4回の授業の総まとめをする。 	今までの学習内容の振り返りを行う。	1時間

授業科目名	社会福祉				
担当教員名	畠中 大輔				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	児童養護施設 公徳学園にて、主任指導員・個別対応職員として勤務（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

私たちが日常生活を送るうえで、さまざまな困難や課題に陥ることがある。この課題等に対応し、すべての人たちの幸せを保障するために福祉制度が創られてきた。子ども、障害者、高齢者など分野別に各種の法律や制度がつくられているが、貧困をはじめとする生活課題は、なぜ生じるのか、その解決法策は何かなど、私たち一人ひとりが、社会で安全・安心に生活していくために必要な制度やサービスについて学ぶとともに、保育者として必要な社会福祉制度の基本的な知識を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

福祉学分野の専門職

目標：

社会福祉全般の基礎理解と現代の日本が抱える福祉に関する社会問題と課題について理解し説明することができる。

- 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

福祉学の専門職

教育・保育・福祉専門職の意義や職務内容に関して理解し説明することができる。さらに保育士が福祉職であるということを理解し説明することができる。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践

社会福祉や社会保障に関する他人の意見や主張を正確に把握することができる。

- 2. DP6. 行動・実践

複雑な現代社会を自らが関係する問題であることを理解し、その問題解決に向けて意欲的にかかわることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
 - ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
 - ・その他(以下に概要を記述)
- 講義のほかに課題作成やグループワーク、プレゼンテーションを実施します。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験

： 社会福祉の基礎的理解に関する問題と自身の社会福祉に関する考察についての課題に対して評価します。

20 %

振り返りシート

： 全学ループリックに基づいて、各回の振り返りシートを0~3点で評価します。

40 %

受講状況

： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度で評価します。

40 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
直島正樹・原田旬哉 編著	・ 図解で学ぶ保育・社会福祉 <第2版>	・ 萌文書林	・ 2017 年

参考文献等

- 「実践から学ぶ社会福祉（第2版）」 長谷川俊雄・中山正雄 編著 保育出版
- 「新基本保育シリーズ④ 社会福祉」 松原康雄他2名 編集 中央法規
- 「シードブック 社会福祉（第2版）暮らし・平和・人権」 鈴木 勉 編著 建帛社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
- 場所： 授業教室
- 備考・注意事項： 特になし

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 社会福祉とは	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び人々の生活と社会福祉のつながりについてまとめておく。	4時間
第2回 社会福祉のとらえ方	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び妊娠・出産にかかわる社会福祉制度についてまとめておく。	4時間
第3回 子どもと家族の福祉①：妊娠期以降における社会福祉の制度	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び子どもの貧困についてまとめておく。	4時間
第4回 子どもと家族の福祉②：子どもの貧困に関する支援	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び子どもの権利についてまとめておく。	4時間
第5回 子どもと家族の福祉③：子どもの権利に関する支援	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び社会保障についてまとめておく。	4時間
第6回 社会保障	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び障がいのとらえ方についてまとめておく。	4時間
第7回 障がい児・者福祉①：障がい児・者支援の基本理念	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び障がい児・者福祉の法律についてまとめておく。	4時間
第8回 障がい児・者福祉②：障がい児・者支援に関する法律・制度	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び地域福祉のとらえ方・意義についてまとめておく。	4時間
第9回 地域福祉	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及びソーシャルワークの意義、バイスティックの7原則についてまとめておく。	4時間

第10回	ソーシャルワーク①：ソーシャルワークの基本	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び保育相談支援についてまとめておく。	4時間
第11回	ソーシャルワーク②：ソーシャルワークの相談事例検討	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び生活保護についてまとめておく。	4時間
第12回	公的扶助・低所得者の福祉	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び高齢者福祉についてまとめておく。	4時間
第13回	高齢者福祉	振り返りシートの作成、次回に学習するテキスト部分の通読及び諸外国・日本の社会福祉のあゆみについてまとめておく。	4時間
第14回	社会福祉のあゆみ－欧米と日本の福祉のあゆみ	振り返りシートの作成、テキストと配布資料・振り返りシートを読み返しておく。	4時間

授業科目名	子どもの体育				
担当教員名	範 衍麗・塩田 桃子・小林 志保				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目的指示：「不可」

授業概要

現代社会は利便性の追及により社会生活全体が夜型化し、子どもを取り巻く環境の多くが変化しています。子どもが心身ともに健やかに育つためには、生活中で「動く楽しさ」「友だちと関わる楽しさ」を体験することが大切です。子どもは、様々な運動あそびを通して、遊具や用具、素材の特性を理解しながらあそびを発展させていきます。本授業では、子どもの発達に合わせて、どの子も楽しいと感じることができる運動あそびの指導方法について、体験を通して学びます。子どもが興味・関心をもつて、主体的に取り組む「子どもの体育」について実技を中心に学んでいきます。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

子どもの体育に関する専門的な知識や技能の習得する。

目標：

幼児期に獲得したい基本的スキル（移動系・平衡系・操作系・非移動系）に基づいた実践力を高め、安全についても主体的に考えることができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

子どもの運動あそびを体験しながら、指導法も修得する。

子どもの体育に関する指導方法を理解し、保育実習・教育実習の設定保育、保育現場で運動あそびの指導をする力を身に付けることができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

子どもの体育について、子どもにとってなぜ必要か、どのような指導方法が適しているかを理解することができる。

- 2. DP6. 行動・実践

運動あそびの指導力（実践力）を高めながら、あそびを創意工夫することができる。

- 3. DP8. 意思疎通

運動あそびを体験する中で、仲間と共に意見を交換したり、協力する大切さを理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**授業の参加意欲・態度****評価の基準**

- ： 授業の開始時間、指定ジャージ、体育館シューズの着用、安全配慮に関する規則を守る。
- ： 主体的に活動し運動量を確保している。
- ： 他の学生と積極的に関わったり、準備や後片付けなどを行う。

30 %

授業の課題・提出物等

- ： 各授業後、ポートフォリオを作成する
- ： 個人の課題や、グループでの課題や発表

30 %

定期試験（レポート）

- ： 授業での学びや気づきをまとめる
- ： 運動あそびの指導について理解し、具体的な指導方法を考えることができる

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
学校体育研究同志会編（塩田担当） 宮下恭子著（小林担当）	・新みんなが輝く体育（4）幼児期運動あそびの進め方 ・乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび～からだところを育む指導法	・創文企画 ・大学図書出版	・2021年 ・2022年

参考文献等

『幼児期運動指針ガイドブック』2013年、文部科学省
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）幼稚園教育要領解説（文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）保育所保育指針解説（厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：（月曜日）12：20～13：10
場所：第8研究室（範・塩田）
備考・注意事項：（月曜日）12：20～13：10 小林研究室（小林）

授業計画

授業回	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション・からだを使った運動あそび ・授業の進め方および実技を行なうまでの諸注意 ・現代社会における幼児期の運動あそびの必要性 ・バランス能力を養うあそび ・リズム感覚を養うあそび ・友だちと協力するあそび	1時間
第2回	伝承あそび 昔から伝わるあそび文化ーめんこ・こま・けん玉	1時間
第3回	マットあそび（調整力を育む運動あそび①） ・マット・跳び箱・平均台を使った運動あそび ・逆さ感覚・回転感覚を体得する	1時間
第4回	跳び箱あそび（調整力を育む運動あそび②） ・マット・跳び箱・平均台を使った運動あそび ・バランス感覚を体得する	1時間
第5回	鬼ごっこ ・様々な鬼ごっこ ・人數や発達年齢に応じた鬼ごっこ遊び方	1時間
第6回	運動会種目 ・走ることを楽しむ（かけっこ・リレー） ・幼児に取り入れ易い種目（玉入れ・台風の目など）	1時間
第7回	身近な素材を使った運動あそび ・新聞紙を使った運動あそび ・レジ袋を使った運動あそび ・その他身近な物を使った運動あそび	1時間
第8回	なわあそび（用具を使った運動あそび①） ・なわを使った運動あそび（長なわ・短なわ） ・なわあそびの工夫の実際を知る	1時間
第9回	ボールあそび（用具を使った運動あそび②） ・ボールを使った運動あそび（ボールの特性を知る） ・ボールを使った運動あそび（ゲーム的な遊び） ・ボールあそびの工夫の実際を知る	1時間
第10回	フープあそび（用具を使った運動あそび③） ・フープを使った運動あそび ・フープあそびの工夫の実際を知る	1時間
第11回	パラバルーン（表現あそび①） ・パラバルーンの特性について理解 ・パラバルーンを使つたいろいろなあそびと作品づくり	1時間
第12回	リズムダンス（表現あそび②） 音楽を使った遊び、表現（リズム）遊びについて調べておくこと。	1時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を使ったあそび ・表現（リズム）あそび ・リズムダンスの特性について理解 ・リズムダンスの作品づくり 		
第13回	サーキットあそび	多種多様なあそびを考え、移動系、平衡系、操作系、非移動系について分類しておくこと。	1時間
第14回	子どもの体育のまとめ	現場の運動あそびの実態を調べまとめておくこと。	1時間

授業科目名	社会福祉				
担当教員名	鈴木 大介				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目的指示：「不可」

授業概要

社会福祉の領域は、非常に広範囲にわたっており、私たちが社会生活を送るうえで欠かすこととはできないものである。しかも現代の日本は児童虐待や貧困などさまざまな社会問題を抱えており、その問題に直面している人々も多く、その支援が必要とされている。そのような人々に出会った時、保育者として守り、支援する必要がある。本講義では、このような社会福祉が必要とされる社会や人々の現状を理解するとともに、社会福祉についての基本的な知識を習得する。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

福祉学分野の専門知識

目標：

社会福祉全般の基礎的理解と現代の日本が抱える福祉に関する社会問題と課題について理解し説明することができる。

保育士が福祉職であるということを理解し、説明することができる。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践

- 2. DP8. 意思疎通

社会福祉に関する他人の意見や主張を正確に把握することができる。

他人の意見を踏まえて、社会福祉に関する自分の意図や主張を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）

教員と学生による質疑応答

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とする。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内課題

： 社会福祉の基礎的理解に関する問題を授業内課題として課し、その総合を40点満点で評価する。

40 %

受講状況

： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

40 %

試験（レポート）

： 14回の授業を振り返り、自身の社会福祉に関する考察についてのレポートを20点満点で評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

倉石哲也・小崎恭弘編著

・社会福祉

・ミネルヴァ書房

・2017 年

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
- 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・保育士資格取得のための必修科目。
- ・幼児教育学科のみ履修可能

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限

場所： 幼児教育学科第7研究室

備考・注意事項： その他連絡を取りたい場合はEメールで (suzuki-d@osaka-seikei.ac.jp)。メールには学籍番号と名前を必ず入れること。

授業計画

授業回	授業題目	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
			時間
第1回	社会福祉とは（社会福祉のイメージをつかむ）	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P2～P9）と社会福祉に関する職業を調べておく。	4時間
第2回	保育における社会福祉	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P10～P17）	4時間
第3回	社会福祉の理念と概念～日本国憲法	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P10～P17、P23、p211）。	4時間
第4回	社会福祉の理念と概念～社会福祉の基礎理念	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P36～P43）	4時間
第5回	社会福祉の一分野としての子ども家庭福祉	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P44～P50）。	4時間
第6回	子どもの権利と子ども家庭福祉	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P51～P58）。	4時間
第7回	子どもの権利擁護	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P59～P68）。	4時間
第8回	家庭支援と社会福祉	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P78～P84）。	4時間
第9回	社会福祉行政機関と実施機関	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P85～P92）。	4時間
第10回	社会福祉の実施機関	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P112～P120）	4時間
第11回	社会福祉の専門職	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P121～P142）	4時間
第12回	社会保障制度の基本的枠組み	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P144～P147）	4時間
第13回	相談援助とは何か	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P198～P205、p232～241）	4時間

	<ul style="list-style-type: none">・社会福祉の中における相談援助の位置づけ・保育所における相談援助の意味と役割・相談援助の視点		
第14回	社会福祉の動向と課題 <ul style="list-style-type: none">・人口減少社会への対応・これからの社会福祉の課題	テキストと配布資料、振り返りシートを読み返してください。	4時間

授業科目名	保育原理				
担当教員名	須河内 優子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育所・幼稚園で保育士・幼稚園教諭として勤務（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本授業では、保育とは何か、保育の基本①保育の意義と理念について②わが国における保育に関する法令及び制度③乳幼児保育の基礎④保育の思想と歴史的変遷について⑤保育の現状と課題⑥保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領と幼稚園教育要領、以上を理解することを柱に学びます。また今求められる保育士の役割や時代の状況を把握するとともに、自主学習や意見交換等を通して、その役割を果たしていくための基礎となる力を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

- 保育の意義、保育の目標、保育の方法などに関する保育の専門知識を習得する。

目標：

- 保育に関する専門知識を深め、保育について理解することができる。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践

- 教育・保育に対する使命感や情熱、職責に対する自覚を持ち、子どもの最善の利益を第一に考え、行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート : 授業で得た知識と自らの考えを結びつけ、的確に表現できているかを評価します。

40 %

小テスト・小レポート : 授業内容に関する小テスト・小レポートを実施し、理解の定着度を評価します。

40 %

受講態度(積極性など) : 授業への積極的参加及び課題に取り組む態度を評価します。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
渡辺英則 他編著	・新しい保育講座 1 保育原理	・ミネルヴァ書房	・2018 年

参考文献等

新保育士養成講座編纂委員会編 新保育士養成講座 第1巻 保育原理 全国社会福祉協議会
厚生労働省「保育所保育指針」他必要に応じて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室・中央館4F第3研究室
備考・注意事項： 授業前後に質問を受け付けます。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育とは何か 「保育」「教育」「養護」について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する。	教科書 第1章を読み、まとめる。 4時間
第2回	保育の意義と保育の専門性について -児童の最善の利益のために- 「児童の権利に関する条約」等の保育の法的枠組みを理解し、保育の内容と意義について学ぶ。また、保育所・幼保連携型認定こども園・幼稚園の役割について学ぶ。	関連資料を読み、まとめる。 4時間
第3回	保育の基盤としての子ども観 子ども観と保育の内容と方法を学ぶ。保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び、幼稚園教育要領についても詳しく学ぶ。	教科書 第3章を読み、まとめる。 4時間
第4回	子ども理解から出発する保育 子ども理解について学び子どもの発達を理解する。	カウンセリングマインドについて調べる。 4時間
第5回	子どもが育つ環境の理解 子どもが育つ保育環境について学ぶ。	人的環境・物的環境・天候や自然などの環境について調べる。 4時間
第6回	保育内容・方法の原理 保育の基本と保育内容・方法について学ぶ。	教科書 第5章を読み、まとめる。 4時間
第7回	保育の計画と実践の原理 保育における計画の必要性と保育計画について学ぶ。	保育所保育指針の関連する箇所を読む。 4時間
第8回	家庭支援と子育て支援 現在の子育て支援のニーズと相談援助の基本原則について学ぶ。	身近にある子育て支援センターについて調べる。 4時間
第9回	健康・安全と障がいのある子どもへの対応 子どもたちが健康な生活を営むための幼稚園や保育園及び幼保連携型認定こども園での健康と安全への配慮について学ぶ。また、障がいのある子どもの保育の中での留意点について学ぶ。	実際に保育現場で起きた事故について調べる。 4時間
第10回	保育者に求められるもの 園見学（予定）を通して、保育者という仕事を理解し、保育者の役割について理解する。	園の概要等を事前に調べておく。 4時間
第11回	保育の歴史に何を学ぶか 西欧における集団保育施設の誕生と発展・わが国における集団保育施設の誕生と発展について学ぶ。	日本の保育に影響を与えた人物について調べる。 4時間
第12回	保育の評価と苦情処理及び保育者の研修 なぜ、保育の評価が必要なのかを考え、苦情対応について学ぶ。また、保育者の研修と質の向上について学ぶ。	実際の保育現場で行われている保育の評価について調べる。 4時間
第13回	保育の現状・課題と保育制度 子育てを取り巻く社会の変化と保育課題について学び、幼稚園と保育所と幼保連携型認定こども園に関係する制度を学ぶ。	保育所保育指針の関連する箇所を読む。 4時間
第14回	社会情勢の中の保育者の役割 全授業を振り返るとともに、保育者の役割や現状の課題について考察する。	保育者の役割や現状の課題についてレポートにまとめる。 4時間

授業科目名	情報機器の操作				
担当教員名	田中 哲平・岡島 泰三				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目的指示：「不可」

授業概要

保育者として求められるコンピュータの扱いを身に付けるとともに、インターネットリテラシーやインターネットを用いた検索手法などについて学びます。特にWindowsの基本的操作に加え、Office系ソフトであるWordを用いた文書作成、Excelを用いたデータ管理とその表現、PowerPointを用いた発表資料作成を中心に学びます。さらに、SNSを含めたインターネットリテラシー、インターネットを用いた学術的検索手法、メールのやり取り、タッチタイピングなどについても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的な内容：

コンピュータに関連するスキルを身につける。

目標：

ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。

汎用的な力

- 1. DP8. 意思疎通
- 2. DP4. 課題発見

分かりやすい文書や発表資料が作成できる。

データ管理のために、表やグラフを作成できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み状況

： 授業中に指示する作業を提出します（2点×14回=28点）。

28 %

演習課題

： Word、Excel、PowerPoint を用いた演習課題を完成させます（10点×3回=30点）。

30 %

最終課題（期末レポート）

： インターネットを利用して情報収集を行い、授業で学んだWordやExcelの知識を用いて、総合的なレポートを完成させます（42点）。

42 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
阿部正平・阿部和子・二宮祐子	・ 保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7対応版	・ 萌文書林	・ 2018 年

参考文献等

- (共通)
・授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間 :** 田中(初回授業に開示します), 岡島(授業前後)
- 場所 :** 田中(西館5F個人研究室), 岡島(非常勤講師控室)
- 備考・注意事項 :** 田中: オフィスアワーと授業前後に質問等を受け付けます。その他、連絡を取りたい場合はEメールで。Eメールには氏名と学籍番号を、必ず記入してください。
田中 tanaka-t@g.osaka-seikei.ac.jp
- 岡島: 授業前後に質問等を受け付けます。その他、連絡を取りたい場合はEメールで。Eメールには氏名と学籍番号を、必ず記入してください。
岡島 okajima-t@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	パソコンのしくみを学ぼう パソコンのしくみについて学びます。ファイルやフォルダ、ドライブ等の違いを理解し、タッチタイプの訓練を行います。USBメモリの使い方についても解説します。	USBフラッシュメモリへの保存、感想の提出 4時間
第2回	ネットワークを学ぼう コンピューター・ネットワークの考え方や検索エンジンを用いたwebサイトの探し方、電子メール(Eメール)の書き方等について学びます。その他、情報収集の方法についても解説します。	eメールの送信、タッチタイピングの練習 4時間
第3回	ワープロソフトの機能と操作を学ぼう ワープロソフトにおける文字入力や装飾について学びます。字下げや段落、校正等の考え方も解説します。学びの実践として、かんたんな文書を作成します。	Wordで簡単な文書を作成保存、eメールの送信 4時間
第4回	ワープロソフトで簡単なおたよりを作成しよう ワープロソフトを使って簡単なおたよりを作成します。ワードアートやテキストボックス、図表や图形の挿入、ビジュアルコトリング等、ビジュアルコンテンツの作成方法についても解説します。	おたよりの作成、プリンタの使用 4時間
第5回	パソコンリテラシと情報倫理を学ぼう 保育の管理業務でのソフトの活用、文書ファイルなどデータの適切な管理、園での様々なコミュニケーション等について学びます。SNS利用に関する注意、個人情報の取り扱い等についても解説します。	ファイルの暗号化、Lドライブへのアップロード 4時間
第6回	表計算ソフトの機能と操作を学ぼう データ入力や計算、オートフィル、表と罫線等、Microsoft Excelの操作について学びます。学びの実践として、クラス表等を作成します。	表計算ソフトを用いたクラス表の作成 4時間
第7回	表計算ソフトでデータリストを作成しよう 前回までの学びにもとづき、児童台帳等のデータリストを作成します。既存のリストを使って新たなリストを作成する方法や、ファイル内の情報検索と集計の方法についても解説します。	表の作成、Lドライブへのアップロード 4時間
第8回	表計算ソフトでグラフを作成してみよう 棒グラフや折れ線グラフ、円グラフ、グラフの白黒化等の作表と、簡単な計算について学びます。学びの実践として、身体計測記録等のデータリストを作成し、その一部をグラフ表示することに挑戦します。	グラフの作成、白黒化、Lドライブへのアップロード 4時間
第9回	プレゼンソフトの機能と操作を学ぼう 入力方法や配色のポイント、アニメーションの使い方や図や图形の挿入、スライドのデザイン等、Microsoft PowerPointの操作について学びます。保育園の案内等を作成します。	プレゼン発表のための準備 4時間
第10回	プレゼンテーションを学ぼう PowerPointを使ったプレゼンの基本について学びます。プレゼンの構成や喋り方、目線の動かし方、間の取り方等についても解説を行います。	プレゼン発表のための準備 4時間
第11回	プレゼンテーションをやってみよう（1）：前半 クラス前半の学生個人（またはグループ）で、プレゼンを行います。全員が自分（またはグループ）で作ったスライドを使用し、プレゼンに参加します。過去に指摘した評価ポイント（プレゼンの構成や喋り方、目線の動かし方、間の取り方等）にもとづき、全体を評価します。自分（またはグループ）の発表を終えた学生や未発表の学生は、クラスメイトの発表で、気になった点などを記録用紙に記載して提出します。	プレゼンテーションの発表、評価 4時間
第12回	プレゼンテーションをやってみよう（2）：後半 プレゼンテーションの発表、評価	4時間

クラス後半の学生個人（またはグループ）で、プレゼンを行います。全員が自分（またはグループ）で作ったスライドを使用し、プレゼンに参加します。過去に指摘した評価ポイント（プレゼンの構成や喋り方、目線の動かし方、間の取り方等）にもとづき、全体を評価します。自分（またはグループ）の発表を終えた学生や未発表の学生は、クラスメイトの発表で、気になった点などを記録用紙に記載して提出します。

第13回	最終課題の説明と作成 講師が指定した評価ポイント（情報収集や図や写真の挿入、時間割／スケジュールの作成、天候／気温に関するグラフ作成、情報の入力、参考文献の書き方、頁番号等）を踏まえて「遠足のしおり」を作成します。	しおりのアイディアをWordにまとめる	4時間
第14回	最終課題の校正と提出 前回に続き、「遠足のしおり」の作成と校正作業を行います。分からぬ点があれば質問し、最終課題の提出に向けた仕上げ等を行います。	最終課題の仕上げ、提出	4時間

授業科目名	器楽 I				
担当教員名	泉 敦子・鷲 真佑子・八田 京子・和泉 真子・柿原 宗雅・後藤 浩実・高木 貴子・辻村 佳壽子・藤倉 智文・宮崎 真理子・宮崎 恵・森住 昭子・園田 文子				
学年・コース等	1	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員全員が実務経験を有する。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員、民間音楽教室、大学付属音楽教室、幼稚園、保育園等の音楽講師として勤務。（全28回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

保育現場において、音楽は子どもの情操教育に大切なものの一つです。美しい調べや心弾む音と触れ合う中で豊かな心が育まれます。毎日の生活の歌や手遊びうた、リズム体操、園の行事、その多くにピアノ演奏が必要となります。この授業では保育者として必要な読譜力、テクニック、表現力を身に付けることを目指します。

- ①導入課題の学習を通してピアノの基本的な演奏技術を習得します。
- ②保育の場で必要とされる弾き歌い曲を学び、実習に備えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

- 保育者、教育者にとって必要な音楽の知識（ピアノスキル）
 ①ピアノスキルの向上
 ②歌詞の内容を理解し、叙情的な歌唱演奏ができる

目標：

- 情操教育を行う上で必要となる音楽の知識を学び、理解を深めることができる
 ①Seikei・Pianoテキストを修了することができる
 ②弾き歌い曲を30曲以上マスターすることができる

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP4. 課題発見

- 自主性を持って、課題に取り組む能力を高めることができる
 実習等で現場を経験した上で、いかなるピアノスキルが必要かを考える力を養うことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

前期発表会	35 %	: 弹き歌いスキル習熟度について、ループリックに基づいて評価する。
後期発表会	35 %	: ピアノ演奏スキル習熟度について、ループリックに基づいて評価する。
弾き歌い模擬授業	10 %	: 発表やグループワークに積極的参加し、課題に取り組む態度をループリックに基づいて評価する。
受講態度	10 %	: 各回授業において発表などの積極的参加や授業態度（忘れ物や遅刻は減点）を総合的に10点満点で評価する。
定期試験（レポート）	10 %	: 自らの習得度合いを理解し、向上させる意欲があるかをループリックに基づいて評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ Seikei・Piano	・	・ 年
	・ こどもが大好きなうたの本	・	・ 年

参考文献等

- 日本童謡唱歌全集（ドレミ楽譜出版社）
明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌（音楽之友社）
手あそび歌あそび（新星出版社）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
ピアノ技術の修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分以上の自主練習を行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 月曜3・4限、木曜2限
場所： 音楽教育センター（西館6階）
備考・注意事項： 上記時間以外でも、随時対応。

授業計画

授業回	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、Lesson1：ブラインドタッチの基礎 【オリエンテーション】 ・授業内容（教材等）について ・グレードについて ・楽器・椅子の扱い方について ・個人練習室使用について ・到達目標の設定 【Lesson1：ブラインドタッチの基礎】 ・ナチュラルポジションによる順次進行 ・4/4、3/4拍子 ・リズム練習（全音符、二分音符、四分音符）	基本の楽典を復習する。読譜・リズム打ちを自己練習する。 1時間
第2回	ピアノ実技個人指導：Lesson2：ポジション移動 ・左手のポジション移動 ・音の響きを感じる（臨時記号b） ・リズム練習（付点二分音符、四分休符） 【こどもが大好きなうたの本】ピアノ経験者は個人の技量に適した曲を取り組む	読譜・リズム打ち・左手のポジション移動を自己練習する。 1時間
第3回	ピアノ実技個人指導：Lesson3：ナチュラルポジションからの指広げ ・左手の響き、距離感をつかむ ・臨時記号（b、#） ・リズム練習（八分音符） ・ハ長調音階 【こどもが大好きなうたの本】ピアノ経験者は個人の技量に適した曲を取り組む	読譜・リズム打ち・指広げ・音階（ハ長調）を自己練習する。 1時間
第4回	ピアノ実技個人指導：Lesson4：付点四分音符とポジション移動 ・付点四分音符と八分音符のリズムをを親しみやすいメロディで感じる ・右手のポジション移動 ・スタッカート、スラー、タイ、オクターブ ・リズム練習（付点四分音符） ・連弾（聖者の行進、一週間） 【こどもが大好きなうたの本】ピアノ経験者は個人の技量に適した曲を取り組む	読譜・リズム打ち・右手のポジション移動・音階（ハ長調）を自己練習する。 1時間
第5回	ピアノ実技個人指導：Lesson5：移調（1）基礎 ・移調（～長調、ト長調、ニ長調） 【こどもが大好きなうたの本】ピアノ経験者は個人の技量に適した曲を取り組む	読譜・リズム打ち・移調・コード（C・F・G・G7）を自己練習する。 1時間
第6回	ピアノ実技個人指導：Lesson5：移調（2）応用 ・リトミック（おなかのたいそう） ・リズム練習（十六分音符、付点八分音符、八分音符三連符、八分休符、シンコペーション） 【こどもが大好きなうたの本】 ・手をたたきましょう・むすんでひらいて・大きな栗の木の下で	読譜・リズム打ち・移調・コード（B7・C7・D・D7）を自己練習する。 1時間
第7回	ピアノ実技個人指導：Lesson6：色々なリズム ・左手で拍子をとつてメロディを弾く ・左手で拍子をとつてメロディを歌う ・弱起（アウフタクト）、フェルマータ 【こどもが大好きなうたの本】 ・手をたたきましょう・むすんでひらいて・大きな栗の木の下で	ピアノ・弾き歌い・リズム打ち（複雑なリズム）を自己練習する。 1時間
第8回	ピアノ実技個人指導：Lesson7：重音 ・左手で拍子をとつてメロディを弾く ・左手で拍子をとつてメロディを歌う ・弱起（アウフタクト）、フェルマータ 【こどもが大好きなうたの本】 ・手をたたきましょう・むすんでひらいて・大きな栗の木の下で	ピアノ・弾き歌い・リズム打ち・重音を自己練習する。 1時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・2つ以上の音を同時に弾く ・強弱記号、アクセント ・速度記号 ・リズム練習（3/8、6/8拍子） 【こどもが大好きなうたの本】 ・手をたたきましょう　・むすんでひらいて　・大きな栗の木の下で 		
第9回	ピアノ実技個人指導：Lesson8：8分の6拍子 <ul style="list-style-type: none"> ・バイエル52、66番　他 ・レガート奏法 【こどもが大好きなうたの本】 ・おかえりのうた　・おべんとう　・ちょうちよう 	ピアノ・弾き歌い・リズム打ち（8分の6拍子） を自己練習する。	1時間
第10回	ピアノ実技個人指導：器楽まとめ（1）Seikei・Pianoテキスト復習、前期発表会曲を選曲 【Lesson1～9】 <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返り ・リズム練習 ・トレーニング7リズム変え練習 【こどもが大好きなうたの本】 ・朝のうた　・チューリップ 	前期発表会の曲を分析、考察する。弾き歌いを自己練習する。	1時間
第11回	ピアノ実技個人指導：まとめ（2）前期発表会に向けて発表曲の練習 【Lesson1～9】 <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返り ・リズム練習 ・トレーニング7、8リズム変え練習 【こどもが大好きなうたの本】 ・さよならのうた　・やきいもグーチーバー 	トレーニング・リズム練習で指を強化する。前期発表会の曲・弾き歌いを自己練習する。	1時間
第12回	ピアノ実技個人指導：まとめ（3）前期発表会曲についての曲目解説 <ul style="list-style-type: none"> ・前期発表会に向けて発表曲の練習 【Lesson1～9】 ・ふり返り ・リズム練習 ・トレーニング8リズム変え練習 【こどもが大好きなうたの本】 ・さよならのうた　・やきいもグーチーバー 	前期発表会の曲・弾き歌いを自己練習する。	1時間
第13回	前期発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・前期に学修した成果を人前で発表する ・歌唱力、ピアノ演奏力の観点で評価する ・学生同士で感想を述べる 	前期発表会の自身の演奏を振り返る。弾き歌いを自己練習する。	1時間
第14回	ピアノ実技個人指導：Lesson9：分散和音 <ul style="list-style-type: none"> ・弾き歌い曲でよく使われる伴奏形 ・バイエル103番　他 【こどもが大好きなうたの本】 ・おかえりのうた　・おべんとう　・ちょうちよう 	ピアノ・弾き歌い・リズム打ち・分散和音を自己練習する。コードネームを復習する。	1時間
第15回	ピアノ実技個人指導：バイエルピアノ教則本について <ul style="list-style-type: none"> ・バイエル60、61、62、65番から各自選択（3曲以上） ・ハ長調の音階 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ 	ピアノ・弾き歌い・リズム打ちを自己練習する。 ハ長調の音階を復習する。	1時間
第16回	ピアノ実技個人指導：跳躍について <ul style="list-style-type: none"> ・バイエル60、61、62、65番から各自選択（3曲以上） ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ 	ピアノ（ハ長調の楽曲）・弾き歌い・リズム打ちを自己練習する。	1時間
第17回	ピアノ実技個人指導：臨時記号について <ul style="list-style-type: none"> ・バイエル72、73、74、75番から各自選択（3曲以上） ・ト長調の音階 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ 	ピアノ・弾き歌い・リズム打ち・音階（ニ長調）を自己練習する。	1時間
第18回	ピアノ実技個人指導：3連符について <ul style="list-style-type: none"> ・バイエル72、73、74、75番から各自選択（3曲以上） ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】弾き歌い模擬授業発表曲の選定 	弾き歌い模擬授業発表曲を分析、考察する。ピアノ・音階（ト長調）を自己練習する。	1時間
第19回	ピアノ実技個人指導：強弱記号について <ul style="list-style-type: none"> ・バイエル76、77、78、80番から各自選択（3曲以上） ・ニ長調の音階 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】弾き歌い模擬授業発表曲を練習 	弾き歌い模擬授業発表曲を自己練習する。	1時間
第20回	弾き歌い模擬授業 <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習室・プレイルームを使用して実習を想定した模擬授業を行う ・発表曲についての曲目解説（作詞者について、作曲者について、歌詞の意味、等）を発表する ・演奏後、グループでディスカッションを行う 	意見交換を通じて考えたことをまとめる。	1時間

第21回	ピアノ実技個人指導：転調について ・バイエル76、77、78、80番から各自選択（3曲以上） ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ（ト長調の楽曲）・弾き歌い・リズム打ち・転調を自己練習する。	1時間
第22回	ピアノ実技個人指導：付点8分音符について ・バイエル88、90、91、92、94番から各自選択（3曲以上） ・イ短調の音階 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ（イ短調の楽曲）・弾き歌い・リズム打ち（付点8分音符）・音階（イ短調）を自己練習する。	1時間
第23回	ピアノ実技個人指導：8分の6拍子の効果的な演奏法 ・バイエル95、96、98、100番から各自選択（3曲以上） ・ヘ長調の音階 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ ・グレード表の確認	ピアノ（～長調の楽曲）・弾き歌い・リズム打ち・音階（～長調）を自己練習する。	1時間
第24回	ピアノ実技個人指導：後期発表会曲の選曲 ・バイエル88、90、91、92、94番から各自選択（3曲以上） ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	後期発表会の曲を分析し、考察する。弾き歌いを自己練習する。	1時間
第25回	ピアノ実技個人指導：後期発表会曲についての曲目解説 ・各自選択した発表曲の指使い、強弱等の確認 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	後期発表会の曲・弾き歌いを指使いや強弱を確認しながら自己練習する。	1時間
第26回	ピアノ実技個人指導：曲のまとめ方について ・各自選択した発表曲の練習 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	後期発表会の曲の完成度を高める。弾き歌いを自己練習する。	1時間
第27回	後期発表会 ・後期に学修した成果を人前で発表する ・発表後に学生同士、客観的な視点をもって感想を述べる	後期発表会の自身の演奏を振り返る。弾き歌いを自己練習する。	1時間
第28回	ピアノ実技個人指導：8分の3拍子とスタッカート奏法について ・バイエル95、96、98、100番から各自選択（3曲以上） ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ・弾き歌い・リズム打ち（8分の3拍子）を自己練習する。	1時間

授業科目名	子ども家庭支援の心理学				
担当教員名	清水 千弘・中澤 鮎美				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	清水：福祉機関で相談員として勤務（全14回） 中澤：教育、医療、福祉機関でカウンセラーとして勤務（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本科目は保育士資格取得のための必修科目です。

本講義では生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等を理解します。また、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達的観点から理解し、子どもと家庭を包括的に捉える視点を習得します。さらに、子育て家庭をめぐる状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解し、適切に支援するためにどのようにすればよいのかについて考察します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

- 生涯発達、家庭、親子関係、子どもの精神保健に関する心理学的知識
- 子どもの発達支援や心理的支援、家庭支援に関する知識と技能

目標：

- 子どもや家庭を理解するための基礎的知識を身につけ、説明することができる。
- 子どもや家庭を支援するための方法について考えることができる。

汎用的な力

- 1. DP9. 役割理解・連携行動

- 保育者として子どもや家庭を支援するためにどのような役割を果たし、どのように連携すればよいかについて理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

- | | | |
|-----------|------|------------------------------------------------------------------|
| 小テスト | ： | 子どもや家庭を理解するための基礎知識を身につけているかについて授業内で行う小テストで評価する。 |
| 授業内課題 | ： | 各回の振り返りシートやワークシートなど、授業内課題の取組状況について独自のループリックを用いて評価する。 |
| 授業への積極的参加 | ： | 授業内で行うワーク・演習への参加度や積極的態度について独自のループリックを用いて評価する。 |
| 試験（レポート） | ： | 講義で学んだ知識をもとに子どもや家庭を支援するための方法を考えることができているかについて、独自のループリックを用いて評価する。 |
| | 20 % | |

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本郷一夫・神谷哲司（編）	・ シードブック 子ども家庭支援の心理学	・ 建帛社	・ 2018 年

参考文献等

- 無藤隆・安藤智子（編）「子育て支援の心理学 家庭・園・地域で育てる」（2008）有斐閣
 藤崎亜由子・羽野ゆづ子・渋谷郁子・網谷綾香「あなたと生きる発達心理学」（2019）ナカニシヤ出版
 岡本裕子・深瀬裕子「エピソードでつかむ生涯発達心理学」（2013）ミネルヴァ書房
 日本家族心理学会「家族心理学ハンドブック」金子書房（2019）
 古在 純一「子どもの精神保健テキスト」診断と治療社（2015）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 また、子どもや家庭に関する社会的出来事に关心を持ち新聞やニュースに触れておくこと、日常生活の中で心理学の応用について考えたりすることも大切である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 清水・中澤（授業前後）
 場所： 各教室
 備考・注意事項： 清水・中澤は非常勤教員のため、授業の前後に質問を受け付けます。

授業計画

回数	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	生涯発達1 乳幼児期から学童期にかけての発達	前期「教育心理学」で学んだ知識を復習しておく。本講義に期待すること、自分の問題意識を整理し、自分の子どもも親・家族について考えてみる。	4時間
第2回	生涯発達2 思春期・青年期の発達	自分自身の思春期・青年期についてどのような変化や葛藤が生じたか振り返り、その意味について考える。	4時間
第3回	生涯発達3 成人期・老年期における発達	自分自身の中年期・老年期のあり方について考えてみる。身近な中年期・老年期世代（親や祖父母など）と自分自身や他世代との関係性について理論をふまえ考える。	4時間
第4回	家族・家庭の意義と機能：親子関係・家族関係の理解	自身の家族観・家庭観について分析する。	4時間
第5回	子育ての経験と親としての育ち	子育て経験者に体験談を聞き（あるいは事例を読み）、理論をもとに考察する。	4時間
第6回	子育てを取り巻く社会的状況	現代の子育てを取り巻く社会的状況に関する統計データを調べ、どのような現状があるのかについて分析する。	4時間
第7回	ライフコース：恋愛・結婚・子育て・仕事と家庭	自分自身のライフコースについて具体的に考える。	4時間
第8回	多様な家庭とその支援	多様な家庭のあり方について事例を読んだりWEBで調べるなどして理解を深める。	4時間
第9回	特別な配慮を要する家庭への支援	保護者や子どもに対する実際の支援事例を読み、重要なポイントについて理解する。	4時間
第10回	子どもの生活・生育環境と心の健康	子どもの精神疾患について調べ、症状や支援について理解する。	4時間

第11回	情緒的な問題とその支援	生活環境や心理的ストレスから生じる子どもの情緒的な問題や障害・疾患などについて理解し、その支援方法について具体的に学ぶ。	情緒的な問題が生じた事例について読み、支援のポイントについて考える。	4時間
第12回	災害後の心理的問題とその支援	災害が起きた後に生じる子どもたちの変化やストレス障害について学び、保育者としてどのように備えるべきか、どのような支援ができるかについて考える。	東日本大震災など近年生じた災害後の子ども達にどのような変化や問題が生じたか、どのような支援が行われたかについて調べる。	4時間
第13回	発達的な課題とその支援	自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害や学習障害、ことばの遅れなど、子どもの様々な発達的な課題とその支援方法について具体的に学ぶ。	発達的な課題を抱える子どもの事例について読み、支援のポイントについて考える。	4時間
第14回	特別な配慮を要する家庭への支援の実際／まとめ	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学んできた基礎知識をもとに、特別な配慮を要する家庭への支援のあり方について事例検討する。育児不安、発達障害、ひとり親家庭、虐待、貧困、など、多様な支援ニーズのある家庭に対して保育者としてどのように支援すればよいか、また他職種とどのように連携しながら支援すればよいかについて考察する。 14回の学びを振り返り、保育者として子どもや家庭を支援する姿勢について確認する。 	保護者や子どもに対する実際の支援事例を読み、重要なポイントについて理解する。学んだ知識を整理し、最終レポートにむけて復習をしておく。	4時間

授業科目名	保育実習 I (保育所)				
担当教員名	向井 秀幸・樋口 奈生				
学年・コース等	1	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員が実務経験を有する。保育所において保育士の職に就いていた。				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

保育所実習に臨み、日常生活や遊びを通して保育所・認定こども園の役割や機能等を理解する。乳幼児の活動を観察することにより、また直接関わることにより、乳幼児の表面的な行動だけではなく、発達や内面の思いへの理解を深めていく。実習までに学んだ教科を基盤にして、保育内容や保育環境の実際を具体的に学ぶ。保育所・認定こども園における子どもの人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務について理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 保育者としての知識・技能の獲得
- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 保育者としての具体的な保育と支援の実施

目標：

保育所実習を通して、乳幼児の発達過程や保育者の役割や機能について説明することができる。
保育所実習において乳幼児への適切な関わりや保育者の職務内容を理解し関心を高めることができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP6. 行動・実践
- 3. DP9. 役割理解・連携行動

乳幼児にふさわしい保育のあり方を発見することができる。
個々の乳幼児にふさわしい保育、援助を行うことができる。
保育所・認定こども園の役割と機能を理解し、職員間・関係機関と連携することの大切さを理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 実験、実技、実習
- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

実習は10日以上、80時間以上の実習時間がなければ実習放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準	評価の基準
実習自己課題設定と中間振り返り	: 学生の自己課題の設定および準備、実習に対する取り組みについて10点満点で評価する。
実習状況	: 遅刻や早退などの状況、提出物の提出状況を10点満点で評価する。
実習日誌	: 要点を押さえて実習記録をまとめているのかを20点満点で評価する。
実習施設による評価	: 実習先からの評価を40点満点に換算して評価する。
実習報告	: 実習の振り返りおよびそのレポートを20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・平成29年告示「保育所保育指針」 厚生労働省
- ・平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府 文部科学省 厚生労働省
- ・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科
- ・新・基本保育シリーズ⑩保育実習 中央法規 近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子 2019年
- ・0歳～6歳 子どもの発達と保育の本（第2版）Gakken 河原紀子 2018年

履修上の注意・備考・メッセージ

健康に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を成功させるには、毎日の実習終了後、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その日の実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすること。毎日2時間はかかると考えておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 隨時受け付けます。実習園別指導教員に何でも相談してください。
実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導I（保育所）の授業で案内します。

授業計画

第1回

保育所および認定こども園での実習（1回生2月～3月）

- ・保育所や認定こども園の保育内容・機能・園生活の流れなどについて、実践を通して理解する。
- ・補助的な立場で遊びや生活を通して乳幼児と関わる中で、一人ひとりを理解するとともに、乳幼児の発達の実情や保育の実態に触れながら、援助・配慮のあり方を体験的に学ぶ。
- ・補助的な立場から保育者の専門性に触れながら、保育者の職務内容及び役割、また職員とのチームワークなどに関して体験を通して把握し、保育への関心を高める。
- ・保育者および乳幼児と生活を共にする中で、実習生自身が様々な働きかけを行うことにより、保育技術を習得しながら将来の保育者としての自覚を高める。

学修課題

実習記録を記載するとともに、次の日の実習課題、目標等を計画的に準備（毎日2時間以上）すること。

授業外学修課題にかかる目安の時間

20時間

授業科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）				
担当教員名	向井 秀幸・樋口 奈生				
学年・コース等	1	開講期間	通年（1後～2前）	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員が実務経験を有する。保育所において保育士の職に就いていた。（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

保育所や認定こども園の保育内容・機能・役割・生活の流れなど実践を通して理解し、保育への関心を深めることをねらいとして、授業を行う。また、実習園における保育について具体的なイメージを持ち実習に臨めるよう、保育所実習に関する基礎的な知識が習得できる授業内容としている。内容としては、保育所実習の意義・目的、実習の内容の理解、自らの課題の明確化を行う。また実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

保育・福祉専門職の意義や職務内容、専門知識に関する理解

目標：

保育所実習の意義・目的を理解し、保育者として必要な知識・技能・実践能力の習得をめざして、自らの課題や学習目標を持って実習に臨むことができる。

汎用的な力

- 1. DP5. 計画・立案力

保育所実習における計画を立て、その実行に踏み出し、やり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	：	実習や実習指導を振り返り、保育者として必要な知識や技術および役割について、要点を押さえて記入しているかを30点満点で評価する。
課題シート	：	保育所実習の目的・課題に対する明確化および理解度について20点満点で評価する。
授業への取り組み状況	：	各回授業において発表などの積極的参加や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に15点満点で評価する。
授業内提出物	：	授業内容の理解や考察などが反映されているか、提出物の期限を守っているかなどを総合的に35点満点で評価する。

使用教科書

指定する

著者

近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子

タイトル

・新・基本保育シリーズ②保育実習

出版社

・中央法規

出版年

・2019年

参考文献等

- ・平成29年告示「保育所保育指針」 厚生労働省
- ・平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府 文部科学省 厚生労働省
- ・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科
- ・0歳～6歳 子どもの発達と保育の本（第2版）Gakken 河原紀子 2018年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
 場所： 中央館4階第2研究室、授業の教室
 備考・注意事項： 保育所実習担当のどの教員でも受け付ける。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育所実習の意義と目的 ・保育実習の意義や目的、保育実習指導I（保育所）の授業の流れについて学びます。 ・保育実習の年間計画について学びます。	教科書の通読（P7-8、P14-17）し、保育実習の内容を理解する。 1時間
第2回	保育所実習への基本的心得 ・保育所や認定こども園の生活と一日の流れについて学びます。 ・学外の保育施設へ一定期間通って学ぶ際の実習生としての心構えやマナーについて学びます。	保育所保育指針（P4-5）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P4-5） 1時間
第3回	保育所・認定こども園の生活と保育者の役割を学ぶ ・保育所や認定こども園での生活について学びます。また、子どもへのかかわりと援助について理解を深めています。 ・保育所や認定こども園における保育者の役割について学びます。	教科書の通読（P62-65）を通して、実習中の留意点を学ぶ。 1時間
第4回	子どもとの関わりと観察を通して、子ども理解を深める ・保育所や認定こども園で生活をする子どもの姿をDVD視聴を通じ理解します。 ・子どもを観察することから子ども理解を深める必要性を学びます。	教科書（P74-84）を読むとともに課題に取り組む。 1時間
第5回	保育所・認定こども園の安全と衛生について学ぶ ・保育所や認定こども園の安全管理や衛生への配慮、食物アレルギー児への対応等について学びます。 ・子どもが安心して過ごせる環境について理解を深めます。	教科書の通読（P112-122）とワークに取り組むことによって、安全管理及び衛生管理の理解を確かなものとする。 1時間
第6回	保育所実習での学びの目的と課題を考える①（視点について考える） ・実習課題の理解を深めるとともに、課題の立て方を学びます。 ・具体的に学びたい事柄を明確にし、課題遂行方法を考えます。	教科書（p 50-60）を読み、実習の目的・課題を考える。 1時間
第7回	保育所実習での学びの目的と課題を考える②（目的・課題の決定） ・保育実習I（保育所）の目的を理解し、目標を明確にします。	教科書（p 50-60）を読み、実習の目的・課題を考える。 1時間
第8回	保育実習の実習記録の意義と視点（基本の書き方） ・保育所や認定こども園での実習で使用する実習記録の基本的な書き方を学びます。 ・実習記録作成に伴い、実習園の情報収集をします。 ・オリエンテーションの心構えや準備について理解します。	教科書テキストを読む（P30-36、P38-43）ことを通して、オリエンテーションの留意点を学ぶ。 1時間
第9回	実習記録の書き方①（子どもの発達と保育者の意図を踏まえた記述） ・項目「子どもの活動」、「援助と配慮（保育者・実習生）」の書き方を学びます。 ・実習での保育者の子どもとの関わりや保育内容、その方法について観察し記録することを学びます。	教科書（P58-59）を読み、授業内容を踏まえ課題シートに取り組み、実習記録の書き方の理解を確かなものとする。 1時間
第10回	実習記録の書き方②（環境構成、考察、保育の振り返りの視点） ・項目「環境構成」の書き方について学びます。 ・実習記録作成を通して、子どもの活動が促される環境構成を学びます。	保育所保育指針を読む（P13-31）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（P17-33）を読み、環境構成に関する課題シートに取り組むことで、環境構成の意味を学ぶ。 1時間
第11回	子どもにとっての遊びを考える	教科書（P74-84）を読み、遊びに関する課題シートに取り組む。 1時間

第12回	保育所実習に向けての直前指導	教科書（P30-33）を読み、実習中の留意点について理解を深める。	1時間
第13回	保育所実習の心構えと留意点	教科書（P3実習指導ハンドブック（P13-21）を読み、実習に向けての心構えやマナー、準備などについて確認を行う。	1時間
第14回	保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りと今後の課題の明確化	保育実習Ⅰ（保育所）での学びについて振り返る。	1時間

授業科目名	子どもの保健				
担当教員名	児玉 善子・寺辻 良子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目的指示：「不可」

授業概要

子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達について学びます。受胎から出生までの流れを学び、命の大切さについて理解を深めます。また子どもが罹患しやすい疾病、各機能に特徴的な疾病や障害についても理解し、子どもの健康状態を知る視点や、その予防・対応の仕方を学びます。さらに子どもが心身ともに健康に育つための生活環境や精神面の課題を理解し、保育現場における環境整備や、栄養・衛生管理、事故防止のための安全対策、子どもを取り巻く社会制度やサービスについても理解します。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

保健体育分野の専門的知識を身につける。

目標：

子どもの発育・発達を理解し、説明することができる。子どもの健康状態を把握するために必要な知識を身につけることができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

保育における保健体育の意義を理解する。

子どもの健康の保持・増進に向けて、何が必要なのか理解し、説明できる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

保育現場の実情や社会状況を踏まえて、保育者が保育の専門性を高めていくためには、何が必要か理解できる。

- 2. DP7. 完遂

わからないことをわからないままに放置せず、一つ一つ丁寧に知識を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

予習してきた内容を授業の中で問いますので、簡潔にまとめておきましょう。1回目の確認テストで不十分な箇所は、9回目以降の学習が円滑に行えるように課題を出します。定期テストでできなかった箇所についてはレポート提出はありませんが、2年次に学ぶ「子どもの健康と安全」の学習に関連するので、自ら復習しておきましょう。

成績評価**注意事項等**

理解を深め、知識として身につけていくためには、順を追って知っていくことが大切です。休んだ箇所は自己学習し、必要があればオフィスアワーを活用しましょう。また、自分がどの程度理解できたのか、理解できていないところは何か、確認カードを利用しましょう。全体の1/3以上 の回数の欠席は、成績評価いたしません。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

確認カード

： 毎回授業の内容について理解できているかを確認し、積極的に授業に参加しているかを評価します。

30 %

テスト

： 定期テスト以外に、第8回目に1回目の確認テストを行います。身体の仕組みや健康について理解できているかをテストで確認し評価します。

70 %

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

丸尾良浩・竹内義博 編

・新版 よくわかる子どもの保健

・ミネルヴァ

・2021 年

参考文献等

- 「国民衛生の動向」（財）厚生統計協会
 高野陽・加藤則子・加藤忠明・松橋有子 編著 「新 保育ライブラリ子どもを知る小児保健[新版]」 北大路書房
 田中哲郎 編著 「小児保健 I 子どもの健康管理」 建帛社
 竹中晃二 編著 「子どものためのストレスマネジメント教育」 北大路書房
 落合利佳子 編著 シリーズ：新しい時代の保育者養成「子どもの保健」 あいり出版
 鈴木美枝子 編著 「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健」 創成社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、保育士資格取得必修科目です。子どもの命を預かる専門職に必要な知識を習得するための授業である、という意識を持って授業に取り組んでください。私語や居眠りは認めません。授業中の携帯電話や電子辞書の使用も禁止します。授業内容や専門用語などの言葉が理解できないときは、挙手して質問するように心がけてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 非常勤講師控室

備考・注意事項： 授業時間内に質問するか、確認カードに記入してください。
 1人の疑問は、みんなの疑問もあります。確認カードに書かれた内容は、次の講義時に回答します。

授業計画

第1回	健康とは 保健活動の意義	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
		シラバスを読んで、子どもの保健を学ぶ意義（子どもに関わる大人が知っていなければならない意味）を考えてくる。	4時間
第2回	小児期の分類・特徴 子どもを取り巻く社会事情 子どもの心の健康とその課題	子どもと大人の違いについて学習していく。	4時間
第3回	受胎から出生まで（生命の神祕、命の大切さを知る） 性の決定（染色体）	二次性徴について復習していく。	4時間
第4回	形態的発育(出生まで) 出生前、新生児期の病気	学生自身が避妊をする理由を考えてくる。	4時間
第5回	発育・発達の評価 生理機能の発達と子どもの健康状態の把握	テキストの発育発達の原則を読み、スキヤモンの発育曲線の一般型は子どものどのような発育を表しているのか考えてくる。	4時間
第6回	循環器系の病気とその対応	中学校・高校で学んだ血液の循環について復習していく。	4時間
第7回	呼吸器系の病気とその対応	中学校・高校で学んだ、肺胞における気体の交換について復習していく。	4時間

第8回	確認テストと振り返り及びまとめ	第1回から第7回までの講義内容について理解できているかを確認するため、テストを行う。	第1回から第7回までを振り返り、確認テストまでに理解できなかったところを理解する。	4時間
第9回	消化器系の病気とその対応	消化器系の器官の構造と機能を学びます。乳児の胃の特徴を理解し、保育者として気をつけなければならないことを考えます。消化器系の病気について理解し、その対応について学びます。また、三大栄養素の消化と吸収について学びます。消化の働きを補うために、自らできること、保育者として子どもにできることを考えます。	中学校・高校までに学習した消化器の復習をしてくる。身近にある食材を三大栄養素に分類していく。	4時間
第10回	泌尿器系・神経系の病気とその対応 血液の生理機能	泌尿器系、神経系の構造と機能を学びます。泌尿器系・神経系の病気を理解し、その対応を学びます。排泄の自立と発育・発達の関係を理解し、保育者が気を付けなければならないことを考えます。血液の成分とその働きを学びます。これまで学んできた身体の仕組みに血液が関与していることを学びます。	第5回で学んだ発育・発達と脳との関係を復習していく。中学校・高校までに学習した、赤血球・白血球・血小板の働きを復習していく。	4時間
第11回	免疫の仕組み 感染症の予防と対策	生体における防衛反応を学びます。病気にならないための免疫の仕組みが、これまで学んできた身体の構造や機能と関連していることを学びます。アレルギー反応についても理解します。感染成立の三大要因を学びます。感染成立の三大要因に即して、感染症対策を考えます。自らが感染しないようになると、子どもが罹らないように保育者としてできること、感染を拡大させないようにできることを考えます。予防接種の仕組みを免疫の仕組みと関連させて理解し、予防接種を受ける際に気をつけなければならないことを学びます。	自分自身がこれまでにかかった感染症や予防接種の時期を調べてくる。	4時間
第12回	保育現場における環境整備と衛生・安全管理	児童福祉法と児童福祉施設最低基準について学びます。施設において、子どもが衛生的で安全に過ごすために必要な消毒や衛生・安全管理について学びます。事故の特徴を理解し、その安全対策について学びます。	最近のニュースから子どもの事故を選び、子どもの発育や発達がどのように影響しているのかをまとめてくる。	4時間
第13回	子どもにおける事故と安全対策	SIDS (Sudden Infant Death Syndrome)について理解し、その予防方法について学びます。三大事故死因について学び、死に至らないようにするには、関わる大人がどのようなこと気につけなければならないのかを考えます。	保育現場で起こりやすい事故について考えてくる。	4時間
第14回	子どもの心の健康とその課題 子どもを取り巻く社会制度 児童虐待とその防止対策	様々な児童福祉施設について学びます。また施設の利用に際して、どのような施策が関わっているのかを学びます。児童虐待の種類や現状を理解し、それを防止するための対策や、発見したときの対応や連携について学びます。	第1回からのレジュメを整理し、持ってくる。理解できていないところがないか、確認する。	4時間

授業科目名	こども音楽療育概論				
担当教員名	加戸 敬子・池田 智子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	音楽療法士として、障害児（者）、精神障害者、神経難病患者への音楽療法を、施設、病院にて実施。（加戸；全14回） 音楽療法士として、障害児（者）施設、特別支援学校等において音楽療法を実施。（池田：全14回）				

開放科目的指示：「可」

授業概要

音楽の特性を利用し、病気や障がいをもつ子どもへの療育を行う方法や理論について学修する。音楽が流れると自然にからだが動いたり声が出たりするのは、人が生来的に持っている反応で、脳の機能に関係している。言語表現が未熟な子どもや、障がいによりコミュニケーションをとることが困難な子どもに対し、音楽の機能を意図的に用いて心身の発達を促すのが音楽療育である。本授業では、音楽療法の原理を基に音楽療育の基礎的な知識と技術を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 施設や園での音楽の役割
- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 障害児への療育としての音楽スキル

目標：

- 音楽の機能と音楽療育の目的を述べることができます。
- 活動に応じた楽器奏、伴奏、歌唱の選曲ができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP5. 計画・立案力

- 従来の音楽教育との違いについて述べることができます。
- 障害の特性に応じた療育の目的と方法を計画することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻3回につき1回欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合

	評価の基準
振り返りシート14回	各回の授業内でのまとめと考察を評価する。授業内容を踏まえ独自の考えが述べられており、具体的例が挙げられていれば3点、授業内容を踏まえ課題について述べられていれば2点、授業内容に沿っていれば1点とする。
20 %	
授業内ワーク・確認テスト	小集団での楽器奏、歌唱、創作等を行い、目的に沿いオリジナルのアイデアが盛り込まれていれば5点、目的に沿って音楽としての流れが良ければ4点、目的に沿っていれば3点とする。
40 %	
学期末試験	音楽療育の基礎知識、音楽療育と音楽教育の違い、教育・保育現場で音楽による支援についての理解度を測る。定期試験時に確認テスト結果を振り返り評価を行う。
30 %	
受講態度	各回、授業への積極的な参加（発表や質問への加点）と、受講態度（受講マナーや私語などによる授業の妨げなどは減点）により、総合的に評価する。
10 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
生野里花・二俣泉	・ 音楽療法のためのオリジナル曲集「静かな森の大きな木」	・ 春秋社	・ 2001 年

参考文献等

- 『統合保育・教育現場に応用する 音楽療法・音遊び』下川英子 音楽之友社 2009年
 『音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル』二俣泉・鈴木涼子 春秋社 2011年
 『音楽療法のためのピアノ小品集』クライヴ・ロビンズ ヤマハミュージックメディア 2002年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目はこども音楽療育士資格のための科目で、幼二免、保育士資格に関わる科目の一部と、2回生時に「こども音楽療育演習」および「こども音楽療育実習」の単位を取得することにより資格が取得できる。なお、2回生「こども音楽療育演習」は本科目で一定の成績を修めた者が受講できる。
 2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業前後に受け付ける。
 場所： 授業の教室、教育第10研究室（西館6階）
 備考・注意事項： 上記以外は担当教員に問い合わせること。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	オリエンテーション、こども音楽療育とは 授業の概要と評価方法、こども音楽療育士資格について説明し、受講生の音楽歴、演奏経験を確認する。 音楽療育現場での『はじめの歌1』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、自分の音楽歴と心理的に作用したと思われる曲について考えておく。	4時間
第2回	音と音楽の起源 聴覚と音の関係を知る。人類が音を音楽に発展させたと考えられている6つの起源説から人類と音楽の歴史について考える。 音楽療育現場での『はじめの歌2』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、自分の思うところの音楽の起源についてまとめておく。	4時間
第3回	音楽療法の歴史と音楽療育 古代の治療・儀式としての音楽から現代の音楽教育・音楽療法へと発展した経緯について討議し、知識を深める。 音楽療育現場での『はじめの歌3』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、音楽教育と音楽療法の相違点についてまとめる。	4時間
第4回	音楽のもつ作用 音楽のもつ生理的・心理的・社会的作用とスピリチュアルケアについて、体験を通して学ぶ。 音楽療育現場での『発声の歌』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、音楽の作用について自己の体験を基にまとめておく。	4時間
第5回	様々な領域での音楽療法 障害児・者、精神疾患、高齢者、緩和ケア、難病患者などを対象とした音楽療法を知り、対象に応じた音楽療法の目的と手法、期待できる効果を知る。 音楽療育現場での『楽器活動1』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、任意の領域について自分の考えをまとめる。	4時間
第6回	障がい児の特性と音楽による支援、こどもホスピス 身体障害、知的障害、発達障害等の病理と特性を知り、障害受容と親支援、きょうだい支援についての学びを通して音楽による支援方法を知る。 病弱児の定義と「こどもホスピス」での音楽療法を紹介し、小児癌と重度障害児への音楽の意義について考察する。 音楽療育現場での『楽器活動2』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、障害児をもつ親、きょうだいの支援について調べておく。	4時間
第7回	即興演奏と創造的音楽療法 即興音楽について知り、ノードフ・ロビンズの創造的音楽療法を、記録映像と体験を通して学ぶ。 音楽療育現場での『楽器活動3』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、創造的音楽療法についてネット等で調べておく。	4時間
第8回	音楽療法の実践領域① 音楽と記憶 認知症高齢者への音楽療法を通して、音楽と記憶との結びつきを学ぶ。 精神科病棟での音楽療法を通して、音楽による社会性、協調性の獲得について学ぶ。 音楽療育現場での『音楽遊び1』一覧、セッション表の作成	振り返りシートの作成、記憶と脳との関係について調べておく。	4時間
第9回	音楽療法の実践領域② 心理的作用	振り返りシートの作成、神経難病の種類と症状について調べておく。	4時間

	神経難病患者（パーキンソン病、筋ジストロフィー、ALS等）、ターミナルケアとしての音楽療法を通して、音楽による心理ケア、スピリチュアルケアについて学ぶ。 音楽療育現場での『音楽遊び2』のワーク、セッション表の作成		
第10回	音楽と遊び、ドラムサークル 発達や目的に応じた歌・楽器を使った遊びを通して自己表現や社会性を身につける方法を探る。 言語を用いないドラム合奏を体験し、リズムによる一体感、達成感を体感する。 音楽療育現場での『音楽遊び3』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、幼児を対象にした手遊びや歌体操について調べておく。	4時間
第11回	音楽療法の実践領域③ 発達障害児・者 発達障害についての理解を深め、発達障害児を含む保育現場での音楽療育、音楽療法が行なわれている現場とセッション内容について知る。 音楽療育現場での『おわりの歌1』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、保育における発達障害児への支援方法についてまとめておく。	4時間
第12回	音楽療育によるコミュニケーション 療育現場での障害児のコミュニケーション方法を想定し、音楽による対象児との関わり方について検討する。音楽療育現場での『おわりの歌2』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、言語以外のコミュニケーション法について調べておく。	4時間
第13回	音楽療育現場での楽器、手作り楽器 実践で使用する楽器とその演奏法、目的について学ぶ。 身の回りのものを使って簡易楽器を作成する。 音楽療育現場での『おわりの歌3』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、楽器の種類と演奏法についてまとめる。	4時間
第14回	セッションの記録と評価、まとめ セッションの記録の取り方と評価方法について学ぶ。 既習内容の確認 今までのセッション表を基に、1つのセッションプログラムを検討する。	振り返りシートの作成、全セッション表をまとめ、1セッションの流れを想定する。	4時間

授業科目名	保育実習 I (施設)				
担当教員名	鈴木 大介・中川 陽子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

解放科目の指示：「不可」

授業概要

実習に臨み、日常の生活や余暇活動を通して福祉施設の役割や機能等を理解する。
利用児・者の活動を観察することにより、また直接関わることにより、利用児・者の表面的な行動だけではなく、発達や内面の思いへの理解を深めていく。
実習までに学んだ教科を基盤にして、養護内容、施設環境の実際を具体的に学ぶ。福祉施設における対象者（成人含む）の人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務について理解する。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- | | | |
|---------------------------|----------------------------|--------------------------------------------------|
| 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 | 具体的な内容： 福祉施設職員としての知識・技能の修得 | 目標： 福祉現場での実習を通して、施設の果たすべき役割について説明することができる。 |
| 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 | 福祉施設職員としての具体的な保育と支援の実施 | 施設利用者に施設の機能を活用し、個々の利用児・者に応じた支援をする力量を身につけることができる。 |

汎用的な力

- | | |
|-------------------|-----------------------------------------------|
| 1. DP4. 課題発見 | 利用児・者を取り巻く環境を理解し個々の利用者にあった適切な支援方策を発見することができる。 |
| 2. DP6. 行動・実践 | 個々の利用児・者に則した支援を提供することができる。 |
| 3. DP9. 役割理解・連携行動 | 福祉施設の役割機能を理解するとともに、協働や関係機関との連携の必要性を学ぶことができる。 |

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 実験、実技、実習
- 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価**注意事項等**

実習は10日以上、80時間以上の実習時間がなければ実習放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

- | | | | |
|-----------------|-------|---|-------------------------------------------|
| 実習自己課題設定と中間振り返り | 評価の基準 | : | 学生の自己課題の設定および準備、実習に対する取り組みについて10点満点で評価する。 |
| 実習状況 | | : | 遅刻や早退などの状況、提出物の提出状況を10点満点で評価する。 |
| 実習日誌 | | : | 要点を押さえて実習記録をまとめているかを20点満点で評価する。 |
| 実習施設による評価 | | : | 実習施設からの評価を40点満点に換算して評価する。 |
| 実習報告 | | : | 実習の振り返りおよびそのレポートを20点満点で評価する。 |

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科

その他適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

健康に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を成功させるには、毎日の実習終了後、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その日の実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすること。毎日2時間はかかると考えておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2限

場所： 中央館4階 第7研究室

備考・注意事項： 実習園別指導教員に何でも相談してください。
実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導Ⅰの授業で案内します。

授業計画

第1回

1回生2月～3月、福祉施設での実習

学校で得た教科全体の知識、技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養う。児童や利用者に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。児童養護施設等の児童福祉施設（通所型・入所型含めて）や障害者施設でそれぞれの施設の役割や機能、子どもの養育や利用者への支援及び保護や家庭への支援、児童の自立支援計画、観察、記録及び自己評価などを具体的に理解し、保育士業務や職業倫理について学ぶ。

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

実習記録を記載するとともに、次の日の実習課題、目標等を計画的に準備（毎日2時間以上）すること。

20時間

授業科目名	子ども家庭福祉				
担当教員名	小島 知子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	乳児院・児童養護施設において児童指導員、心理療法担当職員として勤務。また児童家庭支援センターでの心理職やスクールカウンセラー、キンダーカウンセラーとして対人相談援助職の勤務経験も有する。(全14回)				

開放科目的指示；「不可」

授業概要

子ども家庭福祉の実践は、子どもたちの幸せを保障するために、子ども・子どもが暮らす家庭・子どもが生活する地域社会に対して行われるものである。本科目では、現代社会における子どもを取り巻く状況を知り、保育者として必要な子ども家庭福祉の法体系、サービス体系等の知識を学ぶことを目的とする。さらに、権利主体として「子どもを見る目」を育て、子どもの幸せを保障するために成すべきことについて考え実践できる力を養う。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP1. 幅広い教養やスキル
- 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

- 福祉専門職としての基礎的知識の習得。
- 福祉専門職としての役割の理解。

目標：

- 子ども家庭福祉の知識を習得し、子どもや家庭を取り巻く環境を説明することができる。
- 対象者の代弁者としてアドボケイトすることを理解し、説明することができる。

汎用的な力

- 1. DP8. 意思疎通
- 2. DP10. 忠恕の心
- 3. DP4. 課題発見

- 他者の意見をよく聴き、自分の意見を正確に伝えることができる。
- 他者の立場に立って考え、行動することができる。
- 現代の子どもと家庭における問題や課題を自ら考え、今後の解決策を見出すことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とする。
積極的な授業への参加、グループワークの参加など主体的に学ぶ姿勢を評価する。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

- | | | |
|----|---|-------------------------------------------------|
| 試験 | ： | 14回の授業を振り返り、子ども家庭福祉の授業の理解度や、独自の見解を述べてかどうかを評価する。 |
|----|---|-------------------------------------------------|

35 %

小テスト

- | | |
|---|-----------------------------------------------------|
| ： | 授業内にて、子ども家庭福祉の基礎的な理解に関する試験を独自のループリックに基づいて適時実施し評価する。 |
|---|-----------------------------------------------------|

40 %

授業への取り組み状況

- | | |
|---|-------------------------------------------------------------------------|
| ： | 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業への取り組み姿勢（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）などを評価する。 |
|---|-------------------------------------------------------------------------|

25 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小宅理沙 監修	・子ども家庭福祉概説	・青山社	・2022 年

参考文献等

適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、予習復習すること。
授業内マナーを守り積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
- 場所： 授業の教室
- 備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける(kojima-to@g.osaka-seikei.ac.jp)。
メールには必ず氏名と所属を明記すること。

授業計画

回数	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	子ども家庭福祉とは ・授業内容・計画及び評価方法 ・子ども家庭福祉を学ぶことの意義について学びます。	子ども家庭福祉とは何か考えをまとめておくこと。	4時間
第2回	子ども家庭福祉の概要と理念 ・子ども家庭福祉の概要と理念 ・子どもと家庭を取り巻く現状と課題について学びます。	前回の復習及び子どもや家庭に関する新聞記事などを確認し、現状を理解する。	4時間
第3回	子どもの権利 ・子どもの権利（子どもの権利条約） ・「子どもの最善の利益」について学びます。	前回の復習及び教科書第1章を熟読し、子どもの権利条約がどのようなものか確認しておくこと。	4時間
第4回	児童虐待 ・児童虐待の定義 ・児童虐待とは何か ・児童虐待が起こる背景 ・児童虐待対応における今後の課題について学びます。	前回の授業の復習及び教科書第5章第1節の児童虐待を熟読し、理解を深めておく。	4時間
第5回	子ども家庭福祉の歴史 子ども家庭福祉の歴史的変遷について学びます。	前回の授業の復習及び教科書第2章子ども家庭の歴史を熟読し、子ども家庭福祉に貢献した歴史上の人物を事前に調べておく。	4時間
第6回	子ども家庭福祉の制度 ・児童福祉法の歴史 ・児童の定義 ・子ども家庭福祉に関する法律 ・子どもに関する施設について学びます。 またこれまでのまとめとして小テストを実施します。	前回の授業の復習及び児童福祉法について事前に調べておくこと。	4時間
第7回	子育て支援1 少子化社会対策の動向 ・少子化社会対策の動向 ・「エンゼルプラン」と「新エンゼルプラン」 ・「次世代育成支援対策推進法」 ・「少子化社会対策大綱」について学びます。	前回の授業の復習及び少子化社会対策の動向について第4章第1節を熟読しましておくこと。	4時間
第8回	子育て支援2 少子化社会対策の現状と課題 現在の子育て支援の課題について動画などの視覚教材を用いてさらに理解を深める。 これまでの振り返り及び授業内での理解度を確認するための小テストを実施する。	前回の授業の復習及び、現在の子育て支援の現状について新聞記事などを参照にし、独自でまとめておくこと。	4時間
第9回	子ども・子育て支援制度 ・子ども・子育て支援新制度の体系とその内容 ・子育て支援の充実に向けた課題 ・今後の子育て支援について学びます。	前回の授業の復習及び、教科書第4章第2節子ども子育て支援新制度についてを熟読しましておくこと。	4時間
第10回	ドメスティック・バイオレンス (DV) 前回の授業の復習及び、教科書第5章第2節 ドメスティック・バイオレンス (DV) を熟読し、さらに新聞記事などで現状と課題を独自で調べておく。	前回の授業の復習及び、教科書第5章第2節 ドメスティック・バイオレンス (DV) を熟読し、さらに新聞記事などで現状と課題を独自で調べておく。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・ドメスティック・バイオレンス (DV) とは何か ・ドメスティック・バイオレンス (DV) の種類 ・ドメスティック・バイオレンス (DV) のサイクル ・ドメスティック・バイオレンス (DV) の相談窓口及び避難場所 ・データDVについて学びます。 		
第11回	社会的養護	前回の授業の復習及び、教科書第6章社会的養護を熟読し、施設養護と家庭養護についてまとめておく。	4時間
第12回	障害の定義と現状	前回の授業の復習及び、教科書第7章「障害の定義と現状」を熟読し、障害者の現状について理解しまとめておく。	4時間
第13回	保育現場で出会う発達障がい児について	発達障がいとは何かについて各自調べておくこと。	4時間
第14回	「子どもの貧困」	前回の授業の復習及び、教科書第9章を熟読しまとめておくこと。また「子どもの貧困」とは何か、ニュースや新聞記事などから事前に自分の考えをまとめておくこと。	4時間

授業科目名	子ども家庭福祉				
担当教員名	中川 陽子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	障害児・者の居宅サービス及び移動介護、家族支援に従事（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

子ども家庭福祉の実践は、子どもたちの幸せを保障するために、子ども・子どもが暮らす家庭・子どもが生活する地域社会に対して行われるものである。本科目では、現代社会における子どもを取り巻く状況を知り、保育者として必要な子ども家庭福祉の法体系、サービス体系等の知識を学ぶことを目的とする。さらに、権利主体として「子どもを見る目」を育て、子どもの幸せを保障するために成すべきことについて考え実践できる力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP1. 幅広い教養やスキル
- 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

- 福祉専門職としての基礎的知識の習得。
- 福祉専門職としての役割の理解。

目標：

- 子ども家庭福祉の知識を習得し、子どもや家庭を取り巻く環境を説明することができる。
- 対象者の代弁者としてアドボケイトすることを理解し、説明することができる。

汎用的な力

- 1. DP8. 意思疎通
- 2. DP10. 忠恕の心
- 3. DP4. 課題発見

- 他者の意見をよく聴き、自分の意見を正確に伝えることができる。
- 他者の立場に立って考え、行動することができる。
- 現代の子どもと家庭における問題や課題を自ら考え、今後の解決策を見出すことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とする。
積極的な授業への参加、グループワークの参加など主体的に学ぶ姿勢を評価する。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

試験：
評価する。

40 %

小テスト

： 授業内にて、子ども家庭福祉の基礎的な理解に関する試験を独自のループリックに基づいて適時実施し評価する。

30 %

授業への取り組み状況

： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業への取り組み姿勢（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）などを評価する。

30 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小宅理沙 監修	・子ども家庭福祉概説	・青山社	・2022 年

参考文献等

適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、予習復習すること。
授業内マナーを守り積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 初回授業時に提示する
 場所： 第7研究室
 備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける(nakagawa-yo@g.osaka-seikei.ac.jp)。
 メールには必ず氏名と所属を明記すること。

授業計画

回数	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	子ども家庭福祉とは ・授業内容・計画及び評価方法 ・子ども家庭福祉を学ぶことの意義について学びます。	子ども家庭福祉とは何か考えをまとめておくこと。	4時間
第2回	子ども家庭福祉の概要と理念 ・子ども家庭福祉の概要と理念 ・子どもと家庭を取り巻く現状と課題について学びます。	前回の復習及び子どもや家庭に関する新聞記事などを確認し、現状を理解する。	4時間
第3回	子どもの権利 ・子どもの権利（子どもの権利条約） ・「子どもの最善の利益」について学びます。	前回の復習及び教科書第1章を熟読し、子どもの権利条約がどのようなものか確認しておくこと。	4時間
第4回	児童虐待 ・児童虐待の定義 ・児童虐待とは何か ・児童虐待が起こる背景 ・児童虐待対応における今後の課題について学びます。	前回の授業の復習及び教科書第5章第1節の児童虐待を熟読し、理解を深めておく。	4時間
第5回	子ども家庭福祉の歴史 子ども家庭福祉の歴史的変遷について学びます。	前回の授業の復習及び教科書第2章子ども家庭の歴史を熟読し、子ども家庭福祉に貢献した歴史上の人物を事前に調べておく。	4時間
第6回	子ども家庭福祉の制度 ・児童福祉法の歴史 ・児童の定義 ・子ども家庭福祉に関する法律 ・子どもに関する施設について学びます。 またこれまでのまとめとして小テストを実施します。	前回の授業の復習及び児童福祉法について事前に調べておくこと。	4時間
第7回	子育て支援1 少子化社会対策の動向 ・少子化社会対策の動向 ・「エンゼルプラン」と「新エンゼルプラン」 ・「次世代育成支援対策推進法」 ・「少子化社会対策大綱」について学びます。	前回の授業の復習及び少子化社会対策の動向について第4章第1節を熟読しましておくこと。	4時間
第8回	子育て支援2 少子化社会対策の現状と課題 現在の子育て支援の課題について動画などの視覚教材を用いてさらに理解を深める。 これまでの振り返り及び授業内での理解度を確認するための小テストを実施する。	前回の授業の復習及び、現在の子育て支援の現状について新聞記事などを参照にし、独自でまとめておくこと。	4時間
第9回	子ども・子育て支援制度 ・子ども・子育て支援新制度の体系とその内容 ・子育て支援の充実に向けた課題 ・今後の子育て支援について学びます。	前回の授業の復習及び、教科書第4章第2節子ども子育て支援新制度についてを熟読しましておくこと。	4時間
第10回	ドメスティック・バイオレンス (DV) 前回の授業の復習及び、教科書第5章第2節ドメスティック・バイオレンス (DV) を熟読し、さらに新聞記事などで現状と課題を独自で調べておく。	前回の授業の復習及び、教科書第5章第2節ドメスティック・バイオレンス (DV) を熟読し、さらに新聞記事などで現状と課題を独自で調べておく。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・ドメスティック・バイオレンス (DV) とは何か ・ドメスティック・バイオレンス (DV) の種類 ・ドメスティック・バイオレンス (DV) のサイクル ・ドメスティック・バイオレンス (DV) の相談窓口及び避難場所 ・データDVについて学びます。 		
第11回	社会的養護	前回の授業の復習及び、教科書第6章社会的養護を熟読し、施設養護と家庭養護についてまとめておく。	4時間
第12回	障害の定義と現状	前回の授業の復習及び、教科書第7章「障害の定義と現状」を熟読し、障害者の現状について理解しまとめておく。	4時間
第13回	保育現場で出会う発達障がい児について	発達障がいとは何かについて各自調べておくこと。	4時間
第14回	「子どもの貧困」	前回の授業の復習及び、教科書第9章を熟読しまとめておくこと。また「子どもの貧困」とは何か、ニュースや新聞記事などから事前に自分の考えをまとめておくこと。	4時間

授業科目名	子ども家庭福祉				
担当教員名	原田 和明				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	生活保護施設 相談員 4年半、知的障害者通所授産施設 生活指導員、主任、次長 9年半、障害児（者）療育等支援施設事業 コーディネーター 6年、障害者相談支援事業所 生活介護 管理者 通算10年（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

児童を取り巻く環境で重要なのは家庭である。また、ソーシャルワークでは人ととの間、そしてその人が存在する環境を調整することが求められる。児童の支援者は、児童とその児童を取り巻く環境を捉えて、その児童のみならず家庭も視野に入れて環境調整にあたるという姿勢が重要である。そこで、本科目では保育者として必要な、児童と家庭に関わる児童福祉制度や機関、サービスについて学ぶ。また、社会の状況を把握した上で、児童の権利擁護の視点も含めた支援のあり方を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP1. 幅広い教養やスキル
- 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

- 福祉専門職としての基礎的知識の習得。
- 福祉専門職としての役割の理解。

目標：

- 児童家庭福祉の基礎的理解を養い、子どもや家庭を取り巻く状況を説明することができる。
- 対象者の代弁者としてアドボケイトすることを理解し、説明することができる。

汎用的な力

- 1. DP8. 意思疎通
- 2. DP10. 忠恕の心

- 他者の意見をよく聴き、自分の意見を正確に伝えることができる。
- 他者の立場に立って考え、行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題 : 100点満点で点数化し、それを30パーセント換算で評価する。中間の理解度を量る。

30 %

振り返りシート

: 振り返りシートの総合点数を30点満点で点数化し評価する。

30 %

授業への取り組み状況

: 授業に取り組む姿勢や意欲、グループ討議や発表などの積極性や論理性を基に評価する。

20 %

試験（レポート）

: 100点満点で点数化し、それを20%換算で評価する。授業全体の理解度を量る。

20 %

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

新保幸男・小林 理 編

・新基本保育シリーズ③子ども家庭福祉

・中央法規

・2019 年

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。予習としてはテキストの内容を丁寧に確認することや授業内容に関わる報道などを探し、見つけることができれば内容を記録しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合には、メールにて受け付けます。（sw.kazuaki.harada@gmail.com）メールには必ず氏名と学年を明記して下さい。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 子ども家庭福祉の理念と概念 子ども家庭福祉の学び方、理念や概念について学びます。 テキスト 2P～13P	インターネット・新聞などで児童福祉に関わるニュースを読んでおく。	4時間
第2回 子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向 子ども家庭福祉の歴史的な展開と支援対象の多様化や社会的支援について学びます。テキスト16P～26P	日本の子ども家庭福祉の歴史について調べておく。	4時間
第3回 子どもの人権擁護 子どもの人権・権利の考え方や権利保障・人権擁護がどのような展開をしてきたのかを学びます。テキスト28P～38P	子どもの権利条約について調べておく。	4時間
第4回 子どもの家庭福祉の制度と実施体制 子ども家庭福祉の直近の制度・法や実施体制についてについて学びます。40P～52P	子ども家庭福祉に関する制度・法について調べておく。	4時間
第5回 子ども家庭福祉の施設と専門職 子ども家庭福祉に関わる施設の種類や内容及び専門職について学びます。テキスト54P～68P	子ども家庭福祉に関する施設や専門職について調べておく。	4時間
第6回 少子化と地域子育て支援 少子化の問題とその子ども家庭福祉に与える影響、さらには、少子化対策としての地域子育て支援について学びます。 。テキスト70P～82P	少子化問題とはどういうものか、また、自身の住むまちでどのような子育て支援が行われているか調べておく。	4時間
第7回 母子保健と子どもの健全育成 母子保健及び児童健全育成の意義や概要について学びます。 。テキスト84P～97P	母子保健や児童健全育成の制度や仕組みについて調べておく。	4時間
第8回 多様な保育ニーズへの対応 地域特性と保育の関係や障害児保育の概要について学びます。テキスト100P～110P	自身の住むまちの保育施策の特性と障害児保育の概要について調べておく。	4時間
第9回 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスの実態とその防止対策について学びます。テキスト112P～124P	インターネットや新聞などで、子ども虐待やドメスティックバイオレンスのニュースを読み、どうして起きるのか防止するにはどうしたらよいのかを考える。	4時間
第10回 貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応 貧困家庭の実態と対応及び外国籍の子どもとその家庭の実態と対応について学びます。テキスト126P～140P	インターネットや新聞などで、貧困家庭及び外国籍の子どもの実態について最近の情報を調べておく。	4時間
第11回 社会的養護 社会的養護の概要と施設や制度について学びます。テキスト142P～151P	社会的養護の概要とその各施設についてどういったものなのかを調べておく。	4時間
第12回 障害のある子どもへの対応 障害児保育及び障害者総合支援法や児童福祉法における障害児支援について学びます。テキスト154P～166P	障害児保育の内容及び障害者総合支援法における障害時支援について調べておく。	4時間
第13回 少年非行等への対応 少年司法と福祉との関係や少年司法の歴史について学びます。テキスト168P～176P	少年法の内容と児童福祉と少年法の関係について調べておく。	4時間
第14回 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 次世代育成の概念と子ども家庭福祉との関係及び子育て支援や幼保連携について学びます。テキスト180P～190P	自身の住むまちで行われている子育て支援施策について調べておく。	4時間

授業科目名	乳児保育 I				
担当教員名	樋口 奈生・今井 清美・寺辻 良子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	それぞれ、保育現場での勤務経験を有する（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本科目では人の一生の中でも最も著しい発育、発達をとげる乳児期（3歳未満児）の特徴を理解し、適切な養育・保育の方法を習得することを目指す。乳児保育の理念と役割、現状と課題等、乳児保育の実施に関する基本理念と現状を理解する。現在の保育制度・政策にも目をむけ、乳児保育がなぜ必要なのか、社会的背景から考えていく。また、今般の乳児保育施設に求められる保護者および関連機関とのパートナーシップについても理解を深める。保育の質を高めるために必要な課題は何か理論的に考え乳児保育の重要性を学ぶことを本科目の目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的な内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	乳児の発達、発育の理解に関わる確かな知識、職業理解	乳児保育に関わる確かな知識、職業理解を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		乳児を取り巻く社会情勢に关心をもち、論理的に考え方課題を明らかにすることができます。
2. DP9. 役割理解・連携行動		集団やチームの中で役割を果たすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回の授業に出席することを原則とする。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内の小テスト・レポート	：	授業内での小テスト・レポートを作成し授業内容の理解度、考察度を評価する。
40 %		
授業内の演習・発表、態度	：	授業に臨む態度の積極性、演習・発表の内容について評価する。
20 %		
期末レポート	：	授業内容を理解し、課題に即した内容で記述できているか評価する。
40 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
志村聰子	・はじめて学ぶ乳児保育	・同文書院	・2022 年
河原紀子	・0歳～6歳子どもの発達と保育の本	・学研	・2020 年

参考文献等

「ワークで学ぶ乳児保育Ⅰ・Ⅱ」菊池篤子・株式会社みらい 2022年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は前期2単位の科目である。
授業外学修課題に取りくむことに加え、その回の授業の内容を復習し次回の授業に向けてテキストの該当箇所を読んで次回の授業に向けて予習をすること。
また与えられた課題の提出期限を守ることは必須であり、保育者を目指す者として積極的に授業に取りくむこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
場所： 授業教室
備考・注意事項： 授業の前後に質問を受ける。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	乳児保育の意義・目的 乳児保育はなぜ必要なのか、意義と目的を学びます。また、乳児保育の歴史的変遷について学びます。	教科書レッスン1を読む	4時間
第2回	乳児保育の役割・乳児保育の成り立ち 乳児保育の役割と機能、乳児保育の成り立ちを学びます。	第1回の授業を振り返るとともに、名札の製作	4時間
第3回	子ども・子育て支援制度 3歳児未満児の家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について学びます。	第2回の授業を振り返るとともに、名札の製作	4時間
第4回	知っておきたい法律のいろいろ 乳児保育に関連する法律（児童福祉法など）について学びます。	日本の育児制度をネットなどで調べ諸外国との違いをまとめる	4時間
第5回	保育所保育指針とは 保育所保育指針の目的・現行指針の改定ポイントについて学びます。	第4回の授業を振り返るとともに、教科書レッスン4を読む	4時間
第6回	保育所保育指針における乳児保育のポイント（発達過程） 0.1.2歳児の発達過程について学びます。	乳児保育に求められるものはなにかまとめる	4時間
第7回	保育所保育指針における乳児保育のポイント（配慮事項） 0.1.2歳児の保育に関する配慮事項について学びます。	第6回の授業を振り返るとともに、教科書レッスン5・6を読む	4時間
第8回	人生の基礎としての乳児期・乳児のこころの発達 ボルトマンの考え方方に学ぶ・身近な人との絆を育む過程を学びます。	第7回の授業を振り返るとともに、教科書レッスン7・8を読む	4時間
第9回	乳児のことばの発達 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて学びます。	事例ことばの育ちについて考えをまとめる	4時間
第10回	乳児のからだ からだの発達と運動機能の発達について学びます。	第9回の授業を振り返るとともに、教科書レッスン10を読む	4時間
第11回	保育所で過ごす1日の流れ 年齢別デイリープログラムについて学びます。	コラム5を読んで感想を書く	4時間
第12回	保護者との連携を考える 乳児を取り巻く協力関係について学びます。	第11回の授業振り返るとともに、教科書レッスン13を読む	4時間
第13回	複数担任制・発達の遅れと向き合う 保育者同士の連携の在り方・保護者支援について学びます。	第12回の授業振り返るとともに、教科書レッスン11・14を読む	4時間
第14回	乳児保育の今後の課題 これまでの授業を振り返るとともに、乳児保育とは何か、乳児保育の重要性について再確認します。	これまでの授業を振り返りまとめる、指人形「ピッピとチッチ」製作	4時間

授業科目名	乳児保育Ⅱ				
担当教員名	樋口 奈生・今井 清美・寺辻 良子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	それぞれ、保育現場での実務経験を有する（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本科目では乳児保育Ⅰを踏まえて、乳児保育に必要な知識や技術をさらに習得することを目指す。養護及び教育の一体を踏まえ、三歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。また赤ちゃん人形を用いた実技、指導計画の立案、教材研究等の実技を行い具体的な技能も高め視野を広め研鑽ををつめるようにしていく。

保育の質を高めるために必要な課題は何か考え乳児の重要性を学ぶことを本科目の目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

乳児の発達、発育の理解に関わる確かな知識、職業理解

保育実践を構想する力

目標：

乳児保育に関わる確かな知識、職業理解を身につけることができる。

乳児の生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に考えることができる。

汎用的な力

- 1. DP5. 計画・立案力

- 2. DP9. 役割理解・連携行動

乳児の発育・発達を踏まえ、乳児保育における計画を具体的に作成することができる。

集団やチームの中で役割を果たすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回の授業に出席することを原則とする。規定回以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内小テスト・レポート : 授業内での小テスト・レポートを作成し授業内容の理解度、考察度を評価する。

30 %

期末レポート : 授業内容を理解し、課題に即した内容で記述できているか評価する。

30 %

授業内の演習・発表・態度 : 保育者となる自覚をもって授業に臨む態度や積極性、演習・発表の内容について評価する。

40 %

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

志村聰子	・はじめて学ぶ乳児保育	・同文書院	・2022 年
河原紀子	・0歳～6歳子どもの発達と保育の本	・学研	・2021 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は後期1単位の科目である。
授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を復習し次回の授業に向けてテキストの該当箇所を読んで次回の授業に向けて予習をすること。
また与えられた課題の提出期限を守ることは必須であり、保育者を目指す者として積極的に授業に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
場所： 授業教室
備考・注意事項： 授業の前後に質問を受ける。

授業計画

授業回数	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	乳児保育の基本①愛着 子どもと保育士等との関係の重要性について学びます。	愛着について理解を深める 1時間
第2回	乳児保育の基本②主体性 子どもの主体性の尊重と自己主張について学びます。	これまでの授業を踏まえ、発達の原理についてまとめ理解を深める 1時間
第3回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①抱き方・おんぶの仕方 乳児との触れ合いの基本を学びます。	乳児の抱き方をまとめる 1時間
第4回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②着替え・おむつ交換 着替えの配慮、排泄への対応を学びます。	着替え・おむつ交換についてまとめる 1時間
第5回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③授乳・調乳 授乳の仕方、調乳、冷凍母乳について学びます。	調乳・授乳についてまとめる 1時間
第6回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際④離乳食の介助 離乳食の介助方法について学びます。	離乳食の介助についてまとめる 1時間
第7回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際⑤おもちゃ（軍手人形指導計画の作成） 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際にについて学びます。 (軍手人形指導計画の作成)	軍手人形の計画書作成 1時間
第8回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際⑥おもちゃ（軍手人形の発表） 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際にについて学びます。 (軍手人形の発表)	発表のまとめと反省 1時間
第9回	乳児保育における配慮の実際①健康と安全管理 乳児特有の病気と薬の取り扱いについて学びます。	乳幼児突然死症候群や乳幼児搔さぶられ症候群についてまとめる 1時間
第10回	乳児保育における配慮の実際②環境 乳児保育における環境の実際にについて学びます。	乳児保育における環境製作 1時間
第11回	乳児保育における配慮の実際③連絡帳・お便り 保護者との連携について学びます。	連絡帳及びお便りの書き方についてまとめる 1時間
第12回	乳児保育における計画の実際①立案 長期的な指導計画と短期的な指導計画について学びます。	乳児の遊びについて調べる 1時間
第13回	乳児保育における計画の実際②実践・振り返り 個別的な指導計画と集団の指導計画について学びます。	指導計画を見直し、乳児保育のねらいや子どもについての理解を深める 1時間
第14回	乳児保育の総合的理 これまでの授業を振り返るとともに、保育現場での実際の保育について確認し、まとめます。	授業全体を振り返り乳児保育の重要性を確認し、まとめる 1時間

授業科目名	社会的養護 I				
担当教員名	小島 知子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	乳児院・児童養護施設において児童指導員、心理療法担当職員として勤務。また児童家庭支援センターでの心理職、スクールカウンセラー（小、中学校）、キンダーカウンセラー（幼稚園、幼保連携型認定こども園）として対人相談援助職の勤務経験も有する。（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

- 社会的養護の理念と概念について概説するとともに、社会的養護の観点に立った児童養護の理論と施設養護、家庭養護の実際を学ぶ。
- また、社会的養護における子どもの権利擁護と援助者である保育士等の倫理と責務を学ぶとともに、多様なニーズを抱える社会的養護の現状と課題について考える。
- さらに、子どもの最善の利益を実現するために、社会的養護が果たすべき役割について解説し、保育士としての専門的資質の習得を目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

福祉分野の専門知識

目標：

社会的養護に関する基礎的理解と社会的養護を必要とする子どもたちを取り巻く状況等について理解し、説明することができる。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP8. 意思疎通

社会的養護に関する他人の意見や主張を正確に把握することができる。

他人の意見をふまえて、社会的養護に関する自分の考えをうまく伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- 課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト	：	「社会的養護 I」の知識・技能に関する問題を授業内課題として課し、評価する。
授業への取り組み状況	：	独自のループリックに基づき、授業に取り組む姿勢や意欲、グループ討議や発表の積極性や理論性を総合的に評価する。
定期試験	：	1~4回講義終了後の指定された期間に定期試験を実施する。社会的養護の必要性や課題、家庭養護と施設養護の共通点や相違点など基礎的理解に関する問題と社会的養護に関する考察についての課題に対して評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
原田旬哉・杉山宗尚	・図解で学ぶ保育 社会的養護 I	・ 萌文書林	・ 2018 年

参考文献等

適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められる。
- ・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し予習すること。
- ・授業内マナーを守り積極的に授業に参加（発言やグループワークへの積極的な参加）をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後の時間
 場所： 授業の教室又は非常勤講師室
 備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合はメールにて受け付ける。kojima-to@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業の進め方：社会的養護とは何か ・授業内容・計画及び評価方法の説明をします。 ・「社会的養護Ⅰ」を学ぶことの意義と授業の進め方について説明します。	社会的養護の概念について各自調べておくこと。 4時間
第2回	現代社会の問題と子どもの権利 現代社会の問題と「子どもの権利」について学びます。	前回の授業の復習と「子どもの権利条約」について調べておくこと。 4時間
第3回	社会的養護の仕組み（教科書pp32 - 38） ・「施設養護」と「家庭養護」について学びます。	前回の授業の復習と、「施設養護」「家庭養護」について各自調べておくこと。 4時間
第4回	社会的養護の仕組みと「施設養護」に関わる機関 ・「社会的養護」に関わる機関（児童相談所、福祉事務所、保健所、婦人相談所、家庭裁判所）について学びます。	前回の授業の復習と、今回の該当テキスト部分pp40 - 46の熟読をしておくこと。 4時間
第5回	社会的養護の仕組み②社会的養護に関わる法律 「社会的養護」に関わる法律（児童福祉法、民法、児童虐待防止法、母子及び父子並びに寡婦福祉法、DV防止法）について学びます。	前回の授業の復習と、各種法律について調べておくこと。 4時間
第6回	措置を基本とする施設 第2章pp60 - 76 ・措置による「社会的養護」の概要と特徴について学びます。 ・措置を基本とする施設（乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設）の概要と特徴について学びます。 ・1回目の小テストを実施し、これまでの授業の理解度を確認し、授業内容の定着を図ります。	これまでの授業の復習と、今回学ぶ各施設の概要を各自調べておくこと。 4時間
第7回	契約を基本とする施設 第3章pp78 - 96 ・利用と契約による「社会的養護」の概要と特徴について学びます。 ・利用と契約を基本とする施設（障害児入所施設、児童発達支援センター、母子生活支援施設、自立援助ホーム、児童家庭支援センター）について学びます。	前回の授業の復習と、今回学ぶ各種施設について調べておくこと。 4時間
第8回	社会的養護の歴史 ・戦前戦後の日本の「社会的養護」の歴史について学びます。 ・諸外国の「社会的養護」の歴史について学びます。	前回の授業の復習と、「社会的養護」の歴史の変遷について教科書pp98 - 110を熟読しておくこと。 4時間
第9回	社会的養護に携わる人々 ・「社会的養護」に関わる、施設の職員について学びます。 ・「社会的養護」に関わる、機関の職員について学びます。	前回の授業の復習と、施設に関わる職員について教科書pp116 - 128を熟読して理解しておくこと。 4時間
第10回	社会的養護の支援の実際 ・「社会的養護」の支援内容（日常生活支援、療治的支援、自立支援、退所後の支援）について学びます。	前回の授業の復習及び社会的養護の支援内容pp116 - 128を熟読しておくこと。 4時間
第11回	ソーシャルワークと家庭支援 ・ソーシャルワークとその原則について学びます。 ・ファミリーソーシャルワーク（家族再統合）について学びます。 ・ライフストーリーワークについて実践しながら学びます。	前回の授業の復習と、ソーシャルワークとは何かについて調べておくこと。 4時間
第12回	里親制度と里親支援 ・里親制度の仕組みについて学びます。 ・里親支援について学びます。 ・特別養子縁組と、普通養子縁組について学びます。	前回の授業の復習と、里親制度について各自調べておくこと。 4時間
第13回	児童福祉施設の運営管理 ・児童福祉施設の職員配置基準について学びます。 ・施設運営について学びます。 ・施設内リスクマネジメントについて学びます。	前回の授業の復習と、教科書162 - 177を熟読し予習しておくこと。 4時間

第14回

統括（これまで行った授業のまとめ）

社会的養護Ⅰに関しての理解度の確認を行いながら目標達成度、自己評価を行っておくこと。本科目について振り返りを行い、定期試験準備をする。

- これまでの「社会的養護Ⅰ」の授業内容の習得状況を質疑応答を行いながら確認していきます。
- また、個別の理解度を確認するための小テストを行います。

4時間

授業科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）				
担当教員名	鈴木 大介・中川 陽子				
学年・コース等	1	開講期間	通年（1後～2前）	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

解放科目的指示：「不可」

授業概要

保育所以外の社会福祉施設での実習にあたり、福祉施設の機能・役割・生活の流れなど実践を通して理解し、施設実習への関心を深めることをねらいとして、授業を行う。また、実習施設における支援内容について具体的なイメージを持ち実習に臨めるよう、保育実習に関する基礎的な知識が習得できる授業内容にしている。内容としては、保育実習の意義・目的、それぞれの施設の特徴、実習内容の理解、自らの課題の明確化を行う。また実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

福祉専門職の意義や職務内容、専門知識に関する理解

目標：

施設実習の意義・目的を理解し、保育者として必要な知識・技能・実践能力の習得をめざして、自らの課題や学習目標を持って実習に臨むことができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

施設実習における計画を立て、その実行に踏み出し、やり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

期末レポート	：	実習や実習指導を振り返り、保育者として必要な知識や技術および役割について、要点を押さえて記入しているかを30点満点で評価する。
授業内課題	：	個人調査票等が要点を押さえ、期日内に作成・提出できているかを評価する。
授業への取り組み状況	：	各回授業において発表などの積極的参加や授業態度（受講マナー・私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に15点満点で評価する。
授業内提出物	：	授業内容の理解や考察などが反映されているか、提出物の期限を守っているかなどを総合的に35点満点で評価する。
	35 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子	・新・基本保育シリーズ②保	・中央法規	・2019年

参考文献等

- ・平成29年告示「保育所保育指針」 厚生労働省
- ・平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府 文部科学省 厚生労働省
- ・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2限

場所： 中央館4階第7会議室

備考・注意事項： 実習園別指導教員に何でも相談してください。
実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導Ⅰの授業で案内します。

授業計画

回	授業題名	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	施設実習の意義と目的	ワークシートの作成、子どもの権利条約について調べておく	1時間
	・保育実習（施設）の意義や目的 ・保育実習指導の授業の流れ ・保育実習の年間計画について学びます。		
第2回	保育実習と人権	ワークシートの作成、実習テキストの通読（P124-131、136-146）から人権の理解を深める。	1時間
	福祉施設の対象である子どもや利用者的人権について学びます。		
第3回	施設における保育の役割と利用者理解	ワークシートの作成、実習テキストの通読（P200-208）を通して、施設実習の理解を深める。	1時間
	・福祉施設における保育者の役割について学びます。 ・福祉施設の利用者について、その傾向や背景、特徴などについて学びます。（虐待や発達障害等）		
第4回	福祉施設の理解（障がい児関係施設）	ワークシートの作成、実習テキストの通読（P208-212）により、障がい児・者の施設理解を深める。	1時間
	障害児入所施設や児童発達支援センターについて学び、その理解を深めます。		
第5回	福祉施設の理解（障がい者関係施設）	ワークシートの作成、実習テキストの通読（P186-190）を通して、障がい福祉サービス事業をより深く理解する。	1時間
	障害者支援施設や障害福祉サービス事業所について学び、その理解を深めます。		
第6回	福祉施設の理解（社会的養護：乳児院）	ワークシートの作成、実習テキストの通読（P190-196）を通して、乳児院での実習の留意点を学ぶ。	1時間
	乳児院について学び、その理解を深めます。		
第7回	福祉施設の理解（社会的養護：児童養護施設・母子生活支援施設）	ワークシートの作成、実習テキストの通読を通して、児童養護施設、母子生活支援施設での実習の留意点を学ぶ。	1時間
	・児童養護施設について学び、その理解を深めます。 ・母子生活支援施設について学び、その理解を深めます。		
第8回	施設内の環境（安全と衛生）	ワークシートの作成、実習テキストの通読を通して、施設内の安全や衛生について理解を深める。	1時間
	・福祉施設における生活環境の整備について学びます。 ・福祉施設における安全管理、健康管理、危機管理などについて学びます。		
第9回	実習課題および実習施設研究	ワークシートの作成、各実習先のHPや資料をまとめておく。	1時間
	・配当された実習先の種別、施設の検索 ・実習課題の理解を深めるとともに、課題の立て方を学びます。 ・保育実習Ⅰ（施設）の目的を理解し、目標を明確にします。		
第10回	個人調査票の作成	実習指導テキストや検索物の通読、個人調査票の完成を目指す	1時間
	第9回目に行った種別の確認と実習先の特色について明確にし、個人調査票の作成をします。 ・施設実習に向けて、実習目標とその達成課題を考えます。 ・具体的に学びたい事柄を明確にし、課題遂行方法を考えます。 ・実習個人票の書き方、留意事項について学びます。		
第11回	施設実習における実習記録の書き方①目標の設定、活動	ワークシートの作成。各実習先の資料をもとに実習記録の施設の概要をまとめます	1時間
	・施設実習で使用する実習記録の書き方を学びます。 ・施設実習における記録の基礎を学びます。 ・「施設概要」「活動記録」の欄の書き方と留意事項を学びます。		
第12回	施設実習における記録の書き方②考察、反省、課題／個人調査票の修正・清書	ワークシートの作成。個人調査票の清書を行う	1時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・演習を通じて、施設実習の考察、反省、課題の書き方を学びます。 ・個人調査票の修正を行います。 		
第13回	実習の心構えと準備の確認／実習に臨む最終確認	ワークシートの作成	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設実習の心構えについて学びます。 ・実習における準備及び諸確認を行います。 (検温、検体、出勤簿、誓約書、欠席時の対応、お礼状の書き方等) ・実習に向けての心意気についてグループ演習を行います ・実習にむけての最終チェックを行います。 		
第14回	保育実習 I（施設）の振り返り	グループ演習のワークシート作成。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習 I（施設）の振り返りを行います ・保育実習 II IIIへの学びの活用を考えます 		

授業科目名	社会的養護 I				
担当教員名	中川 陽子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	障害児・者の居宅サービス及び移動介護、家族支援に従事（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

社会的養護の理念と概念について概説するとともに、社会的養護の観点に立った児童養護の理論と施設養護、家庭養護の実際を学ぶ。また、社会的養護における子どもの権利擁護と援助者である保育士等の倫理と責務を学ぶとともに、多様なニーズを抱える社会的養護の現状と課題について考える。また、子どもの最善の利益を実現するために、社会的養護が果たすべき役割について解説し、保育士としての専門的資質の習得を目指す。さらに現代社会における児童養護問題の発生要因等が理解できることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

- 福祉分野の専門知識

目標：

社会的養護に関する基礎的理解と社会的養護を必要とする子どもたちを取り巻く状況等について理解し、説明することができる。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践
- 2. DP8. 意思疎通

社会的養護に関する他人の意見や主張を正確に把握することができる。
他人の意見をふまえて、社会的養護に関する自分の意図や主張を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト

： 「社会的養護 I」の知識・技能に関する問題を授業内課題として課し、評価する。

30 %

授業への取り組み状況

： 独自のループリックに基づき、授業に取り組む姿勢や意欲、グループ討議や発表の積極性や理論性を総合的に評価する。

30 %

定期試験（レポート）

： 4回講義終了後の指定された期間に定期試験を実施する。社会的養護の必要性や課題、家庭養護と施設養護の共通点や相違点など基礎的知識に関する問題と社会的養護に関する考察についての課題に対して評価する。

40 %

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

芝野松次郎・新川康弘・山川弘和（編著）・社会的養護入門

・ミネルヴァ書房

・2021 年

参考文献等

適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の予習をし、内容を記録しておくこと。授業外学修課題として振り返りシートを作成し、次回授業で提出すること。授業内マナーを守り積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 初回授業時に提示する
 場所： 第7研究室（中央館4階）
 備考・注意事項： その他の曜日や時間に面談を希望する場合は、Gmailで事前に連絡をしてください。
 Gmailには、学年、クラス、学籍番号、氏名を明記してください。
 アドレスは、nakagawa-yo@osaka-seikei.ac.jpです。

授業計画

回数	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	現代社会における社会的養護の意義 (pp. 1 ~ 15) ・授業内容・計画及び評価方法の説明をします。 ・社会的養護を学ぶことの意義と授業の進め方について説明します。 ・社会的養護と関連概念について学びます。 ・社会的養護の基本的な考え方と体系について理解します。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 16~25)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。
第2回	社会的養護の歴史的変遷 (pp. 16~25) ・海外・日本における社会的養護の歩みについて学びます。 ・「子どもの最善の利益」と「あたりまえの生活」について考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 26~36)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。
第3回	社会的養護の基本・制度・法体系 (pp. 26~36) ・社会的養護における法制度、子どもの権利の視点について学びます。 ・社会的養護の基本原則について学びます。 ・社会的養護における保育士等の倫理と責務について考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 37~45)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。
第4回	社会的養護の仕組みと実施体系 (pp. 37~45) ・社会的養護の仕組みと実施体系について学びます。 ・児童福祉法の改正と「新しい社会的養育ビジョン」について考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 46~52)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。
第5回	里親、ファミリーホーム、養子縁組 (pp. 46~52) ・家庭養護の推進について学びます。 ・里親制度について学びます。 ・小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）について学びます。 ・養子縁組について学びます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 53~65)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。
第6回	社会的養護の実際①児童養護施設、児童自立支援施設、自立援助ホーム (pp. 53~65) ・児童養護施設、児童自立支援施設、児童自立生活援助事業（自立援助ホーム）について学びます。 ・各々の施設に關係する法制度や専門職、子どもたちの生活について学びます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 66~79)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。
第7回	社会的養護の実際②乳児院、母子生活支援施設、児童心理治療施設 (pp. 66 - 79) ・乳児院、母子生活支援施設、児童心理治療施設について学びます。 ・各々の施設に關係する法制度や専門職、子どもたちの生活について学びます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 80~93)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。
第8回	社会的養護の専門職 (pp. 80~93) ・児童福祉施設に配置されている主な職種とその役割について学びます。 ・フォースターリング機関（里親養育包括支援機関）と多職種連携について学びます。 ・社会的養護におけるソーシャルワークの視点について考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 94~111)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。
第9回	社会的養護の施設等の運営管理 (pp. 94~111) ・乳児院・児童養護施設の高機能化及び多機能化・機能転換・小規模化・地域分散化について学びます。 ・被置き児童等の虐待防止とその取り組みについて学びます。 ・第三者評価について学びます。 ・施設保育士としての倫理について考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 112~125)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。

第10回	社会的養護における子ども理解と支援の実際 (pp. 112~125)	<ul style="list-style-type: none"> 社会的養護における子どもの理解について学びます。 日常生活支援について学びます。 施設保育士に求められることがあります。 課題を課し、社会的養護に関する基本的知識、応用的知識に対する理解度を確認します。 	<p>授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 126~139)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。</p>	4時間
第11回	社会的養護における生活の特性と支援の実際 (pp. 126~139)	<ul style="list-style-type: none"> 児童養護施設、里親の事例から法制度、専門職、子どもの生活について学びを深めます。 保育者として必要なスキルについて考えます。 	<p>授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 140~153、154~169)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。</p>	4時間
第12回	社会的養護におけるケアの展開と支援の計画、記録及び自己評価 (pp. 140~153、154~169)	<ul style="list-style-type: none"> 社会的養護の展開過程（アドミッションケア、インケア、リーピングケア、アフターケア）、アセスメント、自立支援計画について学びます。 ケース記録、自己評価、ケースカンファレンスについて学びます。 事例をもとに子どもの最善の利益と家庭への支援について考えます。 	<p>授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 170~183)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。</p>	4時間
第13回	社会的養護に関わる専門的技術と実践 (pp. 170~183)	<ul style="list-style-type: none"> 事例に基づき、専門的技術について学びます。 施設保育士のあり方について考え、自己覚知をしていきます。 親子分離を予防する在宅支援における社会的養護の活用について学びます。 バーマネンシー保障について学びます。 家庭養護の推進と施設養護の専門機能化、人材養成と待遇の改善に向けてについて学びます。 	<p>授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 184~200)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。</p>	4時間
第14回	社会的養護の課題と展望 (pp. 184~200)	<ul style="list-style-type: none"> 米国における子ども虐待に対する法制度的対応と家庭維持の取組みについて学びます。 日本の社会的養護改革への動きと児童福祉法、新しい社会的養育ビジョンについて考えます。 今までの授業のまとめと振り返りを行います。 	<p>学修成果物を完成させる。社会的養護 I に関する理解度の確認を行いながら目標達成度、自己評価を行っておくこと（指定用紙あり）。本科目について振り返りを行い、定期試験準備をする。</p>	4時間

授業科目名	社会的養護Ⅱ				
担当教員名	畠中 大輔				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	児童養護施設 公徳学園にて、主任指導員・個別対応職員として勤務（全14回）				

開講科目的指示：「不可」

授業概要

社会的養護Ⅰで学んだことをもとに、具体的に児童養護の理論と体系（施設養護、家庭的養護、家庭養護）の実際を学んでいく。また社会的養護にかかわる保育士としての専門的資質を養うために、社会的養護施設における子どもの生活の実際やソーシャルワークの方法と理論、技術、社会的養護にかかわる専門職、社会的養護にかかわる子どもたちの権利擁護について理解し、子どもの自立を支援するために必要な援助の理論、知識、方法について学んでいく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 社会的養護の専門知識及び技術

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践

具体的な内容：

目標：

社会的養護にかかわる保育者として、社会的養護にかかわる子どもたちや保護者、家庭への対応技術を身につけ、自分の考えを述べることができます。

社会的養護の実践に関する他人の意見や主張を正確に把握することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題 : 社会的養護にかかわる保育者としての基礎的理解に関する問題を授業内課題として課し、評価する。

20 %

振り返りシート

: 独自ループリックに基づいて、振り返りシート(10回分)を0~3点で評価し、総合点数を30点満点で換算し評価する。

30 %

授業への取り組み状況

: 独自ループリックに基づき、授業に取り組む姿勢や意欲、グループ討議や発表などの積極性や理論性を総合的に評価する。

30 %

試験(レポート)

: 社会的養護にかかわる子どもたちや保護者、家庭への対応技術に関しての事例に対して、14回の授業の振り返りから自身の考察をレポートとし、評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
杉山宗尚・原田旬哉 編著	・図解で学ぶ保育 社会的養護II	・ 萌文書林	・ 2021 年

参考文献等

適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間以上の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後
場所： 授業教室

授業計画

回数	授業題目	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	社会的養護Ⅱとは	社会的養護の歴史や現状について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容・計画及び評価方法を説明します。 社会的養護Ⅰの復習をしながら全体的な枠組みと演習の進め方を説明します。 社会的養護にかかわる子どもたちのイメージとその支援内容について確認をします。 		
第2回	社会的養護の理解	「新しい社会的養育ビジョン」及び社会的養護に関する法制度について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 社会的養護の歴史及び現状について学びます。 子どもや保護者を守るために取り組みについて学びます。 		
第3回	社会的養護の理念と機能、法制度と枠組み	社会的養護を必要とする子どもの権利について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 「新しい社会的養育ビジョン」について考えます。 社会的養護に関する法制度について学びます。 		
第4回	社会的養護を必要とする子どもの理解と権利	社会的養護にかかわる施設保育士について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利に関する条約と子どもの権利を守る仕組みについて学びます。 虐待と子どもの権利について考えます。 社会的養護を必要とする子どもの暮らしの実際について学びます。 子どもの権利ノートについて学びます。 		
第5回	社会的養護にかかわる施設での保育士の役割	社会的養護におけるアドミッションケアについて調べておく。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 社会的養護にかかわる保育士の役割について学びます。 保育士の倫理について学びます。 保育士の専門性について考えます。 		
第6回	施設入所・里親委託前後の支援—アドミッションケア	社会的養護におけるインケアについて調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの保護について学びます。 施設入所・里親委託前後の支援を学びます。 自立支援計画について学びます。 		
第7回	日常生活支援—インケア	社会的養護におけるリーピングケアについて調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 施設・里親における日常生活支援について学びます。 治療の支援について学びます。 		
第8回	自立支援—リーピングケア	社会的養護におけるアフターケアについて調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの自立へ向けた支援について学びます。 子どもの生い立ちを知るための支援について学びます。 人とつながるための支援について考えます。 		
第9回	退所後の支援—アフターケア	社会的養護におけるソーシャルワークについて調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 家庭復帰に伴うアフターケアについて学びます。 就職・進学によって社会へ出た子どもへのアフターケアについて学びます。 		
第10回	ソーシャルワーク	社会的養護における記録と評価について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 社会的養護におけるソーシャルワークについて考えます。 社会的養護におけるバイスティックの7原則について考えます。 社会的養護における家庭支援について学びます。 社会的養護における里親支援について学びます。 		
第11回	記録と評価	施設入所時や施設生活の具体的な支援について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 記録の意義・目的について学びます。 記録の方法・種類について学びます。 事例を通して、自立支援計画の策定について学びます。 第三者評価の仕組みについて学びます。 		
第12回	ケーススタディ①：施設入所における支援	施設退所前や退所後の支援について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 事例を通して、施設入所時や施設生活の具体的な支援について学びます。 		

第13回	ケーススタディ②：施設退所における支援	社会的養護における課題と展望について調べる。 次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第14回	社会的養護における課題と展望および総合的まとめと振り返り	テキストと配付資料を読み返し、社会的養護の理解を深める。	1時間

授業科目名	社会的養護Ⅱ				
担当教員名	平田 朋子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	児童養護施設で22年、スクールソーシャルワーカーとして7年、ファミリーホームの養育者として4年の実務経験がある。施設においては子どもの日常生活支援、家族に対する家族支援、里親に対する里親支援などを行った。またファミリーホームでは子どもの養育全般に関わっている。(全14回)				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

社会的養護Ⅰで学んだことをもとに、具体的に児童養護の理論と体系（施設養護、家庭的養護、家庭養護）の実際を学んでいく。また社会的養護にかかわる保育士としての専門的知識・技術などを養うために、社会的養護にかかわる子どもの生活の実際やその支援方法について、またケアワークとソーシャルワークの総合的支援などについて学んでいく。そして子どもの権利擁護、支援側の役割、倫理などについて理解し、子どもの自立を支援するために必要な支援内容およびその方法について事例を通して学んでいく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 社会的養護の専門知識及び技術

目標：

社会的養護にかかわる保育者として、社会的養護にかかわる子どもたちや保護者、家庭への対応技術を身につけ、自分の考えを述べることができる。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践

社会的養護の実践に関する他人の意見や主張を正確に把握することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	：	社会的養護にかかわる保育者としての基礎的理解に関する問題を授業内課題として課し、20点満点で評価する。
振り返りシート	：	独自のループリックに基づいて、振り返りシート(10回分)を0~3点で評価し、総合点数を30点満点で換算し評価する。
授業への取り組み状況	：	各回授業への積極的参加(発表や質問等は加点)や授業態度(受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点)を基に総合的に30点満点で評価する。
試験(レポート)	：	社会的養護にかかわる子どもたちや保護者、家庭への対応技術に関しての事例に対して、14回の授業の振り返りから自身の考察をレポートにし、20点満点で評価する。
	20 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
杉山宗尚・原田旬哉 編著	・図解で学ぶ 社会的養護Ⅱ	・ 萌文書林	・ 2021 年

参考文献等

杉山春著「ルポ虐待－大阪二児置き去り死事件」(ちくま新書1029), 2013年。
他については授業内で適宜文献を紹介し、必要に応じてプリントを配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室

備考・注意事項： 授業の前後に質問等を受け付けます。また、それ以外の時間帯での質問等は、幼稚教育学科の福祉担当専任教員を通じて受け付けます。必要に応じてメールでの連絡をしてください。ただしメール返信で対応できない時もありますので、その際は対面授業時に確認してください。連絡先：hirata-to@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 社会的養護とは	第二次世界大戦以降の社会的養護について調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 2~3)の通読。	1時間
授業の内容・計画及び評価方法を説明します。 また、全体的な枠組みと演習の進め方を説明します。 社会的養護で学んできたこと、また社会的養護にかかわる子どもたちのイメージとその支援内容について確認をします。		
第2回 第二次世界大戦以降の社会的養護	親子を救うための施設について調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 4~7)の通読。	1時間
第2次世界大戦以降の社会的養護、今後の社会的養護についてそれらの概要を学びます。		
第3回 親子を救うための施設	特別養子縁組について調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 8~11)の通読。	1時間
・「こうのとりゆりかご」について学びます。 ・演習で「こうのとりゆりかご」について考えます。		
第4回 特別養子縁組	アドミッションケアについて調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 18~25)の通読。	1時間
・特別養子縁組について学びます。		
第5回 子どもの保護、子どもの受け入れ	自立支援計画について調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 26~27、pp. 116~117)の通読。	1時間
・子どもの保護、子どもを受け入れることについて学びます。 ・演習で「アドミッションケア」について考えます。		
第6回 自立支援計画(ケアプラン)	記録と評価について調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 114~115、pp. 118~119)の通読。	1時間
・自立支援計画(ケアプラン)とその策定について学びます ・演習で自立支援計画について考えます。		
第7回 記録と評価	インケア・暮らしについて調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 34~39)の通読。	1時間
・記録の必要性と第三者評価・自己評価について学びます ・演習でジェノグラムの作成について考えます。		
第8回 インケア・豊かな暮らしのために	インケア・治療的支援について調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 40~43)の通読。	1時間
・インケアにおける暮らしについて学びます。 ・演習で児童養護施設における「衣食住」の支援について考えます。		
第9回 インケア・治療的支援	乳児院のインケアについて調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 55)の通読。	1時間
・インケアにおける治療的支援について学びます。 ・演習で心理療法と日常生活支援について考えます。		
第10回 乳児院のインケア	リービングケアについて調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 62~69)の通読。	1時間
・演習で乳児院のインケアについて考えます。		
第11回 リーピングケア	アフターケアについて調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 76~83)の通読。	1時間
・リーピングケアについて学びます。 ・演習で進学の支援について考えます。		
第12回 アフターケア	ソーシャルワークについて調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 90~99)の通読。	1時間
・アフターケアについて学びます。 ・演習で「アフターケア」について考えます。		
第13回 ソーシャルワーク	里親支援について調べる。次回に該当するテキスト部分(pp. 100~103)の通読。	1時間
・ソーシャルワークと家庭支援について学びます。 ・演習で「退所に向けたソーシャルワーク」について考えます。		
第14回 里親支援および本授業のまとめ	テキストや配布資料を読み返し、社会的養護の全般的な理解を深める。	1時間

- ・里親支援について学びます。
 - ・演習で里親養育における?試し行動?について考えます。
 - ・本授業についての総括をします。
-

授業科目名	幼児と言葉				
担当教員名	細畠 昌大・松元 早苗				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立幼稚園教諭・小学校教諭として約20年以上の実務経験後、教育行政機関にも従事した。小・中学校教諭、幼稚園教諭、保育士への初任者研修での講師を務めた。管理職として教育現場での指導助言等を行ってきた。				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

保育者としての自覚と責任、そして自信をもって保育実践に取り組むためにはコミュニケーションの基本でもある言葉についての学修を深めることが大切である。そこで、領域「言葉」の授業を通して、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を学修する。日常生活においても、人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解し、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を学修する。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的な内容：

幼児の言葉の意義・役割とその育み方を学ぶ

目標：

乳幼児期の発達とことばの関係において、言葉が育つことで言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことの意義・役割を理解できる。

- 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

幼児の言葉に関する知識

幼児の言葉の発達過程の理解や、言葉を使うことの楽しさ、美しさを理解できる。

汎用的な力

- 1. DP5. 計画・立案力

豊かな発想を生かして、創造的に取り組むことができる。

- 2. DP6. 行動・実践

個や小集団の力が発揮できるような発表 資料が作成できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則3分の2以上出席した場合のみ、評価の対象とします。規定回数以上の出席がなければ棄権とみなし不合格とします。
レポートなどの提出については指示された期日を厳守してください。期日を過ぎた場合は受け付けないこともあります。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内でのプレゼン(発表) : 授業内のグループワーキング（自己紹介/言葉遊び/絵本と紙芝居/ことわざ他）の経験を経て、全員を前にしたプレゼンを評価する。(30点)

30 %

授業内での課題

: 個別の学修ワークシート（各回の学修テーマに沿った課題設定、学修成果）の記録を評価する。(30点)

30 %

試験（小テスト・レポート）

: 定期的な確認のための小テスト4回実施（20点）
学んだ基礎的な「幼児と言葉」の内容について小論文（原稿用紙）の記述で評価する。（20点）

40 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
無藤 隆、宮里暁美	・新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 言葉	・ 萌文書林	・ 2018 年

参考文献等

- ・幼稚園教育要領（平成29年告示 文部科学省）
- ・保育所保育指針（平成29年告示 厚生労働省）
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府 文部科学省 厚生労働省）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 細畠：月曜日2限 松元：授業の前後

場所： 教育第4研究室

備考・注意事項： オフィスアワーは月曜日、2限ですが、そのほか研究室在室中はいつでも質問等可能です。

授業計画

授業の概要説明、領域「言葉」のねらい及び内容について	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
幼児教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容について、乳幼児の姿と関連付けることを通して理解する。幼児教育の根幹、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまで育つてほしい姿などを具体的に学ぶ。	幼児教育の基本を理解し、保育者として必要な資質等について理解し、保育者としての自覚がもてるようにする。	4時間
人間にとつて「言葉」とは何か？一言葉の役割とその機能について考えるー	保育者として、幼児に何を用意し、見守り、支えることの大切さを考える。また、幼児に何を指導し、助言し、共に行うことが望ましいかを考える。	4時間
子どもは、言葉をどのように獲得するのか？ー子どもの言葉の発達過程・言葉の発達条件と言葉の発達のようすー	乳幼児期の発達において、誕生から1歳未満、1歳から2歳、3歳から6歳ごろにかけてのことばの広がりをまとめる。	4時間
乳幼児の言葉を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。ー乳幼児期の発達ー	コミュニケーションの基礎となる自分の考えや思いを伝えることばについてまとめる。	4時間
話しことはが伝える世界と書きことばが伝える世界について考え、文字との出会い、そして文字を自分のものにすることで、文字が使える楽しさや喜びについて学ぶ。	教科書P153、事例、お母さんからの手紙「食べてくればありがとう」を参考にして、文字のもつ魅力についてまとめる。	4時間
言葉に対する豊かな感覚とは何か 一言葉遊びのいろいろと保育への取り入れ方ー	学修成果として、俳句を自作する。	4時間
日常の生活の中で、自然にオノマトペに親しんできていることを理解し、子どもたちのごっこ遊びや何気なく使っている言葉などについて調べ、言葉に気を付けることの重要性について学ぶ。	いろいろな言葉遊びについて調べ、プレゼン資料を作成する。	4時間
言葉遊びの楽しさを実践する 一いろいろな言葉遊びについて調べ実践するー	言葉遊びの楽しさを伝える発表の成果と課題をまとめる。	4時間
言葉遊びの楽しさを保育者として子どもたちに伝えるため、個々の学生が調べてきた言葉遊びについて発表する。聞き手の学生は、どのようなところを工夫しているのかに注意しグループでの意見交換を行う。	これまで学んできた児童文化財についての思い出や、学んだことを自身のことばでまとめる。	4時間
言葉と表現力を高める「児童文化財」とは何かー児童文化財の役割について学ぶー	絵本に関するグループワークでの学修成果について復習し小テストに備える。	4時間
想像する楽しさを広げる児童文化財について①ー絵本の読み聞かせについて学ぶー		

	<ul style="list-style-type: none"> ・声に出して読む（練習した朗読を発表する（個別発表）） ・絵本作品の特質や内容について、読みの基本的事項を学ぶ。 ・科学的（知的）な興味を刺激する作品も必要であることを学ぶ。 ・物語をとおして登場人物になる。（読みの練習を行う） 		
第11回	想像する楽しさを広げる児童文化財について②—絵本と紙芝居の違いを学ぶ— <ul style="list-style-type: none"> ・声に出して読む（練習した朗読を発表する（個別発表）） ・紙芝居作品の特質や内容について、読みの基本的事項を学ぶ。 ・生活習慣・防災教育につながる作品も必要であることを学ぶ。 ・物語をとおして登場人物になる。（読みの練習を行う） 	紙芝居に関するグループワークでの学修成果について復習し小テストに備える。	4時間
第12回	想像する楽しさを広げる児童文化財の活用と実践—絵本の読み聞かせと紙芝居の実践と発表 <ul style="list-style-type: none"> ・声に出して読む（グループ内で絵本・紙芝居を選び、グループ全員で発表する） ・絵本・紙芝居作品の特質や内容について、グループでの工夫点などを発表する。 ・役割演技（ロールプレーを取り入れた発表を行う） ・気づいたり学んだりしたことを話し合う。 	読み聞かせについて、グループ学修での練習をとおして学んだことをまとめること。	4時間
第13回	幼児教育で活用できる児童文学・児童文学について <p>ファンタジーを読む（夢の世界、貴く人生の苦しみ）映像をとおして、ファンタジー作品の特質を知り、味わいどころを調べ発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢をふくらます読み、その留意点は何だろうかを考える ・作品の特質や内容について、基本的事項を学ぶ。 ・ファンタジー：児童文学作家・作品を知る。 	子どもたちに紹介したいファンタジー作品を見つけ、その理由をまとめること。	4時間
第14回	保育者に求められる言語表現の理解 一現代社会の言葉をめぐる問題・領域「言葉」と小学校との連携一 <ul style="list-style-type: none"> ・イメージと生活をつなぐ言葉を紡ぐ ・領域「言葉」における評価と小学校との連携を学ぶ。 ・生きる力の基礎としての思考力を育むことについての考えをまとめること。 	子どもの聞きたい気持ち、話したい気持ちが育まれるには、ことばを活用する経験が重要である。このことを踏まえて、自分らしいことばで表現する子どもの育成に向けた取組みについてまとめる。	4時間

授業科目名	幼児と表現A				
担当教員名	楠井 淳子・加戸 敬子・熊谷 紗子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育園にて音楽講師として勤務。（楠井：全14回） カワイ音楽教室講師として勤務し、幼児リトミッククラスを担当（熊谷：全14回） カワイ音楽教室、療育施設にて音楽講師として勤務。（加戸：全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

領域「表現」の指導に関する幼児の姿やその発達およびそれを促す原因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成について実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には、映像や具体的な事例を用いた体験的な学修と、ICTの活用や、アクティブ・ラーニングを取り入れながらグループ討議や個々の振り返り、考察を繰り返し行うことによって指導力と協働する力を育みながら、幼児期における多様な表現活動を支援することの意義と重要性を理解し、子どもの表現とその援助のための知識や技術を総合的な観点から身に付ける。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

幼児の表現の姿やその発達を理解する。

目標：

①幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。②表現を生成する過程について理解する。③幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

音楽表現の基本的な知識・技能を学ぶことを通じ幼児の表現を支えるための感性を豊かにすること。

①見る・聞く・感じる・楽しむことを通して様々な表現に対するイメージを豊かにすることができます。②身の周りの物を身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。③表現することの楽しさを実感するとともに

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

さまざまな環境を通じた表現の有りかたや方法を知り自己の課題を見出すことが出来る

- 2. DP6. 行動・実践

表現に対するイメージを豊かにし、より新たな表現活動へと繋ぐことが出来る

- 3. DP8. 意思疎通

協同して活動することを通じて他者の表現に共感とともに楽しさを生み出す要因について考えより豊かな活動につなげることが出来る

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。
規定回数の出席が無ければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

課題提出

： 每授業ごとの課題ワークや振り返りの記録の内容をループリックに基づき評価する。

40 %

発表とポートフォリオ作成

： 学習のまとめの発表および自己と他者の発表内容や気付きをポートフォリオにまとめる。

30 %

定期試験

： 最終レポートでの学びの評価をループリックに基づいて行う。

30 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
八木正一監修、竹内貞一編著	・保育者養成のための音楽表現 模擬実践をとおして学ぶ	・大学図書出版	・2020 年

参考文献等

- 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）幼稚園教育要領・解説
- 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）保育所保育指針・解説
- 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）幼保連携認定こども園教育・保育要領・解説
- その他、授業中に適宜資料を紹介または配布する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限、金曜1限

場所： 第9研究室、第10研究室

備考・注意事項： 質問は授業の前後やメールでも対応する。
メールには学籍番号と氏名を必ず入れること
第9研究室、第10研究室のどの教員に相談しても構わない。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 領域「表現」とは	『幼稚園教育要領』領域「表現」のねらいおよび内容をレポートにまとめる	4時間
第2回 幼児の表現の発達の理解	授業内容を振り返り幼児の発達と表現についてレポートにまとめる	4時間
第3回 環境と表現の関係を理解する	授業内容を振り返り、環境と表現の関係についてレポートにまとめる	4時間
第4回 身の周りの音・声・楽器による音楽遊び	即興音楽について調べておく。	4時間
第5回 豊かな表現のために①歌唱表現を身に付ける	作曲者や曲の背景について調べたことをまとめ、楽譜に演奏上の注意点を記載する	4時間
第6回 豊かな表現のために②合唱	授業内容を振り返り、合唱についてのレポートを作成する	4時間
第7回 豊かな表現のために③合奏	授業内容を振り返り合奏についてのレポートを作成する	4時間
第8回 歌遊びを「学び」の視点から捉える①わらべうた、手遊び	授業内容を振り返りわらべうたまたは手遊びのレポートを作成する	4時間
第9回 音遊びを「学び」の視点から捉える②簡易楽器を用いたリズム遊び	授業内容を振り返り幼児の発達に即したリズム遊びをレポートにまとめる	4時間
第10回 イメージと表現活動①作曲	授業内で検索した曲を楽譜にする	4時間
第11回 イメージと表現活動②イメージを音で表現する	授業の内容を振り返りレポートにまとめる	4時間
第12回 豊かな表現活動のための工夫や配慮	授業の内容を振り返りレポートにまとめる	4時間

第13回	ICTの活用と音楽表現と幼小接続 <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器や声、身の周りの音を使ったさまざまな表現の工夫や方法、配慮について考える。 	授業の振り返りレポートをまとめGoogleclassroomに提出する	4時間
第14回	学習のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のまとめを発表する。 	授業を振り返り他者の発表の感想と自身の課題をレポートにまとめる	4時間

授業科目名	幼児と表現B				
担当教員名	紺谷 武・芦田 風馬				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校にて图画工作科教員を経験（芦田：14回） 幼稚園等での造形講師（紺谷、芦田：14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

幼児の造形表現を中心に、幼児の発達段階と表現活動の関係をふまえて段階的に授業を進行する。生活や自然の中の身近なモノをきっかけとしたイメージや遊び、「感じる」「考える」「自分なりに表す」という活動のプロセスなど、幼児の造形表現の特徴について理解を深める。また、材料・道具の基礎的な扱い、子どもの表現に対する応答的な関わりなど、豊かな感性・表現する力・創造性を育むために保育者として求められる知識・技能・能力について学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的な内容：

- 幼児の造形表現を支援するために必要な知識・技能・能力を習得する

目標：

授業で示された知識・技能を理解し、造形表現に応用することができる

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP5. 計画・立案力
- 3. DP6. 行動・実践
- 4. DP7. 完遂

豊かな感性をもとに、造形表現のテーマや、それを実現するために求められる知識・技能・能力的課題を発見することができる。

造形表現のプロセスを見通し、必要な材料・作業の段取りなどを計画・立案することができる。

立案した計画をもとに行動し、実践の中で柔軟な対応を取り入れることができる。

造形表現のプロセスにおいて知識・技能・能力的課題をクリアし、作品を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。
また、授業終了時に提出するポートフォリオ（スクラップブック）も成績の判断基準とします。

成績評価の方法・評価の割合

定期試験（作品に関する評価）

評価の基準

： 課題ごとに求められる内容、および知識・技能・能力の理解や応用が、作品とポートフォリオ（スクラップブック）に反映されているかを、独自のルーブリックに即して評価する。

80 %

毎回の授業における課題への取り組み

： 各授業で主体的・積極的に課題に取り組んでいるか、授業外課題が反映されているかを評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
横英子	・ 保育をひらく造形表現	・ 萌文書林	・ 2008 年

参考文献等

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 紹谷（金2）会議等で不在の場合あり

場所： 主に教育第1研究室

備考・注意事項： 各教員の研究室を訪ねてください。アポイントを取ることが望ましいが、教員が研究室にいればいつでも質問してください。
芦田先生については、非常勤講師のため授業日に質問等をするようにしてください。

授業計画

授業回	授業のはじめに（幼稚園教育要領をもとに幼児の造形表現の位置づけを確認する）	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
			1時間
第1回	表現を育む土壌としての感性（生活や自然の中の形・色・手触り・動き）	幼児の造形表現に関する前提・基本的知識について振り返り、ポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第2回	「かく」ことの原初（スクリブルからはじまる描画について）	幼児の描画活動において重要な「感性」について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第3回	丸から広がるイメージ（前図式期にいたるまでの描画について）	幼児の描画活動の始まり、材料・道具の扱い方について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第4回	色から広がるイメージ（幼児の色彩感覚・色とイメージ）	描画の発達段階と表現の特徴について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第5回	音から広がるイメージ（オノマトペと抽象形態・言葉による表現）	色彩についての基礎・幼児の色彩表現の特徴を振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第6回	イメージを「絵」に表す（図式的表現による絵遊び）	オノマトペ・色彩・抽象形態の関わりについて振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第7回	素材との出会い（感触遊び・感覚遊び）	幼児の描画活動における図式的表現について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第8回	素材との関わり（構成遊び・見立て遊び）	造形活動の萌芽となる素材との身体的関わりについて振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第9回	素材によって促される造形（造形遊び）	構成や見立てによる造形表現への展開について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第10回	・素材や環境との出会いや関わりから生まれる目的にとらわれない活動の基礎を体験する ・幼児の造形遊びの特徴について知る	造形活動の中から表現のテーマが生成される「造形遊び」の特徴について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間

第11回	素材を用いて行われる製作①（構想・案出）	成果物のイメージ・作業の計画が求められる製作活動の特徴について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。 ・素材と道具を用いた計画的な製作に取り組む ・素材と道具についての特徴を理解する	1時間
第12回	素材を用いて行われる製作②（実製作）	実製作の体験をもとに、幼児の造形表現に必要な配慮・工夫について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。 ・利用する素材や道具の応用を発見する ・実製作を通して、幼児の製作活動に必要な配慮について気づく	1時間
第13回	製作から広がる遊び（製作物を基にした遊び）	製作から更なる活動・遊びに展開させる重要性について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第14回	授業のおわりに（作品と学びをポートフォリオにまとめる）	ポートフォリオ（スクラップブック）を完成させる ・授業を振り返り、学びの定着を強くする ・これまでのポートフォリオについて整理を行い、授業終了後にポートフォリオを提出する	1時間

授業科目名	幼児と健康				
担当教員名	範 衍麗・小林 志保・塩田 桃子				
学年・コース等	1	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目的指示：「不可」

授業概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期における大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。また、子育て支援・小学校や地域・保護者との連携など、様々な視点から保育を捉え、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるように、ICTの活用や、アクティブラーニングを取り入れた学習を進めていく。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。

目標：

幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等の知識を身に付けることができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

様々な視点から保育を捉え、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義を理解する。

幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義を理解し、指導ができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

幼児の健康の問題や社会状況を踏まえ、幼児の健康を守る保育者の役割を理解することができる。

- 2. DP7. 完遂

分からぬことを質問し、しっかりと知識を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

定期試験

： 授業内容の理解に関するレポートで評価します。

30 %

毎回の授業の提出物

： 每回授業の内容について理解できているかを評価します。

40 %

レポート・発表など

： 独自のループリックで評価します。

30 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
秋田喜代美他監 国土将平他編（範 担当クラス）	・子どもの姿から始める領域 ・健康	・みらい	・2020 年
若井香保里・宮下恭子編著（小林・ 塩田担当クラス）	・オンライン授業対応 改訂 版 乳幼児の健康－教育・ 保育に向けた計画と実践－	・大学図書出版	・2023 年

参考文献等

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）幼稚園教育要領・解説
 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）保育所保育指針・解説
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）幼保連携型認定こども園教育・保育要領・解説

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、保育士資格と幼稚園免許取得必須科目です。授業中の携帯電話の使用を禁止します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日12：20～13：10

場所： 第8研究室（範・塩田）・授業前後（小林）

備考・注意事項： 担当教員は上記研究室に在室しています。質問がある場合はお越しください。

授業計画

回数	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	内容
第1回	乳幼児の健康課題 健康の定義と乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境と健康について学びます	4時間	テキストの内容を読み、乳幼児の発育発達について予習します。
第2回	乳幼児期の身体的発達の特徴・生理的機能の発達 乳幼児期の身体的発達の特徴・生理的機能の発達を学びます。	4時間	テキストを読み、基本的生活習慣について予習します。
第3回	乳幼児期の基本的生活習慣の形成とその意義 乳幼児期の生活習慣（着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄）の獲得及び生活リズムの形成とその意義を学びます。	4時間	テキストを読み、安全教育について考えます。
第4回	幼児期の安全教育と健康管理 子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と健康管理を学びます。	4時間	テキストを読み、安全管理の大切を考えます。
第5回	幼児期の怪我の特徴や応急処置・病気の予防 幼児期に起こりやすい怪我の特徴と応急処置の基礎及び病気の予防について学びます。	4時間	テキストを読み、子どもの運動発達を予習します。
第6回	運動発達と運動あそびの意義 乳幼児の運動発達と運動あそびの意義を学びます。	4時間	テキストを読み、多様な動きを理解します。
第7回	多様な動きを引き出す運動あそび①多様な動きの基礎的理 解 子どものあそびとして行う運動のあり方を学びます。	4時間	テキストを読み、多様な動きと環境との関係を理解します。
第8回	多様な動きを引き出す運動あそび②多様な動きと環境との 関係 子どもの多様な動きを引き出す運動の環境設営の方法を学 びます。	4時間	テキストを読み、運動遊びの援助のポイントを理解します。
第9回	多様な動きを引き出す運動あそび③運動コントロール能 力の発達と「多様な動き」の意味と両者の関係 運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味、両 者の関係を学びます。	4時間	テキストを読み、多様な動きを促す遊びを予習します。
第10回	多様な動きを引き出す運動あそび④生活における身体活動 の在り方 乳幼児の生活における身体活動の在り方を学びます。	4時間	テキストを読み、生活の中の多様な動きを理解します。
第11回	多様な動きを引き出す運動あそび⑤社会環境の変化と幼 児期の動きの経験との関係 社会環境の変化と、幼児期の動きの経験との関係を学びま す。	4時間	テキストを読み、幼児期の運動発達を理解します。
第12回	行事としての運動①幼児期の運動発達を理解した指導につ いて 幼児期の運動発達を理解した指導を学びます。	4時間	テキストを読み、幼児の運動遊びについての知識を復習をします。
第13回	行事としての運動②幼児の身体活動経験を豊かにするため の工夫や配慮 幼児の身体活動経験を豊かにするための工夫や配慮を学びま す。	4時間	テキストを読み、幼小接続の実践例について考えます。
第14回	第14回：幼小接続について・まとめ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、領域健康と小学校の教科とのつながりを学びます。	4時間	1～1 4回授業の復習をします。

授業科目名	音楽概論				
担当教員名	楠井 淳子・加戸 敬子・熊谷 紗子				
学年・コース等	1	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員全員が実務経験を有する。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員。民間音楽教室・大学付属音楽教室、幼稚園、保育園、民間のミュージカルスクール、児童センターの音楽講師として勤務。(全56回)				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

子どもの豊かな音楽表現活動を援助するために必要な、音楽の知識や技能を身に付けます。具体的には、楽譜を正確に読み書きできるように楽典を理解します。その知識を基にした上で、実技面では正確なリズム・音程感覚を身に付けるために読譜やリズム打ち、視唱などのソルフェージュ課題の練習を行います。また、子どもの歌の歌唱、弾き歌い、基礎的な伴奏法（コード・リズム）を行うことを通して、保育の実践に向けた音楽能力を獲得することを目指します。このように本授業では理論と実践を統合しながら、学習を進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 保育者、教育者にとって必要な音楽の知識（楽典）。
- 保育者、教育者にとって必要な音楽表現の技能。

目標：

- 豊かな音楽表現を行なう上で必要となる音楽の知識やそのしくみを学び、理解する事ができる。
- 子どもの音楽表現を援助する為に必要な音楽の演奏技能を身につけることができる。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践
- 2. DP9. 役割理解・連携行動

自主的な練習を継続することにより、自己の表現力を高める事ができる。

アンサンブルなどのグループワークを通して、協働する力を育むと共に自己の役割を果たすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合

期末テスト

評価の基準

: 定期試験で音楽の楽典に関する理解度を測るための筆記試験を行い、評価する。

30 %

授業内課題1

: 学期中に複数回行なう小テストや課題シートの内容の到達度を独自のループリックをもとに評価する。

30 %

授業内課題2

: 実技試験（歌唱とピアノ伴奏）の到達度を独自のループリックをもとに評価する。

20 %

受講態度（積極的参加）

: 授業内におけるグループワークや発表などへの積極的な取り組み状況を独自のループリックをもとに評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
楠井淳子 著	・保育士、幼稚園教諭を目指す人たちのための音楽の基礎と表現～楽典とソルフェージュ～改訂版	・ふくろう出版	・2018 年

参考文献等

参考文献等は授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 月曜2限
場所： 教育第9・第10研究室
備考・注意事項： 質問は授業の前後やメールでも受け付けます。
メールには学籍番号と氏名を必ず入れること。

授業計画

授業回	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	譜表と音名 ・高音部譜表、低音部譜表、大譜表、音名、変化記号 ・簡単な読譜（ト音記号）、視唱課題 ・子どもの歌の歌唱	読譜・視唱課題の自己練習。テキストの練習問題（楽典:譜表、音名）を復習する。 4時間
第2回	音符と休符 ・音符と休符の種類と長さ、連符の理解 ・音符、休符を書く ・簡単な読譜（ヘ音記号）、視唱課題 ・子どもの歌の歌唱	読譜・視唱課題の自己練習。テキストの練習問題（楽典:音符と休符）を復習する。 4時間
第3回	拍子とリズム① 単純拍子の理解 ・単純拍子のリズムパターンの理解とリズム打ちの練習 ・音符、休符を書き、リズム打ちをする ・4/4, 3/4, 2/4拍子の視唱課題 ・子どもの歌の歌唱 ・譜表と音名、音符・休符の授業内確認テスト	読譜・リズム打ち・視唱課題の自己練習。テキストの練習問題（楽典:拍子とリズム）を復習する。 4時間
第4回	拍子とリズム② 複合拍子の理解 ・6/8拍子のリズムパターンの理解とリズム打ちの練習 ・6/8拍子の記譜法の理解 ・6/8拍子の視唱課題 ・子どもの歌の歌唱	読譜・リズム打ち・視唱課題の自己練習。テキストの練習問題（楽典:複合拍子）を復習する。 4時間
第5回	リズム楽器とリズムアレンジ ・発達に応じたリズム楽器と奏法 ・歌唱曲にリズム楽器を加える ・グループ毎に歌唱曲に効果的なリズム楽器を選び、リズムパターンを考える。 ・拍子とリズムの授業内確認テスト	幼児の発達に応じたリズム楽器を調べておく。リズム打ちの自己練習。 4時間
第6回	記号と標語 ・速度、強弱、曲想を表す音楽用語・記号 ・奏法に関する記号 ・反復記号 ・子どもの歌の歌唱と視奏（旋律奏）	テキストの練習問題（楽典:記号と標語）を復習する。視唱・視奏課題の自己練習。 4時間
第7回	音程① 単音程と幹音の音程 ・単音程、幹音 ・2度・3度音程を含む視唱課題 ・子どもの歌の歌唱と視奏（旋律奏） ・記号と標語の授業内確認テスト	テキストの練習問題（楽典:音程）を復習する。視唱・視奏課題の自己練習。 4時間
第8回	音程② 派生音と複音程 ・派生音、複音程 ・4度・5度音程を含む視唱課題 ・子どもの歌の歌唱と視奏（旋律奏）	テキストの練習問題（楽典:音程）を復習する。視唱・視奏課題の自己練習。 4時間
第9回	長音階 テキストの練習問題（楽典:長音階）を復習する。視唱・視奏課題の自己練習。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・長音階のしくみ ・長音階の調号（♯、♭）、調判定 ・簡単な低音部譜表の視唱課題 ・音程の授業内確認テスト 		
第10回	短音階と移旋	テキストの練習問題（楽典：短音階）、移旋を復習する。弾き歌いの自己練習。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・短音階の仕組み ・短調の調号と臨時記号 ・短調の楽曲の歌唱。 ・移旋 		
第11回	和音の構成と視奏	テキストの練習問題（楽典：三和音）を復習する。視奏課題（和音伴奏）の自己練習。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・和音の仕組み（長三和音・短三和音・減三和音・増三和音・七の和音） ・各種三和音の視奏 ・基本形と展開形 ・音階の授業内確認テスト 		
第12回	コードネームと簡易伴奏① メジャーコードとマイナーコード	テキストの練習問題（楽典：コードネーム）を復習する。コードネームの練習課題（メジャー及びマイナーコード）	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・コードネームの仕組み ・コードネームの練習課題（メジャーコード、マイナーコード） ・歌唱曲を簡易伴奏で弾く ・コード伴奏による指定曲の視奏（メジャーコード、マイナーコード） 		
第13回	コードネームと簡易伴奏② セブンスコード	テキストの練習問題（楽典：コードネーム）を復習する。指定曲のコードによる視奏の自己練習。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・セブンスコードの仕組み ・コードネームの練習課題（セブンスコード） ・歌唱曲を簡易伴奏で弾く ・コード伴奏による指定曲の視奏（メジャーコード、マイナーコード、セブンスコード） ・コードの授業内確認テスト 		
第14回	視奏課題の実技試験、音楽理論のまとめ	実技試験の自己練習。楽典の既習内容を復習する。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・指定曲のコード伴奏による実技試験 ・音楽理論のまとめ 		

授業科目名	幼児理解・教育相談				
担当教員名	園田 和江・中澤 鮎美				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	園田：教育機関で相談員、教員として勤務。保育士として実務経験有り（全14回）。 中澤：教育、医療、福祉機関でカウンセラーとして勤務（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本科目は、幼二免取得のための必修科目です。幼児理解および教育相談の理論と方法について学びます。また、幼児理解・教育相談の意義や基礎的態度について学び、その重要性を理解します。そのうえで、個々の子ども達の心理的特質や発達的課題、集団や家庭における諸問題を理解するための基礎知識を学びます。さらに、臨床心理学を中心とした心理学理論やカウンセリングの技法を活用し、適切に教育相談を進めるための具体的な方法について考察します。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

幼児理解の理論と方法／臨床心理学の知識をもとにした教育相談の理論と方法

目標：

幼児期の子どもの心理、行動について理論的に説明できる。／教育相談の現場で出会う諸問題との支援方法について説明できる

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

幼児理解・教育相談に関わる実践力

幼児理解・教育相談に関する知識・技能を教育現場での実践に応用できる

汎用的な力

- 1. DP9. 役割理解・連携行動

教育者として自分が果たすべき役割を理解し、他者と連携して子どもを支援することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内での取り組み状況
： 振り返りシートや授業内課題の内容、および、学習態度（ディスカッションへの積極的参加、質問・発表などは加点）を独自のループリックをもとに評価する。

40 %

確認テスト

： 授業で学んだ専門的知識（幼児理解の理論と方法、臨床心理学の知識をもとにした教育相談の理論と方法）についての理解度を、客観テストによって確認する。

40 %

定期試験（レポート）

： 1. 基礎的事項が理解できている（基礎）」「2. 心理学の知識を教育で現場の実践や日常場面に結びつけて考えることができている（応用）」の2つの観点から評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小田豊・秋田喜代美(編著)	・ 子どもの理解と保育・教育	・ みらい	・ 2021 年

参考文献等

- 文部科学省「幼児理解と評価」(2010)
- 文部科学省「生徒指導提要」(2010)
- 沼山博・三浦主博「子どもと関わる人のための心理学—発達心理学・保育心理学への扉一」萌文書林(2013)
- 諸富祥彦・富田久枝「保育現場で使える カウンセリング・テクニック」ぎょうせい(2015)
- その他、適宜授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 また、日常生活の中で心理学の応用について考えたり、実習等での子どもとの関わりにおいて心理学の知識、理論を活用することも大切である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 教室

授業計画

授業回	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育における幼児理解・教育相談の意義	「教育心理学」で学んだ内容を教科書やレジュメとともに復習しておく。また、臨床心理学を学ぶことが、保育においてどのような意義があるのかをまとめる。	4時間
第2回	子どものパーソナリティを理解する	自分自身のパーソナリティを把握し保育者として大切にしていきたいところやもっと伸ばしていきたいところについて考える。	4時間
第3回	子どもの発達の道すじを理解する	「教育心理学」で学習した発達理論について復習しておく。	4時間
第4回	「気になる子」を理解する—観察と記録をもとに—	これまでに出会った“気になる子”についてその背景について考える。	4時間
第5回	発達に課題のある子の理解と支援	発達障害について調べ、保育園や幼稚園等で実際にどのような支援が行われているのか実践事例を調べる。	4時間
第6回	教育相談のための心理学理論① 無意識へのアプローチ	自分自身の日常場面や、保育・教育の現場で会う防衛機制の具体例について考える。	4時間
第7回	教育相談のための心理学理論② 行動へのアプローチ	「教育心理学」で学んだ学習理論を復習しておく。行動療法などの事例を読む。	4時間
第8回	ストレスへの反応と対処	自分のストレス対処法を振り返り、改善点を考える。	4時間
第9回	子どものメンタルヘルス	保育者として子どもの情緒障害や保護者の精神疾患に出会った時、あるいは身近な人が精神疾患に罹った場合にどんな対応・支援ができるかを考える。	4時間

	精神疾患の種類を知り、うつ病や神経症の主症状と支援について学ぶ。また、子どもの情緒障害や問題行動について学び、保育者としてどうかかわるかについて考える。 キーワード：うつ病、神経症、子どもの情緒障害、問題行動		
第10回	個と集団：いじめ・不登園への理解と支援 集団の中で生じうるいじめや子ども同士の問題、登園しぶりなどについて知り、どのように理解し支援していけばよいかについて考える。 キーワード：いじめ、不登園、登園しぶり	いじめがなぜ起ころのかについて考える。登園しぶりの背景について調べる。	4時間
第11回	親子関係のゆがみ マルトリーント（不適切な養育）の生じる背景を、親と子のそれぞれの立場から理解する キーワード：養育態度、育児不安、気質、愛着、愛着障害、内的ワーキングモデル	虐待につながるリスク要因にはどのようなものがあるかについて調べる。マルトリーントの事例を読み、支援方法について知る。	4時間
第12回	カウンセリングマインドと子育て支援 保育者として必要なカウンセリングマインドについて学び、その重要性を理解する。保育者としての教育相談に役立つかウンセリングの技法を学ぶ。また、保育現場における保護者理解・保護者支援について考え、ロールプレイなどを通して保護者と向き合う方法を学ぶ。 キーワード：傾聴、非指示的心理療法、自己一致、受容、共感的理解、保護者支援	日常生活において他者の話をカウンセリングマインドをもって傾聴してみる。	4時間
第13回	教育相談の組織的展開と連携 教育相談を展開するにあたり重要な職員同士の連携、他職種・他機関との連携、家庭との連携のあり方について学ぶ。 キーワード：協働性、保育カンファレンス、連携、協働性、チーム保育、コンサルテーション	これまでに自分が他者と協働して役割を果たした経験を振り返り、自分自身の強みと課題について分析する。	4時間
第14回	保育者としてのキャリアデザインとメンタルヘルス 自らの保育者としてのあり方について見つめなおし、今後のキャリアデザインを描く。保育者として自らのメンタルヘルスを保持・増進することの重要性とその方法を学ぶ。また、これまでの学びを振り返る。 キーワード：青年期、アイデンティティ確立と拡散、キャリアデザイン、ライフプラン、ワークライフバランス	これまでに学んだことを復習し知識を整理する。さらに学ぶべき自身の課題について考える。	4時間

授業科目名	保育内容の指導法（環境）				
担当教員名	沼田 恵太郎・今井 清美				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	沼田：教育機関で教員として勤務（全14回） 今井：教育・福祉機関で教員・保育士として勤務（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

近年の急速な社会の変化にともない、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。本科目では領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身につけます。現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と環境との関わりの発達等について学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

保育の専門に関わる確かな知識・技能・職業理解を身につけている。

目標：

幼児と環境とのかかわりを理解し、保育内容の指導法「環境」の視点から、援助・指導に関する専門的知識や技能を身につける。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP6. 行動・実践

子どもにとつての環境を論理的に考え、課題を明らかにできる。

環境の体験を通して主体性を持ち、積極的に行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題

： 授業内課題を実施し、その内容について、独自のループリックを用いて評価します。

30 %

授業内の演習・発表

： 演習・発表の内容、その積極性について、独自のループリックを用いて評価します。

10 %

期末レポート

： 課題に即した内容が論理的に述べられているか、独自のループリックを用いて評価します。

60 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
榎沢良彦・入江礼子	・ シードブック 保育内容 環境 第3版	・ 建帛社	・ 2018 年

参考文献等

- ・幼稚園教育要領
- ・保育所保育指針

・幼保連携認定こども園教育・保育要領

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 沼田(初回授業にて開示します)、今井(授業前後)
 場所： 沼田(中央館4F個人研究室)
 備考・注意事項： 今井(非常勤)は、授業の前後に質問を受けつけます。

授業計画

授業回	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション：「環境」で何を学ぶのか 授業内容と方法、約束事について説明します。講義の流れを知り、子どもを取り巻く「環境」について考えます。	ワークシートへの記入（幼稚園教育要領・保育指針の「環境」の部分を読んで、要点を整理します） 1時間
第2回	領域「環境」の位置づけ 保育園や幼稚園で展開されている保育を実践する場合に、基本として何が大切にされているかを学びます。	ワークシートへの記入（保育計画、5領域、教育基本法について調べて、記入します） 1時間
第3回	現代社会の児童を取り巻く環境とその課題 環境の諸側面（物的・人的・安全等）、知識基盤社会、ESD等について学びます。	ワークシートへの記入（環境の諸側面について、自分の考えをまとめます） 1時間
第4回	乳幼児期の発達における環境との関わり（1）：アフォーダンスの視点から 乳幼児の環境との関わりを捉える心理学的視点について学びます。	ワークシートへの記入（アフォーダンスの視点や「環境調整」の重要性について、自分の考えをまとめます） 1時間
第5回	乳幼児期の発達における環境との関わり（2）：コンピテンスの視点から 乳幼児の環境との関わりを捉える心理学的視点について学びます。コンピテンスなどの概念について考えます。	ワークシートへの記入（コンピテンスの概念や「やればできる」という自信について、自分の考えをまとめます） 1時間
第6回	乳幼児期・児童期の認知的発達（1）：ピアジェの発達理論と展開 乳幼児期・児童期の認知的発達の特徴について学びます。	ワークシートへの記入（実習の経験を振り返り、子どもの認知的発達に関して、気付いたことや驚いたことを記入します） 1時間
第7回	乳幼児期・児童期の認知的発達（2）：ヴィゴツキーの発達理論と展開 幼児期・児童期の認知的発達の特徴について学びます。	ワークシートへの記入（実習の経験を振り返り、子どもの認知的発達に関して、気付いたことや驚いたことを記入します） 1時間
第8回	乳幼児期の物理的、数量・图形との関わり 乳幼児の物理的、数量・图形との関わりと具体的な活動（おもちゃづくり等）について学びます。	ワークシートへの記入（実習の経験を振り返り、数量との関わりについて、気付いたことを記入します） 1時間
第9回	乳幼児の自然との関わり（1）：遊びや飼育・栽培について 乳幼児の生物・自然との関わりと、具体的な活動（自然の遊びや簡単な飼育・栽培等）について学びます。	ワークシートへの記入（実習の経験を振り返り、園庭や自然との関わりについて、気付いたことを記入します） 1時間
第10回	乳幼児の自然との関わり（2）：自然体験活動について 乳幼児の生物・自然との関わりと、具体的な活動（自然体験活動等）について学びます。フィールドワーク（安威川河川敷）を行います。	ワークシートへの記入（実習の経験を振り返り、身近な自然や生き物との関わりについて記入します） 1時間
第11回	乳幼児の標識・文字等との関わり 乳幼児を取り巻く標識・文字環境と、それらに関わる具体的な活動（生活の中の標識・文字探し等）について学びます。	ワークシートへの記入（実習の経験を振り返り、子どもと文字や記号との関わりについて、気付いたことを記入します） 1時間
第12回	乳幼児の情報・施設との関わり（情報機器の活用） 乳幼児の生活に關係の深い情報・施設と、それらに関わる具体的な活動（施設見学、「○○マップ」作成等）について学びます。これまでの授業内容を振り返り、模擬保育の準備として指導案を作成します。	ワークシートへの記入（子どもと情報や施設との関わりについて、気付いたことを記入します。園内外行事との関わりについても考えます） 1時間
第13回	領域「環境」と保育の実際（1）：実践と動向、模擬保育とその振り返り 模擬保育を行い、振り返りを行います。「環境」に注目した実践と動向について考察します。	ワークシートへの記入（「環境」に関する実践と動向について、気付いたことを記入します） 1時間
第14回	領域「環境」と保育の実際（2）：保育指導案の作成と評価、模擬保育とその振り返り ワークシートへの記入（作成した指導案についての評価を記入します。授業内容やノートを振り返り、レポートを作成します） 1時間	ワークシートへの記入（作成した指導案についての評価を記入します。授業内容やノートを振り返り、レポートを作成します） 1時間

模擬保育を行い、振り返りを行います。作成した指導案について、評価を行います。
講義内容を振り返り、領域「環境」のねらいと内容を整理します。

授業科目名	幼児と人間関係				
担当教員名	松元 早苗				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼稚園教諭として、約20年間の勤務経験あり（全14回）				

開放科目的指示：「可・不可」

授業概要

領域「人間関係」を通して発達の基礎としての保育内容について理解を深めると共に、それをどのように具体化し、子どもたちに経験させるか、その方法について学ぶ。乳幼児の姿と保育実践を関連させて理解を深める。そのうえで、乳幼児にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。子どもが他者との関係の中で健全に自己を育み、他者と協同しつつ、幸せに生きていくことができるよう、保育者は子どもの成長に寄り添うことが求められる。子どもの成長の伴走者として、保育者が持っておくべき視点や具体的な知識・技術の基礎を修得することを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

- 保育者としての専門知識
- 保育者としての専門的知識・技能

目標：

- 人とかかわる力の育ちがその後に続く一人ひとりの人生を支える力となることを理解することができる。
- 幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解できる。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践
- 2. DP8. 意思疎通

- 学びから計画を立案し、保育の中で実践できる。
- 学生同士が問題を発見し、協同して解決策の発見ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

- | | | |
|------------|---|----------------------------------|
| 授業態度 | ： | 授業に対しての積極性を、独自のループリックに基づいて評価します。 |
| 授業内課題 | ： | 提出物、小テストから、独自のループリックに基づいて評価します。 |
| 定期試験（レポート） | ： | 授業内容の理解度を独自のループリックに基づいて評価します。 |

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
金俊華・垂水直樹	・ 幼児と人間関係	・ 同文書院	・ 2021 年

参考文献等

幼稚園教育要領（著者：文部科学省 出版社：フレーベル館）
 保育所保育指針（著者：厚生労働省 出版社：フレーベル館）
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（著者：内閣府 出版社：フレーベル館）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
 場所： 授業教室または、幼児教育学科第4研究室
 備考・注意事項： その他連絡がとりたい場合は、メール (matsumoto-sa@g.osaka-seikei.ac.jp) に連絡すること。その際、必ず学籍番号と名前を入れること。

授業計画

回	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	概要
第1回	領域「人間関係」の社会的背景	4時間	現代の人間関係の問題について400字程度にまとめる。
	1. 家族、地域社会の変化 2. 子ども・若者の「個性」と「人間関係」 3. 社会的存在としての自己		
第2回	子どもの発達と人間関係	4時間	領域「人間関係」のねらいと内容を復習する。
	1. 乳幼児期における人間関係の理解 2. ライフサイクルから見た乳幼児期の「発達課題」 3. 子ども同士の人間関係		
第3回	領域「人間関係」ねらいと内容—「幼稚園教育要領」を中心にして—	4時間	幼児期に育むべき資質・能力について400字程度にまとめる。
	1. 幼児期に育むべき資質と能力 2. 領域「人間関係」のねらいと及び内容の考え方 3. 領域「人間関係」の内容		
第4回	保育者のかかわり方と集団づくり	4時間	保育者が行う理想の集団作りについて400字程度にまとめる。
	1. 年齢による発達段階と人間関係の特徴 2. 保育者が行う集団作り 3. 個を見る視点と集団を見る視点		
第5回	対話から生まれる「協同的な学び—遊びを通した「個」と「集団」の成長—	4時間	協同的あそびと学びについて400字程度にまとめる。
	1. 「個」と「集団」の関係について 2. 協同的な遊びと学び 3. 対話によって展開して「協同的学び」の実現		
第6回	幼児教育・保育における子ども同士の関係	4時間	自らが経験した友達関係について400字程度にまとめる。
	1. 友達関係の息苦しさ 2. 「みんな仲良く」から「排除しない」関係へ 3. 保育者としての集団作り		
第7回	子どもとのかかわりを通しての幼児理解と評価	4時間	特別な支援が必要な子どもについて予習する。
	1. 保育の質と保育者/子ども関係 2. かかわりを通して幼児理解 3. 領域「人間関係」における評価の視点		
第8回	特別な支援を必要とする子どもの援助	4時間	特別な支援が必要な子どもの保育・教育について400字程度にまとめる。
	1. 障害のある子どもの理解 2. その他の特別なニーズのある子どもたちの理解 3. 特別な支援が必要な子どもを「抱え込む」保育・教育		
第9回	子どもの家庭背景を踏まえた幼児教育・保育の視点	4時間	子どもの育ちに対する過程の影響について400字程度にまとめる。
	1. 家庭の多様性 2. 子どもの育ちに対する家庭の影響 3. 子ども家庭支援の重要性		
第10回	幼児教育・保育と小学校との接続との課題—人間関係の視点から—	4時間	幼保小連携について人間関係の視点から考察し、400字程度にまとめる。
	1. 小学校移行の考え方 2. 保育現場における実践を考える		
第11回	幼児教育・保育における性をめぐる問題	4時間	乳幼児期からの「包括的性教育」について400字程度にまとめる。
	1. 保育所保育指針における性 2. 性の多様性 3. 「隠れたメッセージ」への配慮 4. 乳幼児期からの「包括的性教育」 5. 性をめぐる子どもたちとの対話		
第12回	多文化共生社会における幼児教育・保育の課題	4時間	幼児期における多文化共生について400字程度にまとめる。

	1. グローバル化する世界 2. 日本の公立小学校における外国人児童生徒の状況 3. 幼児期における多文化共生		
第13回	人とかかわる力を育てる保育者の役割と援助 1. 保育者の役割の重要性 2. 保育者的人間関係 3. 子どもと保育者的人間関係	保育者同士の人間関係について400字程度にまとめる。	4時間
第14回	人とかかわる力を育てる大人の人間関係～良好な人間関係の構築～・まとめ 1. 人とかかわる力を育てるために必要な保育者の支援・援助 2. 良好な人間関係の構築のために行うべきこと、考え	人とかかわる力を育てるための保育者の支援・援助について600字程度にまとめる。	4時間

授業科目名	保育内容の指導法（言葉）				
担当教員名	松元 早苗・今井 清美				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	教育、保育現場での実務実績を有する（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

領域「言葉」は、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことをを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

乳幼児の言葉の発達の理解。領域「言葉」を活かした保育内容、保育者としての指導のあり方

目標：

実習での経験や、それまでの他の授業との関連性から、乳幼児の言葉の獲得を理解し、保育現場での実践に活用することができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

豊かな言葉の獲得と言葉の発達のための専門性の向上

児童文化としての言葉の重要性を保育に取り入れ、言葉を通しての子どもの豊かな感性を育むための専門的技術・技能を習得することができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP6. 行動・実践
- 3. DP8. 意思疎通
- 4. DP9. 役割理解・連携行動

実習での経験や、他学生の意見を聞くことで自分自身の課題を見出し改善できる。

課題を基に、それを改善するための案を考え、実践することができる。

他学生の発表を通して意見交換することで、相手の表現を理解し、自らの思いを伝えることができる。

他学生との共同作業の際、自分の意見を積極的に伝え、相手の話を聞く態度を養い、協力して取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み状況

： 授業内での積極性及び取り組み状況について、独自のループリックに基づいて評価します。

40 %

授業内課題

： 児童文化財を教材とし、作成した指導案と、それに基づいた模擬保育について評価します。

40 %	
定期試験（レポート）	定期試験レポートについて、独自のループリックに基づいて評価します。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
戸田雅美	・保育内容 言葉—基礎的事項の理解と指導法—	・建帛社	・2020 年
柘植誠子・藤原牧子・松元早苗・園田育代・向井秀幸	・子どもの心に届く言葉かけ—保育の内容とその方法—	・ミネルヴァ書房	・2018 年

参考文献等

幼稚園教育要領（著者：文部科学省 出版社：フレーベル館）
 保育所保育指針（著者：厚生労働省 出版社：フレーベル館）
 幼保連携認定こども園教育・保育要領（著者：内閣府 出版社：フレーベル館）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 また、与えられた課題の提出期限を守ることは必修であり、将来保育者を目指す者としてふさわしい学生として、授業に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業教室

備考・注意事項： 授業の前後、授業の教室・第4研究室（松元）で受け付けます。
 松元が不在で緊急を要する場合は、matsumoto-sa@g.osaka-seikei.ac.jpまで連絡してください。
 今井が不在で緊急を要する場合は、imai-k@g.osaka-seikei.ac.jpまで連絡してください。

授業計画

授業回	授業題目	授業課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
			1時間
第1回	「言葉」ってなんだろう	領域の内容を復習し、「言葉」についての課題の改善策を見出す	1時間
1. 人間にとつての言葉の意義 2. 言葉の美しさや楽しさを味わう 3. 言葉の不思議さに気づかせてくれる言葉遊び 4. 子どもの言葉から読み取る			
第2回	子どもの言葉の育ちとその道すじ	言葉の発達の特徴について復習する。	1時間
1. 子どもの育ちの道すじを知る意味 2. 言葉の誕生以前。一語文から二語文へ 3. 語彙の発達。会話の発達 4. 言葉と思考。話し言葉から書き言葉へ			
第3回	領域「言葉」のねらいと内容及び評価	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を再確認する。	1時間
1. 保育における「要領」「指針」の全体構造と領域「言葉」 2. 領域「言葉」のねらいと内容と指導上の配慮について			
第4回	0歳児からの言葉の育ちを支える	0歳児からの言葉の育ちに関してまとめる。	1時間
1. 言葉の前の言葉 2. 相互応答的な関わり 3. 繰り返しどすらし 4. 指差しと三項関係 5. 一語発話の時期 6. 発話を促す大人の関わり			
第5回	1歳から3歳未満児の言葉の育ちを支える	保育文化財について調べる。	1時間
1. 1歳から3歳未満児の言葉の実際 2. 言葉が育まれるために 3. 人とのかかわりと言葉 4. 社会的なルールとしての言葉 5. 保育文化財の中にある言葉 6. 身近な人とのかかわりに支えられて			
第6回	言葉で伝ええることの喜びを支える	遊びや生活の中で生まれる「言葉」についてまとめる。	1時間
1. 遊びや生活の中で生まれる「言葉」で表現する喜び 2. 言葉で思いや考えを伝えあうこと。遊びの中の共同体験と伝え合い			
第7回	遊びから生まれる表現を支える	豊かな言葉の育ちについてまとめる。	1時間
1. 心の動きと言葉 2. 自分の気持ちを表現する 3. 言葉遊びや劇的表現を支える 4. 気持ちは伴う豊かな言葉の育ち			
第8回	言葉で考える意欲の育ちを支える	言葉の獲得についてまとめる。	1時間

	1. 自分の言葉で育てる 2. 身体や体験を通じて自分の言葉を獲得する 3. 自分なりのペースで考える 4. 一人で考える。友達と考える・みんなで考える。文字で考える		
第9回	言葉での関わりに配慮を要する子ども 1. ある実習生の姿から 2. 外国籍の子ども 3. 障がいのある子ども 4. 専門機関・医療機関との連携から	言葉に障がいのある子どもに関してまとめる。	1時間
第10回	言葉を育む文化財 1. 絵本・物語・言葉遊び・アプリなど 2. 文化財との出会いから遊び・そして言葉の育ちへ	児童文化財について調べ、発表する題材を選ぶ。	1時間
第11回	児童文化財作成、指導案作成から保育へ 1. 保育へつながる指導案の作製 2. 指導案からつながる保育実践 3. 児童文化財作成	児童文化財の作製	1時間
第12回	児童文化財を通して、子どもの言葉を育む保育の構想 1. 児童文化財を用いた具体的な保育場面を想定した指導案の作成を行う 2. 児童文化財を作成する	模擬保育の内容の検討を行う。	1時間
第13回	「言葉」を育む児童文化財の発表 領域「言葉」について作成した指導案を基に模擬保育を行い、自らの保育について考察する。	他学生の模擬保育について評価し、まとめる。	1時間
第14回	模擬保育の発表・言葉をめぐる相談と保護者との連携 1. 模擬保育を行い、学生同士で意見交換を行うことで、児童文化材の役割や子どもに与える影響について理解を深める 2. 保育における相談・助言 3. 保育者を不安にさせる言葉の問題 4. 言葉の遅れ 5. 相談への対応	保護者との連携についてまとめる。	1時間

授業科目名	幼児と環境				
担当教員名	沼田 恵太郎				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	沼田：教育機関で教員として勤務（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

幼児と環境とのかかわりを理解し、領域「環境」の視点から、援助・指導に関する専門的知識や技能を身につけることを目指します。子どもを取り巻く環境と、環境とのかかわりを通じた育ち（発達）の過程について学びます。また、周囲の環境と積極的に関わる様々な遊びを通じて、子どもたちの思考や言語、行動がどのように変化するかを学びます。認知心理学・行動分析学を中心に、幼児の発達過程をふまえた、深い学びを実現するための理論・方法を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

- 保育の専門に関わる確かな知識・技能・職業理解を身につけています。

目標：

- 幼児と環境とのかかわりを理解し、領域「環境」の視点から、援助・指導に関する専門的知識や技能を身につける。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP5. 計画・立案力
- 3. DP6. 行動・実践

幼児と環境とのかかわりを理解する。

領域「環境」の視点から、援助・指導に関する専門的知識や技能を身につける。

幼児の発達過程をふまえた、深い学びを実現するための理論・方法を学ぶ。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

レポート試験（期末試験）

： 期末試験として、レポート試験を設定します。独自のループリックを用いて評価します。

50 %

授業内レポート

： 授業内レポートを、課題として設定します。独自のループリックを用いて評価します。

50 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
井上雅彦・三田地真美・岡村章司	・ 保護者と先生のための応用 行動分析学入門ハンドブック 子どもの行動を「あり	・ 金剛出版	・ 2019 年

のまま」観るためにー

参考文献等

- ・山本一成 2018 領域「環境」の理論と実践 七猫社
- ・島宗理 2004 インストラクショナルデザイナー教師のためのルールブック 米田出版
- ・奥田健次 2012 メリットの法則－行動分析学・実践編－ 集英社新書
- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園・保育要領

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の時間外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 初回授業に開示します
- 場所： 中央館4F 第5研究室
- 備考・注意事項： 授業前後の他、授業外でも質問を受けつけます。

授業計画

授業回	授業題目	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション：「幼児と環境」で何を学ぶのか	ワークシートへの記入（幼稚園教育要領・保育所保育指針の「環境」の部分を読んで、要点を整理します。また、現代の保育の発想について、自分の考えをまとめます）	4時間
第2回	幼児と環境との関わりを捉える心理学的視点（1）：認知心理学	ワークシートへの記入（心と行動の関係について、自分の考えをまとめます。また、幼児の反応を「引き出す」保育のメリット・デメリットについて文章化します）	4時間
第3回	幼児と環境との関わり（1）：好奇心・探求心の育ち	ワークシートへの記入（幼児期の認知的発達の特徴について、整理します。好奇心・探求心を育む環境要因について考えます）	4時間
第4回	幼児と環境との関わり（2）：科学的思考の芽生え	ワークシートへの記入（幼児期の認知的発達の特徴について、整理します。「考える力」を育む環境要因について考えます）	4時間
第5回	より良い学習の環境を総合的にデザインする（1）：遊びと正統的周辺参加	ワークシートへの記入（正統的周辺参加について文章化し、整理します。遊びを通じて社会的役割・技能がどのように承継されていくかを考えます）	4時間
第6回	より良い学習の環境を総合的にデザインする（2）：インストラクショナルデザイン	ワークシートへの記入（インストラクショナルデザインについて文章化し、整理します。環境が幼児に与える影響について考えます）	4時間
第7回	幼児と環境との関わりを捉える心理学的視点（2）：行動分析学	ワークシートへの記入（日常生活と人間行動の関係について、自分の考えをまとめます。また、幼児の行動を「見守る」保育のメリット・デメリットについて文章化します）	4時間
第8回	幼児を「ありのまま」に観てみよう（1）：質的記録と内容分析	ワークシートへの記入（質的記録の方法を記入し、整理します。担当教員の指示に従い、「気になる子」どものエピソードに関する内容分析を行います）	4時間
第9回	幼児を「ありのまま」に観てみよう（2）：量的記録と視認分析	ワークシートへの記入（量的記録の方法を記入し、整理します。担当教員の指示に従い、集団実験と行動観察を通じて、反応率や持続時間等の視認分析を行います）	4時間

第10回	幼児がその行動をするのはなぜ？（1）：ABC分析	ワークシートへの記入（実習等で出会った事例についてABC分析を行います。また、自分で決定した記録方法について、文章化を行います）	4時間
第11回	幼児がその行動をするのはなぜ？（2）：レスポンデント行動とオペラント行動	ワークシートへの記入（2種類の行動の違いを、文章化して整理します。また、視覚化したグラフにまとづき、自分の感想や考察を述べます）	4時間
第12回	「環境調整」という考え方（1）：物的環境と自然環境、構造化	ワークシートへの記入（TEACCHプログラムの概要を文章化し、整理します。実習先等の保育環境を構造化し、インクルーシブ保育との接点を考えます）	4時間
第13回	「環境調整」という考え方（2）：人的環境と社会環境、スケジュール	ワークシートへの記入（ABAプログラムの概要を文章化し、整理します。実習先等の保育環境をスケジュール化し、インクルーシブ保育との接点を考えます）	4時間
第14回	まとめ：「自分からやる子」に育てるために	ワークシートへの記入（事例検討を行い、気付いたことを記入します。授業内容を参考に、「自分からやる子」に育てるために何が必要かを考えます）	4時間

授業科目名	子どもの音楽				
担当教員名	楠井 淳子・加戸 敬子・熊谷 紗子				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育園にて音楽講師として勤務。（楠井：全14回） カワイ音楽教室講師として勤務し、幼児リトミッククラスを担当（熊谷：全14回） カワイ音楽教室にて音楽講師として勤務。（加戸：全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本科目では領域「表現」のねらい・重要性を理解し、子どもの豊かな音楽表現活動を援助するために必要な知識や技術を習得すること」及び「子どもの豊かな感性を育むための教育と保育の実践へ向けた応用力を養うこと」を目的とします。具体的には①コード伴奏法を理解し、弾き歌いに習熟する。②リトミックの指導法を学び、実践できる。③各年齢に応じた幼児合奏を習得する。④簡易楽曲の創作法を学び、創造的な音楽表現を考察するなど、子どもたち豊かな感性を養えるような保育の展開を考え、実践できる力を身に付けます。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

- 幼児音楽の専門知識

目標：

乳幼児の心身の音楽的発達状況と、子どもの音楽表現を援助する方法や技術を理解し修得する事ができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

- 幼児音楽の実践とその応用

保育や教育の現場で実践できる力を養い、様々な状況に対応できる応用力を身に付ける事ができる。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践

自主的な練習を継続することにより、自己の表現力を高めることができる。

- 2. DP9. 役割理解・連携行動

各種楽器の合奏やリトミックなどのグループワークを通して、協同する力を育み、自己の役割を果たすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内課題1【発表】

: 合奏やリトミックのグループワーキングを独自のループリックをもとに評価する。

20 %

授業内課題2【提出物・レポート】

: 複数回の課題ワーク、レポート、編曲創作課題を独自のループリックをもとに評価する。

40 %

授業内課題3【実技】

: 子どもの歌の弾き歌いとリトミックの伴奏などの授業内実技課題を独自のループリックをもとに評価する。

20 %

定期試験【レポート】

: 指定された日時に提出された定期試験レポートを独自のループリックをもとに評価する。

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

音楽教育研究会編『幼児教育・保育士養成のための 新編 幼児の音楽教育』（音楽教育研究会、2009年）
その他の参考文献は授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限、火曜2・3限

場所： 教育第9・10研究室

備考・注意事項： 上記以外の時間帯の質問には授業の前後や第9・10研究室在室時間に対応します。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	子どもの発達と音楽、遊びを伴った子どもの歌①（そのねらいの考察） ・子どもの発達と音楽の関わりについて学ぶ ・弾き歌いのレパートリー表（目標）を作成する ・遊びを伴った子どもの歌のねらいについて考える ・コードを復習し、子どもの歌のコード伴奏をする ・遊びを伴った子どもの歌の実践（手遊び歌）	手遊び歌の歌唱とコード伴奏の自己練習 1時間
第2回	遊びを伴った子どもの歌②（手遊び歌） ・遊びを伴った子どもの歌の実践（手遊び歌） ・和音の転回形を理解し、カデンツを演奏する ・子どもの歌の弾き歌い（カデンツを用いて） ・様々な調のカデンツを学び、演奏する	子どもの歌の歌唱とカデンツ奏の自己練習。リトミックについて調べる。 1時間
第3回	リトミック①（ねらいの理解と体験） ・リトミックのねらいを学ぶとともに体験する ・保育案の作成 ・子どもを取り巻く身近な自然環境をテーマに取り入れる ・リトミックで使用する変奏法について学ぶ	リトミックレポートを作成する。保育案を完成させる。 1時間
第4回	リトミック②（グループ討議） ・グループ活動：作成した個人の保育案の中からグループ発表する保育案を選び、設定保育案を作成する ・個人保育案の提出	伴奏形の変奏を考察し、自己練習する。 1時間
第5回	リトミック③（グループ練習） ・グループ活動：設定保育（リトミック）のグループ練習	リトミックのグループ発表練習 1時間
第6回	リトミック④（グループ発表） ・グループ活動：設定保育（リトミック）の発表 ・他のグループの発表を見て、批評と感想をまとめ、意見交換や討議を行う	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。 1時間
第7回	子どもの合奏①（子どもの年齢別合奏法の理解） ・子どもの年齢に応じた合奏法を学ぶ ・グループ活動：合奏の練習	編曲の考察をする 1時間
第8回	子どもの合奏②（子どもの年齢別合奏編曲法） ・子どもの年齢別合奏編曲法を学ぶ ・子どもの合奏の編曲を行なう	弾き歌いの自己練習。合奏編曲を進める。 1時間
第9回	子どもの合奏③（編曲の実践） ・子どもの合奏の編曲を行なう ・グループ活動：合奏の練習と発表	弾き歌いとリトミックの伴奏の自己練習。合奏編曲を仕上げる。 1時間
第10回	子どもの合奏④（発表） ・グループ活動：合奏の発表 ・他のグループの発表について、批評と感想をレポートにまとめ意見交換や討議する	編曲とレポートのまとめを完成させる。 1時間
第11回	子どものための音楽作品の創作①（創作法の理解） ・基礎的な音楽の創作法（メロディーの作り方）を学ぶ ・身体表現を伴った音楽作品の創作など、創造的な音楽表現について考察する	子どものための歌や器楽作品を創作する。 1時間
第12回	子どものための音楽作品の創作②（創作と記譜法） ・子どものための歌や器楽作品を創作する ・記譜法を学ぶ ・創作した曲を実際に演奏してみる	弾き歌いとリトミック伴奏の自己練習。創作課題を進める。 1時間
第13回	子どものための音楽作品の創作③（創作のまとめ） ・子どものための歌や器楽作品を創作する ・記譜法を学ぶ ・創作した曲を実際に演奏してみる	弾き歌いとリトミック伴奏の自己練習。創作課題を仕上げる。 1時間

		・子どものための歌や器楽作品の創作をまとめる ・自作品を正確に記譜し、完成させる		
第14回	実技発表	これまでの授業で学修した内容をまとめる。課題が仕上がっていない場合は仕上げて提出する。		1時間

授業科目名	保育内容の指導法（健康）				
担当教員名	範 衍麗・塩田 桃子				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目的指示：「不可」

授業概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中の領域「健康」について、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」と示されています。この授業では、そのねらいと内容及び内容の取り扱いについて理解します。子どもの育ちを保育者はどのように支え、指導していくのか、その意味や役割について理解をし、必要な知識・技術を身につけています。特に乳幼児の健康に関する生活習慣や心身の発育・発達、安全な生活、運動発達の特徴を深め適切な指導方法を身に付けるための授業を行います。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい・内容・内容の取扱いに関する内容を理解する。

領域「健康」における指導案の作成と模擬保育の実践を通して、専門的知識に基づく実践を構想し評価・改善ができる。

目標：

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容から、幼児の発達や学びの過程を理解する。

領域「健康」のねらいと内容を踏まえて、幼児が身についていく内容と指導の留意点について、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。

汎用的な力

- 1. DP5. 計画・立案力

- 2. DP9. 役割理解・連携行動

領域「健康」のねらいに則した内容の指導についての指導計画をたてることができる。

領域「健康」における保育者の役割を理解し、保育者間・保護者との連携や協働作業を進める力をつける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業への意欲・態度

： 授業への取り組みに対する意欲や態度

20 %

指導計画の立案・模擬保育の実践

： 領域「健康」のねらいと内容を踏まえた指導計画の立案、模擬保育の実践および、評価と改善

40 %

提出物

： ワークシート作成・授業内課題の提出

20 %

授業内容に関する小テスト・定期試験

： 授業の内容の理解に関する試験

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
谷田貝公昭編（範担当クラス）	・健康（コンパクト版保育内容シリーズ①）	・一藝社	・2018 年
宮下恭子編著（塩田担当クラス）	・オンライン授業対応、改訂版「乳幼児の健康－教育・保育に向けた計画と実践－」	・大学図書出版	・2023 年

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日12:20～13:10
場所： 中央館4階第8研究室（範・塩田）
備考・注意事項： 担当教員は上記研究室に在室しています。質問がある場合はお越しください。

授業計画

回数	学修課題	授業外学修課題にかかる自安の時間	授業外学修課題
第1回	領域「健康」をめぐる現代的課題・保育における「健康」の意味と領域「健康」のねらいと内容の理解	幼稚園教育要領を熟読し、「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」についての理解を深めておきます。	1時間
第2回	基本的生活習慣の形成と援助	過去の自分の幼児期の発達の姿を振りかえり（家族の人に聞いたり）、基本的に生活習慣の形成のプロセスについて書き出してみます。	1時間
第3回	健康管理と安全能力を育む援助	最近の子どもを巻き込んだ交通事故、災害などの社会的な事件について、新聞や雑誌などの記事を抜き取り、事故や災害が災難に至らない為にはどのような安全指導が必要か考えてみます。	1時間
第4回	健康な心と体を育む保育の構想（健康指導、安全指導を中心とした指導計画立案）	指導案を立てるに当たって、まず健康指導や安全指導のねらいと内容を考え、テーマを絞り込み、指導案作成の準備をしておきます。	1時間
第5回	健康な心と体を育む保育の構想（健康指導、安全指導の実際、情報機器の活用）	具体的な指導のために相応しい教材はどのようなものが存在するかリサーチしておきます。また、使用したい教材がない場合は、自分で作っておいたり、工夫をして準備をしておきます。	1時間
第6回	健康な心と体を育む保育の実践（健康指導、安全指導の在り方と模擬保育・振り返り）	グループ単位で模擬保育を行うに当り、指導案を準備しておきます。	1時間
第7回	健康な心と体を育む保育の評価と改善（1）（幼児理解と保育の視点を基盤とした振り返り）	保育者、子どもそれぞれの立ち場における、分かりやすさや指導の難しさなどを分析して、幼児が経験して身に付けていくる指導の在り方を再検討します。	1時間
第8回	多様な動きの経験を促す援助（遊びや動きの経験を促す環境構成と援助）	幼児の健康は活発な運動遊びによって支えられるので、その様な遊びが展開できる環境構成と指導の在り方について考えていたみます。	1時間
第9回	一人一人の子どもの心身の発達の特徴や育ちを踏まえた環境構成と援助	気になる子、障がい児、肥満児、家庭経験、性格特性等とは具体的にどのような事例があるのか調べて書き出しておきます。	1時間

第10回	健康な心と体を育む保育の構想（運動遊びを中心とした保育計画立案）	運動あそびのねらいと内容について振りかえり、指導案の立案に役立つ遊びの種類や遊び方、指導法などについて資料収集をしておきます。	1時間
第11回	健康な心と体を育む保育の構想（運動遊びの指導の実際、情報機器の活用）	具体的な指導のために相応しい教材はどのようなものが存在するかリサーチしておきます。また、使用したい教材がない場合は、自分で作っておいたり、工夫をして準備をしておきます。	1時間
第12回	健康な心と体を育む保育の構想（遊びの意欲を高める運動指導の在り方）	グループで単位で模擬保育を行うに当たり、指導案を準備しておきます。	1時間
第13回	健康な心と体を育む保育の評価と改善（2）（幼児理解と保育の視点を基盤とした評価）	保育者、子どもそれぞれの立ち場における、分かりやすさや指導の難しさなどを分析して、幼児が経験して身に付けていくる指導のあり方を再検討します。	1時間
第14回	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿と小学校教科とのつながり・まとめ	小学生のあそびの様子や学習の様子を観察して、幼児期の健康のねらいと内容が小学校での学習にどの様に繋がるのかを考えておきます。また、身近なところで見聞きする幼児の健康課題を調べておきます。また、授業時に話しあった内容について考えたこと、感じたこと、これから幼児教育に必要な課題などをまとめてレポートにします。	1時間

授業科目名	子どもの造形				
担当教員名	紺谷 武・芦田 風馬				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校にて图画工作科教員を経験（芦田：14回） 幼稚園等での造形講師（紺谷、芦田：14回）				

開放科目的指示：「可」

授業概要

描画・製作・造形遊びを中心に、伝統的なものから今日の情報機器を利用したものまで、児童と接するときには有効となる、保育者として必要な造形活動に関する保育技術や知識を学びます。獲得した技術を用いて、自らも工夫しながら教材開発ができるように授業を通じてイメージを豊かにしてもらいたいと思います。また、授業のまとめとして卒業後保育所及び幼稚園現場等で活用できる貴重な資料になる、ポートフォリオを作成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

児童の造形活動を保育者として設定し、支援するために必要な知識・技能・能力を習得する。

目標：

造形活動による保育を行うために必要な材料や道具の理解、知識や技術を習得し、保育現場での描画や製作、造形遊びなどの内容を自ら考えることができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

ポートフォリオ（スクラップブック）に、製作課題や案出した造形活動などをまとめ、実践に活かす力を養う。

製作課題や案出した造形活動などの記録をもとに、実践に向けた気付き・配慮・工夫・改善点などを抽出することができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

豊かな感性をもとに、造形表現のテーマや、それを実現するために求められる知識・技能・能力的課題を見出すことができる。

- 2. DP5. 計画・立案力

造形表現のプロセスを見通し、必要な材料・作業の段取りなどを計画・立案することができる。

- 3. DP6. 行動・実践

立案した計画をもとに行動し、実践の中で柔軟な対応を取り入れることができる。

- 4. DP7. 完遂

実践のプロセスにおいて知識・技能・能力的課題をクリアし、作品や造形活動案を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。
また、授業終了時に提出するポートフォリオ（スクラップブック）も成績の判断基準とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験（作品に関する評価）

： 課題ごとに求められる内容、および知識・技能・能力の理解や応用が、作品とポートフォリオ（スクラップブック）に反映されているかを、独自のルーブリックに即して評価する。

80 %

日常の授業態度に関する評価

： 各授業で主体的・積極的に課題に取り組んでいるか、授業外課題が反映されているかを評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
横英子	・保育をひらく造形表現	・ 萌文書林	・ 2008 年

参考文献等

授業中に適宜資料の配布と提示をする。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 北野（水3）、紺谷（金2）会議等で不在の場合あり

場所： 教育第一研究室

備考・注意事項： 各教員の研究室を訪ねてください。アポイントを取ることが望ましいが、教員が研究室にいればいつでも質問してください。
芦田先生については、非常勤講師のため授業日に質問等をするようにしてください。

授業計画

授業回数	授業題目	授業課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
			概要
第1回	幼児の造形表現の意義と概要について	ポートフォリオ作成の準備と、材料用具に関する確認と用意。	1時間
幼児の造形表現の意義と授業概要について学びます。また材料の配布や造形用具の準備、ポートフォリオの作成について説明を聞きます。			
第2回	描画1　描画遊びの基礎と実践	教科書2章「表現を育む人になる」を読んで復習をしておく	1時間
幼児の絵遊びの基礎と実践について学びます。絵遊びの実践をとおして自身の感性を広げます。（クレヨンあそびやスクリブル、オートマナック技法やスタンピングなど）			
第3回	描画2　幼児の描画の発達と特徴について	絵遊びの基礎・応用と、その実践をポートフォリオにまとめておく	1時間
幼児の絵遊びの応用と実践について学びます。（画用紙にバスやペンなどでお話の絵、行事の絵、生活の絵など）			
第4回	描画3　幼児の描画指導・援助の実際について	絵遊びの指導・援助方法や用具、材料、環境構成についてポートフォリオに整理しておく	1時間
幼児の絵遊びの指導・援助の実際の事例について学びます。（ごっこ遊びの絵、しきのあらわしの絵、グループ画など）			
第5回	製作1　製作遊びの基礎と実践	教科書3章、P45-46「紙の変身-平面と立体」「紙の技-伝える・演じる」を読んで復習をしておく	1時間
幼児の製作遊びの基礎（貼る、折る、切る）と、幼児のはじめての用具・材料（はさみ、のり、折り紙など）との関わりを実践をとおして学びます。			
第6回	製作2　幼児の製作の基本と、その特徴について	製作遊びの基礎・応用と、その実践をポートフォリオにまとめておく	1時間
幼児の製作遊びの応用を実践をとおして学びます。（切り紙、立体紙製作など）			
第7回	製作3　幼児の製作指導・援助の実際について	製作遊びの指導・援助の方法や、用具、材料、環境構成について、ポートフォリオに整理しておく	1時間
幼児の製作遊びの指導・援助の実際の事例について学びます。（壁面製作、行事の製作物、遊べる物、使える物など）			
第8回	造形遊び1　造形遊びの基礎と実践	造形遊びの玩具の作り方、遊び方をポートフォリオにまとめておく	1時間
0、1、2歳児の物遊びを中心に、造形遊びで実際に使える簡単な玩具（おもちゃ）をつくります。			
第9回	造形遊び2　幼児の造形遊びの特徴について	造形遊びの基礎・応用と、その実践をポートフォリオにまとめておく	1時間
幼児の造形遊びの応用と実践について、感触遊び、行為そのものを楽しむ遊びなどの探索的な遊びの活動をとおして学びます。			
第10回	造形遊び3　幼児の造形遊びの指導・援助の実際について	造形遊びの指導・援助の方法や、用具、材料、環境構成について、ポートフォリオに整理しておく	1時間
幼児の造形遊びの指導・援助の実際の事例について学びます。（ごっこ遊び、形・色遊び、構成遊びなど）			
第11回	環境を豊かにするプロジェクト1　環境を豊かにするプロジェクトの基礎	教科書6章「環境を豊かにするプロジェクト」P155を読んで復習しておく。	1時間
環境を豊かにするプロジェクトの学習を教材書から学んだめと、実践につなげます。			
第12回	環境を豊かにするプロジェクト2　環境を豊かにするプロジェクトの実践・製作	教科書「新聞紙の挑戦」P51、「池プロジェクト活動」P178-179を読んで復習しておく	1時間
環境を豊かにするプロジェクトとして、グループで協力して取り組める活動をおこないます。（場に関わる遊び、新聞遊びなど）			

第13回	保育案1 造形表現における保育案の理解と作成	造形表現指導の実際を、教材書の指導のねらいから、直接的な援助までを読んで整理しておく。また、授業内での学びをポートフォリオに整理します。	1時間
第14回	授業の振り返りとポートフォリオの整理	ポートフォリオのまとめや、作品の出来ていないところを完成させる これまでの授業を振り返り、ポートフォリオについて整理を行う。授業終了後にポートフォリオを提出します。	1時間

授業科目名	保育内容の指導法（人間関係）				
担当教員名	松元 早苗・河上 雄紀				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	松元：教育または保育現場で教員として勤務（全14回） 河上：医療機関で心理士として勤務（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

幼稚園教育要領や保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記された領域「人間関係」のねらい及び内容について、乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、乳幼児にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実施する方法を身に付ける。乳幼児期の人間関係の発達の特質を踏まえ、保育における人とのかかわりを育むための保育内容の指導法を実践的に理解する。事例や視聴覚教材等を使用し、子どもを理解した保育が行える授業を開く。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

- 保育者としての専門知識

目標：

- 子どもの豊かな人間性を育むために必要な、保育者としての技能や知識を修得し、保育者としての自覚を持つことができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

- 保育者としての実践力の修得

- 保育者として、人と関わる力を養い、子どもの「生きる力」を育むことができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

- 実習の経験から、保育者を目指す学生として人間関係の重要性を理解し、自分自身の課題を見出すことができる。

- 2. DP8. 意思疎通

- 見出した課題の改善策を基に、人とかかわる力を養い、実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への参加・貢献度

評価の基準

： 各回授業への積極的参加や授業態度を独自のループリックを基に総合的に評価する。授業内でのグループワークや発表において、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えているか評価します。

40 %

課題・演習

： 授業内容に応じて課題や演習を行い評価する。課題は授業内、または宿題とし、期限内に提出すれば評価を行う。課題（15%）演習（15%）で評価します。

40 %

定期試験（レポート）

： 授業での学びを保育者を目指す者として十分理解できているかを、レポート試験で評価します。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田村美由紀・室井佑美	・人間関係ワークブック	・ 萌文書林	・ 2017 年

参考文献等

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（著者：文部科学省・厚生労働省・内閣府
出版社：フレーベル館）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項：
河上は、授業の前後や授業日で非常勤講師室に在室しているときに受け付けます。
松元は授業の前後、授業の教室・第4研究室で受け付けます。
松元が不在で、早急な対応が必要な場合は、メールにて受け付けます。
matsumoto-sa@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

回数	領域「人間関係」における保育および教育の目標	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
			時間
第1回	領域「人間関係」における保育および教育の目標	「人間関係」における原題社会の問題についてまとめる。	1時間
	1. 人間関係を取り巻く現代社会の状況 2. 幼保連携型認定こども園における教育・保育の基本と目標。幼稚園教育の基本 3. 保育所保育に関する基本原則		
第2回	領域「人間関係」におけるねらいと内容	保育者の役割について考える。	1時間
	1. 認定こども園・幼稚園・保育所の領域「人間関係」 2. 人間関係の育ちを支える保育者		
第3回	身近な人の関わりと発達	「人間関係」と「表現」の関連性について調べる。	1時間
	1. 愛着の形成と分離行動 2. 自我の芽生え 3. 思いやイメージを言葉で表現する		
第4回	保育者に求められている人間関係	保育者の関わりについてまとめる。	1時間
	1. 乳児期の関わり 2. 幼児期の関わり 3. 保育者同士の関わり 4. 保育者と保護者の関わり		
第5回	仲間との関わりと発達	人間関係における道徳性と規範意識についてまとめる。	1時間
	1. 自己調整力の育ち 2. 道徳性と規範意識の芽生え		
第6回	遊びのなかでの人の関わりと保育者の役割Ⅰ—イメージの共有—	遊びの中での保育者の役割についてまとめる。	1時間
	1. 遊びの中でイメージを共有すること 2. 仲間入りをめぐる保育者の役割		
第7回	遊びの中での人の関わりと保育者の役割Ⅱ—試行錯誤の過程—	子ども同士の関わりにおける保育者の役割についてまとめる。	1時間
	1. コミュニケーションと試行錯誤 2. 友達の思いとともに探求するおもしろさ		
第8回	遊びのなかでの人の関わりと保育者の役割Ⅲ—自己主張・葛藤・育ち合い—	自己主張や葛藤・育ち合いにおける保育者の役割についてまとめる。	1時間
	1. 遊びの中で身につける調整力 2. 子どもの相談する・子どもが解決する 3. 自己主張をあまりしない子ども		
第9回	遊びのなかでの人の関わりと保育者の役割Ⅳ—協同的な遊び—	小学校へつなぐ育ちを支えるための保育者の役割についてまとめる。	1時間
	1. 協同して遊ぶ経験 2. 時間がかかる活動や遊びを通して育つもの 3. 小学校へつなぐ育ちを支える人間関係		
第10回	人の関わりが難しい子どもへの支援	人の関わりが難しい子どもに対する保育者の援助についてまとめる。	1時間
	1. 集団生活に困難をともなう子どもへの保育 2. 誰もが居場所のある集団づくり		
第11回	領域相互の関連性と保育展開Ⅰ—指導計画の意義・作成・実践例（0～2歳児）—	指導計画作成を通して学んだことを復習する	1時間
	1. 0歳児の指導計画と実践 2. 1歳児の指導計画と実践 3. 2歳児の指導計画と実践		
第12回	領域相互の関連性とは保育展開Ⅱ—指導計画の意義・作成・実践例（3歳児）—	指導計画作成で気づいたことに関してまとめる。 3歳児の指導計画と実践 指導計画作成のポイント 【課題】見つけて気づこう	1時間

第13回	領域相互の関連性と保育展開III—指導計画の意義・作成・実践例（4歳児）— 4歳児の指導計画と実践 指導計画作成のポイント 【課題】見つけてあなたがつくろう	4歳児の特徴をまとめ、指導計画作成に活かす。	1時間
第14回	領域相互の関連性と保育展開IV—指導計画の意義・作成・実践例（5歳児）・まとめ— 5歳児の指導計画と実践 指導計画作成のポイント 【課題】あなたが作って、やってみよう 領域「人間関係」に関するまとめ	「人間関係」における保育者の役割についてまとめる。	1時間

授業科目名	保育方法論				
担当教員名	園田 育代				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼稚園で主幹教諭として勤務（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

保育方法の基本について理解し、保育の方法や技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。具体的には、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育、保育それぞれの役割を理解し、乳幼児の発達過程、園行事の実際、情報機器の活用方法、子どもとの関わり方、教材等の学びを深める。授業の内容として、講義と演習に重点をおき、グループワークを取り入れながら学び合い、保育実践力を培う。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

- 保育方法、保育内容と実践を理解することができる。
ねらい、活動内容、環境構成、保育者の援助・配慮の視点を含めた指導計画を立案する。

目標：

- 保育方法の基礎的理論と実践を理解することができる。
幼稚期にふさわしい活動内容を取り入れた指導計画の立案できる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP9. 役割理解・連携行動

- 指導計画の発表と評価を行い、実践力を身に付けることができる。
他者と協同して課題に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内課題 : 授業内におけるワークへの積極的参加と各章末の演習課題についての実践演習シートの記入の適切性について、独自のループリックで評価する。

40 %

定期試験

: 指導計画の作成とまとめのレポートについて、授業内容をふまえたものであるか、そこに独自の見解や具体性が見られるかについて、独自のループリックで評価する。

40 %

受講状況

: 各回授業への積極的参加や授業態度を評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮下恭子、篠原いくよ、柘植誠子	・ 教育・保育方法—実践のための理論と実際—	・ 大学図書出版	・ 2018 年

参考文献等

必要に応じて適宜配布。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 第3研究室

備考・注意事項： 上記の時間外でも研究室に在室であればいつでも受ける。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育方法の基礎的理論の理解 幼稚園・保育所の保育方法の歴史と変遷、保育様式の変遷や、保育の方法について学ぶ。	第1章の演習課題「個人課題1」を行う (P37)	4時間
第2回	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育、保育 幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育について、それぞれの役割など学ぶ。	第1章の演習課題「個人課題2」を行う (P37)	4時間
第3回	保育形態の多様性及び安全・保健計画 保育形態や危機管理、安全指導、保健計画について学ぶ。	第2章の演習課題「個人課題1」を行う (P53)	4時間
第4回	育みたい資質、能力と幼児理解に基づいた計画の基礎的な考え方 幼児理解に基づいた保育指導計画の基礎的な考え方について学ぶ。	第2章の演習課題「個人課題2」を行う (P53)	4時間
第5回	3歳未満児の発達の特性と保育者のかかわりについて 3歳未満児の発達の特性と保育者のかかわりについてについて学ぶ。	第3章の演習課題「個人課題1」を行う (P76)	4時間
第6回	3～5歳児の発達の特性と保育者のかかわりについて 3～5歳児の発達の特性と保育者のかかわりについてについて学ぶ。	第3章の演習課題「個人課題2」を行う (P76)	4時間
第7回	子どもの遊びの特徴からみる保育の展開 遊びの楽しさの本質、主体的な活動等子どもの遊びの特徴から、保育への展開について理解を深める。	第4章の演習課題「個人課題1」を行う (P94)	4時間
第8回	園行事の実際と実践方法 運動会、生活発表会、誕生会等などの行事や地域とのかかわり、伝統文化を取り入れた実践方法について知識を広げ、実践方法について学ぶ。	第5章の演習課題「個人課題1」を行う (P112)	4時間
第9回	教材についての基礎的な要素と指導計画の理解 教材の工夫と保育における活用方法、指導計画の立案について理解する。	第4章の演習課題「個人課題2」を行う (P94)	4時間
第10回	情報教育の機器の活用と課題 情報機器の活用、情報の管理と保護、活用と課題について学ぶ。	第6章の演習課題「個人課題1」を行う (P128)	4時間
第11回	情報機器の活用方法を工夫した指導計画の作成 情報機器の活用方法について調べ、幼児期にふさわしい指導計画を立案する。	第6章の演習課題「個人課題2」を行う (P128)	4時間
第12回	指導計画の発表・評価を行う 指導計画の発表と評価を行い、自己の学びにつなげる。	ワークシートの作成	4時間
第13回	保護者及び地域社会との連携 保護者と連携することの重要性を知り、その方法について理解する。また、地域社会との連携の実際を学ぶ。	第7章の演習課題「個人課題1」を行う (P142)	4時間
第14回	国内、国外研修の必要性の理解 国内、国外研修等の必要性について理解する。	第8章の演習課題「個人課題1」を行う (P156)	4時間

授業科目名	教育実習Ⅱ				
担当教員名	園田 育代・須河内 優子				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	それぞれ幼稚園での実務経験を有する。				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

以下の5点をねらいとする。①教育実習Ⅰでの学びを活かして、自ら課題をもちながら幼児とのかかわりを深め、幼稚園教育の基本を理解する。②保育技術を学び、幼児の発達を踏まえながら、幼児の主体的な活動を行うための環境構成及び援助のあり方を学ぶ。③指導計画の立案や活用方法を学び、保育活動を実践する。④家庭や地域と連携を図りながら幼児教育に携わる幼稚園の実態に触れる。⑤習得した理論を自ら実践することを通して、幼稚園教諭としての専門性を理解し、自らの保育観をもつようになる。

養うべき力と到達目標**確かな専門性****具体的な内容：****目標：**

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 観察・参加実習・責任実習
 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 観察・参加実習、責任実習

幼児の実態や幼稚園教育要領を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
 保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

汎用的な力

1. DP9. 役割理解・連携行動
 2. DP6. 行動・実践

学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解することができる。
 様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

実習は10日以上、80時間以上の実習時間が必要です。必要な実習時間を満たさなければ評価しません。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準****実習園による評価**

： 実習中の健康管理や提出物などの実習状況や言動及び協調性等の実習態度、子どもとその関わり、保育の知識・理解・技術など、実習園からの評価を換算する。

50 %

実習記録

： 実習記録を書く力、提出状況などを評価する。

20 %

巡回報告書

： 実習園別指導教員による事前事後指導の取り組み、実習中に訪問状況を評価する。

10 %

教育実習報告書

： 適切に教育実習の振り返りができるかを、独自のループリックを基に評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者**タイトル****出版社****出版年**

参考文献等

文部科学省 「幼稚園教育要領」 フレーベル館 2017
 厚生労働省 「保育所保育指針」 フレーベル館 2017
 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 フレーベル館 2017

履修上の注意・備考・メッセージ

体調管理に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を完了させるためには、毎日の実習終了後、その日の実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすることが必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項 : 随時受け付けます（実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については教育実習事前事後指導の授業で案内します）。

授業計画

第1回

本実習

- ・ 幼児の発達、保育者の援助・配慮、保育の流れについて理解する。
- ・ 幼児に接し共に活動することにより、子ども理解を図る
- 担当指導教員の立場を体験から理解する。（責任実習）

学修課題

実習記録を書くとともに、次の日の実習課題、目標を明確にする。

授業外学修課題にかかる目安の時間

20時間

授業科目名	子どもの健康と安全				
担当教員名	児玉 善子・寺辻 良子				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目的指示：「不可」

授業概要

子どもの保健で習得した知識をもとに、演習を通して子どもの健康についての理解を深め、栄養・衛生・安全に関わる保健活動を理解し、保健活動の方法を学びます。子どもの健康状態を把握するための観察や身体計測の意義や方法、清潔を保ち感染予防のための手洗い・歯磨き・身体の清潔について学びます。さらに子どもが起こしやすい症状の対応や、園や家庭で起こりやすいケガに対する予防やその対処の方法、緊急時における救急処置や応急手当てなどについても学びます。関連するガイドラインに基づいて適切な対応を具体的に学びます。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

保育における保健体育分野の専門的知識と技術を身につける。

目標：

子どもの健康を把握するための観察や身体計測の方法を理解し身につけることができる。子どもの健康を保持・増進するための栄養・衛生・安全管理の方法を理解し、身につけることができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP6. 行動・実践
- 3. DP10. 忠恕の心

子ども一人ひとり、子ども集団全体の健康状態を把握するための観察や身体計測を理解し、課題を明らかにすることができます。

子ども一人ひとり、子ども集団全体の健康の問題に対して、発育・発達を阻害することなく適切に対応できる。

子ども一人ひとり、子ども集団全体の代弁者となって、子どもを取り巻く環境を整えていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・その他(以下に概要を記述)

観察、身体計測、感染児のおむつ交換、救急蘇生などの演習については、新型コロナの感染予防のため授業担当者の指示に従って受講してください。

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

観察・身体計測・身体の清潔・心肺蘇生などの実技演習は必ず出席してください。幼稚園実習や保育実習の実習先への事前訪問、事後訪問と重ならないように、実習先との調整をしてください。1/3以上の欠席は成績評価しません。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

確認カード、レポート
： カードで予習の取り組みや授業内容の理解度を確認し、授業の参加状況を評価します。レポートは、提出期限を守り指示内容に沿っているか、理解を深める努力をしているかで評価します。

30 %

定期テスト

： テストは、実践に結びつく内容なので、理解して実践できるかどうかを確認し評価します。

70 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
鈴木美枝子 編 大西文子 著 落合利佳 編著	・これだけはおさえたい! 保育者のための「子どもの 保健II」	・創成社	・2018 年

参考文献等

吉岡毅・長谷川浩道・千羽喜代子 著 「実習育児学」 日本小児医事出版社
大西文子 著 「子どもの保健 演習」 中山書店
落合利佳 編著 「[シリーズ・新しい時代の保育者養成]子どもの保健」 あいり出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は保育士資格取得必修科目であるため、子どもの命を預かる専門職に必要な知識と技能を習得するための授業であるという意識を持って授業に取り組んでください。講義形式の際の私語や居眠りは認めません。授業中の携帯電話や電子辞書の使用も禁止します。授業内容や専門用語などの言葉が理解できないときは、挙手して質問するように心がけてください。

授業外学習課題は、一年次に学んだ「子どもの保健」の復習です。試験のためではなく自分の将来のために必要ですから、丁寧に復習しておきましょう。講義後は、将来に役立つ自分のためのノート作りをおすすめします。医学は年々進歩しています。子どもを取り巻く環境（テレビ、携帯電話、遊び場の欠如など）も10年・20年前と比較すると大きく変化しています。子どもに関係する政策や法律も年々変化しています。卒業後は、自ら新しい情報を入手しなければなりません。科目によつては重複する内容もあります。同じ見出しを付け、差し替えができるものを作つておくと便利です。さらに、観察する能力を磨くために、小説を読んだり映画鑑賞をするなどして、追体験をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
場所： 教室か非常勤講師控室
備考・注意事項： 授業時間内に質問するか、確認カードに記入してください。次回講義時に回答します。

授業計画

回数	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	オリエンテーション 施設における保健活動	保育所保育指針第三章を読んでくる。	1時間
第2回	身体計測	一年次に学んだ子どもの保健の発育・発達について復習してくる。	1時間
第3回	健康観察	年次に学んだ、子どもの保健の循環器系・呼吸器系の構造と機能、病気とその対応を復習してくる。	1時間
第4回	体調不良時の対応	年次に学んだ、子どもの保健の呼吸器系・消化器系の構造と機能、病気とその対応を復習してくる。	1時間
第5回	感染症の予防と対策	年次に学んだ子どもの保健のテキスト5章3感染症を読んでくる。	1時間
第6回	感染症発生時と罹患後の対応	年次に学んだ、子どもの保健の免疫の仕組みについて復習してくる。	1時間
第7回	身体の清潔に関する実習	年次に学んだ子どもの保健のテキスト15章を読んでくる。	1時間
第8回	個別な配慮を要する子どもへの予防的対応（アレルギー疾患）	年次で学んだ、子どもの保健の免疫の仕組みを復習してくる。	1時間
第9回	個別な配慮を要する子どもへの対応（アレルギー疾患）	年次に学んだ、子どもの保健の免疫の仕組みについて復習してくる。	1時間

保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、保育所におけるアレルギー対応ガイドラインに基づいて、子どもの発達や状態に即した適切な対応を、具体的に学びます。緊急時に使用することがあるエビペンについても学びます。		
第10回 個別な配慮をする子どもへの対応（障害のある子ども）	一年次の子どもの保健の運動機能の発達、精神機能の発達を復習してくる。	1時間
障害とは何かを理解し、障害のある子どもの対応を学びます。保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態に即した適切な対応を、具体的に学びます。		
第11回 乳幼児の事故とケガ SIDS	一年次に学んだ子どもの保健テキストの10章を読んでくる。	1時間
子どもの事故死の現状と子どもの事故の特徴を理解し、事故防止対策、安全教育について学びます。SIDS (Sudden Infant Death Syndrome) 乳幼児突然死症候群について理解し、注意しなければならないことを学びます。		
第12回 救急処置と応急手当て 救急蘇生法	誤飲防止チェックを作製し、身近なもので危険なものを調べてくる。一年次に学んだ、子どもの保健の循環器系・呼吸器系の構造と機能を復習してくる。	1時間
応急処置・包帯法について学びます。調べてきた誤飲しやすいものを発表し、日常で気をつけなければならないことを考えます。施設内外の安全対策や誤飲防止のための環境整備について学びます。子どもの心肺蘇生法・AEDの使い方について学びます。		
第13回 危機管理と災害対策	保育所保育指針第3章4を読んでくる。	1時間
教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における危機管理と災害対策について具体的に理解する。		
第14回 地域保健活動 子どもの保健教育とその管理	年間保健活動の計画作成時に理解が不十分と気付いた箇所を学習する。	1時間
保健所における母子保健活動や地域における育児支援活動、保健所や地域との連携について学びます。年間保健活動の計画を作成しながら、授業を振り返り、理解が不十分な箇所を確認します。		

授業科目名	子どもの食と栄養				
担当教員名	須田 あゆみ・山本 千恵				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習科目				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	• 管理栄養士として実務経験を有する（保育園、保育者養成校に勤務。全14回） • 管理栄養士として実務経験を有する（社会福祉法人、病院 等に勤務。全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

小児の心身の発育に食生活が大きく関わっていることを理解し、その発育段階に応じた望ましい食生活と食育について、講義・演習・調理実習を通して学ぶ。具体的には健康的な食生活の意義と栄養に関する基礎知識、小児の発育段階に応じた食事、食物アレルギー等疾病時の食事について保育者として基本的な知識、技術を得ることを目的とする。食育については地域・社会・文化・環境との関わりの中から食育を理解し、食育を実践できる力を習得する。また、この講義・実習を通して、学生自身の食生活を見直すきっかけとすることも目的とする。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

- 小児の食事についての知識

目標：

- 小児の発育段階に応じた食事・食物アレルギー等疾病時の食事について、保育者として提示することができます

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

- 小児の食生活に関する技能・技術

- 調理実習や演習を通じて、小児の発達段階に応じた食生活に関して、保育者として実践することができる

汎用的な力

- 1. DP9. 役割理解・連携行動

- グループワーク・プレゼンテーション等、協同で課題に取り組むことにより、自分がどのように協力すべきかを考え、行動する力につくことができる

- 2. DP6. 行動・実践

- 調理実習を行うことにより、年齢に応じた食事作りの知識および技術を習得する。

- 3. DP6. 行動・実践

- 人の前に立ち、自分の伝えたいことをわかりやすく伝える発信力の大切さ・難しさを経験し、より意識をもって取り組むことができる

- 4. DP4. 課題発見

- プレゼンテーションを行うことにより、子どもや自分たちの食生活における問題点を考えることができます

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

- また、以下のような授業態度が見られる場合、1点ずつの減点とします。
- ・何度も注意しても私語が多い。
- ・何度も注意しても授業に無関係な作業を行っている。
- ・調理実習時に爪を切っていない。ネイルをしたまま参加する。

成績評価の方法・評価の割合

小テスト

評価の基準

- : 健康的な食生活の意義と栄養に関する基礎知識、小児の発育段階に応じた食事、食物アレルギー疾患等の食事についての知識とその理解について評価する。

レポート・課題 : 講義・演習・調理実習での理解度、技能・技術の習得度を評価する。

40 %

食育プレゼンテーション : 自分達の食生活改善に向けた食事について話し合い、テーマに基づいたお弁当を各自が家で作成し、その写真・レポートを持参して発表する。

15 %

試験（レポート） : 指定するテーマについての記述内容で、授業の理解度を評価する。

15 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
上田玲子	・子どもの食生活 一栄養・食育・保育－（第6版）	・ななみ書房	・2022 年

参考文献等

日本人の食事摂取基準[2020年版]/厚生労働省/第一出版
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン/厚生労働省
平成27年度 乳幼児栄養調査/厚生労働省
子どもの食と栄養 第2版/羊土社

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

調理実習時には、エプロン、三角巾、手拭タオルを持参すること。
忘れた場合にはエプロンクリーニング代400円が必要。

調理実習室使用時は、特に衛生面への配慮が必要なため、家庭とは異なる使用・片付けの細かい注意をその都度行うが、施設使用のルールであるため協力すること。

この授業を受講する者は、必ず教科書を購入すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間 : 担当曜日の昼休み

場所 : 非常勤講師控室

備考・注意事項 : 授業前後の質問も積極的に受け付ける。

授業計画

授業回	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	子どもの健康と食生活 本講義の概要についてオリエンテーションを行うので初回は必ず出席すること。 日本人の現在の栄養摂取状況や、乳幼児栄養調査のデータも合わせて、食べ物の必要性と子どもの心身の発育との関りを理解する。食生活の現状等、課題についてグループワークを行う。	予習：自身の食生活・子どもたちの食生活について考えをまとめておく。復習：授業内で説明されなかつた乳幼児栄養調査データも読み込み、現状の問題点を把握する。	4時間
第2回	栄養に関する基礎知識（1） 栄養の基本的概要と栄養素の種類と機能について学ぶ。日本人が不足しがちな栄養素を理解するとともに、自身の食生活を振り返り、問題点を見つける。	予習：自分の食事バランスについて考える。教科書の関連箇所を読んでおく。復習：それぞれの栄養素の働きについて講義内容を復習して理解を深める。	4時間
第3回	栄養に関する基礎知識（2）、子どもの発育・発達と食生活（1）乳児期（乳汁栄養）、妊娠期 妊娠期の栄養と食生活および、乳児期の栄養について学ぶ。母乳の利点、注意点、調製粉乳の種類と取り扱いについて学び、レポート課題としてまとめてもらう。	予習：教科書の該当箇所を読んでおく。復習：母乳栄養、人工栄養の特徴を整理しておく。	4時間
第4回	子どもの発育・発達と食生活（2）～乳児期（離乳食）～ 乳汁栄養について学んだ内容を復習しつつ、乳児期の栄養・食生活における離乳の意義および具体的な進め方を学ぶ。 次週の調理実習について、オリエンテーションも行う。	予習：乳児期の栄養・食生活についての教科書の該当箇所を読んでおく。また、調乳の手技の確認や離乳期の栄養や食生活について理解しておく。復習：乳汁栄養や離乳の意義について復習しながらレポート課題に取り組む。	4時間
第5回	子どもの発育・発達と食生活（3）～調理実習（離乳食・幼児食）～	予習：教科書の該当箇所を読み、離乳の進め方の目安について理解しておく。調理実習の使い方のプリントを読んでおく。離乳食の各時期の特徴をふりかえっておく。	4時間

調理実習室で実習についてオリエンテーションを行い、実習室の使い方および、離乳食作成を学ぶ。離乳初期、中期、後期及び幼児食に適した食材や調理形態を理解しながら実習を行い、咀嚼機能の変化も考える。また、大人の食事を取り分ける方法についても学びます。調乳方法の説明も行う。			
第6回	子どもの発育・発達と食生活（4）～幼児期①～ 幼児期の栄養・食生活、保育者としての対応について学ぶ。授業の最後に小テスト1回目を行う。	予習：教科書の該当箇所を読んでおく。小テストの勉強をしておく。復習：離乳期の栄養・食生活について復習しながらレポート課題に取り組む。	4時間
第7回	子どもの発育・発達と食生活（5）～幼児期②～ 幼児期の栄養・食生活上の問題点としてどのようなことがあるのかを意見交換し対応を考える。	予習：教科書の関連箇所を読む。復習：幼児期の特徴を踏まえながら、食に関して、就学前にどんなことを身につけていて欲しいのかを整理しておく。他：お弁当の作成について取り組む。	4時間
第8回	子どもの発育・発達と食生活（6）～学童期・思春期～ 学童期から思春期の栄養・食生活について学ぶ。また、地域・社会・文化・環境とも関わりのある、行事食・旬について学ぶ。	予習：行事食について調べておく。復習：学童期以降の栄養・食生活について知ることが乳幼児期の子どもの発育にどう関わっているかしっかりと理解する。他：17回目からの食育プレゼンテーションのテーマについて調べておく。食育プレゼンテーション①お弁当の作成に取り組む。	4時間
第9回	子どもの発育・発達と食生活（7）～生涯発達～／家庭・児童福祉施設における食事と栄養 生涯発達と栄養・食生活について学ぶ。乳児期～生涯発達までの学びを振り返り、幼少期の食生活の重要性を理解する。また、児童福祉施設における食事と栄養について学ぶ。	予習：教科書の関連箇所を読んでおく。	4時間
第10回	食育の基本と内容（1） 食育がなぜ必要とされるのかを理解し、家庭や児童福祉施設においてどのような食育ができるのか、子どもや保護者に伝えたいこととしてどんな事柄があるのかを学ぶ。	予習：教科書の関連箇所を読んでおく。復習：食育の目標や給食の役割、行事食について整理しておく。	4時間
第11回	食育の基本と内容（2） 食育の具体的な計画や実施、評価といった食育の流れおよび、食育の環境作りについて学ぶ。授業の最後に小テスト2回目を行う。	予習：小テストの勉強をしておく。どのような食育があるのかを考えておく。復習：4月から3月という流れでどのような食育ができるのかを整理しておく。	4時間
第12回	食育の基本と内容（3） 食育プレゼンテーション「食生活改善を目指すお弁当」の発表を行い、評価する。	予習：お弁当の発表ができるように準備しておく。	4時間
第13回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1） 疾病および体調不良時の食事、食物アレルギーをもつ子どもへの対応について学ぶ。食物アレルギーについてレポートを作成する。	予習：体調不良時に自分が食べる食事について考えておく。教科書の該当範囲を読んでおく。復習：食物アレルギーのレポートをまとめる	4時間
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2）／全体のまとめ 障がいがある子どもの食と栄養について学ぶ。食育プレゼンテーション「私の食生活の改善を目指すお弁当」の評価結果を発表する。子どもの食と栄養の意義についてこれまでの授業の全体的なまとめを行う。	予習：教科書の該当範囲を読んでおく。復習：期末レポートに取り組む。	4時間

授業科目名	特別支援教育・保育概論				
担当教員名	園田 和江・宮秋 多香子				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	園田：教育機関で相談員、教員として勤務。保育士として実務経験有り（全14回）。 宮秋：教育機関で教員として勤務（全14回）。				

解放科目的指示；「不可」

授業概要

乳幼児期における特別支援教育および障害児保育は、一人一人の障害や発達状態に配慮しながらも、乳幼児期にふさわしい楽しい遊びや安心できる生活を通して子どもの人格そのものの豊かな発達を保障していくことをめざしている。本演習では、発達障害を含む様々な障害の特性を学ぶだけでなく、実践例を通して、障害をもつ乳幼児の支援方法について基礎的認識を持つことを目的とする。また、家族支援や機関連携などについても学び、保育者として障害児の子育て全体を見通すことのできる知識を身につける。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

- 障害の特性についての知識を学び、障害児支援の課題を知る。
- 障害児を持つ家庭への支援や機関連携について学ぶ。

目標：

- 障害の特性に合わせて、教育・保育上の配慮点を述べることができる。
- 障害を持つ子どもの家族支援における保育者としての基本的姿勢を身につける。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP8. 意思疎通

- 障害児の支援の実践でそれぞれの事例における保育者の役割について、考察することができる。
- 他者の意見を聞いたうえで、障害児支援に対する自分の意見を述べることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内課題レポート

評価の基準

： 授業時間内に提示した課題についてレポートを作成し、授業の内容を踏まえて記述できているかどうかで評価する。（5点満点×4回）

20 %

授業内ワークシート

： 教科書や配布する事例報告を読むことや、事例の映像を視聴することを通じ、ワークシートを記入する。内容が、授業の内容を踏まえて適切な読み取りと考察ができているかを独自のループリックをもとに評価する。

20 %

試験（レポート）

： 講義内容の理解度と考える力を評価する。（前後期各1回）（30点満点×2回）

60 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
野内友規(園田担当クラス)	・「気になる子のインクルーシブ教育・保育」	・ 中央法規	・ 2022 年
尾崎康子(宮秋担当クラス)	・「よくわかる障害児保育 第二版」	・ ミネルヴァ書房	・ 2018 年

参考文献等

- ・「障害児保育ワークブック インクルーシブ保育・教育をめざして」星山麻木(編著)萌文書林 2020年
- ・「障害児保育演習ブック(よくわかる!保育士エクササイズ9)」松本峰雄監修 ミネルヴァ書房 2021年
- ・「知っておきたい発達障害の療育(乳幼児期における発達障害の理解と支援)」尾崎 康子・三宅 篤子(著) ミネルヴァ書房 2016年
- ・「知っておきたい発達障害のアセスメント(乳幼児期における発達障害の理解と支援)」尾崎 康子・三宅 篤子(著) ミネルヴァ書房 2016年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、通年2単位の演習科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学習が求められる。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をするこど。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室

備考・注意事項： 質問がある場合は、演習時間の前後の休憩時間に受け付ける。また、まとめ・感想レポートや、提出課題レポート、小テスト用紙の末尾に質問を記入すれば、次週以降に回答する。(質問は、大歓迎、どんなことでも構いません。)

授業計画

第1回	保育現場にいる障害のある子ども	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
	発達障害を中心に保育現場で出会う子どもの障害の概要と特性並びにその変容について学ぶ。	障害について自分がどのように考えているかまとめてくる。教科書の該当箇所と配布資料を読み、子どもの障害の概要と特性や変容について復習する。	1時間
第2回	乳幼児期の発達課題①：愛着形成	教科書の該当箇所と配布資料を読み、愛着形成について復習する。	1時間
	対人関係の基礎となる愛着の特徴と発達、愛着の型について学ぶ。		
第3回	乳幼児期の発達課題②：運動発達	教科書の該当箇所と配布資料を読み、運動発達について復習する。	1時間
	乳幼児期の粗大運動や微細運動の発達について学ぶ。		
第4回	乳幼児期の発達課題③：基本的生活習慣の確立	教科書の該当箇所と配布資料を読み、基本的生活習慣の確立について復習する。	1時間
	乳幼児期の食事・排泄・衣服の着脱・挨拶など基本的生活習慣の確立について学ぶ。		
第5回	乳幼児期の発達課題④：言語・コミュニケーション	教科書の該当箇所と配布資料を読み、言語・コミュニケーションについて復習する。	1時間
	言語機能の発達、前言語期を含めたコミュニケーションの発達について学ぶ。		
第6回	障害児保育の仕組み①：制度と形態、専門性	教科書の該当箇所と配布資料を読み、幼稚園や保育所の障害児への制度と形態、専門性について復習する。	1時間
	幼稚園や保育所における障害児保育、障害児通園施設における保育について学ぶ。		
第7回	障害児保育の仕組み②：健診と早期発見、保育、就学相談、学校への接続	教科書の該当箇所と配布資料を読み、健診と早期発見、保育、就学相談、学校への接続について復習する。	1時間
	乳幼児検診と早期発見、就学時健診、ライフコースについて学ぶ。		
第8回	障害の特徴と保育の実際①：知的障害の特徴と支援	教科書の該当箇所と配布資料を読み、知的障害の特徴と配慮事項について復習する。	1時間
	ダウン症など知的障害の特徴と支援のポイントについて学ぶ。		
第9回	障害の特徴と保育の実際②：自閉症の特徴と支援	教科書の該当箇所と配布資料を読み、自閉症の特徴と配慮事項について復習する。	1時間
	自閉症の認知や行動や社会性の特徴、二次障害について学び、特性の理解に基づく支援のポイントについて学ぶ。		
第10回	障害の特徴と保育の実際③：ADHDの特徴と支援	教科書の該当箇所と配布資料を読み、ADHDの特徴と配慮事項について復習する。	1時間
	ADHDの認知、行動の特徴と特徴を踏まえた支援のポイントについて学ぶ。		
第11回	障害の特徴と保育の実際④：学習障害（LD）・発達性協調運動障害（DCD）の特徴と支援	教科書の該当箇所と配布資料を読み、学習障害と発達性協調運動障害の特徴と配慮事項について復習する。	1時間
	LDやDCDの認知、行動の特徴と特徴を踏まえた支援のポイントについて学ぶ。		
第12回	障害の特徴と保育の実際⑤：視覚障害と支援	教科書の該当箇所と配布資料を読み、視覚障害の特徴と配慮事項について復習する。	1時間
	視覚障害の特徴と具体的な支援の実際について学ぶ。		
第13回	障害の特徴と保育の実際⑥：聴覚障害と支援	教科書の該当箇所と配布資料を読み、聴覚障害の特徴と配慮事項について復習する。	1時間

	聴覚障害の特徴と具体的な支援の実際について学ぶ。		
第14回	前期のまとめ 第1回授業から第13回授業までの学びを振り返って要点を確認して総括する。	期末テストに向けて、前期授業の内容を復習する。	1時間
第15回	障害の特徴と保育の実際⑦：肢体不自由、てんかん、言語障害と支援 肢体不自由、てんかん、言語障害の特徴と具体的な支援について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、肢体不自由、てんかん、言語障害の特徴と配慮事項について復習する。	1時間
第16回	障害児保育の体制づくり①：発達保障のインクルーシブ保育と支援体制 障害児の個別の指導計画に基づく保育や問題行動への対応、合理的配慮の実践のための支援体制作りについて学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、インクルーシブ保育と支援体制について復習する。	1時間
第17回	障害児保育の体制づくり②：個別の支援計画 子どもの持つ困難さ（ニーズ）や保護者のニーズに合わせた支援計画の作成を学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、個別支援計画について復習する。	1時間
第18回	事例から学ぶ 一知的障害の子どもー 障害を持つ乳幼児の事例を通して、個々の発達を促す生活や遊びの環境、また子ども同士のかかわりと育ちあいについて学ぶ。	事例プリントを読み返し、再度自分なりに学んだことをまとめておく。	1時間
第19回	発達支援の技法①：親への支援（ペアレントトレーニング） 障害児のきょうだいやクラスメイトが経験するさまざまな問題や必要な支援について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、保護者への支援について復習する。	1時間
第20回	発達支援の技法③：親からの情報や行動観察による子ども理解 生育歴や生育環境を初め子どもの適応機能や問題行動など保護者から得られる情報や行動観察による子どもの理解について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、保護者からの情報や行動観察による子ども理解について復習する。教科書のP176-187並びに配付資料に目を通し復習する。	1時間
第21回	発達支援の技法④：心理検査による子ども理解 発達検査や知能検査の他、言語機能や愛着の型など基本的なアセスメント法について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、心理検査による子ども理解について復習する。	1時間
第22回	発達支援の技法⑤：感覚統合、ポーテージプログラム 脳神経生理学に基づく訓練方法としての感覚統合と応用行動分析に基づく早期教育プログラムとしてのポーテージプログラムについて学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、感覚統合とポーテージプログラムについて復習する。	1時間
第23回	発達支援の技法⑥：応用行動分析による問題行動への対応（事例に学ぶ） 応用行動分析に基づく問題行動への対処法や積極的行動支援の実際について実践例を通して学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、応用行動分析による問題行動について復習する。	1時間
第24回	障害児支援の教材 障害の特性に配慮した教材の工夫について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、障害児支援の教材について復習する。	1時間
第25回	発達支援の技法⑦：絵カード交換式コミュニケーションシステム（PECS） PECSによる自発的コミュニケーションの訓練のやり方やその効果について実践例を通して学ぶ。	配付資料を読み、PECSについて復習する。	1時間
第26回	発達支援の技法⑧：TEACCHプログラム（事例に学ぶ） 自閉症の認知特性に合わせて視覚支援や構造化などを行うTEACCHプログラムについて実践例を通して学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、TEACCHについて復習する。	1時間
第27回	発達支援の技法⑩：対人関係発達支援（RDI）、ESDMなど RDI、ESDM、ふれあいペアレントプログラムなど最近注目されている関係発達のアプローチについて学ぶ。	配付資料を読み、発達支援の技法について復習する。	1時間
第28回	後期のまとめ 第15回授業から第27回授業までの学びを振り返って要点を確認して総括する。	期末テストに向けて、後期授業の内容を復習する。	1時間

授業科目名	保育内容の指導法（表現）				
担当教員名	楠井 淳子・熊谷 綾子・紺谷武・花岡 千晶				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育園にて音楽講師として勤務。（楠井：7回） カワイ音楽教室講師として勤務し、幼児リトミッククラスを担当（熊谷：7回） 幼稚園等での造形講師（紺谷、花岡：7回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

領域「表現」のねらいや内容を理解し、表現の豊かさの年齢的特徴や発達などの知識を学びます。わらべうたなどの歌遊び、楽器を用いた音遊び、身近な素材を使った表現遊びなどを演習します。模擬保育とその振り返りを通して、乳幼児の発達に応じた総合的な表現活動の展開や指導法を学びます。また、色々な素材を使った制作物を作ったり、描いたりするための基礎的技術を学び、遊びを通して豊かになる表現活動の展開方法や指導法を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

具体的な内容：

目標：

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

表現についての基礎的な技術を学び、幼児期の表現遊びを演習し、表現遊びの展開方法を工夫します。

表現の知識・技能を保育現場で活用することができます。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

自らの役割を理解し、主体性を持ち、積極的に行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み	:	各回授業への積極的参加やグループメンバーとの協調性を基に総合的に評価します。
授業内課題	:	乳幼児の発達に応じた内容や活動の展開についての配慮などを評価します。
模擬保育	:	模擬保育のループリックに基づいて評価します。
試験（レポート）	:	模擬保育の振り返りシートで評価します。
	8 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
八木正一（監修）竹内貞一（編著）	・保育者養成のための音楽表現 模擬実践をとおして学ぶ	・大学図書出版	・2020 年

参考文献等

必要に応じて適宜授業内で用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日（12：10～13：00）

場所： 第1研究室、第9研究室

備考・注意事項： 質問は授業の前後やメールでも対応する。
メールには学籍番号と氏名を必ず入れること。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	〈音楽表現〉1 豊かな音楽表現遊び 授業の概要と進め方、表現とは 本授業の授業概要と進め方を理解する。 領域「表現」のねらい及び内容を学び、乳幼児の表現とは何かを理解する。 音楽表現の豊かさの年齢的特徴、乳幼児の音楽的な発達を学ぶ。 音楽表現活動において育みたい資質・能力について具体的に考える。	資料を調べ、乳幼児の表現についての理解を深める。
第2回	〈音楽表現〉2 わらべうたあそび（乳児のわらべうた） わらべうたによる伝承遊びを体得し、乳児のわらべうた遊びの指導法を学ぶ。 わらべうたの概要とそのねらいと意義について学ぶ。	乳児のわらべ歌遊びを練習する。
第3回	〈音楽表現〉3 わらべうたあそび（幼児のわらべうた） わらべうたによる伝承遊びを体得し、幼児のわらべうた遊びの指導法を学ぶ。	幼児のわらべうた遊びを練習する。わらべうた遊びの指導援助をまとめる。
第4回	〈音楽表現〉4 身近な素材を使った表現遊び 紙コップ、紙皿、ペットボトル、ビーズなどを用いて、手作り楽器を作り、音楽表現遊びを演習する。 身近な素材を使った表現遊びの指導法を習得する。	身近な素材を使った表現遊びの指導援助をまとめ る。
第5回	〈音楽表現〉5 保育内容を立案する 前回までの内容を振り返り、自らを保育者と想定して、保育内容を考え保育指導案を立案する。	保育指導案の構想を練る。
第6回	〈音楽表現〉6 模擬保育 グループ活動：各自の保育指導案をもとに、グループでディスカッションを行い、模擬保育案を決定する。模擬保育のグループ練習を行う。	模擬保育を行うための準備を行う。
第7回	〈音楽表現〉7 模擬保育とその振り返り 保育指導案に沿って模擬保育を実践し、その振り返りを通して改善を試みる。	模擬保育を通して学んだことをまとめ る。
第8回	〈造形表現〉1 紙製作の基本を知る。 材料用具の扱い方を再確認し、紙製作の基本的な操作を使い、立体と平面を組み合わせて指人形を作る。	画材料の使い方を確認し、乳幼児が表現する方法を考える。
第9回	〈造形表現〉2 保育内容を立案する 前回作った製作を振り返り、自らを保育者と想定して、保育内容を考え保育案を立案する。	年齢に応じた保育内容を考える。
第10回	〈造形表現〉3 水性ペンによる材料あそび 技法を使って子どもの発達に応じた指導の方法や内容を学ぶ。 材料の特性を生かした使い方を習得し、あそびを通して学ぶ意味を理解する。	遊びを通して学ぶことを理解する。
第11回	〈造形表現〉4 パスによる材料あそび 材料の特性を生かした使い方を習得し、あそびを通して学ぶ意味を理解する。	遊びを通して学ぶことを理解する。
第12回	〈造形表現〉5 身近な素材を使った製作あそび 素材の特性を知り、紙パックを使ってイメージを広げて作る指導法を習得する。	乳幼児の発達を知り、イメージしたもの自分なりに表現する。
第13回	〈造形表現〉6 情報機器の活用 表現活動における情報機器及び教材の活用法について事例を通して学び、保育構想に活用できるアイデアを考える。	製作物を構想する。
第14回	〈造形表現〉7 総合的な製作あそび これまでに授業で習得したこと振り返り、年齢の発達に応じた遊びの展開を考え、実践する。	これまでの授業を振り返り、表現することの大切さを学ぶ。

授業科目名	子ども家庭支援論				
担当教員名	中川 陽子				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	障害児・者の居宅サービス及び移動介護、家族支援に従事（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本科目は、子どもが生活する基本的な場である家庭を理解し、家族の福祉を保障することで、その子どもの保育をより充実したものにする目的であります。保育士の業務としては、乳幼児の保育に加え、家庭全体を支援する必要性が増しており、保育士の役割の一つとして保育所保育指針では、保護者支援をあげています。本授業では保育士が子どもおよび家族を支援していくことの基本的・理論的枠組みを理解するとともに、家庭支援の多様な施策や支援活動を事例に基づきながら学習します。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

子育て家庭を支援するための専門知識及び技能の習得。

目標：

子育て家庭を取り巻く状況について、種々の情報を集め、問題の背景にある事象を明らかにすることができます。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

子育て支援の実践力をつける。

子育て不安や子育て疲労を引き起こす「育児の孤立化」を防ぐために子育て支援活動を行うことができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

子育て家庭の抱えている問題について、現状を客観的に把握することができる。

- 2. DP8. 意思疎通

子育て支援活動に関して、他者の意見を尊重したうえで、自分の意見を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。独自のループリックを初回授業にて配付する。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

小テスト

： 「子ども家庭支援」の知識・技能に関する問題を授業内課題として課し、評価する。

30 %

授業への取り組み状況

： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（私語、携帯電話の操作、居眠り等は減点）を独自のループリックを基に、総合的に評価する。

30 %

定期試験

： 1~4回講義終了後の指定された期間に定期試験を実施する。子ども家庭支援の必要性や課題、基礎的理解に関する問題と子ども家庭支援に関する考察についての課題に対して評価する。

40 %

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

参考文献等

適宜文献の紹介および資料等配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に提示する

場所： 初回授業時に提示する

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける(nakagawa-yo@g.osaka-seikei.ac.jp)。
メールには必ず氏名と所属を明記すること。

授業計画

授業回	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 11~23)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第2回	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 24~37)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第3回	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 38~49)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第4回	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 50~60)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第5回	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 61~68)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第6回	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 69~81)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第7回	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 82~92)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第8回	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 93~106)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第9回	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 107~119)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援専門職としての支援と実際の取り組みについて学びます。 ・関係機関と連携した支援について理解します。 ・事例を通して子どもそれぞれの課題や家庭を支えることについて考えます。 ・課題を隠し、家庭支援に関する基本的知識、応用的知識に対する理解度を確認します。 		
第10回	マルトリートメント、病児、障がい、外国籍等に関する支援(pp. 107~119) <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭のさまざまな形について学びます。 ・マルトリートメント、病児、障がい、外国籍等に関する支援について学びます。 ・ひとり親家庭、新たな親子関係をつくる家庭への支援について学びます。 	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する該当する部分(pp. 157~171)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第11回	さまざまな児童福祉施設でおこなわれる支援(pp. 157~171) <ul style="list-style-type: none"> ・不適切な養育環境の子どもやその家庭における支援について学びます。 ・代替養育の理解と家庭への支援について学びます。 ・母子生活支援施設、乳児院、児童養護施設における支援・保護者を支援する保育者のあり方について考えます。 	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分(pp. 120~144)を通読する。	4時間
第12回	保護者の多様性を理解(pp. 120~144) <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の多様性について学びます。 ・「共感」「受容」「傾聴」について理解し、支援について学びます。 	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する資料(授業時に配付)を通読し、自学として資料プリントに調べたことを書き込む。	4時間
第13回	子どもの貧困の理解と家庭への支援(配付プリント) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困について学びます。 ・子どもの貧困問題における支援を理解します。 	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する該当する部分(pp. 172~185)を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第14回	子ども家庭支援の課題と展望(pp. 172~185) <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭支援における取組みの推移について学びます。 ・小学校等との連携、課題と展望について考えます。 ・今までの授業のまとめ振り返りを行います。 	学修成果物を完成させる。子ども家庭支援に関しての理解度の確認を行いながら目標達成度、自己評価を行っておくこと(指定用紙あり)。本科目について振り返りを行い、定期試験準備をする。	4時間

授業科目名	子ども家庭支援論				
担当教員名	平田 朋子				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	児童養護施設で22年、スクールソーシャルワーカーとして7年、ファミリーホームの養育者として4年の実務経験がある。施設においては子どもの日常生活支援、家族に対する家族支援、里親に対する里親支援などを行った。またスクールソーシャルワーカーとしては子どもや家庭など環境に働きかける支援を行っている。（全14回）				

解放科目的指示：「可・不可」

授業概要

本科目は、子どもが生活する基本的な場である家庭を理解し、家族の福祉を保障することで、その子どもの保育をより充実したものにする目的であります。保育士の業務としては、乳幼児の保育に加え、家庭全体を支援する必要性が増しており、保育士の役割の一つとして保育所保育指針では、保護者支援をあげています。本授業では保育士が子どもおよび家族を支援していくことの基本的・理論的枠組みを理解するとともに、家庭支援の多様な施策や支援活動を事例に基づきながら学習します。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

子育て家庭を支援するための専門知識及び技能の習得。

目標：

子育て家庭を取り巻く状況について、種々の情報を集め、問題の背景にある事象を明らかにすることができます。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

子育て支援の実践力をつける。

子育て不安や子育て疲労を引き起こす「育児の孤立化」を防ぐために子育て支援活動を行うことができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

子育て家庭の抱えている問題について、現状を客観的に把握することができる。

- 2. DP8. 意思疎通

子育て支援活動に関して、他者の意見を尊重したうえで、自分の意見を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準****授業内課題**

： 保育士が行う「家庭支援」の知識・技能に関する問題を授業内課題として課し、評価する。

20 %

振り返りシート

： ループリックに基づいて、振り返りシートを1~3点で評価する。

30 %

受講状況

： 各回授業への積極的参加(発表や質問等は加点)や授業態度(私語、携帯電話の操作、居眠り等は減点)をループリックを基に、総合的に評価する。

30 %

課題レポート

： 保育士がおこなう「家庭支援」の知識・技能に関する問題及び支援に関する考察について評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
才村純・芝野松次郎・新川泰弘 編著	・子ども家庭支援・子育て支援入門	・ミネルヴァ書房	・2021 年

参考文献等

適宜文献の紹介および資料等配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 教室

備考・注意事項： 授業時間の前後に質問等に応じます。
必要に応じて、メールに連絡ください。ただしメールで返信できないこともありますので、その際は対面授業時の対応になります。
連絡先：hirata-to@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画

授業回数	授業題目	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	子どもの育ちと子ども家庭支援・子育て支援の必要性	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 4~10)を通読し、子ども家庭支援・子育て支援の意義と役割について調べる。	4時間
第2回	子ども家庭支援・子育て支援の意義と役割	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 11~23)を通読し、少子高齢社会と子育て家庭をめぐる問題について調べる。	4時間
第3回	少子高齢社会と子育て家庭をめぐる問題	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 24~37)を通読し、子育て家庭に対する支援の実施体制について調べる。	4時間
第4回	子育て家庭に対する支援の実施体制	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 38~49)を通読し、次世代育成支援と施策について調べる。	4時間
第5回	次世代育成支援の推進と子ども家庭支援・子育て支援施策	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 50~60)を通読し、保育者による子ども家庭支援の意義などについて調べる。	4時間
第6回	保育者による子ども家庭支援の意義と基本	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 61~68)を通読し、保育士に求められる基本的態度について調べる。	4時間
第7回	保育士に求められる基本的態度	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 69~81)を通読し、保育士による子ども家庭支援の展開過程について調べる。	4時間
第8回	保育士による子ども家庭支援の展開過程	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 82~92)を通読し、保育士の連携・協働について調べる。	4時間
第9回	保育士による職員間・関係機関・専門職の連携・協働	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 93~106)を通読し、保育士による子育て支援の特性などについて調べる。	4時間

第10回	保育士による子育て支援の特性と展開	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 107~130)を通読し、保育環境・送迎場面を活用した子育て支援について調べる。	4時間
第11回	保育環境を活用した子育て支援・送迎場面を活用した子育て支援	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 131~156)を通読し、伝達手段、保育体験活動を活用した子育て支援について調べる。	4時間
第12回	さまざまな伝達手段を活用した子育て支援・さまざまな保育体験活動を活用した子育て支援	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 157~171)を通読し、児童福祉施設でおこなわれる子育て支援について調べる。	4時間
第13回	さまざまな児童福祉施設でおこなわれる子育て支援	授業内容の振り返り。次回の講義に該当する部分(pp. 172~185)を通読し、子ども家庭支援・子育て支援の課題などについて調べる。	4時間
第14回	子ども家庭支援・子育て支援の課題と展望	テキスト、配布資料等の見直し。授業内容を全般的に振り返る。	4時間

授業科目名	子どもの文化				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目的指示：「不可」

授業概要

近年、大人たちにとっての絵本の効用も取り上げられるようになりました。
 本講座では、子ども文化の一つである絵本・童話の物語世界を読み解いていきます。子どもたちと保育者をつなぐ媒介（素材）としてのみ捉えるのではなく、（大人読み）の作業を通して、保育者を目指すあなたの自身もまた絵本や童話の世界を楽しみ、味わえるようになってほしいと考えています。
 作品読解の仕方を軸に据えつつ、読み聞かせ技術や作品選定の方法、選んだ作品のプレゼンテーションなど、保育現場での実践へつながる事柄も学修します。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

絵本・童話の特徴・形式について理解すること、読み聞かせの技法について再確認すること、対象作品を正しく読み解すこと。

目標：

絵本・童話の物語世界を文字情報・絵画情報を手がかりに正しく読み取ることができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

作品世界の理解について討議して共有し合うこと、正しく伝達・表現しうる適切な演出を選定すること。

絵本の物語世界を理解した上で、聞き手を意識した読み聞かせを行うことができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

対象を正しく理解した上で、そこに内包される課題を見出すことができる。

- 2. DP6. 行動・実践

理解した対象について、適切な形で伝達・表現することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

絵本紹介プレゼンテーション : 事前準備（スライド作成）10%、プレゼンテーション10%とします。

20 %

振り返りメモ、読み聞かせ評価票

: 各回に提出する振り返りメモ、読み聞かせ評価票の記述により、よく理解できている=3点、概ね理解できている=2~1点とします。

40 %

受講態度

: 各回の授業への参加態度（発言・グループ討議）、課題への取り組み姿勢、授業資料の整理状況（ファイル提出）により、評価します。

10 %

最終課題（定期試験）

: 論題に対する理解と、記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかる減点項目については、講義時に提示。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊短期大学国文学研究室（編 ）	・『物語・教材分析と創作』 第10集	・ 太陽書房	・ 2023 年

参考文献等

参考文献は、授業時に、適宜、紹介する。
なお、14回の全体的な授業構成は基本的に動かないが、事例として扱う絵本は最新情報を照会しつつ変更する場合のあることをご承知おきいただきたい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 4限

場所： 西館（図書館横）5階研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 絵本を〈大人読み〉するということ	次時の演習に備え、絵本『どろんこハリー』の読み聞かせ練習を繰り返し行う。	1時間
第2回 絵本分析の方法 一絵が紡ぎだす物語を読む—	次時の演習に備え、絵本『花いっぱいになあれ』の読み聞かせ練習を繰り返し行う。	1時間
第3回 基礎編①／絵本『花いっぱいになあれ』を読み解く	次時の演習に備え、絵本『こわれた1000のがつき』の読み聞かせ練習を繰り返し行う。	1時間
第4回 基礎編②／絵本『こわれた1000のがつき』を読み解く	次時の演習に備え、絵本『にやーご』の読み聞かせ練習を繰り返し行う。	1時間
第5回 基礎編③／絵本『にやーご』を読み解く	次時の演習に備え、絵本『ラチとらいおん』の読み聞かせ練習を繰り返し行う。	1時間
第6回 基礎編④／絵本『ラチとらいおん』を読み解く	次時の演習に備え、絵本『わすれられないおくりもの』の読み聞かせ練習を繰り返し行う。	1時間
第7回 〈大人読み〉応用編①／絵本『わすれられないおくりもの』の作品世界	次時の演習に備え、絵本『おにたのぼうし』の読み聞かせ練習を繰り返し行う。	1時間
第8回 〈大人読み〉応用編②／絵本『おにたのぼうし』の作品世界	次時の演習に備え、絵本『ハリネズミと金貨』の読み聞かせ練習を繰り返し行う。	1時間

第9回	〈大人読み〉応用編③／絵本『ハリネズミと金貨』の作品世界 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『ハリネズミと金貨』の物語世界に描かれた《仕掛け》と《謎》を捉えていきます。 ※絵本『ハリネズミと金貨』読み聞かせ演習	次の演習に備え、絵本『はちうえはぼくにまかせて』の読み聞かせ練習を繰り返し行う。	1時間
第10回	課題編①／絵本『はちうえはぼくにまかせて』をどう読み解くか ワークシートを用いて、文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『はちうえはぼくにまかせて』の読解に取り組みます。（グループ討論） ※絵本『はちうえはぼくにまかせて』読み聞かせ演習	次の演習に備え、お薦めの絵本を各自1冊選書し、繰り返し読み込んでおく。	1時間
第11回	課題編②／絵本紹介プレゼンテーションの準備作業 各自が持ち寄った絵本について、作品世界の読解を行いつづプレゼンテーション用スライド作成の準備作業を行う。	次の実演に備え、各自で絵本紹介プレゼンの練習を繰り返し行う。	1時間
第12回	課題編③／絵本紹介プレゼンテーション（1）3歳児対象絵本 担当者による絵本紹介プレゼンテーションの実演を行う。聞き手はそれぞれのプレゼンに対する審査・評価票を記入する。	次の実演に備え、グループでの絵本読み聞かせ練習を繰り返し行う。本時に読み聞かせを終えたグループは、反省レポートを各自で執筆する。	1時間
第13回	課題編④／絵本紹介プレゼンテーション（2）4～5歳児対象絵本 担当者による絵本紹介プレゼンテーションの実演を行う。聞き手はそれぞれのプレゼンに対する審査・評価票を記入する。	次の討議に備え、これまでの講義内容について、各自で振り返りしておく。本時に読み聞かせを終えたグループは、反省レポートを各自で執筆する。	1時間
第14回	〈大人読み〉と〈子ども読み〉のはざまで—選書の仕方、お話し会の企画・構成について— 絵本に対する大人の反応や読解と、子どもの反応や読解との差異について改めて確認するとともに、子どもたちにどのような形で絵本・童話を提供していくべきか考察・討議を行う。	最終課題（定期試験）に向け、これまでの本講座の学びを振り返る。試験の範囲等については、本時の講義において指示する。	1時間

授業科目名	子どもの文化				
担当教員名	浅野 法子・小澤 佐季子				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小澤・浅野：幼稚園での文庫活動に関する実務経験があります。（全14回）浅野：小学校図書館、児童文学館での読書活動に関する実務経験があります。（全14回）				

開放科目的指示：「可」

授業概要

本科目では、児童文化を伝承する意義を理解し、児童文化財（絵本、紙芝居など）について学ぶ。子どもの周辺文化のなかでも、絵本、紙芝居、昔話などに関して知識を深め、保育現場で実践する上での留意点、子どもたちへの伝達の実際について学ぶ。また、絵本、紙芝居、お話、わらべうたなどの実演実習をすることにより、保育の現場で実践するうえでの技術を身につける。多くの絵本や昔話にふれることによって、作品選択の基礎を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 児童文化に関する知識と実践力

目標：

絵本やお話を学び、保育の現場で実践する技術を身につけることができる。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践

幼児とお話を結びつける方法を学ぶことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実技	： 内訳は、絵本の読み聞かせ10%、紙芝居の実演実習5%、おはなしの実演実習10%。独自のループリックに基づいて評価します。
提出物（ワークシート）	： 内訳は、「絵本の読み聞かせ」、「お話の実演」、「子どもの頃の遊び調査」、各5%。
提出物（メモ）	： 毎回の授業で振り返りメモを提出する。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2-3ポイント、理解不足は1ポイント。
受講態度	： 授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価する。
期末試験	： まとめのテスト課題。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 浅野：水曜3限、小澤：授業の前後

場所： 小澤：授業の教室 浅野：研究室（西館5階）

備考・注意事項： 浅野：場所は研究室（西館5階）。授業の前後にも質問に応じます。
小澤：授業の前後、メール（sakikoo2004@yahoo.co.jp）でも質問を受け付けます。

授業計画

授業回	授業ガイドンスー児童文化という言葉の範疇	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
			1時間
第1回	児童文化とは何か 子どもの頃の遊びについて語り合い、子どもの周辺文化について考えます。	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 4-10）の部分を通読。	1時間
第2回	絵本 1 絵本とは 絵本とは何か。思い出の絵本について 絵本の読みきかせの仕方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 11-12）の部分を通読。絵本の読み方実習の練習をする。	1時間
第3回	絵本 2 ものがたり絵本について ものがたり絵本、昔話絵本などについて考えます。 *絵本の読み方実習	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 13-14）の部分を通読。絵本の読み方実習の練習をする。	1時間
第4回	絵本 3 科学・知識絵本等 科学・知識絵本、しきけ絵本など、絵本の多様性に触れます。 *絵本の読み方実習	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 15-16）の部分を通読。絵本の読み方実習の練習をする。	1時間
第5回	絵本 4 絵本の歴史について 絵本の歴史、絵本研究の方法について学びます。 *絵本の読み方実習	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（p. 17）の部分を通読。絵本の読み方実習の練習をする。	1時間
第6回	紙芝居 1 紙芝居とは 紙芝居とは何か、その歴史について 紙芝居の演じ方を学びます。 *紙芝居の実演実習	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 18-19）の部分を通読。	1時間
第7回	紙芝居 2 紙芝居のいろいろ 様々な紙芝居の多様性に触れます。 *紙芝居の実演実習	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 20-21）の部分を通読。	1時間
第8回	昔話 1 昔話とは 昔話とはなにか。 昔話の構成や特徴をしり、現代に伝承する意味について考えます。 お話（素話）の覚え方や語り方について、お話の実習・実演するお話を選ぶ時間をとります。	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 22-23）の部分を通読。	1時間
第9回	昔話 2 語り方のいろいろ 語り部の語る昔話を聴きます。 *お話の実習・実演	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 22-25）の部分を通読。素話の練習をする。	1時間
第10回	昔話 3 日本の昔話 さまざまな昔話に触れ、その特徴について考えます。 *お話の実習・実演	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（p. 23）の部分を通読。素話の練習をする。	1時間
第11回	昔話 4 世界の昔話 振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（p. 24）の部分を通読。素話の練習をする。	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（p. 24）の部分を通読。素話の練習をする。	1時間

さまざまな昔話に触れ、その特徴について考えます。 *お話の実習・実演			
第12回	昔話 5 幼児と昔話	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト (p. 25) の部分を通読。素話の練習をする。	1時間
	昔話を保育現場で用いることについて、 昔話絵本・童話絵本について、 子ども読者を意識したお話の選び方について考えます。 *お話の実習・実演		
第13回	子どもの遊びとわらべうた	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト (pp. 29-32) の部分を通読。	1時間
	子どもの遊びの意味について わらべ歌遊びについて学びます。		
第14回	まとめと振り返り	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト (pp. 26-28) の部分を通読。	1時間
	現在の児童文化と子どもを取り巻く状況について考えます。		

授業科目名	器楽Ⅱ				
担当教員名	泉 敦子・鷹 真佑子・八田 京子・和泉 真子・岩本 千佳子・宇治田 仁美・馬野 政子・大守 由紀・柿原 宗雅・川西 理恵子・長尾 有子・宮崎 真理子・矢吹 直美				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員全員が実務経験を有する。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員、民間音楽教室・大学付属音楽教室、幼稚園、保育園等の音楽講師として勤務。(全28回)				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

保育現場において、音楽は子どもの情操教育に大切なものの一つです。美しい調べや心弾む音と触れ合う中で豊かな心が育まれます。毎日の生活の歌や手遊びうた、リズム体操、園の行事、その全てにピアノ演奏が必要となります。この授業では保育者として必要な読譜力、テクニック、表現力を身に付けることを目指します。

①教則本（バイエル、ブルックミュラー等）の学習を通してピアノの基本的な演奏技術を習得します。
 ②保育の場で必要とされる弾き歌い曲を学び、実習に備えます。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容

- 保育者、教育者にとって必要な音楽の知識（ピアノスキル、歌唱）
- ①音楽的な素晴らしい演奏ができるピアノスキルを身につける
 ②歌詞の内容を理解し、叙情的な歌唱演奏ができる

目標：

- 情操教育を行う上で必要となる音楽の知識を理解することができる
 「子どもが大好きなうたの本」を50曲マスターすることができる

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP4. 課題発見

- 自主的な練習を継続することにより、ピアノスキル等を高めることができる
 実習等で現場を経験し、必要とされている音楽知識やピアノスキルを発見できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とする。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

前期発表会	: ピアノ演奏スキル習熟度について、ループリックに基づいて評価する。
後期発表会	: ピアノ演奏スキル習熟度について、ループリックに基づいて評価する。
弾き歌いテスト	: 弹き歌い演奏スキル習熟度について、ループリックに基づいて評価する。
受講態度	: 各回授業において発表などの積極的参加や授業態度（忘れ物や遅刻は減点）を総合的に10点満点で評価する。
定期試験（レポート）	: 保育者として必要となる演奏技術レベルを理解しているかをループリックに基づいて評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ Seikei · Piano	・	年
	・ ブルクミュラー25の練習曲 op. 100	・	年
	・ こどもが大好きなうたの本	・	年

参考文献等

- 日本童謡唱歌全集（ドレミ楽譜出版社）
- 明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌（音楽之友社）
- 手あそび歌あそび（新星出版社）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
ピアノ技術の修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分以上の自主練習を行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3・4限、木曜2限

場所： 音楽教育センター（西館6階）

備考・注意事項： 上記時間以外でも、随時対応。

授業計画

回数	授業題目	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
			時間
第1回	オリエンテーション、器楽Iの復習	基本の楽典を復習する。ピアノ・弾き歌いを自己練習する。	1時間
第2回	ピアノ実技個人指導：フレーズについて	ピアノ（～長調の楽曲）・弾き歌いを自己練習する。	1時間
第3回	ピアノ実技個人指導：実習に向けて弾き歌い曲の練習（1）基礎	ピアノ・実習園からの課題曲を自己練習する。8分の3拍子を復習する。	1時間
第4回	ピアノ実技個人指導：実習に向けて弾き歌い曲の練習（2）応用	ピアノ・リズム打ち（複付点四分音符）・実習園からの課題曲を自己練習する。	1時間
第5回	ピアノ実技個人指導：実習に向けて弾き歌い曲の練習（3）発展	ピアノ・半音階・実習園からの課題曲を自己練習する。	1時間
第6回	ピアノ実技個人指導：実習のふり返り	実習中に修得した曲を復習する。ピアノ・弾き歌いを自己練習する。	1時間
第7回	ピアノ実技個人指導：装飾音符について	ピアノ・弾き歌い・装飾音符を自己練習する。	1時間
第8回	ピアノ実技個人指導：重音（3度）について	ピアノ・弾き歌い・重音を自己練習する。	1時間
第9回	ピアノ実技個人指導：持続音の弾き方について	ピアノ・弾き歌い・持続音・曲想に合った表現を自己練習する。	1時間
第10回	ピアノ実技個人指導：前期発表会曲を選曲	前期発表会の曲を分析、考察する。ピアノ・弾き歌いを自己練習する。	1時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルクミュラー25の練習曲より各自選択 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第11回	ピアノ実技個人指導：前期発表会の曲目解説	前期発表会の曲・弾き歌いを自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・前期発表会に向けて発表曲の練習 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第12回	ピアノ実技個人指導：前期発表会曲の分析	前期発表会の曲の完成度を高める。弾き歌いを自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・前期発表会に向けて発表曲の練習 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第13回	前期発表会	前期発表会を振り返り、課題を見出す。ピアノ・弾き歌いを自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に学習した成果を人前で発表する ・技術、音楽性の観点で評価する 		
第14回	ピアノ実技個人指導：32分音符について	ピアノ・弾き歌い・リズム打ち（32分音符）を自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルクミュラー1～8番より各自選択 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ ・ピアノカリキュラム表の確認 		
第15回	ピアノ実技個人指導：連打について	ピアノ・弾き歌い・連打を自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルクミュラー9～18番より各自選択 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第16回	ピアノ実技個人指導：転調について	ピアノ・弾き歌いを転調を意識して自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルクミュラー9～18番より各自選択 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第17回	ピアノ実技個人指導：弾き歌いテスト発表曲の選定	弾き歌いテスト曲の歌詞の理解を深める。ピアノを自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルクミュラー9～18番より各自選択 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より弾き歌いテスト発表曲を選定する 		
第18回	ピアノ実技個人指導：片手で2声の弾き分けについて	弾き歌いテスト曲・ピアノの自己練習をする。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルクミュラー9～18番より各自選択 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第19回	弾き歌いテスト	弾き歌いテストを振り返り、課題を見出す。ピアノを自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの歌の弾き歌い曲を演奏する ・歌唱力、ピアノ演奏力の観点で評価する 		
第20回	ピアノ実技個人指導：ペダル奏法について	ピアノ・弾き歌い・ペダルを自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルクミュラー9～18番より各自選択 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第21回	ピアノ実技個人指導：効果的なダイナミック（強弱）の付け方について	ピアノ・弾き歌いを強弱を意識して自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルクミュラー19～25番より各自選択 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第22回	ピアノ実技個人指導：腕の交差について	ピアノ・弾き歌い・腕の交差を自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルクミュラー19～25番より各自選択 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第23回	ピアノ実技個人指導：後期発表会曲の選曲	後期発表会の曲を分析、考察する。弾き歌いを自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・和声の変化について学ぶ ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第24回	ピアノ実技個人指導：後期発表会についての曲目解説	後期発表会の曲・弾き歌いを自己練習する。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・後期発表会に向けて発表曲の練習 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第25回	ピアノ実技個人指導：曲のまとめ方について	後期発表会の曲の完成度を高める。弾き歌いを自己練習する。	1時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・後期発表会へ向けて発表曲の練習 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 		
第26回	後期発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・各レッスン担当教員グループ内で発表曲を演奏する ・発表後に学生同士、客観的な視点をもって感想を述べる 	後期発表会の自身の演奏を振り返る。弾き歌いを自己練習する。	1時間
第27回	ピアノ実技個人指導：速いパッセージの練習方法について <ul style="list-style-type: none"> ・ブルクミュラー19～25番より各自選択 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ 	ピアノ・弾き歌い・速いパッセージを自己練習する。	1時間
第28回	ピアノ実技個人指導：曲にふさわしいテンポについて <ul style="list-style-type: none"> ・ブルクミュラー19～25番より各自選択 ・初見視奏 ・「こどもが大好きなうたの本」より個人の技量に適した曲を選ぶ ・グレード表の確認 	ピアノ・弾き歌いを曲にふさわしいテンポを意識して自己練習する。	1時間

授業科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)				
担当教員名	園田 育代・榎原 志保・加戸 敬子・塩田 桃子・沼田 恵太郎・松元 早苗・紺谷 武・須河内 優子・細畠 昌大				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	9名の教員のうち7名が実務経験あり。幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校の教員、保育士、幼稚園の実技指導経験者9名。子ども・保護者対象のカウンセリング経験者1名。実務経験者の担当回：全14回				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本科目は、幼稚園教諭免許及び保育士資格を取得するにあたって、教育・保育の専門職業人の育成を目的とするものです。すなわち教育・保育現場における①使命感や責任感②社会性や対人関係能力③幼児・子ども及び保護者理解④教育・保育内容の指導力を実践的に習得するものです。現場で必要とされる保育やICTの知識・技術を再確認し、実践力を身につけます。したがって、授業は演習形式で、学生が積極的・主体的に活動することが前提となっております。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP3. 専門の知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

- 教育・保育の専門職業人として必要な専門的知識や技能の修得

目標：

- 教育者・保育者としての①使命感や責任感②社会性や対人関係能力③幼児・子ども及び保護者理解④教育・保育内容の指導力を身につけ発揮することができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP9. 役割理解・連携行動

教育・保育現場における課題を発見し、改善方法を考えることができる

教育者・保育者としての役割を自覚し、他者と連携しながら課題解決に向けての行動をとることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。指定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

第1回から第8回の演習の評価

： 授業内容の理解度及び考察の度合い、授業への積極的参加（発表、自主的な発言等）、不適切な授業態度の有無について、独自のループリックに基づき各回5段階で評価を行う。

40 %

第10回から第13回の保育実践に関する演習4回分の評価

： 指導案作成や模擬授業への取組、演習への積極的参加、不適切な授業態度の有無について、独自のループリックに基づき、総合的に評価する。

20 %

外部講師の講演についてのレポート

： 講演内容を理解し、学んだことを適切に記述できているかについて独自のループリックに基づき評価する。

自己の学修状況・課題の省察	: 「教職履修カルテ」等に基づき自己の学修状況や課題について省察することができているかについて評価する。(第1回・第14回の課題の取り組みを評価)
期末レポート	: 「教職履修カルテ」の最終まとめ部分。教職実践演習およびこれまでの学び全体を振り返り、己の課題について明確化できているかについて、独自のループリックに基づき評価する。
	20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
寺田恭子・榎原志保・高橋一夫	・保育・教職実践演習 わたしを見つめ、求められる保育者になるために	・ミネルヴァ書房	・2017年

参考文献等

幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保育連携型認定こども園教育・保育要領

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： グループごとに指定された時間
 場所： グループごとに指定された場所
 備考・注意事項： 各グループの担当教員が対応します。グループごとの指定時間・場所については初回授業前に指示します。

授業計画

第1回	これまでの学修の振り返り／保育者としての使命と責任	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
	1. これまで学科で学んできた内容について「教職履修カルテ」をもとに振り返り、自身の課題を明確にする。子どもへの尊敬と愛情のまなざしをもった専門職業人としてのあり方を考察する。「保育・教職実践演習」の意義・授業の進め方などについて理解する。 2. 子どもの権利と保育を護る社会意識について理解する。教育法規・福祉関係法規に関する演習を行う。	テキストを読み、これまでの学修を振り返る。関連資料を基に、理解を深める。関連法規の復習をする。	4時間
第2回	保育者としての社会性・対人関係	関連資料を基に、理解を深める。自身の社会性・対人関係能力上の課題を理解する。	4時間
第3回	安全管理・事故対応	乳幼児の発達や安全管理などを配慮した環境構成図を作成する	4時間
第4回	保幼小の連携	関連資料を基に、理解を深める。保幼小の連携について先進事例を調べる。	4時間
第5回	子ども理解の方法と発達支援	関連資料を基に、理解を深める。学んだスキルを実践で発揮してみる。	4時間
第6回	葛藤場面に応じた指導と集団づくり	現場においてどのような葛藤場面が生じうるか考え、関わる方を検討する。	4時間
第7回	子どもの多様性に寄りそう	特別支援に関連したさまざまな事例を読み理解を深める	4時間
第8回	保護者と子育てを共有する関係性	保護者対応についてさまざまな事例を読み理解を深める	4時間
第9回	現場の実践に学ぶ（外部講師による講演会）	講演を通して学んだことをレポートする	4時間

	外部講師を招き、教育・保育現場での実践を学び、専門職業人としてのあり方を理解する。		
第10回	実習での設定保育の振り返り これまでの実習で行った設定保育について振り返り、指導案の改善点等について検討する。	実習記録等をもとに自身の設定保育について振り返る	4時間
第11回	指導計画の立案 保育指導案を作成し、ディスカッションを行う。	保育指導案の構想を練る	4時間
第12回	模擬保育① 実践的協同学習 模擬保育やICTを活用したグループワークを行い、グループディスカッションを行う。	模擬保育を行うための準備を行う	4時間
第13回	模擬保育② 課題の発見 模擬保育やICTを活用したグループワークを行い、グループディスカッションを行う。「教職履修カルテ」などをもとに、これまでの演習を振り返り、自分の課題を確認する。	模擬保育を通じた振り返りにより、自己の課題について考察する	4時間
第14回	学修のまとめ これまでの演習および2年間の学びを「教職履修カルテ」などを通して振り返り、自己の課題を明確にする。今後に向けてどのようにしていくべきかについて検討する。	「教職履修カルテ」を用いた振り返りを通して自己の課題について考察し、レポートにまとめる。	4時間

授業科目名	子どもの理解と援助				
担当教員名	沼田 恵太郎・岡島 泰三・宮秋 多香子				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	沼田：教育機関で教員として勤務（全14回） 岡島：教育・福祉機関で相談員として勤務（全14回） 宮秋：教育機関で相談員として勤務（全14回）				

開放科目的指示「不可」

授業概要

本演習は、1回生前期に開講される「教育心理学」を受講し、人間の発達に関する心理学的知識をあらかじめ有している状態を念頭に置いて組み立てられています。幼児教育における学びとは、生活や遊びを通しての学びです。この授業では、生活や遊びを通して、子どもたちの個々の発達の姿を把握する観察力と、適切な発達援助を行う実践力を培うことを目的とします。また、保育者間の協働、保護者との連携、保幼小連携など、現代の保育課題についても理解を深めていきます。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

- 子どもの発達の姿を理解し、適切な発達援助を実践できる力を身につける。

目標：

子どもの発達や保育の中での人間関係などを心理的に理解し、気持ちに沿った援助を考えることができる。

汎用的な力

- 1. DP9. 役割理解・連携行動

自らの役割を認識し、他者に適切に働きかけて良好な人間関係を築くことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準****期末レポート**

： 生活や遊びを通して、子どもたちの個々の発達の姿を把握する観察力と、適切な発達援助を行う実践力を身につけることができたかどうか。独自のループリックにもとづき、評価します。

10 %

小テスト・確認テスト

： 心理学の専門的知識の定着度と理解度を、客観テストによって確認します。

70 %

授業内での学習状況

： 独自のループリックにもとづき、授業内課題の達成度、学習態度などを評価します。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
藤崎亜由子・羽野ゆつ子・渋谷郁子 ・網谷綾香	・ あなたと生きる発達心理学 ：子どもの世界を発見する 保育のおもしろさを求めて	・ ナカニシヤ出版	・ 2019 年

参考文献等

- 参考文献は授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 沼田(初回授業に開示します), 岡島・宮秋(授業前後)

場所： 沼田(中央館4F 第5研究室)

備考・注意事項： 岡島・宮秋(非常勤)は、授業の前後に質問を受けつけます。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	心理学による子ども理解 保育実践において、心理学的観点から子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。	これまでの心理学の学びがどの程度身についているか、小テストを行う。	2時間
第2回	子どもに対する共感的理解 子どもの気持ちを受容的に受け止め、肯定的配慮を行って自己実現を促す関わりを理解する。	子どもに向かい合う時に具体的にどんな点に気をつければよいかを考える。	2時間
第3回	子どもの生活と学び 子どもの一日の生活・一年の生活について見通す。基本的生活習慣が発達に及ぼす影響を知る。	季節に合わせた年間行事とその意味をまとめる。	2時間
第4回	子どもの遊びと学び 子どもたちの遊びの発達について理解する。遊びを通した学びの意義と遊びの環境について考える。	子どもの遊びの種類や特徴をまとめる。	2時間
第5回	子ども集団と仲間の発達 仲間関係や自己主張と自己抑制の発達について理解する。仲間関係を育む環境整備や保育的関わりについて考える。	仲間とはどんな存在か、これまでの経験を振り返って考える。	2時間
第6回	子どもの主体性を引き出す保育環境 発達の最近接領域を復習し、子どもの主体的な学びを引き出す関わりについて考える。	自分自身がやる気がわく・わからない場面を整理する。	2時間
第7回	環境としての保育者 保育者が子どもに与える影響を知り、子どもの糧になる関わりを考える。	現在の自分を振り返り、今から気を付けていくべきことをまとめる。	2時間
第8回	葛藤やつまずきを乗り越える力 子どものストレスの生じ方やストレス反応について理解する。レジリエンスを高める関わりやソーシャルサポートを考える。	自分自身の日頃のストレスマネジメントを振り返る。	2時間
第9回	個人差や発達課題に応じた援助 発達の個人差について理解する、個別のニーズに応じた支援を考える。	これまで出会った事例に即し、具体的な支援方法を考える。	2時間
第10回	子ども理解の方法(1)：観察と記録 子どもを観察する視点を整理し、要点を書きとる方法を学ぶ。	日常の生活の中で誰かを観察して記録をとる練習を行う。	2時間
第11回	子ども理解の方法(2)：省察と評価 子どもとの関わりを省察し、子どもの発達や自分の保育を評価する方法を学ぶ。	自分の自己評価の特徴をまとめる。	2時間
第12回	発達援助における協働(1)：保護者、保育者との情報共有の実際 保護者や保育者間での情報共有の実際を知り、協働の重要性を理解する。	保育カンファレンスについて見聞きしたことをまとめる。	2時間
第13回	発達援助における協働(2)：就学に向けた支援、保幼少連携 他職種、他校種との連携の実際を知り、協働の重要性を理解する。	新聞などで保幼小連携の記事をまとめてくる。	2時間
第14回	子育て期の家庭や社会に関する問題 少子化、核家族化、待機児童、貧困、保育料無償化など、子育て期の家庭や社会に関する問題を知る。家庭や社会の問題が子どもの発達に及ぼす影響について考える。	新聞などで家庭に関する問題や保育に関する社会的トピックについて調べてくる。	2時間

授業科目名	子育て支援				
担当教員名	水上 明美・鈴木 大介・向井 秀幸				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	それぞれ小学校で小学校教諭・校長、幼稚園で園長として、また保育所で保育士として勤務。（全7回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

現代の子育て家庭は少子化、地域の人間関係の希薄化、貧困、親の精神疾患等極めて厳しい状況におかれています。また女性の社会進出が期待される半面、家事・育児の負担が女性にかかっていることが多く見られます。そのような中、子育ての課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上をめざす、子どもの保育に関する相談、助言、行動見本を体系的に学びます。特に、子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の展開について具体的に理解し、様々な場や対象に即した子育て支援の内容と実際を理解します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

- 福祉、保育の専門職としての子育て支援についての知識の獲得

- 相談内容に即したサービスの提供

目標：

- 子育て支援の基本や独自性・意義と原則について、概要を説明し解説することができる。

- 相談者のニーズを的確にとらえ、課題解決のためには必要な社会資源に結び付け、子育て支援の内容や方法を検討することができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

- 2. DP9. 役割理解・連携行動

- 相談に来た人の課題を的確に把握し、改善方法を考えることができる。

- 教育者・保育者としての役割を自覚し、他者と連携しながら課題の解決に向けての行動をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題

- : 子育て支援にかかる保育者としての基礎的理解に関する問題及び社会的養護にかかる子どもたちや保護者、家庭への対応技術に関して出題し評価する。

40 %

受講状況（積極的参加・受講態度）

- : 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（私語、携帯電話の操作、居眠り等は減点）を評価する。

40 %

期末レポート

- : 課題に対して取り上げた論点の内容、分析力、独創性、文章表現力などについて評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者

小野敏郎・三浦主博

タイトル

・ 保育実践に求められる子育て支援

出版社

・ ミネルヴァ書房

出版年

・ 2021 年

参考文献等

「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館
 「幼稚園教育要領」文部科学省 フレーベル館
 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 文科科学省 厚生労働省 フレーベル館

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
 場所： 水上第3研究室、鈴木第7研究室、向井第2研究室

授業計画

回数	授業題目	授業外学修課題にかかる目安の時間	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育実践における子育て支援	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分(P18-25)の通読と、保育士の倫理について調べておく。	1時間
第2回	保育者の専門性と倫理	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分(P29-34、P60-73)の通読と、アセスメントという言葉について調べておく。	1時間
第3回	支援のニーズに対する気づき・理解とアセスメント	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分(P35-44)の通読と、バイスティックの7原則について調べておく。	1時間
第4回	相談・助言の基本技術	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分(P91-107、P75-89)の通読と、子育て支援の過程の内容について調べておく。	1時間
第5回	支援の計画・記録・評価・カンファレンス	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分(P110-117)の通読と、子育て支援の専門職として考えつく職種を1つ以上あげ、それについて調べておく。	1時間
第6回	職員間の連携・協働	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分(P110-117)の通読と、子育て支援の専門機関として考えつく機関を1つ以上あげその内容を調べておく。	1時間
第7回	関係機関や専門職との連携・協働	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分(P46-57)の通読と、社会資源という言葉を調べておく。	1時間
第8回	社会資源の活用	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分(P120-130)の通読と、保育所の現状について調べておく。	1時間
第9回	保育所における支援とその実際	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分(P1323-142)の通読と、地域子育て支援という言葉について調べておく。	1時間
第10回	地域の子育て家庭に対する支援とその実際	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分(P145-169)の通読と、様々な障害の特徴について調べておく。	1時間
第11回	障害のある子ども及び家庭に対する支援とその実際	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分(P145-169)の通読と、多様な子どもの生活ニーズについて調べておく。	1時間

第12回	特別な配慮を要する子ども及び家庭に対する支援とその実際	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（172-178）の通読と、母親・父親の子育て不安について調べておく。	1時間
第13回	要保護児童等の家庭に対する支援とその実際	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P179-188、191-206）の通読と、児童虐待の現状および子育て家庭のニーズについてについて調べておく。	1時間
第14回	児童虐待の予防と対応、多様なニーズを抱える子育て家庭に対する支援とその実際	演習シートの作成。これまでの授業全体を振り返り、子育て支援における保育者の役割と課題についてレポートにまとめる。	1時間

授業科目名	在宅保育				
担当教員名	須河内 優子・樋口 奈生				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	それぞれ、保育現場の勤務を有する（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

女性の社会進出、核家族や都市化の進展、出生率の低下等、子どもと家庭を取り巻く環境は時代と共に多様化しており、就労と育児の両方のためには、従来の保育所等の施設保育では対応しきれない保育ニーズが高まっている。さらに、ゆとりのある豊かな家庭生活の実現を支援するためには、各家庭における個々の保育ニーズを理解し、その保育ニーズに対応したきめ細やかなサービスを充実する家庭訪問保育者の高度な専門性が求められる。グループワークや演習を通して、子どもの命を預かる保育者としての責任を自覚するとともに、社会的なニーズの理解と家庭訪問保育の保育技術の習得を目指し、家庭訪問保育の意義と実際についての理解を深めることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

乳幼児の発達、発育の理解に関わる知識、職業理解

目標：

乳幼児に関わる確かな知識、家庭訪問保育の職業理解を身につけることができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

保育実践を構想する力

乳幼児の生活や遊びと家庭在宅保育の方法について具体的に考えることができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

家庭在宅保育を取り巻く社会情勢に关心をもち、論理的に考え課題を明らかにできる。

- 2. DP5. 計画・立案力

乳幼児の発育・発達を踏まえ、家庭在宅保育における計画を具体的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回の授業に出席することを原則とする。
規定回以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内の小テスト・レポート

： 授業内での小テスト・レポートを作成し授業内容の理解度、考察度を評価する。

30 %

授業内の演習・発表、態度

： 保育者となる自覚をもって授業に臨む態度や積極性、演習、発表の内容について評価する。

30 %

期末レポート

： 授業内容を理解し、課題に即した内容で記述できているか評価する。

40 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
公益財団法人全国保育サービス協会 (編)	・「家庭在宅保育の理論と実際 第2版」	・ 中央法規	・ 2020 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は後期2単位の科目である。授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を復習し次回の授業に向けて予習すること。また家庭訪問保育は、施設型の保育と異なる保育の専門性も求められます。なぜ認定ベビーシッター資格を取得したいのか、しっかりと自己課題を向き合い、本科目を履修することを期待します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業前後
場所： 授業教室・研究室
備考・注意事項： 研究室に在席であれば相談して下さい。

授業計画

授業回数	授業題目	授業内容	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
			授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	家庭訪問保育の意義・目的	家庭保育はなぜ必要なのか、意義と目的 家庭訪問保育者としての心得 保育マインドについて 実践演習（お世話）	教科書序章を読む	4時間
第2回	在宅訪問型保育の概要	家庭訪問保育の歴的変化について 在宅訪問型保育の運営基準 実践演習（遊び）	第1回の授業を振り返り、①レポート課題「家庭訪問保育に求められているもの」、保育教材製作	4時間
第3回	家庭訪問保育を行うために必要な基礎知識（生活）	乳幼児の生活と遊び 実践演習（遊び）	第2回の授業の振り返りとともに、教科書第2章を読む、保育教材製作	4時間
第4回	家庭訪問保育を行うために必要な基礎知識（発達）	乳幼児の発達と心理 実践演習（遊び）	第3回の授業の振り返りとともに、教科書第3章を読む、保育教材製作	4時間
第5回	家庭訪問保育を行うために必要な基礎知識（食事）	乳幼児の食事と栄養 実践演習（お世話）	これまでの授業を踏まえ、具体的な家庭訪問保育場面での援助についてまとめる。②レポート課題	4時間
第6回	家庭訪問保育を行うために必要な基礎知識（保健）	小児保健 I・II 事故の予防と対応・心肺蘇生法、緊急時の対応	第5回の授業の振り返りとともに、教科書第5・6章を読む	4時間
第7回	実践演習（遊び）	保育技術（遊び編）製作した保育教材の発表	発表の感想、乳幼児の家庭での遊びについてまとめる。③レポート課題	4時間
第8回	在宅訪問型保育の実際（計画）	在宅訪問保育の保育内容・計画と記録	教科書101~102の演習内容をまとめる。①演習課題	4時間
第9回	在宅訪問型保育の実際（環境）	在宅訪問保育における環境整備・運営	第8回の授業の振り返りとともに、教科書第8・9章を読む	4時間
第10回	在宅訪問型保育の実際（安全）	安全の確保とリスクマネジメント・在宅訪問型保育の職業論理と配慮事項	第9回の授業の振り返りとともに、教科書第10・11章を読む	4時間
第11回	在宅訪問型保育の実際（保護者対応）	在宅訪問型保育における保護者への対応	教科書156~157の演習内容をまとめる。②演習課題	4時間
第12回	在宅訪問型保育の実際（配慮を必要な子どもへの対応）	在宅訪問型保育の実際 子どもの虐待 特別に配慮を要する子どもへの対応	第11回の授業の振り返りとともに、教科書第13・14章を読む	4時間
第13回	実践演習（お世話）	保育技術（お世話編）	第12回の授業の振り返りとともに、教科書第15章を読む	4時間
第14回	一般型家庭訪問保育保育の実践		家庭訪問保育の重要性をこれまでの授業を振り返りまとめる	4時間

授業科目名	保育実習Ⅱ				
担当教員名	向井 秀幸・樋口 奈生				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員が実務経験を有する。保育所において保育士の職に就いていた。				

開放科目的指示「不可」

授業概要

保育士養成科目のすべてを基礎として、それらを統合し、実際に乳幼児や保育者と関わる体験を通して、保育の理論と実践との関係について習熟することを目的とする。保育所や認定こども園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。乳幼児の発達過程を理解し、ふさわしい保育のあり方を習得する。既習の教科や保育実習Ⅰ（保育所）の経験を踏まえ、乳幼児の保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。保育の計画、実践、記録及び自己評価等について実践を通じ習熟する。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容 :

保育者として知識・技能の獲得

目標 :

保育所実習を通して、保育者がどのような職務を具体的に行っているのか、そこでの果たすべき役割や機能は何か等について説明することができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

実践を通して、保育者としての乳幼児の保育力、保育計画立案とその実践力等の養成

大学で学んだ理論を実践の場においていかに具体化・統合化されるかを体験的に学び、専門職への自覚を深めることができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見

乳幼児を取り巻く環境を理解し、子ども一人ひとりにふさわしい保育のあり方を発見することができる。

- 2. DP6. 行動・実践

子ども一人ひとりに適した保育を行い、保育環境を整えることができる。

- 3. DP9. 役割理解・連携行動

保育所や認定こども園の役割と機能を理解するとともに、チームワークの大切さや関係機関・小学校との連携の大切さを実感することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 実験、実技、実習
- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価**注意事項等**

実習は10日間以上、80時間以上の実習時間がなければ実習放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

実習自己課題設定と中間振り返り

: 学生の自己課題の設定および準備、実習に対する取り組みについて10点満点で評価する。

10 %

実習状況

: 遅刻や早退などの状況、提出物の提出状況を10点満点で評価する。

10 %

実習日誌

: 場面観察や個別観察を行い、記録を書くことができているのかを20点満点で評価する。

20 %

実習施設による評価

: 実習先からの評価を40点満点に換算して評価する。

40 %

実習報告

: 実習の振り返りおよびそのレポートを20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・平成29年告示「保育所保育指針」 厚生労働省
- ・平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府 文部科学省 厚生労働省
- ・「実習指導ハンドブック」 大阪成蹊短期大学幼児教育学科
- ・新・基本保育シリーズ⑩保育実習 中央法規 近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子 2019年
- ・0歳～6歳 子どもの発達と保育の本（第2版）Gakken 河原紀子 2018年

履修上の注意・備考・メッセージ

健康に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を成功させるには、毎日の実習終了後、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その日の実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすること。毎日2時間はかかると考えておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 随時受け付けます。実習園別指導教員に何でも相談してください。
実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導IIの授業で案内します。

授業計画

第1回

保育所および認定こども園での実習（2回生8月～9月）

- ・保育実習I（保育所）での学びを活かして、自らの課題をもちながら乳幼児との関わりを深め、保育の基本を理解する。
- ・保育全般に参加する中で保育技術を学び、乳幼児の発達や集団の特徴を踏まえながら、安定した情緒のもとで自発的な活動を行うための環境構成及び援助のあり方を学ぶ。
- ・乳幼児一人ひとりの個性・特徴・発達課題を理解した上で個に応じた援助を実践するとともに、指導計画の立案や活用方法を学び、保育活動を実践する。
- ・家庭や地域との連携を図りながら保育に携わる保育所および認定こども園の実態に触れる。
- ・修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、保育者としての専門性や資質を理解し、自らの保育観をもつようになる。

学修課題

実習記録を記述するとともに、次の日の実習課題、目標等を計画的に準備（毎日2時間以上）すること。

20時間

授業外学修課題にかかる目安の時間

授業科目名	保育実習Ⅲ				
担当教員名	鈴木 大介・中川 陽子				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示「不可」

授業概要

保育士養成科目のすべてを基礎として、それらを統合し、実際に福祉施設で児童や保育士等と関わる体験を通して、保育の理論と実践との関係について習熟することを目的とする。※施設の支援内容と機能を体験的に理解する。※児童に直接関わることを通じ、児童や児童をとりまく環境への理解を深める。※保育士の職務内容や役割を理解する。
施設職員になるための実習にあたるので、これまで学習してきた社会的養護や社会的養護内容、児童家庭福祉などの科目的授業内容を振り返り、利用者の権利擁護のための実際を学ぶ。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 | 福祉施設の職員としての知識・技能の獲得 |
| 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 | 福祉施設職員としての具体的な支援の実施 |

目標:

福祉現場での実習を通して、職員がどのような支援を具体的に行っているのか、施設の果たすべき役割や機能は何か等について説明することができる。

施設利用者に対して、施設が有している機能を活用し、個々の利用者に応じたサービスを提供することができる力量を身につける。

汎用的な力

- | | |
|-------------------|---------------------------------------------------|
| 1. DP4. 課題発見 | 利用者を取り巻く環境を理解し、個々の利用者に合った適切な支援方策を発見することができる。 |
| 2. DP6. 行動・実践 | 個々の利用者に即した支援を具体的に提供することができる。 |
| 3. DP9. 役割理解・連携行動 | 福祉施設の役割と機能を理解するとともに、チームワークの大切さや関係機関との連携の大切さを実感する。 |

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- 実験、実技、実習
- 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- 実習や実技に対して個別にコメントします
- 提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価**注意事項等**

実習は10日間以上、80時間以上の実習時間がなければ実習放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とする。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

実習自己課題設定と中間振り返り

: 学生の自己課題の設定および準備、実習に対する取り組みについて10点満点で評価する。

10 %

実習状況

: 遅刻や早退などの状況、提出物の提出状況を10点満点で評価する。

10 %

実習日誌

: 要点を押さえて実習記録をまとめているかを20点満点で評価する。

20 %

実習施設による評価

: 実習施設からの評価を40点満点に換算して評価する。

40 %

実習報告

: 実習の振り返りおよびそのレポートを20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

基本保育シリーズ⑩ 保育実習 近喰晴子他 2名編著 中央法規出版
 「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科
 より深く理解できる 施設実習 藤京子他 2名著 萌文書林
 幼稚園・保育所・施設 実習ワーク 小林育子他 3名著 萌文書林

履修上の注意・備考・メッセージ

健康に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を成功させるには、毎日の実習終了後、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その日の実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすること。毎日2時間はかかると考えておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2限

場所： 中央館4階 第7研究室

備考・注意事項： 実習園別指導教員に何でも相談してください。
 実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導IIIの授業で案内します。

授業計画

第1回

2回生8月～9月、児童養護施設等の児童福祉施設（通所型・入所型含めて）で10日間の実習

学校で得た教科全体の知識、技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養う。児童や利用者に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。児童養護施設等の児童福祉施設（通所型・入所型含めて）や障害者施設でそれぞれの施設の役割や機能、子どもの養育や利用者への支援及び保護や家庭への支援、児童の自立支援計画、観察、記録及び自己評価などを具体的に理解し、保育士業務や職業倫理について学ぶ。

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

20時間

実習記録を記載するとともに、次の日の実習課題、目標等を計画的に準備（毎日2時間以上）すること。

授業科目名	保育実習指導Ⅱ				
担当教員名	向井 秀幸・樋口 奈生				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員が実務経験を有する。保育所において保育士の職に就いていた。（全14回）				

開放科目的指示「不可」

授業概要

保育実習Ⅰ（保育所）の実践を踏まえ、保育所や認定こども園の保育内容・機能・役割・生活の流れについてさらに理解を深めることをねらいとして授業を行う。子ども理解を深め、子どもの発達過程にふさわしい指導計画の立案及び実践ができる授業内容としている。また、保育実習Ⅱの意義・目的・内容の理解、課題の明確化、子どもの人権と最善の利益の考慮やプライバシーの保護と守秘義務理解できる授業としている。実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 保育者としての知識・技能の習得
- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 専門職としての保育実践力の獲得

目標 :

- 保育者としての知識・技能を習得し、自らの課題や目標を持って実習に臨むことができる。
- 子どもの発達過程にふさわしい保育計画の立案及びそれに基づく実践ができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見 保育所実習での学びを振り返り、自己の課題を省察することができる。
- 2. DP6. 行動・実践 使命感や職責に対する自覚ならびに子どもの立場に立ち、愛情を持って保育を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。
積極的な受講態度であること。提出物の期限を守ること。学習を理解しているとの観点から評価をします。

成績評価の方法・評価の割合

期末レポート

評価の基準

： 14回の授業終了後にレポートの提出をもって試験とする。今までの実習や実習指導を振り返り、保育者としてより専門的な知識や技術および役割について、要点を押さえて記入しているのかを30点満点で評価する。

30 %

課題シート

：遊びの実践における計画や取り組みなどを総合的に20点満点で評価する。

20 %

授業への取り組み状況

：各授業において発表などの積極的参加や授業態度（受講マナーなど）を総合的に15点満点で評価する。

15 %

授業内提出物

：授業内容の理解や考察などが反映されているか、提出物の期限を守っているかなどを総合的に35点満点で評価する。

35 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子	・新・基本保育シリーズ②保育実習	・中央法規	・2019 年

参考文献等

- 平成29年告示「保育所保育指針」 厚生労働省
- 平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府 文部科学省 厚生労働省
- 「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科 河原紀子 0歳～6歳 子どもの発達と保育の本（第2版） Gakken 2018年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
 場所： 中央館4階第2研究室、授業の教室
 備考・注意事項： 保育所実習担当のどの担当教員でも受け付ける。

授業計画

回数	授業題目	授業課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
			1時間
第1回	保育実習Ⅱの意義と目的	教科書第1講の通読、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第2回	年齢に応じた遊びの内容を考える（0歳児）	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P13～16）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P17～20）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第3回	年齢に応じた遊びの内容を実践する（0歳児）	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P13～16）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P17～20）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第4回	年齢に応じた遊びの内容を考える（1歳児）	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P16～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P20～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第5回	年齢に応じた遊びの内容を実践する（1歳児）	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P13～16）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P17～20）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第6回	年齢に応じた遊びの内容を考える（2歳児）	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P16～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P20～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第7回	年齢に応じた遊びの内容を実践する（2歳児）	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P13～16）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P17～20）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第8回	子どもの理解を深め、保育者のかかわり方を学ぶ（0歳児）	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P16～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P20～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第9回	子どもの理解を深め、保育者のかかわり方を学ぶ（1歳児）	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P16～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P20～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第10回	子どもの理解を深め、保育者のかかわり方を学ぶ（2歳児）	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P16～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P20～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間

第11回	子どもの安全管理について	<ul style="list-style-type: none"> 第6、7回の経験とともに、また、DVDを通して2歳児の発達の様子から、2歳児一人ひとりに応じた保育者のかわり方を学ぶ。 	教科書第10講の通読、保育所保育指針の通読（P34）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P36）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第12回	保育実習Ⅱの目的・課題を考える	<ul style="list-style-type: none"> 保育現場における乳幼児の安全管理について学ぶ。 自己の実習目的、課題を明確にする。 	教科書第5講の通読、実習指導ハンドブックの通読（P9）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第13回	保育実習Ⅱの目的・課題の明確化と心構え	<ul style="list-style-type: none"> 第12回で考えた保育実習Ⅱの目的・課題を踏まえ、実習における心構えを確認する。 	教科書第5講の通読、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第14回	保育実習Ⅱの振り返り及び今後の課題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> 保育実習Ⅱの学びを振り返り、保育者としての今後の課題について考える。 	授業内で他者と共有したことからの学んだ内容をまとめる。ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間

授業科目名	保育実習指導Ⅲ				
担当教員名	鈴木 大介・中川 陽子				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目的指示「不可」

授業概要

福祉施設の支援内容・機能・役割・生活の流れなどを理解する。福祉専門職としての知識・技能を修得し、自らの課題を明確にし、実習施設ごとに確かな目標と課題を設定する。また各児童福祉施設について概要及び援助の基本視点、具体的な実践事例について学ぶ。それらを通じて、実習施設における子どもや利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。また実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 福祉の専門職としての知識・技能の習得。
- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 福祉の専門職としての実践力の獲得。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践
- 2. DP8. 意思疎通
- 3. DP9. 役割理解・連携行動

具体的な内容 :**目標 :**

福祉の専門職としての知識・技能の習得し、自らの課題や目標を持って実習に臨むことができる。
現場で子どもや利用者の状況に応じた支援を行うことができる。

使命感や情熱、職責に対する自覚をもって、支援活動を行うことができる。
実習の成果物について、互いに意見を出し合い、理想の保育者像について考えることができる。
グループでの活動を通して、自己の役割を理解し、適切に行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。
積極的な受講態度であること。提出物の期限を守ること。学習を理解していることの観点から評価します。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

期末レポート	:	14回の授業終了後にレポートの提出をもって試験とする。今までの実習や実習指導を振り返り、保育者としてより専門的な知識や技術および役割について、要点を押さえて記入しているかを30点満点で評価する。
授業内課題	:	実習計画書や個人調査票が要点を押さえ、期日内に作成・提出できているかを評価する。。
受講状況	:	各授業において発表などの積極的な参加や授業態度（受講マナー・私語、携帯電話等授業の妨げになる場合は減点）を総合的に15点満点で評価する。
授業内提出物	:	授業内容の理解や考察などが反映されているか、提出物の期限が守れているかどうかなどを総合的に35点満点で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
近喰晴子他 2名編著	・ 基本保育シリーズ② 保育実習	・ 中央法規出版	・ 2019 年

参考文献等

- ・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜 2限

場所： 中央館4階 第7研究室

備考・注意事項： 随時受け付けます。実習園別指導教員に何でも相談してください。
実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導IIIの授業で案内します。

授業計画

回数	授業題目	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
			時間
第1回	施設実習の意義と目的、施設保育士の役割	・ 施設保育士を目指した動機についてまとめる。 ・ 課題シートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第2回	施設種別及び支援内容	・ 自分が実習に行く施設の支援内容及び支援目的についてまとめる。 ・ 課題シートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第3回	施設利用児の理解	・ 各児童福祉施設について、その社会的役割をまとめる。 ・ 課題シートに授業内容をまとめて提出する。	12時間
第4回	施設利用者の理解	・ 成人の福祉施設の社会的役割についてまとめる。 ・ 課題シートに授業内容をまとめて提出する。 第1回～4回の授業内容を復習しておく。	1時間
第5回	実習の目標及び実習計画① 実習計画案の作成	・ 実習計画書の下書きを行う。 ・ 課題シートに授業内容をまとめて提出する。実習計画書の下書きを完成させる。	1時間
第6回	福祉現場における援助の原理	児童福祉施設での実習を振り返り、授業内容を踏まえて課題シートにまとめる。	1時間
第7回	福祉現場における援助の理論	児童福祉施設での実習を振り返り、授業内容を踏まえて課題シートにまとめる。	1時間
第8回	福祉現場における援助の計画	児童福祉施設での実習を振り返り、授業内容を踏まえて課題シートにまとめる。	1時間
第9回	福祉現場における援助の実践と計画	児童福祉施設での実習を振り返り、授業内容を踏まえて課題シートにまとめる。	1時間

第10回	実習の目標および実習計画② 実習計画案の完成 添削指導されたところを修正し、実習計画案を完成させる。	実習計画案を完成させる。	1時間
第11回	個人調査票の作成演習 個人調査票の書き方について学ぶ。 各自個人調査票を作成する。	個人調査票の作成	1時間
第12回	記録の書き方 毎日の目標の立て方および考察の仕方について学ぶ。記録の書き方の形式の確認を行う。	・発表する内容について自分なりに考えてまとめる。 ・課題シートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第13回	個人調査票の完成と実習施設における直前指導 個人調査票の添削指導された所を修正し完成させる。実習における心構えを確認し、実習個別指導教員による事前指導を受ける。	個人調査票の完成 ・課題シートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第14回	保育実習Ⅲの振り返りおよび事後指導 保育実習Ⅲの学びを振り返り、保育者としての今後の課題について考える。	実習個別指導教員による事後指導を受ける。事例検討シートおよび振り返りシートに実習内容や今後の課題についてまとめ提出する。	1時間

授業科目名	こどもと絵本(概論)				
担当教員名	細畠 昌大・小澤 佐季子				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義科目				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼児への絵本を読む実践活動に長年携わり、大学、公民館活動などで講師として絵本の読み聞かせや、絵本の紹介、絵本の選定、絵本の楽しさなど、絵本のもつ魅力の数々を伝える活動を行ってきた。(全14回)				

開放科目的指示：「可・不可」

授業概要

「認定絵本土」に必要な資質・能力を身に付けるために、「絵本とは何か」「絵本の歴史」「視覚表現、言語表現」「幼児の知的・社会的発達と絵本の関係」等を学ぶ。また絵本の体系・ジャンル・メディアとしての絵本の位置づけなど、幼児教育現場での現状や児童文化財としての絵本の役割を理解するとともに、絵本の活用方法などを通じて絵本土としての基礎的な内容を学ぶ。絵本との出会いを学ぶ場面や、絵本の世界を広げる場面では、図書館や書店等において実践経験を持つ方を講師として招聘し、学修を進める。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

絵本に関する幅広い知識

目標：

絵本のもつ意義と機能を理解する。絵本を通して想像する楽しさを広げる児童文化財の意義を絵本のもつ意義と機能を理解するとともに、児童文化財としての絵本の意義を理解する。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

絵本に関する知識・絵本の活用方法

絵本を通して想像する楽しさを広げ、活用に向けてディベート力・企画力を養うことができる。

汎用的な力

- 1. DP5. 計画・立案力

絵本を用いた活動の具体的な取組について理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ棄権とみなして不合格とします。レポート課題などの提出については、指示された期日を厳守してください。期日を過ぎた場合は、受け付けないこともあります。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内での発表等で評価 : 授業内のグループワーキング（こどもと絵本・絵本と出会う・感性を磨く）をもとに、全員を前にしたプレゼン等を評価する。(30点)

30 %

学修課題の提出で評価

: 個別の学修ワークシート（各回の学修テーマに沿った課題設定、学修成果）の記録を評価する。(40点)

40 %

定期試験・小テストの実施

: 定期的に学修成果を確認するための小テスト3回実施（10点）まとめのテスト課題（20点）

30 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
絵本専門士委員会課程認定部会	・認定絵本士養成講座テキスト	・中央法規出版株式会社	・2020 年

参考文献等

全国 大人になっても行きたいわたしの絵本めぐり
人生の1冊の絵本(岩波新書)
新・絵本はこころの処方箋 絵本セラピーってなんだろう? 単行本 岡田 達信 (著)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、認定絵本士養成講座にかかる科目として設定しています。子どもと絵本（概論）科目として実施します。
この養成講座では、他に「子どもの文化」「子どもと絵本」（実践）を受講して認定絵本士の申請ができます。毎回授業に参加し、内容を丁寧に復習するとともに、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 2限目

場所： 第4研究室

備考・注意事項： オフィスアワーの時間以外にも、研究室在室中はいつでも質問等が可能です。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	【絵本論】 こどもと絵本（概論①） ○オリエンテーション ○子どもの成長、社会的発達と絵本との関わりについて理解する。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。 ・受講学生間の相互理解を深めるとともに、認定絵本士の役割について確認する。	認定絵本士をめざす仲間との交流を通して、新しい気づきと自らの思いをまとめる。
第2回	【絵本論】 こどもと絵本（概論②） ○視覚表現・言語表現から見た絵本について考える ・絵本の視覚表現特性について理解する。 絵本の視覚表現の特性・絵本の視覚表現の実際例・視覚表現の特徴ある絵本の比較検討 ・絵本の言語表現特性について理解する。 絵本の言語表現・絵本の言語表現の実際例・言語表現に特徴のある絵本の比較検討	視覚表現、言語表現から見た絵本について、学修をまとめる。
第3回	【絵本論】 こどもと絵本（概論③） 子どもの知的・社会的発達と絵本との関わりについて ○各年齢期の子どもの発達と絵本との関わりの特性について理解する ・乳幼児期における保護者・保育者と子どもの絵本を介したやりとり ・乳児期における子どもと絵本との関わりや、保護者・保育者の援助について ・児童期以降、学校における子どもと絵本との関わり ○絵本が子どもの発達に及ぼす影響に関する学術的知見 ・子どもの知的・社会的発達に着目した研究 ・生涯にわたる学びに向かう力に着目した研究 ・学術的知見から考えられる子どもと絵本との関わりに関する指導者の援助	子どもの発達と絵本との関わりの特性についてまとめる。
第4回	【絵本論】 こどもと絵本（概論④） メディアとしての絵本の位置づけを考える ○情報メディアとしての絵本の特性について理解する。 ・情報伝達モデルとその構成要素 ・絵本が持つ情報メディアとしての特性 ○電子書籍と子どもの脳の関係 ・電子書籍の特性について、書籍の種別による脳活動の比較 ・学術的知見から考えられる電子書籍 ○絵本と著作権との関係について理解する。 ・我が国の著作権の関係（財産権、人格権、複製権。上演権など） ・絵本を活用した活動での留意点	情報メディアとしての絵本の特性についてまとめること。
第5回	【絵本論】 こどもと絵本（概論⑤） ネット検索を活用した絵本について考える ○絵本を探す多様な手段（情報源）とキーワード（テーマや登場人物等）について理解する。 ・絵本を探す目的・人々 ・絵本の情報源（目録・ブックリスト等 ・絵本検索の有効なウェブサイト（絵本データベース）などの検索 ○図書館におけるレファレンスサービス ・レファレンスサービスの事例 ・レファレンスサービスの理解と演習	絵本をネット検索する場合の留意点をまとめる。
第6回	【絵本と出会い】 こどもと絵本（概論⑥） はじめての絵本との出会い ○乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する。 ・乳児・幼児が絵本を読む（見る）ことの意義 ・発達段階に適した絵本の選定 ○乳幼児が絵本に触れるための具体的な取組 ・地域での育児支援活動 ・家庭での絵本の読み聞かせ	赤ちゃん絵本、ブックスタートなどについてまとめる。

第7回	【絵本と出会い】子どもと絵本（概論⑦）	保育・幼児教育現場における絵本との関わりについてまとめる。	4時間
	保育・幼児教育現場、および、学校現場における子どもと絵本との関わりの現状について ○保育・教育の場における絵本の意義 ・保育・教育の場における絵本を用いた活動の位置づけ ・絵本と子どもをつなぐ保育者・教員の援助のあり方 ○保育・教育の場における絵本を用いた活動の具体的な取り組み ・保育・幼児教育場面 ・学校教育場面		
第8回	【絵本と出会い】子どもと絵本（概論⑧）	図書館での絵本の活用事例をまとめる。	4時間
	図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～ ○公共図書館の行う児童サービスについて理解する。 ・図書館内での読み聞かせ、ブックトーク、おはなし会、絵本つくりなど ・図書館以外の幼稚園・保育園での読み聞かせなど ○地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の展開 ・読書推進活動における絵本をめぐる活動の意義と事例 ・関連施設との連携事業の可能性		
第9回	【絵本と出会い】子どもと絵本（概論⑨）	書店での絵本の売り場で気を付けていることをまとめる。	4時間
	書店での出会い ○書店における絵本の売り場づくりの特性について理解する。 ・人々の目を引く絵本の陳列方法 ・POPの見せ方（演習により実施） ○絵本の流通 ・絵本が動きあがるまで ・絵本の流通（出版社、取次、書店への配本・陳列）		
第10回	【感性を磨く】子どもと絵本（概論⑩）絵本の持つ力	児童文化財としての絵本の役割についてまとめる。	4時間
	児童文化財の役割について学ぶ ○絵本の研究者等より、さまざまな角度から絵本を見る力を学ぶ。 ・絵本の持つ可能性及び相反する力について理解する。 ・絵本が子どもたちに与える影響について多面的な視野から見つめることにより、批評力を体得する。		
第11回	【感性を磨く】子どもと絵本（概論⑪）	心のケアとしての絵本の可能性についてまとめる。	4時間
	心に寄り添う絵本（心のケアと絵本の可能性）について学ぶ ○心のケアが求められている場面や場所における絵本活用の可能性について理解する。 ・絵本がもたらす子どもたちの心のケアの可能性や意義と目的 ・心のケアにつながる絵本の読み聞かせの必要性 ・心のケアに有効な絵本の読み聞かせと活用方法 ・児童自立支援施設や児童養護施設等での読み聞かせ等の取り組みについて		
第12回	【感性を磨く】子どもと絵本（概論⑫）心に寄り添う絵本	理想の絵本のある空間づくりについてまとめる。	4時間
	絵本のある空間（絵本のある望ましい空間とは）想像する楽しさを広げる児童文化財について ○子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。 ・図書館等の現状や課題について ・地域社会における絵本のある空間の存在意義 ・絵本の望ましい空間やレイアウトのあり方 ・受講学生が描く理想の絵本のある空間づくり		
第13回	【感性を磨く】子どもと絵本（概論⑬）心に寄り添う絵本	子どもたちの興味関心事項についてまとめる。	4時間
	子どもの心をとらえるもの（子どもの心をとらえて離さないもの）を考える ○子どもたちの興味について理解する。 ・現在の子どもたちの興味関心事項について (キャラクター絵本、写真絵本、デジタル絵本、DVD絵本など、流行しているキャラクター、子ども向け番組、遊び、おもちゃ、ゲームなど) ・子どもたちの心を惹きつける表現方法について		
第14回	絵本についてディスカッション（子どもと絵本（概論⑭）	認定絵本土としての役割や行動すべきことをまとめる。	4時間
	認定絵本土としての今後の活動をまとめる ○認定絵本土養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議する。 ・グループによるディスカッション ・今後認定絵本土として活躍していく上での課題と解決策 ・自分たちが目指す認定絵本土像や活動内容について発表 ○認定絵本土としての役割や行動すべきことを理解する。		

授業科目名	こどもと絵本(実践)				
担当教員名	細畠 昌大・小澤 佐季子・浅野 法子・白瀬 浩司				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義科目				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	絵本の読み聞かせ活動に長年携わり、大学、公民館活動などで親子絵本読み聞かせ会での講師。書店で絵本のもつ魅力の数々を伝える活動をとおしての絵本販売、出版社での絵本編集などを行ってきた講師などが担当（全14回）				

開放科目的指示：「可・不可」

授業概要

「認定絵本土」に必要な資質・能力を身に付けるために、技術を高める項目と感性を磨く項目について学ぶ。絵本の世界を広げる技術として「絵本を探す技術や、ワークショップの企画および実践などの技術」を学ぶ。絵本を紹介する技術として「絵本コンシェルジュ術・ブックトーク・書評の書き方など」を学ぶ。感性を磨くこととして「心を豊かにする絵本・絵本を通じて社会を豊かにできる力」とはどのようなことかについて学び、「絵本が生まれるまで」の項目では、絵本作家、絵本編集者を講師として招聘し、学修を進める。

養うべき力と到達目標**確かな専門性****具体的な内容：****目標：**

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

絵本のもつ意義と機能を理解する。
絵本を通して想像する楽しさを広げる。
児童文化財の意義を理解し、活用に向けコーディネイト力・企画力を養う。

絵本に関する知識を理解し実践力を養うことができる。

2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

絵本に関する専門的知識を有する方（絵本作家、絵本編集者、幼稚園教諭など）から、具体的な知識・技術を学び、コーディネイト力・企画力を養う。

絵本の製作に関わる行程について理解を深めることができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

図書館・地域の読書推進活動等での絵本をめぐる活動の展開を理解し、絵本との出会いをどう進めかなどのコーディネイト力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ棄権とみなし不合格とします。
レポートなどの提出については、指示された期日を厳守してください。期日を過ぎた場合は、受け付けないこともあります。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内でのプレゼン（発表）

： 授業内のグループワーキング（こどもと絵本・絵本と出会う・感性を磨く）をもとに、全員を前にしたプレゼンを評価する。（30点）

30 %

授業内での課題

： 個別の学修ワークシート（各回の学修テーマに沿った課題設定、学修成果）の記録を評価する。（30点）

30 %

試験

： 定期的に学修成果を確認するための小テスト3回実施（15点）
まとめのテスト課題（25点）

40 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
絵本専門士委員会課程認定部会	・認定絵本士養成講座テキスト	・中央法規出版株式会社	・2020 年

参考文献等

適宜、講義時に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、認定絵本士養成講座にかかる科目として設定しています。子どもと絵本（実践）科目として実施します。この養成講座では、他に「子どもの文化」「子どもと絵本」（概論）を受講して認定絵本士の申請ができます。毎回授業に参加し、内容を丁寧に復習するとともに、次回の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 2限目

場所： 第4研究室

備考・注意事項： オフィスアワーの時間以外にも、研究室在室中はいつでも質問等が可能です。

授業計画

回数	学修課題	授業外学修課題にかかる自安の時間	授業内課題
第1回	【絵本の世界を広げる技術①】 こどもと絵本（実践①）	4時間	絵本を探すための情報源の見つけ方についてまとめる。
第2回	【絵本の世界を広げる技術②】 こどもと絵本（実践②）	4時間	絵本を活用したワークショップの企画案を考える。
第3回	【絵本の世界を広げる技術③】 こどもと絵本（実践③）	4時間	絵本を活用したワークショップの企画案をまとめること。
第4回	【絵本の世界を広げる技術④】 こどもと絵本（実践④）	4時間	絵本を提案する技術としてのポイントをまとめること。
第5回	【絵本を紹介する技術①】 こどもと絵本（実践⑤）	4時間	ブックトークについてまとめる。
第6回	【絵本を紹介する技術②】 こどもと絵本（実践⑥）	4時間	書評・紹介文の書き方について留意点をまとめること。

第7回	【絵本を紹介する技術③】こどもと絵本（実践⑦）	障がい者等の絵本の選択や紹介についてまとめ る。	4時間
	<p>支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割</p> <p>○障がい者、病児及び高齢者等、絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を要する人について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者と絵本（視覚障害、聴覚障害、知的障害、ディスリクシア等の障がい種類について学び、各障がいに対応した絵本（点字絵本、拡大絵本、触れる絵本、手話絵本、Lレブック等）があること、及び障がい者を対象としたおはなし会の実施方法について考える） ・病児と絵本（病児とその家族の心理について学び、困難な状況における絵本の有効性と絵本を手渡す適切な時期を学ぶ） ・高齢者と絵本（高齢者の特徴、高齢者に対する絵本の役割、高齢者施設等における絵本の活用方法を学ぶ） 		
第8回	【おはなし会の手法①】こどもと絵本（実践⑧）	おはなし会開催に向けた留意点をまとめる。	4時間
	<p>おはなし会を開こう</p> <p>○おはなし会について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会の意義、多様性（大型絵本や紙芝居の活用、ストーリーテリング、音楽との融合）、留意点（集中が苦手な子どもへの対応、聞き手の年齢・人数に適した対応等）を学ぶ ・おはなし会の企画・運営（企画・提案する手法）及び、運営する手法（会場設営・プログラム・選書等）、絵本を伝える手法（読み語り、読みあい、ストーリーテリング等）を学ぶ 		
第9回	【おはなし会の手法②】こどもと絵本（実践⑨）	おはなし会のテクニックをまとめる。	4時間
	<p>おはなし会のテクニック</p> <p>○おはなし会のテクニックについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会で活用する手法と効果（手遊び、指人形、ペーパーアート、エプロンシアター、折り紙、工作、実験等）を取り入れた取組事例を学ぶ ○おはなし会を実践し、導入方法を学ぶ ・おはなし会を行ってみよう（演習） 		
第10回	【感性を磨く・大人の心を豊かにする絵本①】こどもと絵本（実践⑩）	絵本が大人に与える影響についてまとめる。	4時間
	<p>人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を①</p> <p>○絵本が大人に与える影響について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本が大人に与える喜び ・大人と子どものとの絵本の捉え方の相違 ・聞き手から読み手に代わることによって気づく絵本の意義 ・高齢者や入院患者、病気療養中の方、緩和ケアが必要な大人に対する絵本の役割 		
第11回	【感性を磨く・大人の心を豊かにする絵本①】こどもと絵本（実践⑪）	高齢者や入院患者、病気療養中の方、緩和ケアが必要な大人への絵本紹介に向けた企画を考える。	4時間
	<p>人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を②</p> <p>○絵本が大人に与える影響について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人にとって喜ばれる絵本の選択について ・高齢者や入院患者、病気療養中の方、緩和ケアが必要な大人に対する絵本の役割 ・高齢者や入院患者、病気療養中の方、緩和ケアが必要な大人への絵本紹介に向けた企画 		
第12回	【感性を磨く・ホスピタリティに学ぶ】こどもと絵本（実践⑫）	子どもに対するホスピタリティについてまとめ る。	4時間
	<p>人を楽しませる為の手法を学ぼう</p> <p>○絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対するホスピタリティ ・民間施設等で子どもたちが持つ力を引き出す取組み ・経営面から見た対象年齢・興味関心事項の分析（表現方法・活用方法の具現化について） 		
第13回	【感性を磨く・絵本が生まれる現場①】こどもと絵本（実践⑬）	表現方法、作家の思いをまとめる。	4時間
	<p>作家の感性に触れる</p> <p>○絵本の作り手の思いについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本作家の観点から絵本が出来るまでの過程 ・絵本で読み手に伝えたい思いを理解 ・絵本作成における視覚表現及び言語表現 		
第14回	【感性を磨く・絵本が生まれる現場②】こどもと絵本（実践⑭）	絵本の編集者の仕事についてまとめる。全授業の振り返りをまとめる。	4時間
	<p>絵本の編集</p> <p>○絵本の編集者の仕事の内容・役割について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の作成は、作家や画家だけでなく、編集者も大きく関わっていることを理解する。 ・絵本の基本的な構造を理解 ・絵本の編集過程を理解 <p>○授業を振り返って（まとめ）</p>		

授業科目名	専門演習				
担当教員名	中川 陽子				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開講科目的指示：「不可」

授業概要

本演習では自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（論文・制作・発表等）を行います。

福祉・保育・教育等の現場では、子どもの生活や発達に加え、子の育ちにかかわるたくさんの人に向き合うことになります。この授業では、他者との意見交換を積極的に行うことや、尊重し合うことの大切さも学びます。そして、社会的養護や子育て支援に関連するキーワードをもとに各自でテーマを設定し、そのテーマについて、実践的な理解や議論等を行い、学びを深め、卒業論文の作成を行います。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 保育分野の専門知識ならびに技能
- 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 こども家庭福祉分野の専門知識

目標：

- 保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる。
- 自分の設定したテーマに関しての知識と理解を深め、考察を行い自分の意見を述べることができる。卒業研究を完成させ、その内容を説明できる

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP10. 忠恕の心
- 3. DP8. 意思疎通

- テーマに沿って資料を集め、その内容を説明することができる
- 保育や子育て支援のフィールドを理解し、子どもや保護者への支援を情熱をもって行うことができる
- 他人の意見を踏まえて、自分の意図や主張を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。
テーマに応じて適宜課外学習を行う可能性があります。その際、交通費等の実費負担が生じることがあります。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

卒業論文

： 自分の設定したテーマについて卒業論文を作成する。課題発見、論理性、構成、独自の発想・視点、標記の観点から40点満点で評価する。

40 %

卒業論文への取り組み

： フィールドワーク等の調査や文献収集などを実行し、自分の研究に取り組めているか中間・最終研究発表をもとに自分の研究について独自の発想・テーマ、課題、論理性、構成の観点から20点満点で評価する。

20 %

授業への取り組み状況

： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のループリックを基に総合的に評価する。

30 %	
10 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜授業時に紹介

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は前期1単位、後期1単位の科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通年で90時間。それぞれ求められる。
- ・その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・卒業論文作成のために文献やデータの収集、フィールドワークを含めた調査研究を意欲的に行い、授業外学修時間でその作成を行うこと。
- ・授業マナーを守り、発表や討議に積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に提示する

場所： 幼児教育学科第7研究室

備考・注意事項： 連絡をとりたい場合は、Gメール（アドレス：nakagawa-yo@g.osaka-seikei.ac.jp）にて、学年、クラス、学籍番号、氏名を明記し、内容をお伝えください。

授業計画

回数	授業題目	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
			時間
第1回	オリエンテーション、専門演習について	シラバスを読み、どのような研究がしたいのか概要をまとめておく。自分の研究テーマに関するシートを作成する。	1時間
第2回	人々の生活課題と福祉	自身の研究テーマに関係した文献を収集していく。振り返りシートを作成する。	1時間
第3回	先行研究文献の整理とレビュー	授業内容を踏まえて、引き続き文献を集めて整理する、振り返りシートの作成。	1時間
第4回	研究倫理教育及び研究方法、自己の発見	何を明らかにしたいのかを再度明確化しておく、振り返りシートの作成	1時間
第5回	研究倫理教育	専門演習の取り組みの中で「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて検討し、まとめる。	1時間
第6回	社会福祉の質的研究	調査方法についてシートの作成。振り返りシートの作成。	1時間
第7回	社会福祉の量的研究	文献の収集。振り返りシートの作成。	1時間
第8回	ここまで取り組みについての発表とディスカッション、振り返り	第8回の発表に向けてまとめておく。振り返りシートの作成。	1時間

	<ul style="list-style-type: none"> 各学生の進捗とその内容について共有し、課題についてディスカッションを行う ディスカッションからの気づきをシートにまとめ、整理する 倫理審査について学ぶ 		
第9回	<p>卒業研究の意義と目的について再度確認する</p> <p>自身の成果物を卒業論文とはどのようなものかを理解する 「卒業研究ガイドライン」で1. 卒業研究の意義と目的、2. 卒業研究に求められることについて考える</p>	卒業論文について、教員が解説した内容をまとめ、理解を深める。	1時間
第10回	<p>テーマの設定について確定する</p> <p>各自、テーマを確定する（題目確定）。 テーマを決めた動機について、学生同士で意見交換を行う 自分の研究テーマに関する資料（文献、雑誌・新聞記事、インターネット情報等）、文献レビューのまとめを確認し、 <ul style="list-style-type: none"> 研究の社会的・技能的背景 明らかにしたいこと 予想される結果とその意義 以上のことについて、成果物を精査しながら文章化する</p>	自分の研究テーマに関する資料（文献、雑誌・新聞記事、インターネット情報等）の整理と文章化をする	1時間
第11回	<p>研究目的について</p> <p>シートを基に、研究目的について文章化する <ul style="list-style-type: none"> 研究の背景 明らかにしたいこと 予想される結果とその意義 以上のことについて、文章化する</p>	研究目的について、卒業研究計画書に記入する	1時間
第12回	<p>研究計画について</p> <p>研究計画と研究方法（調査方法等）について修正・確定をする 上記のことについて、文章化する 卒業研究計画書を作成する</p>	卒業研究計画書を完成させ、指導教員に提出	1時間
第13回	<p>卒業論文の構成について</p> <p>卒業論文について、どのような構成にするか検討し、文章化する</p>	卒業論文の一般的な構成内容を理解し、自分の卒業論文の構成を考える。振り返りシートの作成。	1時間
第14回	<p>研究計画（夏の取り組み）、引用文献、参考文献について</p> <p>引用文献、参考文献を揃える 引用文献、参考文献の標記の仕方を学ぶ 夏期の具体的な研究計画および活動内容を決める</p>	引用文献、参考文献の整理を行う	1時間
第15回	<p>オリエンテーション（後期授業の進め方等）と研究計画の確認</p> <p>・後期の授業の進め方について ・研究計画および研究に関して収集したデータの確認 ・夏休みの取り組みについての発表</p>	収集したデータをまとめる。研究計画の進捗確認並びに調整を行う	1時間
第16回	<p>研究計画の確認</p> <p>研究計画を確認する 研究に関して収集したデータの確認 夏休みの取り組みについて各自発表</p>	収集したデータをまとめる	1時間
第17回	<p>研究データの分析、応用</p> <p>研究用に収集したデータの分析を行う データの分析結果を基に卒業論文の作成を行う</p>	各自で研究用に収集したデータの分析を行う	1時間
第18回	<p>自己課題の発見</p> <p>「自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する</p>	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していくかについて検討し、まとめる	1時間
第19回	<p>中間発表に向けて</p> <p>テーマの設定、研究目的、研究方法、自分の研究テーマに関する先行研究論文をまとめたものについて発表の準備を行なう</p>	中間発表用の資料の作成を行う。各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第20回	<p>中間発表（前半）</p> <p>テーマの設定、研究目的、研究方法、自分の研究テーマに関する先行研究論文をまとめたものについて発表を行う。発表内容について意見交換をし、自分の研究の課題点を見つける。</p>	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第21回	<p>中間発表（後半）</p> <p>テーマの設定、研究目的、研究方法、自分の研究テーマに関する先行研究論文をまとめたものについて発表を行う。発表内容を聞き、自分の課題点を見つける</p>	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第22回	<p>卒業論文作成（目的の確認）</p> <p>個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う</p>	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第23回	<p>卒業論文の作成（先行研究の確認）</p> <p>各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。</p>	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間

	個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う		
第24回	卒業論文の作成（研究方法の確認） 個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う 先行研究の確認を行う	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第25回	卒業論文の作成（研究倫理の確認） 個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う。 研究倫理の確認を行う 引用・参考文献の標記のチェック	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第26回	卒業論文の作成（添削・推敲） 個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う 卒業論文の添削を行う 卒業論文の提出を行う（1次締めきり） 研究発表会用のレジュメ、資料を作成する	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。研究発表会用のレジュメ、資料を作成する。	1時間
第27回	研究発表会（前半） 各自の研究を発表する。 質疑応答・討論に積極的に参加する。 卒業論文の推敲を行う。 卒業論文を完成させる。	推敲済み最終原稿を完成させる。研究発表会用のレジュメ、資料を作成する	1時間
第28回	研究発表会（後半） 各自の研究を発表する。 質疑応答・討論に積極的に参加する。 卒業論文の推敲を行う。 卒業論文を完成させる	推敲済み最終原稿を完成させる	1時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	楠井 淳子				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	以下の実務経験を有する。高等学校教員、民間および音楽大学付属音楽教室、音楽院の講師として勤務。並びに保育園においても音楽講師として幼児音楽教育に携わる。(全28回)				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本演習では自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（論文・制作・発表等）を行う。音楽的技能と表現力の発展と向上を本演習の目標とする。また各自の研究テーマを設定し、考察を深めレポートにまとめる。具体的には連弾や合奏等を通して、アンサンブルの楽しさと音楽表現の豊かさを実感し、保育者として必要な音楽的感性を磨き、演奏技術の向上を目指す。そこでは他者との協調力を養い、より良いものを作り上げていく過程も重要なとなる。更に保育の場で必要となる編曲法を学び、合奏編曲や創作など、より実践的な力と応用力を身につける。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

- 保育分野の専門知識ならびに技能
- 保育者・教育者にとって必要な音楽表現の技能。

目標：

- 保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる。
- 子どもの音楽表現を援助する為に必要な音楽の演奏技能と伴奏や即興など様々な状況に対応できる実践力を身に付ける事ができる。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践
- 2. DP9. 役割理解・連携行動

- 自主的な練習を継続することにより、自己の表現力を高める事ができる。
- アンサンブルなどのグループワークを通して、協同する力を育むと共に自己の役割を果たす事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

卒業研究発表

： 演奏表現力、取り組みの状況、協調性、完成度などを独自のループリックをもとに評価する。

30 %

卒業研究レポート・小論文

： 各自のテーマに基づいたレポート・小論文をまとめ、その内容、調査の取り組みなどを独自のループリックをもとに評価する。

30 %

授業内課題

： 授業や課外学習への取り組みについての振り返りシートや授業内課題シートを独自のループリックをもとに評価する。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

映像資料や文献を適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は前期1単位、後期1単位の科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通年で90時間、それぞれ求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 2限

場所： 幼児教育第9研究室

備考・注意事項： その他の時間帯の質問には第9研究室で受け付け、メールでも対応する。
アドレス：kusui@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには学籍番号と氏名を必ず書くこと。

授業計画

授業回数	授業題目	授業内容	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション・卒業研究の進め方	授業概要の説明を受け、その内容を理解する。 ・自己の目標をたてる。 ・研究テーマについて考える。	先行研究を調べ、各自の研究テーマを考える。	1時間
第2回	先行研究の紹介、論文レポートの執筆法	先行研究の文献を読み、要約する。 ・論文レポートの執筆法について学ぶ。 ・参考文献の調べ方や引用について学ぶ。	各自のテーマを決めるために、先行研究や先行事例の調査をする。	1時間
第3回	合奏1（技術面の向上）	・グループを組み、合奏曲の選曲をする。 ・楽器編成と役割を決定する。 グループ活動：パート別に練習する。 グループ全体での練習。	合奏曲の自己練習（毎日30分以上練習）。課題曲に記されている音楽用語を調べる。楽曲の調性と使用されている主な和音について調べる。	1時間
第4回	合奏2（楽曲の理解とその表現法）	グループ活動：グループ全体での練習。 ・楽曲に応じた表現法について考察する。 ・アーティキュレーション、アゴーギクなどを確認しながら グループごとにレッスンを受ける。	合奏曲の自己練習（毎日30分以上練習）。強弱、アゴーギクなどの表現法を考察する。	1時間
第5回	研究倫理教育	文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、「研究倫理教育」を実施する。	専門演習の取り組みの中で「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて、検討しまくる。	1時間
第6回	合奏3（発表に向けた表現法）	グループ活動：グループ全体での練習。 ・発表に向けた表現法について考察する。 ・練習の仕上げを行い、グループごとにレッスンを受ける。	自己練習（一日30分以上）と課題曲の練習の仕上げを行う。	1時間
第7回	合奏4（発表）	・合奏作品の発表。 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。	1時間
第8回	鑑賞と課題の設定に向けて	・様々な表現法による作品（絵本や画像に付随する音楽作品、音楽劇など）を鑑賞する。 ・感想をまとめ意見交換する。 ・発表会に向け、自身の表現法について考える。	自己課題を考察、立案する。	1時間
第9回	発表課題の設定（選曲と編曲・創作の準備）	・各自考察してきた内容を基に、様々な様式の音楽表現（絵本に付隨する音楽、既成の曲を編曲、劇音楽の創作）について意見交換する。 ◦課題を設定し、選曲など準備を進める。 ◦必要に応じて編曲や創作を実施する。 ◦記譜法を確認する。	発表の内容（方法、選曲など）を考察する。編曲を創作を進める。自己練習をする。	1時間
第10回	発表課題の考察と練習1（考察と編曲・創作）	・表現内容の考察を進める。 ・編曲や創作を進める。 ・自己練習を行う。	編曲や創作を進め、完成させる。自己練習をする。	1時間

第11回	発表課題の考察と練習2（楽器法） ・各種楽器の使用法などを意見交換しながら、練習する。	自己練習（一日30分以上）。	1時間
第12回	発表課題の考察と練習3（発表に向けて） ・編曲や創作を完成させる。 ・次回の発表に向けて練習を行う。	自己練習（一日30分以上）。発表のスタイルについて考察する。	1時間
第13回	創作・編曲課題の発表 ・編曲・創作などの音楽表現の発表をする。 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行う。	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。 編曲課題を完成させて提出する。	1時間
第14回	発表の振り返りと卒業発表と研究テーマの設定 ・発表の振り返りを行う。 ・卒業発表のペア及びグループを決め、課題曲を選ぶ。 ・自己の研究テーマを決定する。 ・前期の授業を振り返り、学んだことや後期の課題をレポートにまとめる。	課題曲の個人練習を行う。研究テーマに基づき、先行研究・先行事例の調査を行い、論文・レポート執筆の準備を整える。	1時間
第15回	自己練習（楽曲の理解・技術面の向上）、研究テーマの設定 ・個人練習を行う。 ・調性、和音、転調について学ぶ。 ・研究テーマに基づき、その調査方法を確認する。	課題曲の自己練習（毎日30分以上練習）。研究内容、方法などを考察する。研究テーマに基づき、資料を収集する。	1時間
第16回	レッスンとペア・グループによる練習1（アンサンブル導入） ・課題曲のペアによる練習を進める。 ・ペア及びグループごとにレッスンを受ける。	課題曲の自己練習（毎日30分以上練習）。楽曲の調性と使用されている主な和音について調べる。	1時間
第17回	レッスンとペアによる練習2（楽曲の理解とその表現法） ・ペアやグループでの練習では、楽曲に応じた演奏法について考察する。 ・アーティキュレーション、アゴーギクなどを確認しながらグループごとにレッスンを受ける。	課題曲のペアによる練習を進める。自己練習（一日30分以上）とグループ練習。	1時間
第18回	自己課題の発見 ・自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する。	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していくかについて検討し、まとめる。	1時間
第19回	打楽器の奏法と編曲1（リズム楽器の理解と奏法、アレンジの試み） ・ピアノ曲に打楽器を加えたアンサンブル曲の編曲法を学ぶ。 ・各自考察した内容をグループで協議する。 ・実際に楽器を使って、アレンジを試す。 ・打楽器の記譜法を学ぶ。 ・考察した内容を記譜する。	連弾課題曲に打楽器を加えたアンサンブルを考察する	1時間
第20回	レッスンとグループによる練習1（実践と発表についての考察） ・グループごとにレッスンを受ける。 ・自己練習およびグループ練習を行う。 ・発表のスタイルについて意見交換する。	自己練習（一日30分以上）とグループ練習。	1時間
第21回	レッスンとグループによる練習2（表現法の考察） ・グループごとにレッスンを受け、楽曲に応じた表現法を考察する。 ・アーティキュレーションなど表現法について意見交換しながら、グループ練習を行う。	自己練習（一日30分以上）とグループ練習。 ・レポートではまとめた資料の内容をもとに自分自身の考察を進める。	1時間
第22回	レッスンとグループによる練習3（課題の明確化） ・グループごとにレッスンを受け、発表に向け各グループの課題を明確にする ・グループ練習を行う ・作品としての全体のまとまりについて意見交換し、仕上げをする	自己練習（一日30分以上）とグループ練習。速度や強弱などの表現法について考察する。作品としての全体のまとまりを考える。グループ練習のまとめを行う。	1時間
第23回	卒業作品発表会 ・音楽表現作品の演奏発表会 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をレポートにまとめる。意見交換を行う ・授業を振り返って学んだことや、発表の反省や感想、今後の課題についてレポートにまとめる。	自己の課題を確認し、レポート内容に反映させる。レポートの中間発表に向けて現在の状況をまとめる。	1時間
第24回	発表会の振り返りとレポート中間発表	発表した内容を振り返り、新たな課題点を見つける。	1時間

	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の映像を観て、振り返りを行う。発表の反省や感想について意見交換を行い、その内容をもとに自己の今後の課題をレポートにまとめる。 ・レポートの目的と調査など、現時点での進行状況を発表する。 ・他者の発表を聞き、批評と感想をまとめ意見交換を行う。 		
第25回	研究レポート作成1(調査のまとめ) ・研究の目的に基づいた先行資料の調査を行い、まとめる。	調査を進め、内容をまとめる。	1時間
第26回	研究レポート作成2(研究の過程と結果) ・調査をもとに自らの体験を踏まえ自分自身の考えをまとめる	研究レポート作成を進める。考察をすすめる。	1時間
第27回	研究レポート作成3(考察) ・研究の考察をまとめる。 ・レポートの書式を整える。	研究レポートの書式、目次、参考資料一覧などを整える。	1時間
第28回	研究レポートの仕上げとまとめ ・研究レポートの最終的な仕上げを行う。 ・授業を振り返って学んだことや、発表の反省や感想、今後の課題についてコメントシートを記載する。	発表のパワーポイントを作成し、発表の練習をする	1時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	紺谷 武				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼稚園等での造形講師				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本演習では自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（論文・制作・発表等）を行う。学生自身が主体となって自身の興味や疑問、探究心を糸口として課題を設定する。また、他者との対話や文化の学びを通しながら、主体的に作品制作をおこなう。単なる自己表現とならないよう、対象（例えばおもちゃ製作や絵本製作）についての先行研究などを行ない、資料を分類したりしながら、制作の密度を高める。また、美術作品の鑑賞や制作を通して、美術についての理解を深めることで多様な価値観を認識し、作品として出力する。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的な内容：

美術の知識・技能と保育の知識と結びつけて実践に活用する

目標：

美術に関する専門知識ならびに技能を身につけ、理解することができる

- 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

保育分野の専門的知識並びに技能

保育に関する専門的知識並びに技能を身につけ理解することができる。

汎用的な力

- 1. DP5. 計画・立案力

未知なる制作に対して、問題を解決しながら計画を立てることができる。

- 2. DP6. 行動・実践

自身の計画を遂行することにより、観察力、判断力、考えをまとめ言葉にする力、多様な価値観を認知する力を身に付けることができる。

- 3. DP7. 完遂

客観的に計画や構想を捉え、必要に応じて修正しながらやり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。
授業終了後に授業内容をまとめたレポート等の提出をします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

目標に対する主体的な取り組み

： 主体的なテーマ設定・案出から計画、制作、提出、発表までを行えているかを総合的に評価します。

50 %

作品の洗練度

： まとめられた資料等を基礎にして授業時間に見合う質で細部にまで作りこめているか。

30 %

定期試験（作品とレポート提出）

： 通年で2回のレポート提出。およびそれに準ずる作品の提出。

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じてプリントやスライドなど適宜、用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は通年科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通年で90時間程度、それぞれ求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 金曜2限 会議等で不在の場合あり

場所： 教育第一研究室

備考・注意事項： 教員の研究室を訪ねる。アポイントを取ることが望ましいが、時間が合えばいつでも質問してください。

授業計画

授業内容の理解と計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
一年間の授業の進め方や目的、授業内容、卒業研究大会および成績評価について理解する。また、自身の制作のテーマについて考える。 なお、研究倫理教育を実施する。	年間の自分の制作のテーマについて考え、案出をする。	1時間
第2回 美術の歴史（多様性の理解） 美術の歴史を学び、多様な価値観を知る。	身近な美術を探して、写真を撮る。	1時間
第3回 作ることについて（作品制作の模索） 美術に限らず、人間がなにかを作るということについて身近なものから考え、年間を通しての制作のテーマを考える。	作られたものから、作り手を想像してみる。	1時間
第4回 自己課題の発見 自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する。	自身の興味や関心をひく作品を調べる	1時間
第5回 関連資料の収集・研究倫理教育 制作のテーマに関する資料や論文、作品の写真などを収集する。 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、全学生への「研究倫理教育」を実施する。	さまざまな視点から複数の資料を集め、「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて検討し、まとめる。	1時間
第6回 関連資料の調査（収集した資料のまとめ） 制作のテーマに関する資料や論文、作品の写真などを収集する。 また比較、類比、あるいは対比を行ない収集した資料を分類しまとめる。	日常の中にも作品テーマに関係するものがないか、調べる。	1時間
第7回 作品制作の決定 主体的にテーマを決定し、テーマの内容と分類した資料について発表する。	自身に必要な資料や情報についてしっかりと記述しておく。	1時間
第8回 制作のためのサンプル作成とスケジュール 見通しをつけるためのサンプルを作成し、今後のスケジュールを作る。	計画が立っていない場合は、一連の作業を繰り返し、自身の課題をまとめる。	1時間
第9回 作品制作の案出と計画 自身の興味や関心とともに、収集した資料を反映させながら計画を立ててる。	自分が決定したテーマを形にする為の準備をする。	1時間
第10回 作品制作の実践 それぞれの計画をもとに実践にとりかかる。	実践に取り掛かった上で、今後の計画を調整する。	1時間
第11回 作品制作の実践と推敲1 実践を振り返り、推敲する。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第12回 作品制作の実践と推敲2 推敲を繰り返し、作品の完成度を上げる。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第13回 作品制作の実践と推敲3 推敲を繰り返し、作品を完成させる。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第14回 作品制作の完成と鑑賞 課題作品の発表と鑑賞を通して、それぞれの価値観に気づく。	自分が気付いた価値観をノートにまとめる。	1時間
第15回 作品制作の模索	前の作品を振り返り、自身の興味や関心をひく作品を調べる	1時間

	1点目の作品の発表を踏まえて、2点目の制作のテーマを考える。		
第16回	作品制作の摸索 2 制作のテーマに関する資料や論文、作品の写真などを収集する。	さまざまな視点から複数の資料を集めます。	1時間
第17回	関連資料の調査 制作のテーマに関する資料や論文、作品の写真などを調べる。	日常の中にも作品テーマに関係するものがないか調べます。	1時間
第18回	収集した資料をまとめる 比較、類比、あるいは対比を行ない収集した資料を分類しまとめる。	自身に必要な資料や情報についてしっかりと記述しておく。	1時間
第19回	作品制作の決定 主体的にテーマを決定し、テーマの内容と分類した資料について発表する。	計画が立っていない場合は、一連の作業を繰り返し、自身の課題をまとめる。	1時間
第20回	作品制作の案出と計画 自身の興味や関心とともに、収集した資料を反映させながら計画を立てます。	自分が決定したテーマを形にする為の準備をする。	1時間
第21回	作品制作の実践 計画を元に実践にとりかかる。	実践に取り掛かった上で、今後の計画を調整する。	1時間
第22回	作品制作の実践と推敲 1 実践を振り返り、推敲する。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第23回	作品制作の実践と推敲 2 推敲を繰り返し、作品の完成度を上げる。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第24回	作品制作の実践と推敲 3 推敲を繰り返し、作品を完成させる。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第25回	作品制作の鑑賞（中間） 課題作品の発表と鑑賞を通して、それぞれの価値観に気づく。また、自身の作品の課題を記述し、改善につなげる。	自分が気付いた価値観をノートにまとめる。	1時間
第26回	ポートフォリオの作成 ポートフォリオの意義を理解する。 これまでの先行研究、発表、制作を通して1500字以上的小論文を書く。	これまでの作品制作に関わる資料や写真などを収集する。	1時間
第27回	ポートフォリオの作成 2：振り返り これまでの内容を振り返り、内容をプレゼンソフトにまとめる。 また、小論文の校正を行う。	収集した資料や写真を文章にまとめる	1時間
第28回	ポートフォリオの作成 3：推敲とまとめ まとめたものを推敲し、完成させる。	まとめたものを、見やすく伝わりやすいものにする。	1時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	細畠 昌大				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭として勤務、その後教育委員会にて初等・中等前期教育行政に従事し、管内の幼稚園教諭等への初任者研修講師を務めてきた。国語、図書、教育経営等の指導主事・校長として教育現場での指導助言等を行ってきた。（全28回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本演習では自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（論文・制作・発表等）を行います。前半の授業では、保育者として園児・保護者・同僚とのコミュニケーションが求められることを想定し、保育者として求められる表現力や指導力を高めるための伝える力の育成について講義・演習を行います。後半では、自分が保育者となつた場合、何を伝えたいかを考察し、研究テーマにもとづいた研究を進めます。それ以外にも毎回「授業外学修課題」に取り組み自己の伝える力の向上をめざします。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

保育分野の専門的知識並びに技能

目標：

保育に関する専門的知識並びに技能を身につけ理解することができる。

汎用的な力

- 1. DP6. 行動・実践
- 2. DP8. 意思疎通

グループで協力しながら授業に取り組み、主体性を持ち、積極的に行動することができる。

目的に応じたプレゼンテーションを行い、互いの考えを述べ、共通理解を図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(~ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし不合格とします。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

授業内課題（プレゼンテーション作品）：課題の期限内提出20点、そこに独自の工夫がされていれば10点加点で評価する。

30 %

定期試験（レポート）論文提出

：課題の計画的な作成20点、発表時の演技力15点で評価する。授業の取り組み、発表15点（論文50点）

50 %

伝えるための補助資料（挿絵）文献資料収集および作成

：指定の形式に沿って作成できていれば10点、指定の形式に沿いながら独自の視点での工夫を活かして作成できていれば20点。

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 書名：話すことばを磨く実践
 著者名：森久保安美 編
 出版社名：明治図書
 書名：子どもための論理
 著者名：三森ゆりか 編
 出版社名：PHP研究所
 書名：NHK日本語センター・シリーズ①③④⑥
 著者名：杉澤陽太郎 河路 勝 大沢 雄一 秋山和平・小沼俊男 編
 出版社名：祥伝社
 書名：改訂版 アーサーショントレーニング
 著者名：平木典子 編
 出版社名：金子書房
 書名：自分の気持ちをきちんと〈伝える〉技術
 著者名：平木典子 編
 出版社名：PHP研究所
 書名：河田式テンプレート 保護者会 編
 著者名：河田孝文 編
 出版社名：明治図書

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は前期2単位、後期2単位の科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回4時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 2限

場所： 幼児教育学科第4研究室

備考・注意事項： 表現力（伝える力）のある保育者を目指して研究を頑張りましょう。 研究室で質問を受け付けます。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる自安の時間
第1回	オリエンテーション 専門演習での学びについて	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 本科目の授業目標と計画を理解し、前期演習の目標と計画を確認する。 表現力や指導力を高めるための伝える力とは何かを理解する。 話すこと、聞くことの学修で、注意しなければいけないことを学ぶ。 	
第2回	自己紹介を手掛かりに「自分」についてを上手に伝える工夫	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手を意識した話し方の練習を行う。 敬語の使い方、自己紹介の仕方を練習する。 読み手を意識した説明文を書く練習を行う。 (説明する項目整理の仕方を学ぶ) コミュニケーションの基本的な考え方を学ぶ。 	
第3回	挿絵（2コマ漫画）を使って、テーマに沿った話をする	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 決められたテーマをもとに伝えたいことを自分らしく伝える練習をグループで行う。 グループで、豊かな関わりをもたらすためのコミュニケーション力を養う。 伝えたいテーマをグループで話し合い、必要な挿絵（2コマ漫画）の収集、作成を行う。 	
第4回	自分が作成した挿絵（2コマ漫画）を使って、ミニ発表会をしよう	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいテーマをグループで話し合い、挿絵（2コマ漫画）を使って、発表会を行なう。 話す内容を、どのように整理し、挿絵をどのように活用すれば有効かを考える。 研究論文のテーマを考える。 	
第5回	保護者への連絡文を作成する（午睡に必要なものを依頼する連絡文）・研究倫理教育	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 園行事等について、目的や持ち物など、連絡文を作成する。 (授業外学修課題を基に、自身の連絡文をPCを活用して作成する) 保護者が分かりやすい文章にするための工夫を考える。 ネットを活用し、園などのホームページから必要な情報収集を行う。 研究倫理教育を実施する。 	
第6回	新聞づくり（今、自分が伝えたいことをまとめよう）	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 保育者を目指す者として、現代的な話題についてまとめる。 (新聞づくりを行う。) ネットを活用し、社会面、幼稚園などのホームページから必要な情報収集を行う。 新聞・ホームページなどの著作権について考える。 	

第7回	園行事等について園児に伝える（遠足のお知らせ）	手洗いの重要性について、子どもへの配慮、保育の方法と説明の仕方について課題用紙にまとめる。	4時間
第8回	日常生活で守らなければいけないことなどを園児に伝えよう①（手洗いについて）	園にあるおもちゃをめぐっての子ども間のトラブル事例を題材として、子どもへの配慮、保育の方法についてを課題用紙にまとめる。	4時間
第9回	日常生活で守らなければいけないことなどを園児に伝えよう②（おもちゃの使い方について）	授業で取り上げた事例について、他にどのような内容が展開できるかをまとめる。遊具遊びで気を付けることを考える。	4時間
第10回	日常生活で守らなければいけないことなどを園児に伝えよう？（好き嫌いを無くすために）	授業で学んだこと、実習先で実践したいことをまとめる。	4時間
第11回	保育者として、園児の様子を家庭・保護者に伝えよう①（園での生活の様子）	授業で取り上げた事例について、他にどのような内容を展開できるかを考える。	4時間
第12回	保育者として、園児の様子を家庭・保護者に伝えよう②（友達と仲良くすること）	授業で取り上げた事例について、他にどのような内容を展開できるかを考える。先輩保育者に尋ねるときの話し方を考える。	4時間
第13回	保育者間の同僚関係の絆を高めよう①（先輩への尋ね方を考える）	授業で学んだことを事例として、他にどのような内容が考えられるかをまとめる。	4時間
第14回	保育者間の同僚関係の絆を高めよう②（同僚へのメモでの伝え方を考える）	メモで伝えるときの注意事項をまとめる。研究に向けた実習先での取り組みについてまとめる。これまでまとめたプレゼン内容を確認し、卒業論文をどのようにつなげるか、計画書を作成する。	4時間
第15回	後期オリエンテーション 後期演習の目標と計画を確認する	卒業論文の計画書を確認し、必要な資料を調べる準備を進める。	4時間
第16回	プレゼンテーションの基本を理解する	事前にプレゼンソフトの操作方法について調べる。無料イラストなどを検索し、目的に合ったイラストを探す。	4時間
第17回	プレゼンテーション資料の作成方法について考える	各自で研究テーマ、計画に沿ってプレゼンソフトの操作を確認する。無料イラストなどを検索し、目的に合ったイラストを探す。	4時間

	<ul style="list-style-type: none"> 各自が作成したいものを発表し、プレゼンテーションの方法を考える。 不足することは何か、より分かりやすく伝えるにはどのような工夫が必要かを検討する。 研究テーマ決定に向けた準備を行う。 		
第18回	自己課題の発見	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していくかについて検討し、まとめる。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 「自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する。 グループ内で、論文作成にむけた進捗状況の交流を行う 情報収集の仕方や、参考となる情報交換を行う。 		
第19回	卒業研究のテーマに沿って研究を進める	課題解決するために何が必要か計画を立てる。自分の研究テーマに沿った資料を検討し、研究方法を考える。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 研究のための課題を整理し、課題解決に向けた考察する テーマ決定の理由を考察し、発表の準備を行う。 		
第20回	卒業研究のテーマに沿って研究を進める（何を軸に研究を進めるかを考える）	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題について、研究の方向性を検討する。 各自が考えた内容を出し合い、グループで仮説を立て計画書を作成する。 	4時間
第21回	卒業研究発表会①（プレゼンAグループ）	他者の意見・助言を受けての卒業研究を進める。個人で準備したプレゼンをもとに、再度、計画を立て直す。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究論文の計画書を作成・発表し、研究内容について検討する。 AとBの2つのグループに分かれて、発表会を行う。 グループ・個人ごとに発表し、発表内容について検討する。 他者の意見・助言を受けての卒業研究を進める。 文献・ネット検索等を行う。 		
第22回	卒業研究発表会②（プレゼンBグループ）	他者の意見・助言を受けての卒業研究を進める。個人で準備したプレゼンをもとに、再度、計画を立て直す。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究論文の計画書を作成・発表し、研究内容についてグループで検討する。 AとBの2つのグループに分かれて、発表会を行う。 グループ・個人ごとに発表し、発表内容についてグループで検討する。 他者の意見・助言を受けての卒業研究を進める。 文献・ネット検索等を行う。 		
第23回	卒業研究論文の指導①（個々の研究の進捗状況について）	卒業研究論文の執筆にむけ、文献・ネット検索等を行います。論文にまとめる。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究論文に取り組む。 文献・ネット検索等を行い、研究を進める。 計画書をもとに論文作成の進捗状況を確かめる。 		
第24回	卒業研究論文の指導②（研究の進捗状況に応じて個々への指導）	卒業研究論文の執筆にむけ、文献・ネット検索等を行います。論文にまとめる。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究論文に取り組む。 文献・ネット検索等を行い、研究を進める。 		
第25回	卒業研究論文の指導③（研究の進捗状況に応じて個々への指導）	卒業研究論文の執筆にむけ、文献・ネット検索等を行います。論文にまとめる。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究論文に取り組む。 文献・ネット検索等を行い、研究を進める。 グループで、ミニ発表会を行い、意見交換を行う。 		
第26回	卒業研究発表会①（プレゼンAグループ）	発表を通して学んだことをまとめる。研究論文の補足、修正をする。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの卒業研究論文の発表を行い、コメントを交換する。 AとBの発表グループに分け、これまでの研究についてプレゼンソフトを使って発表する。 他者評価を取り入れ、補足資料の作成に役立てる。 		
第27回	卒業研究発表会②（プレゼンBグループ）	発表を通して学んだことをまとめる。研究論文の補足、修正をする。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの卒業研究論文の発表を行い、コメントを交換する。 AとBの発表グループに分け、これまでの研究についてプレゼンソフトを使って発表する。 他者評価を取り入れ、補足資料の作成に役立てる。 		
第28回	まとめ：1年間の学びのまとめ	伝えることについて、論文作成を通して学んだことをまとめる。	4時間
	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の演習全体を振り返り、自己の学びを総括し、成果を共有する。 研究論文を提出する。 前期の新聞づくりを参考に、保育者としての社会的な話題を発表する。 		

授業科目名	専門演習				
担当教員名	範 衍麗				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習では、自分で設定した研究テーマにもとづいて、卒業研究（論文・制作・発表等）を行います。主に基本的生活習慣や安全教育・安全指導、運動遊びに関する論文を収集し、整理し、まとめます。研究倫理や研究方法（文献研究・調査研究・観察研究）を学びます。また、文献検索、資料収集、アンケート調査などを行い、卒業論文（制作物）を作成します。そして、パワーポイントを使って卒業論文のプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的な内容：

- 保育分野の専門知識ならびに技能を身につける。運動遊び、安全教育、生活習慣の確立に関する知識を身につける。
運動遊び、安全教育・安全管理、基本的生活習慣の指導法を身に付ける。論文を作成する。

目標：

- 保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる。運動遊び、安全教育、基本的生活習慣の知識を身に付けることができる。
保育者として必要とされる指導力を高めることができる。表現遊び、安全教育、生活習慣の指導法を考え、卒業論文を作成することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP9. 役割理解・連携行動

先行研究を行い、研究課題を決めることができます。

研究計画の立て方を理解し、グループで研究計画書を作成することができます。

資料収集、研究計画の立案、研究発表を行う際に、主体的に行動することができます。

グループで協力しながら授業に取り組み、他者との連携を取りながら自分の役割を遂行することができます。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

評価の基準

： 学び姿勢や課題への取り組み方などを総合的に評価します。

30 %

授業内発表

： 中間発表10点満点とする。独自のループリックに基づき評価します。

10 %

卒業論文

： 完成した卒業論文、制作の作品、制作レポートについて、独自のリープリック（授業で配布）を用いて評価します。

50 %

定期試験（口述試験）

： 卒業論文、制作の内容について口述試験を行い、独自のループリックを用いて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜配付

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回4時間必要となります。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、次回の授業に向けて準備を整えてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日の昼（12：10-13：00）

場所： 中央館4階第8研究室

備考・注意事項：
質問は授業の前後やメールでも対応する。
アドレス：fan@osaka-seikei.ac.jp
メールには学籍番号と氏名を必ず入れること。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、卒業論文とは シラバスを確認し、授業の進め方を理解します。 卒業論文を作成する意義と目的を理解します。	研究したい内容を考えます。 4時間
第2回	研究方法1文献研究 文献研究の意味を理解し、文献研究の方法を学びます。 文献収集の方法を学びます。	資料を調べ、研究テーマを考えます。 4時間
第3回	研究方法2事例研究 観察法の目的を理解し、観察の方法を学びます。 記録の取り方、整理の仕方を身につけます。	資料を調べ、研究テーマを考えます。 4時間
第4回	研究方法3調査研究 アンケート調査の目的を明確し、アンケートの作成について学びます。 アンケート調査の調査方法を決めます。	研究テーマに関する資料を調べます。 4時間
第5回	研究倫理教育 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイド」に基づき、「研究倫理教育」を学びます。 引用参考文献の表記について学びます。	研究テーマに関する文献を調べ、引用を明記します。 4時間
第6回	研究テーマの設定 調べた資料のレジュメを作成し、発表します。 研究テーマを決めます。	発表用レジュメを作成します。 4時間
第7回	研究テーマについての問題抽出 先行研究などから、問題を抽出します。 調べた資料のレジュメを作成し、発表します。	発表用レジュメを作成します。 4時間
第8回	研究目的の明確化 先行研究の文献資料をもとに研究目的を明確します。	研究目的を推敲します。 4時間
第9回	研究方法の具現化 研究テーマにあった具体的な研究方法を決めます。 研究方法の書き方を学びます。	研究方法を書き上げます。 4時間
第10回	卒業論文の作成1研究目的 卒業論文の研究目的を書き上げます。	研究目的を書き上げます。 4時間
第11回	卒業論文の作成2研究方法 卒業論文の研究方法を書き上げます。	研究方法を書き上げます。 4時間
第12回	卒業研究計画書の作成 研究目的と研究方法を推敲します。 論文作成に至るまでの計画を立案します。	卒業研究計画書を作成します。 4時間
第13回	卒業研究計画書の完成 卒業研究計画書を修正し、完成をします。	卒業研究計画書を完成します。 4時間
第14回	中間発表 研究テーマ、研究方法、研究目的まで発表します。 発表者以外は発表を聞き、質問やアドバイスをします。 夏休みの研究計画を確認します。	研究計画に基づいた活動をします。 4時間
第15回	後期オリエンテーション、研究活動の報告 後期授業の目標と計画を確認します。 夏休みの研究活動報告を行います。	研究テーマにふさわしい研究方法を工夫します。 4時間
第16回	卒業論文の作成3研究結果 先行研究を調べます。	先行研究を調べます。 4時間

	研究結果を書き上げます。		
第17回	卒業論文の作成4データの入力と分析 データの入力と分析方法を学びます。 研究結果を書き上げます。	研究テーマに関する先行研究を収集します。	4時間
第18回	自己課題の発見 自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察します。	専門演習の取り組みに中で自己の課題をどのように改善していくかについて検討し、まとめます。	4時間
第19回	中間発表会 中間発表を行います。 他者の発表を聞く、質問やアドバイスをします。	発表会での意見をもとに、検討します。	4時間
第20回	卒業論文の作成と指導1結果 卒業論文の「結果」の部分を検討し、推敲を行います。	結果の部分を検討し、書式を整えます。	4時間
第21回	卒業論文の作成と指導2結果の推敲 卒業論文の「結果」の部分を検討し、推敲を行います。 自分の参考引用文献のリストを作成します。	結果の部分を検討し、書式を整えます。	4時間
第22回	卒業論文の作成と指導3図と表の作り方 図と表の作り方を学びます。 卒業論文の「結果」の部分を検討し、推敲を行います。	結果の部分を書き上げ、書式を整えます。	4時間
第23回	卒業論文の作成と指導4考察 卒業論文の「考察」の部分を書き上げます。	考察の部分を検討し、書式を整えます。	4時間
第24回	卒業論文の作成と指導5考察の推敲 卒業論文の「考察」の部分を検討し、推敲を行います。	考察の部分を書き上げ、書式を整えます。	4時間
第25回	卒業論文の作成と指導6引用文献 卒業論文の「引用参考文献」の表記を確認し、修正します。	引用参考文献を確認し、書式を整えます。	4時間
第26回	卒業研究題目届の作成 卒業研究題目届を作成します。	論文を読み、文書を推敲します。	4時間
第27回	卒業論文の要約の作成 卒業論文の要約を作成します。 引用文献を引用した順に整理し、提出します。 アンケートの原本と分析した資料を整理し、提出します。	卒業論文の要約を推敲します。	4時間
第28回	卒業論文発表 卒業論文を発表します。 発表者の発表を聞き、積極的に質問します。	チェックリストに基いて論文の最終チェックをし、提出します。	4時間
第29回			時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	榎原 志保				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立高等学校で英語科教諭として勤務した経験あり（全14回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本演習では、自分で設定したテーマに基づいて卒業研究（論文・制作・発表等）を行います。保育・教育をめぐる思想・歴史・社会的・制度的問題など、さまざまなテーマの中から自分が興味・関心のあるテーマを選択し、研究に取り組み、最終的に卒業研究作品として仕上げます。研究論文や卒業研究作品の制作を通して、教育・保育・福祉の現場で、子どもの成長・発達や保護者による子育て、社会による子育てに専門職としてかかわっていくに当たって必要な専門的知識・技能、職業理解、課題発見力、意思疎通力、課題完遂力を養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的な内容：

- 保育分野の専門的知識並びに技能
- 保育分野に関連する幅広い教養

目標：

- 保育に関連する専門知識並びに技能を身につけ、理解することができる。
- 保育分野に関連する幅広い教養を身につけ、職業理解を深めることができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP7. 完遂
- 3. DP8. 意思疎通

- 学科での学びを踏まえ、主体的に取り組める有意義な研究課題を発見することができる。
- 与えられた課題、自ら設定した課題に取り組み、指定された形式に沿った卒業研究作品を完成させ、発表することができる。
- 他者としっかりとコミュニケーションを取りながら研究を進めることができます。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

研究過程の評価	：	研究過程をとおして作成したポートフォリオを、独自のループリックに基づいて評価する。
試験（卒業論文または卒業作品・レポート提出）	：	卒業論文または卒業作品・レポートを、独自のループリックに基づいて評価する。
研究発表に対する評価	：	専門性、実践力（技能）、協働性、忠恕の観点から成る独自のループリックに基づいて総合的に評価する。

40 %

50 %

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 一般社団法人日本保育学会 倫理綱領ガイドブック編集委員会編『改訂 保育学研究倫理ガイドブック』（フレーベル館、2012年）
 石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社、2012年）
 乙訓 稔『西洋近代幼児教育思想史—コメンティウスからフレーベル—』（東信堂、2010年）
 乙訓 稔『西洋近代幼児教育思想史—デューイからコルチャッカー—』（東信堂、2009年）
 岡本富郎『保育の思想を学ぼう—今、子どもの幸せのために—』（萌文書林、2014年）
 泉 千勢編著『なぜ 世界の幼児教育・保育を学ぶのか』（ミネルヴァ書房、2017年）
 矢野智司『大人が子どもにおくりとでける40の物語—自己形成のためのレッスン』（ミネルヴァ書房、2014年）
 種村エイ子『いいち 幼児がじっと聞き入る絵本リスト 5.5+8.5』（明治図書、2007年）

その他、各回授業の中で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は前期1単位、後期1単位の科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通年で90時間、それぞれ求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日 2限（10:40～12:20）

場所： 教育第4研究室

備考・注意事項： オフィスアワー：火曜日 2限（10:40～12:20）

質問等連絡をとりたい場合は、Eメールで（アドレスは授業のなかでお伝えします）。
 Eメールの件名には、必ず学籍番号と氏名を入れてください。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	オリエンテーション：卒業研究の意義について 『短期大学 卒業研究ガイドライン』に基づいて、本演習の目標と1年間を通じての計画を確認し、卒業研究に取り組む意義を理解します。 卒業生の卒業研究を事例としてグループ学習を行い、本演習でめざす卒業研究の成果について考察し、発表し合います。 本時の学修をとおして、「専門演習」をとおしての学びについて、具体的なイメージと自分なりの目標をもつことをめざします。	卒業生の卒業研究で興味関心のあるものを2編以上読んで、勉強になった点を300字から400字程度で書いてください。	1時間
第2回	卒業研究とは何か①本演習でめざす卒業研究とその流れについて 授業外学習課題として書いてきた卒業生の卒業研究からの学びを発表し合い、本演習をとおしての学びについて、具体的なイメージを表現できるようにします。 卒業研究を進めていく流れについて、いくつかのタイプの事例に基づいて理解します。	保育学生の卒業研究にはどのようなものがあるのかを調べ、発表できるようにしておいてください。	1時間
第3回	卒業研究とは何か②問い合わせ立てることの重要性について 授業外学習課題として調べてきた保育学生の卒業研究について発表し合い、卒業研究のテーマや問い合わせ、構成について、幅広い事例を踏まえて理解します。 「問い合わせ」が卒業研究の核として重要であることを理解し、その立て方について学びます。	授業や実習をとおしてこれまでの学びを振り返り、自分がめざす卒業研究の形とテーマ、「問い合わせ」について考え、記述してください。	1時間
第4回	適切な「問い合わせ」を立てるために①調べる 授業外学習課題として記述してきた各自の卒業研究の形、テーマと「問い合わせ」を発表し合い、意見交換をとおして、「問い合わせ」を深めます。 卒業研究テーマにかかわる文献資料、先行研究の調べ方にについて学び、実際に調べてみます。 各自のテーマや「問い合わせ」にかかわる文献資料、先行研究を調べ、「問い合わせ」を練ります。	練り直した「問い合わせ」を記述してください。文献資料、先行研究を2編以上調べて文献カードに書いてください。	1時間
第5回	「研究倫理」を学ぶ 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、「研究倫理」について学びます。 具体的な事例に照らしながら、「研究倫理」に基づくルールを学び、論文・レポート、制作に取り組むなかで注意すべき点に関する理解を深めます。	専門演習の取り組みのなかで「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて検討し、まとめてください。	1時間
第6回	適切な「問い合わせ」を立てるために②適切な資料を見つける 様々な資料情報には質の違いがあることを学んで理解し、研究に役立つ適切な資料収集ができるようになることをめざします。	文献資料、先行研究を2編以上調べて文献カードに書いてください。	1時間
第7回	適切な「問い合わせ」を立てるために③研究方法について理解する	自分の研究テーマや「問い合わせ」にふさわしく、取り組みが可能な研究方法を考え、記述してください。	1時間

	研究方法にはどのようなタイプの別があるのかを学んで理解し、各自のテーマや「問い合わせ」を追究するのに適した方法を考えます。量的調査と質的調査の違いを知って、自分の研究テーマや「問い合わせ」にとって適切な調査方法を考え、自分の研究テーマや「問い合わせ」にふさわしく、取り組みが可能な研究方法を選択することに取り組みます。		
第8回	卒業研究計画書の作成①テーマ設定の理由と「問い合わせ」を書く これまでの作業と考察を踏まえ、卒業研究計画書における「テーマ設定の理由と「問い合わせ」」の作成に取り組みます。（個別作業・個別指導）	卒業研究計画書の「テーマ」、「テーマ設定の理由」と「問い合わせ」を書きあげて完成させてください。	1時間
第9回	卒業研究計画書の作成②「研究計画と方法」を書く 卒業研究計画書の「テーマ」、「テーマ設定の理由」と「問い合わせ」を提出し、指導助言を受けて修正します。 これまでの作業と考察を踏まえ、卒業研究計画書における「研究計画と方法」の作成に取り組みます。（個別作業・個別指導） 卒業研究発表会のグループ分けを行います。	卒業研究計画書の「研究計画と方法」を書きあげて完成させてください。	1時間
第10回	卒業研究計画書の作成③「予想される結果とその意義」を書く 卒業研究計画書の「研究計画と方法」を提出し、指導助言を受けて修正します。 これまでの作業と考察を踏まえ、卒業研究計画書における「予想される結果とその意義」の作成に取り組みます。（個別作業・個別指導） 卒業研究計画発表会に向けての準備を行います。	卒業研究計画書の「予想される結果とその意義」を書きあげて完成させてください。	1時間
第11回	卒業研究計画の発表とピア評価①1グループ目 卒業研究計画を発表し合い、意見交換を行います。	他者の発表や意見を踏まえて、自分の卒業研究計画を練り直し、書き直してください。	1時間
第12回	卒業研究計画の発表とピア評価②2グループ目 卒業研究計画を発表し合い、意見交換を行います。	他者の発表や意見を踏まえて、自分の卒業研究計画を練り直し、書き直してください。	1時間
第13回	卒業研究計画の発表とピア評価③3グループ目 卒業研究計画を発表し合い、意見交換を行います。	他者の発表や意見を踏まえて、卒業研究計画を練り直し、書き直してください。卒業研究作成に向けての準備をする。	1時間
第14回	前期のまとめ 前期演習の総括を行い、後期演習への課題を確認します。	前期の取り組みを振り返り、学びをまとめます。 他者からのコメントや指導助言を踏まえて、「卒業研究計画書」を練り直し、完成させて提出します。	1時間
第15回	後期オリエンテーション：卒業論文・作品の制作に向けて 前期演習での学びにつづく後期演習の目標と計画を確認します。 卒業研究作成に向けての基本的説明を改めて行い、研究倫理上のルールについても確認します。 前期授業で完成させた「研究計画書」に基づき、論文なし制作レポートの第1章の作成に取り組みます。	論文なし制作レポートの第1章を書きあげてください。	1時間
第16回	卒業論文・作品の制作①研究の目的と方法、参考文献を書く 論文なし制作レポートの第1章を提出し、指導助言を受けて修正します。 前期に調査・収集した参考文献・資料一覧の作成に取り組みます。（個別作業・個別指導）	論文なし制作レポートの第1章と参考文献・資料一覧を完成させます。	1時間
第17回	卒業論文・作品の制作②先行研究の状況についてまとめる 論文なし制作レポートの第1章ならびに参考文献・資料一覧を提出し、確認と指導助言を受けて修正します。 参考文献・資料の調査状況に基づき、先行研究状況としてまとめるに取り組みます。（個別作業・個別指導）	先行研究の状況を説明する文章を完成させてください。	1時間
第18回	自己課題の発見 自己のリテラシー・コンピテンシー等について、アセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察します。	専門演習の取り組みの中で、自己の課題をどのように改善していくかについて検討してまとめます。	1時間
第19回	卒業論文・作品の制作③先行研究の内容についてまとめる 先行研究状況をまとめた文章を提出し、指導助言を受けて修正します。 各自の卒業研究の基礎となる先行研究の内容についてまとめることに取り組みます。（個別作業・個別指導）	先行研究の内容を説明する文章を完成させてください。	1時間
第20回	卒業論文・作品の制作④1次資料の内容をまとめる	テーマにかかる1次資料の内容を文章としてまとめてください。	1時間

	先行研究の内容をまとめた文章を提出し、指導助言を受け修正します。 卒業研究テーマにかかる1次資料の内容をまとめます。 (個別作業・個別指導)		
第21回	卒業論文・作品の制作⑤1次資料の内容に基づいた考察を行う 卒業研究テーマにかかる1次資料の内容まとめを提出し、指導助言を受けて修正します。 1次資料の内容まとめを継続とともに、考察に取り組みます。 (個別作業・個別指導)	テーマにかかる1次資料の内容に基づいた考察文を文章としてまとめてください。	1時間
第22回	卒業論文・作品の制作⑥1次資料の内容に基づいた考察をまとめる テーマにかかる1次資料の内容に基づいた考察文を提出し、指導助言を受けて修正します。 1次資料の内容に基づいた考察の仕上げに取り組みます。	1次資料の内容に基づいた考察文を完成させてください。	1時間
第23回	卒業論文・作品の制作⑦1次資料の内容に基づいた考察を仕上げる 1次資料の内容に基づいた考察文を提出し、指導助言を受けて仕上げます。 (個別作業・個別指導) 「卒業論文題目届」を作成して提出します。	卒業論文、作品とレポートを完成させてください。	1時間
第24回	卒業研究発表準備 卒業研究作品の最終的な仕上げと点検ならびにパワーポイント作成など、卒業研究発表会に向けた準備を行います。 (個別作業・個別指導)	発表に向けての準備を完成させてください。	1時間
第25回	卒業研究発表会①1グループ目 各自の卒業研究発表を行い、コメントを交換します。 研究成果に対する自己評価と他者評価を行います。	自他の発表に対するピア評価をまとめてください。	1時間
第26回	卒業研究発表会②2グループ目 各自の卒業研究発表を行い、コメントを交換します。 研究成果に対する自己評価と他者評価を行います。	自他の発表に対するピア評価をまとめてください。	1時間
第27回	卒業研究発表会③3グループ目 各自の卒業研究発表を行い、コメントを交換します。 研究成果に対する自己評価と他者評価を行います。	自他の発表に対するピア評価をまとめてください。	1時間
第28回	まとめ：1年間の学びのまとめ 1年間をとおしての演習での学びを振り返り、自己の学びを総括し、ゼミ全員でその成果を共有します。	学びの振り返りを行い、ポートフォリオを仕上げて提出してください。	1時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	塩田 桃子				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習では、自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（論文・制作・発表等）を行います。特に、保育・幼児教育における現場で運動あそびや民俗舞踊の実践をするために役立つ研究として、幼児期における運動あそびや民俗舞踊の指導のあり方に關する研究を進めます。また幼児期の子どもになぜ運動が必要か、どのような運動が相応しいのか等、発達を踏まえた指導を考えます。また、運動あそびの意義や本質は何かを追求し、運動あそびを継承・発展・創造する力を育む指導方法を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で發揮する力

具体的な内容：

- 保育分野の専門的知識並びに技能
- 運動あそび及び民俗舞踊の指導に関する知識並びに技能

目標：

- 保育に関する専門的知識並びに技能を身につけ理解することができる。
- 幼児期における運動あそびや民俗舞踊の意義理解し、実践する力を身につけることができる。

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP5. 計画・立案力
- 3. DP6. 行動・実践
- 4. DP7. 完遂
- 5. DP9. 役割理解・連携行動

- 幼児期における運動あそび・民俗舞踊の指導の在り方について、自己課題を見つけることができる。
- 運動あそびの実践および民俗舞踊の発表会に向けて計画を立てることができる。運動あそびの計画を立て、実践することができる。
- 計画に基づいて、準備・練習・発表することができる。
- 実践からの学びを振り返り、文章にまとめることができる。
- 自身の役割を見つけ出し、積極的に行動し、他者と連携しながら進めていくことができる。

学外連携学修

有り(連携先：こみち幼稚園)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業の参加意欲・態度

評価の基準

： 運動に相応しい服装を身につけ、つめを切る、アクセサリーを外す等、安全面に配慮することができているかを総合的に評価します。
積極性、仲間との協同性等の観点から独自のループリックに基づき評価します

授業内課題等	:	授業内での課題に対する取り組み等を独自のループリックに基づいて評価します。
卒業研究（レポート）	20 %	卒業研究の成果・内容について独自のループリックに基づいて評価します。
卒業研究（発表）	30 %	発表内容、発表に向けての取り組み姿勢、仲間との協同性等について独自のループリックに基づいて評価します。
	30 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

学校体育研究同志会編『新みんなが輝く体育④ 幼児期運動あそびの進め方』創文企画、2021年

履修上の注意・備考・メッセージ

子どもと運動に関わる文献や記事等を積極的に読むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 12時30分～13時

場所： 第8研究室

備考・注意事項： 時間がかかる場合は、相談の上別の日時を決める。

授業計画

授業回	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間	
第1回	オリエンテーション：授業の進め方について・卒業研究とは何か 本授業の概要、進め方、評価等について理解する。 本授業の研究テーマである「幼児期の運動あそびおよび民俗舞踊の指導における研究」について、その意義を理解し、さらに、研究に対する研究倫理の問題、研究の進め方について主体的に考えていく。 卒業生の卒業研究を知り、自分の研究テーマを検討し、学びの流れをイメージする。	授業概要を把握しておくこと。保育学生の卒業研究を調べる。	4時間
第2回	運動あそびの意義と価値① 運動あそびの意義と価値について実技を通して考える。	運動あそびの意義と価値についてこれまでの自身の運動経験から考える。	4時間
第3回	運動会の意義と価値①—ミニ運動会の準備 運動会の種目・ルール等を考え、ミニ運動会に向けて準備を行う。	運動会種目を調べておくこと。	4時間
第4回	運動会の意義と価値②—ミニ運動会 実際の運動会種目を実施し、必要な準備・ルールの工夫、環境構成等を考える。	運動会に向けて、必要な打ち合わせ・準備をしておくこと。	4時間
第5回	研究倫理教育・運動あそびの意義と価値② 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、全学生への「研究倫理教育」を実施する。	専門演習の取り組みの中で「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて検討し、まとめる。	4時間
第6回	表現運動の指導①：創作方法 子どもへ表現運動の創作のプロセスおよび指導法について、これまでの学びからさらに深め、実践を通して理解する。選曲や創作方法について学ぶ。子どもの発達に合わせた表現運動の曲を調べる。	幼児期の子どもに相応しい表現運動の曲を調べておくこと。	4時間
第7回	表現運動の指導②：創作 子どもへ表現運動の創作のプロセスおよび指導法について、これまでの学びからさらに深め、実際にグループで創作活動を行い、創作方法を理解する。	表現運動の創作をするにあたって、曲のカウント表を作成し、曲の構成を可視化しておく。	4時間
第8回	表現運動の指導③：指導方法 実際に創作した作品を子どもにどのように指導するのかをグループで検討し、表現運動の指導方法について理解を深める。	表現運動を指導する際のポイントや留意事項について調べておく。	4時間
第9回	表現運動の指導④（模擬保育の発表）：1・2グループ 先生役と子ども役にわかれ、表現運動の指導について、模擬保育の発表により、理解を深める。	模擬保育の発表に向けてグループで相談・準備をする。	4時間
第10回	表現運動の指導⑤（模擬保育の発表）：3・4グループ 模擬保育の発表に向けてグループで相談・準備をする。	模擬保育の発表に向けてグループで相談・準備をする。	4時間

	先生役と子ども役にわかれ、表現運動の指導について、模擬保育の発表により、理解を深める。		
第11回	表現運動の指導⑥（模擬保育の発表）：5・6グループ 先生役と子ども役にわかれ、表現運動の指導について、模擬保育の発表により、理解を深める。	模擬保育の発表に向けてグループで相談・準備をする。	4時間
第12回	表現運動の指導⑦：子どもへの直接指導に向けた準備 表現運動を実際に子どもたちに指導するための準備を行う。	子どもたちへの直接指導に向けて相談・準備をしておくこと。	4時間
第13回	表現運動の指導⑧：子どもへの直接指導体験 附属こみち幼稚園での指導体験を行う。 ※附属こみち園での指導を予定。	子どもへの直接指導体験から学んだことをレポートのまとめること。	4時間
第14回	前期のまとめ 子どもの運動指導をテーマにこれまでの学びをまとめ、今後の研究課題を構想する。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第15回	後期のオリエンテーション：前期の振り返りと今後の課題整理 前期を振り返り、後期に向けての準備を行う。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第16回	荒馬（民俗舞踊）①：荒馬とは何か 荒馬（民俗舞踊）とは何かについて、現地の荒馬および保育現場における教材化された荒馬から学ぶ。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第17回	荒馬（民俗舞踊）②：踊りを知る 荒馬（民俗舞踊）を踊り、振りや身体の使い方を知る。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第18回	自己課題の発見 自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けて課題を考察する。	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善しているかについて検討し、まとめること。	4時間
第19回	荒馬（民俗舞踊）③：表現する楽しさを知る 荒馬を踊り込み、振りをすべて覚え、自分なりに表現する楽しさについて学ぶ。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第20回	荒馬（民俗舞踊）④：表現力を高める ペアで踊り、互いに振りを教え合うことを通して、踊りの質や表現する力を高める。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第21回	荒馬（民俗舞踊）⑤：リハーサル 発表に向けてのリハーサルを行い、発表準備をする。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第22回	荒馬（民俗舞踊）⑥：発表 これまでの学習成果を発表する。 ※附属こみち幼稚園での発表会を予定。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第23回	研究テーマに基づいた卒業研究レポート① これまでの研究成果を卒業研究としてまとめる。	これまでの学びを振り返り研究成果をまとめる準備をしておく。	4時間
第24回	研究テーマに基づいた卒業研究レポート② これまでの研究成果を卒業研究としてまとめる。	卒業研究を進める。	4時間
第25回	研究テーマに基づいた卒業研究レポート③ これまでの研究成果を卒業研究としてまとめる。全体の構成と、まとめの部分、参考文献の記載に漏れがないかチェックする。	卒業研究を進める。執筆部分を見直し、構成が逸脱していないかをチェックしておく。	4時間
第26回	研究テーマに基づいた卒業研究レポート④ 卒業研究の完成を目指す。 様式のチェック、文章の構成、誤字脱字など、体裁を整える。出来上がった卒業研究の要約を作成する。わかりやすいプレゼンテーションになるように工夫する。	出来上がった原稿を読み直し、文章チェックをする。	4時間
第27回	研究テーマに基づいた卒業研究レポート⑤ 卒業研究の発表会を実施する。	発表の仕方を考え、リハーサルをする。他者の研究で気づいた点から自分の研究に取り入れたい点があれば修正の材料とする。	4時間
第28回	卒業研究のまとめ 卒論発表会の質疑応答の際に、他の人から出された疑問点や、不備な点を修正し、卒業研究を仕上げ提出する。 また、一年間を振り返り、本授業での学びや、自身の変化や成長を確かめる。	本授業の1年を振り返る。	4時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	鈴木 大介				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本演習では自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（論文・制作・発表等）を行います。福祉・保育・教育現場等の現場ではあらゆる子どもの生活や発達、そしてその子育て場面に向き合います。同時にそれらを支える地域や多様な主体とのつながり作りも重要な要素となります。専門演習では地域子育て支援や地域づくり、社会的養護等のキーワードをもとに各自でテーマを設定します。そして、そのテーマについて、実践的な理解や議論等を行い、学びを深め、卒業論文を作成を行います。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- 2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

- 保育分野の専門知識ならびに技能
- 児童家庭福祉分野の専門知識

目標：

- 保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる。
- 自分の設定したテーマに関しての知識と理解を深め、考察を行い自分の意見を述べができる。卒業レポートを完成させ、その内容を説明できる

汎用的な力

- 1. DP4. 課題発見
- 2. DP10. 忠恕の心
- 3. DP8. 意思疎通

- テーマに沿って資料を集め、その内容を説明することができる
- 保育や子育て支援のフィールドを理解し、子どもや保護者への支援を情熱をもって行うことができる
- 他人の意見を踏まえて、自分の意図や主張を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

外部講師による特別演習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。
テーマに応じて適宜課外学習を行う。その際、交通費等の実費負担が生じることがある。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

卒業論文

： 自分の設定したテーマについて卒業論文を作成する。課題発見、論理性、構成、独自の発想・視点、標記の観点から40点満点で評価する。

40 %

卒業論文への取り組み

： フィールドワーク等の調査や文献収集などを実行し、自分の研究に取り組めているか中間・最終研究発表をもとに自分の研究について独自の発想・テーマ、課題、論理性、構成の観点から20点満点で評価する。

20 %

授業への取り組み状況

： 各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のループリックを基に総合的に評価する。

30 %

定期試験

卒業論文／制作の内容について確認課題を行い、10点満点で評価する。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜授業時に紹介

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は前期1単位、後期1単位の科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通年で90時間、それぞれ求められる。
- ・その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・卒業論文作成のために文献やデータの収集、フィールドワークを含めた調査研究を意欲的に行い、授業外学修時間でその作成を行うこと。
- ・授業マナーを守り、発表や討議に積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日3限目

場所： 幼児教育学科第7研究室

備考・注意事項： 連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：suzuki-d@osaka-seikei.ac.jp）、学年、クラス、学籍番号、氏名を明記してください。

授業計画

回数	授業題目	授業内容	修業課題	授業外学修課題にかかる自定時間
第1回	オリエンテーション、専門演習について	専門演習の進め方と評価の説明 研究についての概要 専門演習で自分が何を学んでいくかの確認をする	授業を振り返り、自分の研究テーマについて考える。	1時間
第2回	自己覚知	専門職として必要な「自己覚知」について考える 自分自身について、あらゆる角度から強みや弱みやウイークポイントをはじめ、あらゆる角度から自分自身について分析をおこない、それを可視化していく	振り返りシートの作成、自己覚知に関する分析シートを作成する。	1時間
第3回	ゼミ交流ワークの理論と実際	ラボールの形成 レクリエーションワークの効果について学ぶ	振り返りシートの作成、発表用レクリエーションワークを考える	1時間
第4回	研究倫理教育及び、ゼミ交流ワークの活用と応用と自己の発見	研究倫理教育を行う レクリエーション・ワークの活用方法について学ぶ レクリエーション・ワークを実体験し、理解を深める 自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する ・専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していくかについて検討し、まとめる	振り返りシートの作成、発表用のレクリエーションを考える	1時間
第5回	研究倫理教育	文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、全学生への「研究倫理教育」を実施する	専門演習の取り組みの中で「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて検討し、まとめる。	1時間
第6回	地域における子育て支援と子どもの居場所	生活の場における子どもの課題（虐待や孤立、子どもの貧困等）について学ぶ 地域における親支援や子どもの育み支援について考える 親支援等の実践について考える 生活の場における子どもの課題（虐待や孤立、子どもの貧困等）について学ぶ 地域における子どもの居場所について学ぶ 子どもの居場所づくりやその実践について考える (子ども食堂や、学習支援、憩いの場など)	振り返りシートの作成。授業内容を踏まえ、子どもの居場所と地域子育て支援についてまとめる。	1時間
第7回	児童福祉施設や地域、被災地などにおけるボランティア活動	ボランティア活動の意義や役割について学ぶ 自分の特技や思いを生かした助け合い活動について考える	振り返りシートの作成。授業内容を踏まえ、様々な助け合い活動についてまとめる。	1時間
第8回	生活の場で子どもや家族を支える取り組み、子どもの命、子育て支援実践の展開について考える	生活の場における子どもの課題（虐待や孤立、子どもの貧困等）について、具体的な実践について調べる 子育て支援や親支援活動の実践について調べる 子どもの命や地域における親支援活動の実践について学ぶ	振り返りシートの作成。授業内容を踏まえ、家族支援の実践、子どもの命の取り組みについてまとめる	1時間
第9回	卒業研究の意義と目的について（研究方法1）	卒業論文について、教員が解説した内容をまとめ、理解を深める。		1時間

	卒業論文とはどのようなものかを理解する 「卒業研究ガイドライン」に基づき、教員が解説をおこなう 1. 卒業研究の意義と目的 2. 卒業研究に求められること		
第10回	テーマの設定（研究方法2） 各自、テーマを考える テーマを決めた動機について、学生同士で意見交換を行う 自分の研究テーマに関係した資料（文献、雑誌・新聞記事、インターネット情報等）を集める ・研究の社会的・技能的背景 ・明らかにしたいこと ・予想される結果とその意義 以上のことについて、文章化する	自分の研究テーマに関係した資料（文献、雑誌・新聞記事、インターネット情報等）を集めること。	1時間
第11回	研究目的について（研究方法3） 集めた資料を基に、研究目的について考える ・研究の社会的・技能的背景 ・明らかにしたいこと ・予想される結果とその意義 以上のことについて、文章化する	研究目的について、卒業研究計画書に記入します。	1時間
第12回	研究計画について（研究方法4） 研究計画と研究方法（調査方法等）について考える 上記のことについて、文章化する 卒業研究計画書を作成する	卒業研究計画書を完成させ、指導教員に提出する。	1時間
第13回	卒業論文の構成について（研究方法5） 卒業論文について、どのような構成にするか検討する	卒業論文の一般的な構成内容を理解し、自分の卒業論文の構成を考える。	1時間
第14回	夏期研究計画と、引用文献、参考文献について（研究方法6） 引用文献、参考文献を揃える 引用文献、参考文献の標記の仕方を学ぶ 夏期の具体的な研究計画および活動内容を決める	引用文献、参考文献を標記する。	1時間
第15回	オリエンテーション（後期授業の進め方等）と研究計画の確認 後期の授業の進め方について説明する 研究計画および研究に関して収集したデータの確認 夏休みの取り組みについての発表	収集したデータをまとめる。研究計画の進捗確認並びに調整を行う。	1時間
第16回	研究計画の確認 研究計画を確認する 研究に関して収集したデータの確認 夏休みの取り組みの発表	収集したデータをまとめる	1時間
第17回	研究データの分析、応用 研究用に収集したデータの分析を行う データの分析結果を基に卒業論文の作成を行う	各自で研究用に収集したデータの分析を行う	1時間
第18回	自己課題の発見 「自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する。」	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していくかについて検討し、まとめる。	1時間
第19回	中間発表に向けて テーマの設定、研究目的、研究方法、自分の研究テーマに関する先行研究論文をまとめたものについて発表の準備を行う	中間発表用の資料の作成を行う。各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第20回	中間発表（前半） テーマの設定、研究目的、研究方法、自分の研究テーマに関する先行研究論文をまとめたものについて発表を行う 発表内容を聞き、自分の課題点を見つける	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第21回	中間発表（後半） テーマの設定、研究目的、研究方法、自分の研究テーマに関する先行研究論文をまとめたものについて発表を行う 発表内容を聞き、自分の課題点を見つける	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第22回	卒業論文作成（研究目的の確認） 個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う 研究目的の確認を行う	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第23回	卒業論文の作成（研究方法の確認） 個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う 研究方法の確認を行う	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第24回	卒業論文の作成（先行研究の確認） 個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う 先行研究の確認を行う	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間

第25回	卒業論文の作成（研究倫理の確認）	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第26回	卒業論文の作成（添削・推敲）	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。研究発表会用のレジュメ、資料を作成する。	1時間
第27回	研究発表会（前半）	推敲済み最終原稿を完成させる。研究発表会用のレジュメ、資料を作成する	1時間
第28回	研究発表会（後半）	推敲済み最終原稿を完成させる	1時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	加戸 敬子				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	音楽療法士として脳神経内科および精神科において病院臨床を行っている。 また、音楽教室、保育養成機関において音楽、ピアノ講師として指導を行っている。（全28回）				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本演習では自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（小論文・演奏発表）を行う。保育現場で行う、非言語の音楽によるからだ、こころの発達、他者とのコミュニケーションツールとなる音楽について、実践を交えて研究する。ピアノアンサンブルやミュージックベル・トーンチャイム奏、器楽合奏により、他者と音楽を作り上げていくプロセスの中で得られる自己表現、協調性、社会性、自己肯定感などを体験する。また、心理ケアやリハビリテーション、発達支援としての音楽療法について学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

保育分野の専門知識ならびに技能

目標：

保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる

汎用的な力

- 1. DP5. 計画・立案力
- 2. DP6. 行動・実践

保育現場での音楽活動、生活発表会において、プログラムの立案ができる。

保育現場での音楽活動時に、適切な楽器、歌唱の指導ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。
20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回につき1回欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合

ピアノアンサンブル演奏と合奏の発表 2回

評価の基準

： 演奏発表を10段階で評価する。評価の観点は次の通りである。1. 音楽による自己表現 2. 積極的な取組み 3. 適切なテンポとバランス 4. 協調性 5. 安定したテクニック ループリックに基づいて評価する。

40 %

卒業研究レポート、小論文

： 授業内の発表に関連した小論文、またはレポートを10段階で評価する。観点は独自の考えが述べられている、自己、他者への客観的評価が述べられているかなどである。定期試験時に提出し、質疑の後、評価を行う。

40 %

受講状況

： グループ発表の準備における積極的な取組み、独自の視点による音楽の解釈、他者と協力しあって取り組んでいるか、の3点を観点として評価する。

10 %

定期試験（口述試験）

： 卒業小論文、またはレポートの内容について口述試験を行い、独自のループリックを用いて評価する。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『両方主役の連弾レパートリー』秋山さやか 他 ヤマハミュージックメディア 2015年
 『ミュージックベルのためのメッセージソング集』菅田富士江 サーベル社 2014年
 『心を動かす音の心理学』齋藤寛 ヤマハミュージックメディア 2011年

履修上の注意・備考・メッセージ

本演習では自分で設定したテーマに基づいて、卒業研究（演奏発表と小論文またはレポート）を行う。前期単位、後期2単位の合計4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回4時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が半期ごとに90時間求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 実技中心で授業内外での個人練習が必要となるため、自発的な準備と練習を心がけて授業に臨んで欲しい。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日随時
 場所： 教育第10研究室（西館6階）
 備考・注意事項： メールにてアポイントをとること。kato-hi@osaka-seikei.ac.jp

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、ペル合奏① グループ分け 本ゼミの専門性と授業の概要、評価方法について説明し、自身の研究テーマについて、現時点で考えていることを発表する。また、前期で行うミュージックベル・トーンチャイム合奏のグループ分けを行う。	研究テーマについてまとめておく 1時間
第2回	ペル合奏② 選曲 ミュージックベルとトーンチャイムの構造、演奏法について知る。 グループごとに選曲し、音の割振りについて話し合う。 それぞれ担当となった音、楽器の確認をする。	演奏曲について調べる。楽譜に各自の担当音、パートを記入する、 1時間
第3回	ペル合奏③ パート練習 各自の音を確認し、自己練習とパート練習を行う。 リズムとテンポについて確認し、各楽器の演奏法について検討する。 曲のコード、各音がもつ意味などについて知る。	楽譜にコードを記入する。原曲を聴いておく。 1時間
第4回	ペル合奏④ グループでの部分練習 課題曲を全員で練習する。テンポとリズムを複数で合わせる方法を探り、アーティキュレーションについて検討する。	原曲を基に、メロディーラインの中での自分の役割を理解しておく 1時間
第5回	研究倫理教育 文部科学大臣の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、全学生への「研究倫理教育」を実施する。	専門演習の取り組みの中で「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて検討し、まとめる。 1時間
第6回	ペル合奏⑤ グループでの通し練習 発表会に向けての合奏練習と曲目解説文を作成する。全体のテンポとバランスに留意して互いの音を聴く力を養う。	曲についての概要と構成を調べておく。 1時間
第7回	ペル合奏⑥ 発表会リハーサル 発表会のリハーサルを行う。 演奏の動画を撮影し、ペルの構え方、鳴らし方、リズム、バランスについての振り返りを行う。	個人練習を行い、自己の課題についてまとめる。 1時間
第8回	ペル合奏 発表会 音楽ホールにてペル合奏の発表会を行う。 演奏だけではなく、ステージマナーについても学ぶ。 記録動画を撮影する。	演奏についての自己評価、次回への課題を記録しておく。 1時間
第9回	卒業研究のテーマについて「音楽の作用」 研究テーマを検討するにあたり、音楽の作用と効果を実践に基づいて説明する。 ピアノアンサンブルの目的、得られる効果を音楽的なもの他に、社会性や協調性、心理的効果について知る。	事前に配布した資料をよく読み、自身の研究テーマについて再考する。 1時間
第10回	ピアノ演奏研究① 演奏形態の検討 ピアノ独奏、アンサンブルのどちらを選択するかを決定し、アンサンブルはペアを決め、パートを決定する。	演奏曲について複数選挙げておく。自身の研究テーマについて検討する。 1時間
第11回	ピアノ演奏研究② 選曲 アンサンブル、ソロの曲を検討し、それぞれのレベルに合った楽譜を探す。 個人練習をし、毎回練習内容の記録を残す。 研究テーマについて面談にて検討する。	ペア各々の演奏レベルを話し合い、それに沿った楽譜を検索しておく。また、演奏曲の成り立ちについて調べておく。 1時間
第12回	ピアノ演奏研究③ 第1テーマ 第1テーマの個人練習。譜面上の音楽用語を調べておく。	第1テーマの個人練習。譜面上の音楽用語を調べておく。 1時間

	選択曲の個人練習。 第1テーマの楽曲分析、テクニックについての個人指導を行う。 研究テーマについて面談にて検討する。		
第13回	ピアノ演奏研究④ 第2テーマ 選択曲の個人練習 第1テーマの改善点の確認と第2テーマの個人指導を行う。 研究テーマについて、1つ目の先行研究のレビューをする。	第2テーマまでの個人練習。インテンポで弾けるよう練習する。研究テーマに沿って挙げた先行研究のレビューを行い、まとめておく。	1時間
第14回	ピアノ演奏研究⑤ 展開形 選択曲の主題提示部を仕上げ、展開部の個人指導を行う。 研究テーマについてのレビューをまとめて提出する。	選択曲の冒頭から展開部までを通して弾けるよう個人練習をしておく。研究テーマのレビューをまとめる。	1時間
第15回	ピアノ演奏研究⑥ ペア・個人練習 選択曲を冒頭から展開部までを個人練習し、ペアで主題提示部までを合わせる。 研究テーマについての先行研究2つ目を検索し熟読する。	選択曲の個人練習。ペアで主題提示部を合わせて練習する。先行研究2を検索して読んでおく。	1時間
第16回	ピアノ演奏研究⑦ アーティキュレーション 選択曲の個人練習、およびペアでの練習をし、各々のアーティキュレーションについての意見交換をする。 研究テーマについての先行研究2つ目のレビューをする。	選択曲の強弱やフレージングについて、楽譜に記入しておく。研究テーマの先行研究テーマをまとめておく。	1時間
第17回	ピアノ演奏研究⑧ フレージング 選択曲の個人練習、およびペアでの練習をし、互いのパートの役割についての指導を行う。 テーマ、サブテーマ、伴奏の音のバランスを検討する。	選択曲のペアの楽譜と自身の楽譜とを照らし合わせ、テーマ、サブテーマの部分を把握しておく。 研究テーマについてのレビューをまとめる。	1時間
第18回	自己課題の発見 自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する。	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していくかについて検討し、まとめる。	1時間
第19回	ピアノ演奏研究⑩ テンポルパート 選択曲の個人練習、およびペア練習を行い、一定のテンポの中での感情の流れを表現することを学ぶ。 小論文、レポートの書式、文章の書き方、陥りやすい間違いについて学ぶ。 「目的」「方法」について執筆する。	1曲通してのペア練習をしておく。小論文、レポートの目的部分の下書きをしておく。	1時間
第20回	ピアノ演奏研究⑪ 指定のテンポでの演奏 研究演奏発表会に向けて全体を通しての練習をし、所要時間把握と改善点の検討をする。 小論文・レポートの題目届の提出	インテンポでの個人練習、およびペア練習をしておく。	1時間
第21回	ピアノ演奏研究発表会のリハーサル プログラムを決定し、リハーサルの演奏を行う。 ペアでの演奏時のステージマナーについて学ぶ。 曲についての概要解説をまとめておく。 小論文・レポートの「結果」の執筆。	リハーサルを撮影し、判明した改善点の練習をしておく。	1時間
第22回	ピアノ演奏研究発表会 音楽ホールでの発表会を開催する。 曲の解説を行ってから演奏し、演奏後の自己評価、他者評価を行い記録する。	発表会に向けての個人練習、およびペア練習を行い、ミスのないよう部分練習を重点的に行う。1	1時間
第23回	レポート・小論文執筆 「問題と目的」 発表会の自己評価、他者評価をまとめ、小論文、レポートとの整合性について検討する。 「結果」の執筆を行う。	小論文、レポートに関する発表会の評価についてまとめる。	1時間
第24回	レポート・小論文の共有 自身の研究をまとめ、問題と目的、方法を発表する。 他者の研究についてのコメント、質疑を行う。	小論文、レポートについて、自身の考えをまとめ、考察までの構想を練っておく。	1時間
第25回	レポート・小論文執筆 「結果」 問題と目的、方法、結果までを仕上げ、オリジナルの部分を記述する。	結果を遂行しつつ考察について書き進めておく。	1時間
第26回	レポート・小論文執筆 「考察」 授業内で他者と情報を共有し、意見交換をしつつ考察をまとめる。 不備等についての指導を行う。	他者とレポートを共有し、事前に意見やコメントを述べておく。	1時間
第27回	レポート・小論文執筆 発表会 仕上げたレポート・小論文をプリントしてチェックし、発表用のパワーポイントを作成する。	仕上げたレポート・小論文をプリントしてチェックし、発表用のパワーポイントを作成する。	1時間

全文を仕上げて推敲し、プリントアウトして提出する。 添削して返却し、授業内に修正して再提出する。		
第28回 卒業研究レポート・小論文 発表会 卒業研究の小論文、レポートの発表をし、それを基に各自修正する。 定期試験時に最終の小論文、レポートを提出し、口述試験を行う。	各自プリントアウトしてチェックし、指定時間内に発表できるようまとめておく。発表用パワーポイントを作成し、指定時間内に発表できるよう練習しておく。	1時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	熊谷 綾子				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小中学校勤務で音楽授業を担当。音楽教室勤務で幼児から成人の演奏指導、社会貢献分野での生涯学習支援（合唱指導）、高等学校総合文化祭講師として音楽指導に従事				

開放科目的指示：「不可」

授業概要

本演習では、自分で設定したテーマに基づき、卒業研究（論文・発表）を行う。これまでの学びを基礎に、総合表現としての音楽活動とその指導方法について研究成果の発表を行う。演習を選択した場合は、これまでの学びで培った表現技術を応用し、子どもの表現活動（オペレッタ等の演奏）に取り組むプロセスを体験し、子どもの体験の必要性と保育者の援助について学び、協同して活動に取り組む意義と喜びを理解する。研究を通じ、保育・幼児教育の現場で求められる表現活動の知識・技術・指導法を総合的に修得し、演奏発表を行い記録し、その内容をレポートにまとめる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

保育分野の専門知識ならびに技能

目標：

保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

保育者・教育者にとって必要な音楽表現の指導法

現場で求められる演奏や表現の知識と技能を応用して指導することができる

汎用的な力

- 1. DP5. 計画・立案力

生活発表会におけるプログラム（オペレッタ等の演奏会）を立案し、発表会本番までのスケジュールを立てることができる

- 2. DP6. 行動・実践

計画に基づき、「調べる」「まとめる」「準備する」「発表する」ことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

卒業（期末）レポート

： 定期試験期間日が最終稿の締め切り日です。各自が設定した研究テーマについての成果をレポートとしてまとめ、内容、プレゼンテーション力について独自のループリックに基づき評価します。

30 %

研究発表（実技）または論文

： 作品の完成度と取り組みの姿勢や内容、協調性などを独自のループリックに基づき評価します。ただし卒業研究を演奏発表でなく論文で選択した場合にはレポート（30%）と合算した60%で評価します。

30 %

授業内課題

： 発表（プレゼンテーション）に伴う制作物やワークシート、計画書、振り返りシートなどの取り組みや提出物、内容について評価します。

40 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

映像資料や文献を適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は前期1単位、後期1単位の科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通常で90時間、それぞれ求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日2限

場所： 幼児教育学科第9研究室

備考・注意事項： 研究室在室時や、アポイントを取る場合は、この限りではありません。
第9研究室もしくはkumagai-r@osaka-seikei.ac.jpでも対応します。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション：研究とは	1年間の卒業研究計画をイメージし、課題用紙に記述する。	1時間
授業概要（評価の方法と講義の目的）についての説明を受け、1年間の流れを理解します。また、研究倫理教育を実施します。 ・1回生での学びを振り返り、総合表現とその研究について考えます。 ・研究の種類やアプローチの方法について紹介します。 ・自身が深めたいテーマを選定します。			
第2回	レポート作成の準備①情報検索と資料収集の方法	自身の深めたいテーマの先行文献や資料を収集し、興味のあるテーマに従って要点をまとめる	1時間
	・情報検索と資料収集の方法について学びます。 ・自身が深めたい研究とその目的についてイメージを膨らませます。		
第3回	レポート作成の準備②文献の引用と注意点、収集資料の紹介	自身の課題を見出し、レポート作成の計画を完成させる	1時間
	・文献の引用と活用の方法を知ります。 ・著作権について学びます。 ・インターネット情報の誤りについて実例を紹介します。 ・グループワークを行い、インターネットの情報の信憑性について考えます。 ・これまで収集した資料について、まとめたことを発表します。 ・他者の発表を聞き、自身のテーマを明確にします。 ・レポート作成の計画をたてます。		
第4回	演習準備①立案と計画	実習を通して学んだ保育者の仕事、役割を思い出しながらまとめておく	1時間
	・グループワーキングを行い、発表会までのスケジュールを計画します。 ・発表会に必要な保育者の役割を考え分担します。 ・分担した役割の内容を考えます。 ・レポート作成計画に従い、研究レポートを書く練習を始めます。		
第5回	研究倫理教育	専門演習の取り組みの中で「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことが出来るかについて検討し、まとめる。	1時間
	文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき全学生への「研究倫理教育」を実施します。		
第6回	演習準備②オペレッタとは	楽曲分析を行い楽譜の内容を理解する	1時間
	・オペレッタについて学びます。 ・表現活動の題材を選曲し、配役を決めます。 ・研究レポートの個別指導を受けます。 ・題材としてのお話を理解します。 ・曲の構成について考え方を理解します。 ・研究レポートの個別指導を受けます。		
第7回	実践練習①個人練習（音楽課題の模索）	自己課題をまとめる	1時間
	・配役に従い、各個人が登場場面の音楽練習を行います。 ・並行して個人レッスンを受講し、自己の音楽的課題を模索します。 ・研究レポートの個別指導を受けます。		
第8回	実践練習②アンサンブル練習（自己課題を明らかにする）	自己課題を明らかにし、個人の表現活動の練習計画をたてる	1時間
	・自身の登場場面と他の登場場面が重なる箇所について確認し合います。 ・登場場面ごとの練習の方法について話し合い、練習を行います。 ・並行して、複数でのレッスンを受講します。 ・お互いに気付いた点を話し合い、自己課題を明らかにします。 ・研究レポートの個別指導を受けます。		

第9回	実践練習③全体練習（目標の設定） <ul style="list-style-type: none">・全体での通し練習を行います。・他者の演奏を聴き、自身の目標を設定します。・研究レポートの個別指導を受けます。	感想レポートの作成。	1時間
第10回	表現指導①効果的な表現技術 <ul style="list-style-type: none">・場面ごとの表現について考え話し合います。・場面取りや立ち位置など効果的な舞台の使い方を学びます。・音楽に合わせて、体を動かします。・全員で話し合い、全体練習の計画を立てます。・研究レポートの個別指導を受けます。	全体計画に基づき、個人の計画表を見直し、修正する	1時間
第11回	表現指導②身体表現を伴った音楽の展開と客観的な視点での考察 <ul style="list-style-type: none">・通し練習を行う（録画）・アンサンブルの楽しさを実感しながら、全体の流れを体得します。・研究レポートの・録画した映像を振り返り、作品の水準について話し合います。・改善箇所を見出し、部分練習を行う。レッスンを受講します。・衣装や必要な制作物について検討し、完成計画をたてます。・研究レポートの個別指導を受けます。	他者の演奏から学んだことを整理してまとめる。	1時間
第12回	前期のまとめ①中間発表のためのリハーサル <ul style="list-style-type: none">・オペレッタのリハーサルと振り返りを行います。・研究レポートの個別指導を受けます。	自己課題をレポートにまとめる	1時間
第13回	前期のまとめ②オペレッタ発表 <ul style="list-style-type: none">・グループワークの集大成として、オペレッタの実演を行います。（録画）・録画干渉を通じ、振り返りを行います（振り返りシートの作成）・研究レポートの個別指導を受けます。	他者の発表からの学びをまとめる。	1時間
第14回	前期のまとめ③研究レポートの中間発表 <ul style="list-style-type: none">・研究レポートの中間発表を行います。・前回の振り返りシートをもとにグループでの意見交流を行います。・他者の研究レポート発表とグループワーキングを通じ、後期に向けての自己課題を明らかにします。	後期に行う個別の実技課題について検討する。	1時間
第15回	個別の課題の計画と実行 <ul style="list-style-type: none">・自身の研究テーマに従い、発表とレポート制作にむけた計画を立てます。・生活発表会を想定した、個々の表現課題に取り組みます・卒業研究レポートの個別指導を受けます。	関連文献の読み込み、研究計画の修正	1時間
第16回	生活発表会の準備①舞台を支える役割について知る <ul style="list-style-type: none">・衣装、舞台装飾等の発表会関連物の制作をします。・大道具や小道具、照明などの舞台を支える役割について学びます。・各自が並行して音楽練習に取り組みます。・卒業研究レポートの個別指導を受けます。	プログラムのデザインや、文面など対象者別の案を考えておく	1時間
第17回	生活発表会の準備②グループ活動 <ul style="list-style-type: none">・発表に向けた実践練習を行います。・個人レッスンを受けます。・互いに表現内容の考察を行いながら、発表の完成にむけた実践練習を行います。・並行して小グループレッスンと卒業研究レポートの個別指導を受けます。	個人練習、卒業研究レポートの作成に取り組む	1時間
第18回	自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する <ul style="list-style-type: none">・発表にむけた実践練習を行います。・表現内容の考察を行いながら発表の完成にむけた実践練習を行います。・個人レッスンを受けます。・卒業研究レポートの個別指導を受けます。	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していくかについて検討し、まとめる	1時間
第19回	生活発表会の準備③課題の追求 <ul style="list-style-type: none">・発表にむけた実践練習を行います。・生活発表会の完成を想像しながら、実践練習に取り組みます。・次回への課題を明らかにします。・並行して個人レッスンと卒業研究レポートの個別指導を受けます。	個人練習、卒業研究レポートの作成に取り組む	1時間
第20回	生活発表会の準備④ふりかえり <ul style="list-style-type: none">・生活発表に向けた実践練習を行います。・前回で明らかになった箇所を中心に、部分的な練習を全体で繰り返し行います。・互いの改善点をアドバイスし合い、伝えることや、指導することの工夫や、より効果的な方法を考えます。・並行して、小グループレッスンと卒業研究レポートの個別指導を受けます。	楽譜の読み込みを行い、楽曲の作りを再確認する。苦手な箇所を明確にする	1時間
第21回	表現研究①身体フォームと呼吸法	授業での学びをレポートにまとめます	1時間

	<ul style="list-style-type: none"> 特に声楽分野に特化した効果的な表現の方法と技法について学びます。 腹式呼吸の練習と全身の構え方、顔や口の開け方などについて理解し実践できるように練習します。 		
第22回	表現研究②より広い音域の獲得練習	授業での学びをレポートにまとめます	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 正しい発声法を理解し、くせのない自然な歌唱法のヒントを得ます。 頭声区、中声区、胸声区の違いを理解します。 子どもの体について学び、無理のない発声指導とその方法について考察します。 		
第23回	発表会のリハーサル	各自が反省を踏まえ、本番までに改善できるよう、自主練習などに取り組む	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学びを踏まえて、生活発表会のリハーサルを行います。 それぞれが決められた役割と、動きを確認しながら取り組みます。 		
第24回	発表会	発表感想レポートの作成	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> リハーサルでの反省点を生かし、発表を行います。 発表を録画、鑑賞し、振り返りと考察を行います。 卒業研究レポートの個別指導を受けています。 		
第25回	卒業研究レポートの完成①発表準備とシュミレーション	プレゼンテーション資料を完成させます	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究発表会にむけ、文章を推敲し、全体の構成を整えます。 プレゼンテーション資料の作成を行い、発表の準備を行います。 		
第26回	卒業研究レポート発表会①リハーサル	伝わりやすい発表の工夫を考える	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究レポート発表会にむけたリハーサルと最終チェックを行います。 司会、進行の役割分担と発表の順番を決めます。 		
第27回	卒業研究レポート発表会	推敲済み最終原稿を完成させる。	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究レポートを発表します。 他学生への質疑応答を積極的に行い、討論を行います。 		
第28回	振り返り	自身の保育観・教育観と今後の課題や抱負を明確にし、文章化する	1時間
	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の学びを振り返り、自身の学びについて振り返ります。 自身の資料をもとに、表現活動を通じた指導、援助について他学生と意見交換を行い、卒業後への課題や方へと繋げます。 		

授業科目名	専門演習				
担当教員名	沼田 恵太郎				
学年・コース等	2	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示；「不可」

授業概要

- ・本演習では自分で設定したテーマにもとづき、卒業研究（論文・制作・発表等）を行います。卒業研究では途中経過の発表や質疑応答を経験することで、自分の考えを整理して他人にそれを伝える力を養います（卒業論文の作成を中心に考えていますが、卒業制作・発表等の希望にも対応します）。
- ・子どもの発達を理解するうえで、ことばや行動の変化を無視することはできません。本演習の前半では心理学、特に「その子がなぜそのように振る舞うのか」を考える行動分析学の枠組みや見を紹介し、その応用や子どもを伸ばす方法について学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

保育分野の専門知識ならびに技能。

目標：

保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

2. DP8. 意思疎通

保育・教職・福祉領域での実践につながるようなテーマを設定し、自らの考えを整理することができる。

発表や論文を通して、自らの考えを論理的にわかりやすく他者に伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題

： 授業内容を踏まえて、ワークシートに記入できているかどうか評価します。自分の考えや考察、具体的な事例にもとづいていれば加点します。

30 %

発表・演習への参加

： 卒業研究の発表内容、プレゼンテーションやディスカッションへの積極的参加を独自のループリックにもとづき評価します。

20 %

卒業研究（論文・制作等）

： 最終的に完成した卒業研究（論文・制作・発表等）の内容について、独自のループリックを用いて評価します。

40 %

定期試験（口述試験）

： 卒業研究（論文・制作・発表等）の内容について口述試験を行い、独自のループリックを用いて評価します。

10 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
サトウタツヤ・渡邊芳行	・ 心理学・入門—心理学はこんなにも面白い (改訂版)	・ 有斐閣アルマ	・ 2019 年
石井一成	・ ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方	・ ナツメ社	・ 2011 年

参考文献等

- ・ 廣中直行 2007 心理学へのスタディガイド 世界思想社
- ・ 奥田健二 2012 メリットの法則—行動分析学・実践編一 集英社新書
- ・ 島宗理 2014 使える行動分析学—じぶん実験のすすめ ちくま新書
- ・ 坂上貴之・井上雅彦 2018 行動分析学—行動の科学的理をめざして 有斐閣アルマ
- ・ 三田地真実・岡村章司・井上雅彦 2019 保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック—子どもの行動を「ありのまま観る」ために 金剛出版

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・ 本科目は前期1単位、後期1単位の科目で、論文（またはこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通常で90時間求められます。
- ・ 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。
- ・ 自ら選択した研究テーマに沿って文献を収集して熟読し、データを分析するなどして、論文をまとめていくこと。
- ・ これらの作業を通して、考察が深められています。また、自らの研究内容を分かりやすく他者に伝えるために、演習および発表会での発表にも、十分な準備をして臨むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 初回授業に開示します
 場所： 中央館4F 第5研究室
 備考・注意事項： 授業前後の他、授業外でも質問を受けつけます。

授業計画

授業回	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション（1）：授業前半の進め方等 授業内容と方法、約束事について説明します。1年間の演習の流れを知り、自分の関心事やテーマについて考えます。	ワークシートの記入（自分の研究テーマを考え、1年間の計画を立案します） 4時間
第2回	心理学が目指すもの 心理学の基本的枠組みについて説明し、日常生活と人間行動の関係について考えます。心と行動の区別について学びます。	ワークシートの記入（心と行動の関係について、自分の考えをまとめます） 4時間
第3回	ことばを測ってみよう（1）：質問紙調査法 心理尺度法やアンケート等について学びます。質問紙調査法を体験します。	ワークシートの記入（質問紙調査法の種類や方法について、自分の考えをまとめます） 4時間
第4回	ことばを測ってみよう（2）：インタビュー法 構造化面接や半構造化面接等について学びます。模擬インタビューを行います。	ワークシートの記入（インタビュー法の種類や方法について、自分の考えをまとめます） 4時間
第5回	研究倫理教育 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、全学生への「研究倫理教育」を実施します。	ワークシートの記入（専門演習の取り組みの中で「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて検討し、まとめます） 4時間
第6回	本や論文を調べてみよう：文献研究 文献の集め方や情報の整理の仕方を学びます。検索サイトの使い方について説明します。	ワークシートの記入（例題について本や論文を検索し、卒論作成に必要な情報を整理します） 4時間
第7回	道具について調べてみよう：インストゥルメンテーション ことばや行動を測る道具について学びます。日常生活にある遊び道具との関係を考えます。	ワークシートの記入（インストゥルメンテーションについて、自分の考えをまとめます） 4時間
第8回	行動を測ってみよう（1）：実験・観察法 心理学実験を体験します。実験群と統制群等について学びます。	ワークシートの記入（心理学実験について、自分の考えをまとめます） 4時間
第9回	行動を測ってみよう（2）：単一事例研究法 単一事例研究法について理解します。インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。	ワークシートの記入（単一事例研究法の長所と短所について、自分の考えをまとめます） 4時間
第10回	その行動はなぜ生じるの？（1）：因果と相関 何が行動の原因で、何が行動の結果なのか？オペラント条件づけとレスポンデント条件づけの違いを学びます。「自分」実験の記録方法を決定します。	ワークシートの記入（自分で決定した記録方法について、文章化を行います） 4時間
第11回	その行動はなぜ生じるの？（2）：機能分析 ワークシートの記入（視覚化したグラフにもとづき、自分の感想や考察を述べてみます）	4時間

	行動の制御変数を見つける、機能分析（ABC分析）の考え方を学びます。「自分」実験の結果をグラフとして視覚化します。		
第12回	行動って何ですか？：課題分析 標的行動を具体化する課題分析の手法を学びます。死人テスト、具体性テストの考え方を理解します。行動を理解するための「記述」の重要性を体験します。	ワークシートの記入（例題について死人テストと具体性テスト、課題分析を行います）	4時間
第13回	行動を変えてみよう：反応形成 新たな行動レパートリーを教える、逐次的接近法（スマールステップの原理）について学びます。条件づけの手続きと現象を理解します。	ワークシートの記入（例題について逐次的接近法をどのように適用できるか、考えてみます）	4時間
第14回	研究テーマ発表 これまでに収集した資料・文献等をもとに自分のテーマを発表して、「卒業研究計画書」を作成・提出します。	卒業研究計画書の記入（過去の授業内容と自分の興味・関心にもとづき、卒業研究計画書を作成・提出します）	4時間
第15回	オリエンテーション（2）：授業後半の進め方等 それぞれの研究テーマと進捗状況を振り返り、半年間の計画を再検討します。	ワークシートの記入（研究テーマと進捗状況を振り返り、半年間の計画を再構成します）	4時間
第16回	論文作成（1）：構成 卒論作成のイメージを具体化するため、論文の構成について考えます。	卒業研究の記入（卒論にあてはまるタイトルや目次について考えます）	4時間
第17回	論文作成（2）：目的の記述 研究テーマを取り上げた目的や仮説を、先行研究を参考にして考えます。	卒業研究の記入（文献レビューにもとづき、問題と目的を作成します）	4時間
第18回	自己課題の発見 自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察します。	ワークシートの記入（専門演習の取り組みの中で、自己の課題をどのように改善していくかについて検討し、まとめます）	4時間
第19回	論文作成（3）：方法の記述 卒論の方法を作成します。目的／仮説を調べられているか確認します。	卒業研究の記入（自分が行った・行っているデータ収集の方法についてまとめます）	4時間
第20回	論文作成（4）：データ整理・分析 収集したデータを整理し、考察に必要と思われる分析を行います。記述・推測統計にもとづき、結果をグラフ化する方法について学びます。	卒業研究の記入（結果をグラフ化し、自分の視点で解釈します）	4時間
第21回	論文作成（5）：結果の記述 データ分析にもとづき、結果を作成します。データをまとめられているか確認します。	卒業研究の記入（データ整理・分析にもとづき、結果を作成します）	4時間
第22回	論文作成（6）：考察の記述 卒論の考察を作成します。目的／仮説への答えを結果にもとづいて考えます。	卒業研究の記入（結果にもとづき、考察を行います。結果の反復にならないよう、留意します）	4時間
第23回	論文作成（7）：要約の作成 卒論の要約を作成します。伝えたいことを簡潔に伝えられているか確認します。	卒業研究の記入（本文のエッセンスを縮約して、要約を作成します）	4時間
第24回	論文作成（8）：リファレンスの作成 リファレンスをまとめます。本や論文を引用／参考にできているか確認します。	卒業研究の記入（リファレンスを作成、本文との対応づけを行います）	4時間
第25回	論文作成（9）：推敲 文章表現や図表・リファレンスの表記が適当か、最終確認を行います。	卒業研究題目届の記入・提出（卒業研究のタイトルや概要を決定し、卒業研究題目届を作成・提出します。また卒業研究を推敲し、修正を行います）	4時間
第26回	プレゼンテーション資料の作成 卒業研究発表会に向けて、プレゼンテーション用の資料を作成します。	プレゼン資料の作成（プレゼン資料を作成して、伝わりやすい発表の仕方を考えます）	4時間
第27回	卒業研究発表会（1）：前半 卒業研究を発表します。発表について質疑応答を行います。	卒業研究の修正・提出（発表会での質疑応答にもとづき、最終バージョンを完成させ、提出します）	4時間
第28回	卒業研究発表会（2）：後半	卒業研究の修正・提出（発表会での質疑応答にもとづき、最終バージョンを完成させ、提出します）	4時間

卒業研究を発表します。発表について質疑応答を行います
。

授業科目名	こども音楽療育実習				
担当教員名	加戸 敬子・池田 智子・佃 誉子				
学年・コース等	2	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	音楽療法士として障害児施設、児童センターにおいて実践を行う（加戸：全14回） 音楽療法士、教員として障害児施設、特別支援学校において実践を行う（池田：全14回） 行政主催子育て支援事業、幼稚園、民間幼児教室において音楽療法士、講師として勤務（佃：全14回）				

開放科目的指示：「可」

授業概要

「こども音楽療育概論」および「こども音楽療育演習」で学んだことを踏まえ、障害児と彼らを取り巻く社会を理解し、音楽療育を実践につなげる力を養うことを目的とする。音楽療育を行っている発達支援センター、児童デイサービスで見学実習をし、その後に実習を行う。施設での音楽活動の役割、障害児に対するセラピストの関わり方などを知ることで、音楽による発達支援を学ぶ。また記録の書き方や評価方法などを学び、客観的に評価できる力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解 プログラムの計画と記録の書き方
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 セッションを単独で実施する力

目標：

- 対象児に対し目標設定とその目標に応じた選曲と活動の計画ができる。
- 対象児の視点に立って臨機応変に対応することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践

- プログラムの流れを想定し対象児の目標に沿った計画を立てることができる。
- 対象児を目標とする行動の変容に向けて楽器奏や歌唱、言葉かけができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・ 実験、実技、実習
- ・ 振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・ 協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・ 発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ 見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・ 実習や実技に対して個別にコメントします
- ・ 実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・ 提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

小グループでの実習という形態であるため、原則として毎回出席し実習に臨むこと。規定回数以上の出席、および実習に参加しなければ成績評価を行わず資格申請もできない。

成績評価の方法・評価の割合

模擬セッションの取り組み

評価の基準

： セッション計画および実践を10段階で評価する。目標に沿った独自のプログラムで子どもの反応を的確に想定したものであれば9～10点、目標に沿った子ども視点のプログラムであれば7～8点

20 %

観察実習・本実習記録

： 各10段階で評価し、セラピストの意図と対象児の反応の関係が記録されていれば9～10点、どちらか一方の意図が記録されていれば7～8点、動きを詳細にかけていれば6点とする。

20 %

実習

： 以下の観点から5段階で評価する。全体の流れをしっかりと把握しスムーズであるか、対象児の視点に立ち反応をよく見ているか、反応に対しその場に応じた関わりができているか、客観的な記録が書いているか。

40 %

試験（期末レポート）

： 実習を通して、障害児理解、音楽でのアプローチによる効果、客観的な視点で自己評価ができるかを測る、レポートは定期試験時に提出し内容についてフィードバックし評価する。

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『静かな森の大きな木』生野里花、春秋社 2001
- 『統合保育・教育現場に応用する音楽療法・音遊び』下川英子、音楽之友社 2009
- 『ノードフ＝ロビンズセンター編 音楽療法のためのピアノ小品集』ミッショール・リットホルズ、クライブ・ロビンズ ヤマハミュージックメディア 2002
- 『音楽療法の視点に立った保育支援の試み』谷村宏子、関西学院大学出版会 2012

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
本授業は「こども音楽療育概論」および「こども音楽療育演習」を履修した者に限り受講できる。また、実習にあたり障害児の尊厳を守り、守秘義務を遵守できることが条件となる。
本授業を含む規定の科目を履修することにより、こども音楽療育士の資格を取得することができる。
見学実習および実習のための交通費は各自負担となり、他に実習費、資格申請費用が必要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

場所： 教育第10研究室（西館6階）

備考・注意事項： 授業の前後で受け付ける。その他は担当教員に問い合わせること。

授業計画

回数	授業題目	授業課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、実習事前指導	概論と演習の復習をしておく。見学実習園先情報を探しておき、この日に決定したセッション表を完成する。	1時間
第2回	セッションのプログラミング	選曲について考えておく。セッション表を完成する。	1時間
第3回	セッションの導入「はじめの歌」	選択曲を暗譜しておく。内容について案を考える。ピアノ伴奏を練習しておく。	1時間
第4回	発声・歌唱活動	使用曲を暗譜しておく。歌唱曲に関する小物を考えておく。ピアノ伴奏を練習しておく。	1時間
第5回	リズム・楽器活動	子どもの身体機能やリズム機能について調べておく。使用曲での楽器の使い方を考えておく。ピアノ伴奏の練習をしておく。	1時間
第6回	身体活動・粗大運動、協応動作	運動時の身体の動きが適切であるかどうか、様々な状況を想定しておく。ピアノ伴奏の練習をしておく。	1時間
第7回	クールダン ^ク ン・おわりの歌	事前準備と事後の記録を作成する。	1時間
第8回	模擬セッション1 活動ごとの実践	事前準備と事後の記録を作成する。	1時間
第9回	模擬セッション2 全体を通しての実践	セッションの詳細な記録をつけておく。	1時間
第10回	音楽療育実習1 療育現場での観察実習	セッションの詳細な記録をつけておく。ピアノ伴奏の練習をする。	1時間

第11回	音楽療育実習2 発達支援センター集団セッション第1回目 実習の振り返りを行い、反省点を基に次回のセッションについて再検討する。	セッションの詳細な記録をつけておく。ピアノ伴奏の練習をする。	1時間
第12回	音楽療育実習3 発達支援センター集団セッション第2回目 セッション全体の流れを予習し、様々な場面を想定した対応を考える。 セッションの振り返りを行い、記録をつける。	セッションの準備、および実習後には詳細な記録をつけておく。	1時間
第13回	音楽療育実習の記録作成 実習の記録映像を見ながら、1セッションにつき1つの記録を、プログラムの目的、使用曲と共に、Thの動きとそれに対する子どもの反応、気付きについての記録表を作成する。	個々に自分の役割、立場からの視点による記録と考察をしておく。	1時間
第14回	音楽療育実習報告会 セッション記録映像を観ながら1組20分程度の報告と質疑応答を行う。 最終レポートの作成を行う。	発表用パワーポイントを作成しておく。レポートの作成を行う。	1時間

授業科目名	こども音楽療育演習				
担当教員名	加戸 敬子・池田 智子・佃 誉子				
学年・コース等	2	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	児童発達支援センター、障害児施設、病院において音楽療法士として勤務。（加戸：全14回） 児童発達支援センター、特別支援学校において音楽療法士、教員として勤務。（池田：全14回） 行政主催子育て支援事業、幼稚園、民間幼児教室において音楽療法士、講師として勤務。（佃：全14回）				

開放科目的指示：「可」

授業概要

音楽の機能を意図的、計画的に使う音楽療法的視点により、子どもの発達を援助する手法を学ぶ。心身の発達と音楽発達の段階、また障害種によって変化させる音楽のアプローチを体験し、ロールプレイを通してクライエントの意思を感じ取る感性を養う。具体的には音楽療育現場で使用されているオリジナル曲の歌唱、楽器活動、身体活動、手遊びなどを学ぶと同時に、目標に応じた選曲やアレンジ、伴奏の付け方、即興演奏を身につけ、セッションプログラムの立案と実践を行える力を習得する。

養うべき力と到達目標**確かな専門性**

- 1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的な内容：

音楽療育の目的と手法を理解する。

目標：

療育の場で必要な楽曲と楽器類の使用方法についての知識を得ることができる。

- 2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

心身状況に応じた音楽を選択し対象児の発達を促す。

対象児の発達に沿ったプログラムを立て、実践することができる。

汎用的な力

- 1. DP5. 計画・立案力
- 2. DP6. 行動・実践

対象児の目標に沿ったプログラミングができる。
対象児の反応に合わせた臨機応変な実践ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価は行わない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合**評価の基準**

実技課題 3回

： セッションプログラム毎に選曲と実践を行い5段階で評価する。目的に沿って対象児の動きを想定したものであれば5点、目的に沿っていれば3点、流れに沿っていれば2点とする。

30 %

授業内での模擬セッション

： ロールプレイにおける積極的参加を5段階で評価する。目的に沿って独自の発想が取り入れられていれば5点、積極的に取り組んでいれば4点、目的に沿っていれば3点、一部が目的に沿っていれば2点とする。

20 %

試験（期末レポート）

： 授業内の模擬セッションの考察を次の観点から評価する。1. 音楽療育の正しい知識 2. セッションの目標とプログラムとの一致 3. 自身のセッションについての客観的な評価。定期試験時に提出し個々に振返りを行う。

30 %

受講状況

： 授業およびグループワークへの積極的な参加や受講態度（模擬セッションへの準備の取り組み方）などを総合的に評価する。

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 『統合保育・教育現場に応用する音楽療法・音遊び』下川英子、音楽之友社
 『音楽療法のための小品集』ノードフ=ロビンズセンター編集、ヤマハミュージックメディア 2002年
 『音楽療法のためのオリジナル曲集「静かな森の大きな木」』生野里花、二俣泉、春秋社 2001年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
 本科目を含め規定の科目を履修することにより「こども音楽療育士」の資格を取得できる。本科目は1回生時に「こども音楽療育概論」を履修し一定の成績を修めた者が受講できる。また、後期科目の「こども音楽療育実習」に向けて計画されているため併せて履修すること。1回ずつの授業が実習のプログラムとなるため欠席のないよう留意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業時間前後で受け付ける。
 場所： 授業の教室、教育第10研究室（西館6階）
 備考・注意事項： 上記以外は担当教員に問い合わせること。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーションと模擬セッションのグループ決定 授業の概要と評価方法について説明を行った後、4名ずつのグループ分けを行う。	振り返りシートの作成、こども音楽療育概論の復習をしておく。 1時間
第2回	音楽療育の目的と楽器 障害児に対する音楽の目的と効果について知識と理解を深め、使用的する楽器の名称と特徴、使用方法、留意点について学ぶ。	振り返りシートの作成、療育現場で使用する楽器について調べておく。 1時間
第3回	リズム楽器と即興 打楽器を使って即興によるグループワークを行い、非言語でのコミュニケーションを体験する。	振り返りシートの作成、リズムパターンに合う身近な言葉を考えておく。 1時間
第4回	目的に応じた活動のための曲① 活動の導入と身体活動 対象児の発達に沿った活動の導入、身体活動に適した曲を紹介し、楽器を介したコミュニケーションと音楽を通した身体活動を体験する。	振り返りシートの作成、授業内で紹介した曲を練習しておく。 1時間
第5回	目的に応じた活動のための曲② 歌唱活動、創作活動 季節や行事に応じた歌唱を紹介し、それを基に創作活動につなぐ手法を学ぶ。	振り返りシートの作成、簡単なオリジナルメロディーを創作する。 1時間
第6回	目的に応じた活動のための曲③ 楽器活動 楽器活動の目的である、他児との交流、手指の巧緻性を高める、リズム感覚の促進、ハーモニーやメロディーを感じる、気分の発散などをを行うための音楽と楽器の使い方を紹介し、グループで体験する。	振り返りシートの作成、楽器活動の曲の伴奏を練習しておく。 1時間
第7回	目的に応じた活動のための曲④ 重度心身障害児へのセッション 重度心身障害児の特性と支援の目的・方法を理解し、ニーズに合った音楽の提供と留意点について学ぶ。	振り返りシートの作成、重度心身障害児の特性について調べておく。 1時間
第8回	目的に応じた活動のための曲⑤ 活動の終結 エンディングへの流れを想定し、クールダウンからクローズへと導入する音楽と提供の仕方について学ぶ。	振り返りシートの作成、気分を鎮静化する音楽について調べておく。 1時間
第9回	セッション案の作成とアセスメント、目標設定と方法の検討 セッションを実施するにあたり、想定する対象児の目標設定と使用曲などのプログラミングを考え、セッション表の書き方を学ぶ。	振り返りシートの作成、セッション案を考える。 1時間
第10回	セッションのプログラミング セラピスト役として活動の目的、4つのプログラム、内容を決め、選曲、伴奏のつけ方、楽器の選択、声のかけ方などを考慮したセッション案を作成し、必要な小物の準備をする。	セッション案を考え、表を作成する。小物の作成準備をする。 1時間
第11回	セッションの練習① プログラムの検討 前回に作成したセッション案を検討するため、プログラムごとにセラピスト、コ・セラピスト、伴奏者の役割に分かれて練習をする。	振り返りシートの作成、各々の役割の練習をしておく。 1時間
第12回	セッションの練習② 目的に沿った内容の検討 セッション表を基に、各プログラムごとの練習をグループで行う。	振り返りシートの作成、セッション案が妥当かどうかの振り返り、および伴奏の練習をしておく。 1時間
第13回	セッションの練習③ ロールプレイ 自身のプログラムを練習し記録をつけておく。	振り返りシートの作成、自身のプログラムを練習し記録をつけておく。 1時間

作成したセッション表によるロールプレイを行う。終了後は記録を作成する。		
第14回 セッションの評価 第13回の授業で行ったセッションをグループでのディスカッションと記録映像から振り返り、セラピスト役、クライエント役の逐語記録と気付きを記録紙にまとめる。	前回の記録を基に、動画を観てさらに気づいたことを加筆する。	1時間